

日本薬学会
第5回全国学生ワークショップ

「私達のプロフェッショナリズム、
私達が築く新しい医療と社会」

報告書

平成28年1月



参加者集合写真



振り返り

目 次

	ページ
第 5 回全国学生ワークショップの概要	5
プログラム	7
ワークショップ参加者および班分け	9
「ワークショップ開催の経緯」について	10
セッション報告	13
第一部「プロを目指して：私達の進路と夢」	14
作業説明	15
テーブル報告	19
第二部「私達のプロフェッショナリズム」	42
セッション I	42
作業説明	43
グループ報告	46
セッション II	72
作業説明	73
グループ報告	75
教育講演「医療人のプロフェッショナリズムとは」	96
第三部「私達が築く新しい医療と社会」	102
セッション I・II	102
作業説明	103
グループ報告	105
参加者印象記	151
参加者アンケート結果	179
 卒業生ワークショップ	 210
セッション I	211
セッション II	221
セッション III	231
セッション IV	234
卒業生印象記	244
卒業生アンケート結果	256
 日本薬学会第 5 回全国学生ワークショップ実行委員	 263

第5回 全国学生ワークショップの概要

公益社団法人日本薬学会は、平成23年度に薬学教育委員会を設置し、薬学教育推進の事業を開始した。薬学教育委員会の事業には、薬学教育に携わる大学教員や薬剤師のためのFD (Faculty Development) が含まれており、その一環として「薬学教育者のためのアドバンストワークショップ」を開催してきた。平成23年度の第1回アドバンストワークショップを企画する過程で、学習の主体である学生のニーズを確認する必要性が指摘され、平成23年度に最終学年を迎えた6年制薬学教育の第1期生から、薬学教育に対するフィードバックを受ける目的で、全国の薬系大学・薬学部の6年次学生を主たる参加者とする「第1回全国学生ワークショップ」を平成23年8月に開催した。このワークショップでは、6年制薬学教育の成果と課題をテーマに非常に活発な論議が行われ、薬学教育への多くの有益な意見が提示された。参加者、薬学教育関係者等から本学生ワークショップの定期的な開催が強く要望され、その意を受けて、薬学教育委員会では平成24年8月に第2回（テーマ「6年制教育に望むこと、卒業後に取り組んで行きたいこと」）、平成25年8月に第3回（テーマ「医療への貢献、社会への貢献：これから薬剤師としてどのように行動するか」）、そして平成26年8月に第4回（テーマ「私達が築く新しい医療と社会：将来への思いを共有しよう」）の全国学生ワークショップを開催してきた。第2回からは全国から集う参加者、ワークショップ参加を経験した卒業生などからの要望を受けて、1泊2日のプログラムとして継続してきた。（日本薬学会ホームページ参照）本ワークショップでは、一貫して、「6年制薬学部を卒業した薬剤師」として病院、薬局、大学、企業など多くの領域で活躍するために必要な資質を考え、それが本当に大学教育で修得できたかという評価とともに、今後社会で貢献していくためにどうすれば良いかという命題で活発な議論を行ってきた。それらは学生・卒業生から大学教育等への貴重な意見としてフィードバックされている。

第5回全国学生ワークショップは、第2回から第4回と同様、全員が研修施設に宿泊する1泊2日のプログラムで、テーマは「私達のプロフェッショナリズム、私達が築く新しい医療と社会」とし、全国69の薬系大学・薬学部学生が参加して平成27年8月8日（土）・9日（日）東京・府中で開催された。また、今回のワークショップでは、過去4回行われた本ワークショップの参加者で既に社会で活躍している卒業生30名が、自分達のワークショップでの出会いを通して、卒業生の関わり方、卒業生ができることをテーマに同時進行で進められた。

69大学から集まった各大学1名の計69名の6年次薬学生は、3チーム9グループに分かれ、各グループに実行委員会のタスクフォースが1名ないし2名がつき、2日間の討議が行われた。1日目は、昼食後、チームごとに分かれてアイスブレイクの後、第一部「プロを目指して：私達の進路と夢」として、world café形式で、テーマ1「私の進路と夢」、テーマ2「プロを感じた場面」、テーマ3「あなたが目指す職業のプロとは」という構成で、参加

者がこれまでの人生でプロを意識した場面をイメージし、大学卒業後に薬剤師として働く職場でのプロとは何かを考える導入として、カフェのようなリラックスした雰囲気の中、自由に意見交換を行った。第二部「私達のプロフェッショナルリズム」では、セッションⅠ「プロフェッショナルリズムの要件とは？」として KJ 法にて、プロに求められる要件を自分の目指す仕事上のことだけでなく、薬学部の卒業生として考えた。続いてセッションⅡ「自分達のプロフェッショナルリズムを表現しよう」では、セッションⅠで挙げた要件をふまえ、自分達が目指すプロフェッショナルリズムを寸劇で表現することを試みた。そして、参加者、タスクフォース等ワークショップ関係者全員で情報交換会を行った。その後も夜遅くまで学生、教員、薬学会関係者みんなで論議の輪が続いた。

2 日目の早朝には、木下牧子先生の「医療人のプロフェッショナルリズムとは」についての講演を拝聴した後、第三部「私達が築く新しい医療と社会」では、セッションⅠ「薬剤師の職能将来像と社会貢献」としてグループごとに行動宣言を作成した。続いて、セッションⅡ「私達の職能将来像を共有しよう」として、チームごとに行動宣言をまとめ、自分達がプロとしての薬剤師としてやるべきことをまとめ、第四部の総合討論で発表して参加者全員で共有した。また、第四部の発表前には、各グループ内で各自が自分の行動宣言を言葉に表現し、具体的な行動計画を立て、グループの仲間に披露することで決意を確認した。また、卒業生からも 2 日間同時進行で話し合った内容を総合討論で発表し、先輩からも後輩からも将来に向かう熱い思いが飛び交った。

本報告書は、各グループの担当者により提出されたプロダクトと卒業生のプロダクトを掲載している。また、参加者と卒業生の感想は印象記として掲載した。なお、編集上、一部形式の変更・修正を加えた部分があることをご了解いただきたい。本報告書には、6 年間の薬学教育を受けてきた薬学生と卒業生の真摯な思い、そして夢と希望が凝縮している。今後の薬学教育ならびに薬剤師生涯研鑽の推進に少しでも役立つことを期待するものである。

日本薬学会第5回全国学生ワークショップ
「私達のプロフェッショナリズム、私達が築く新しい医療と社会」

主 催 : 公益社団法人 日本薬学会
開催日時 : 平成 28 年 8 月 8 日 (土) 10:00～9 日 (日) 16:00
開催場所 : クロス・ウェーブ府中 (〒183-0044 東京都府中市日鋼町 1-40 TEL 042-340-4800)
参加者 : 大学 6 年次生 69 名 (3P9S:1 グループ 7～8 名)、卒業生 30 名
会 場 : クロス・ウェーブ府中 3 階研修室

プログラム

第 1 日目: 8 月 8 日 (土)

9:30～	受付 (3 階)	
9:55	配布物の確認、連絡事項	5 分
10:00	開会のあいさつ	5 分
10:05	ワークショップ開催の経緯	10 分

アイスブレイク

10:15	作業説明、チームセッション	30 分
-------	---------------	------

第一部「プロを目指して: 私達の進路と夢」

10:45	作業説明、小グループ討議	105 分
12:30	昼食	60 分

第二部「私達のプロフェッショナリズム」

セッションⅠ

13:30	作業説明、小グループ討議、発表	140 分
15:50	休憩	15 分

セッションⅡ

16:05	作業説明、小グループ討議	105 分
17:50	休憩	15 分
18:05	発表	55 分
19:00	1 日目のアンケート、連絡事項の伝達	10 分
19:30	情報交換会	120 分

第 2 日目: 8 月 9 日 (日)

7:00～	朝食	
8:30	1 日目アンケートの結果報告	5 分
8:35	教育講演「医療人のプロフェッショナリズムとは」 木下牧子先生	45 分

第三部「私達が築く新しい医療と社会」

セッションⅠ

9:20	作業説明、小グループ討議、発表	160分
12:00	昼食、プロダクト展示	60分

セッションⅡ

13:00	総合討議、小グループ討議	75分
14:15	休憩	15分

第四部「総合討議」

14:30	発表、総合討議	60分
15:30	閉会のあいさつ	5分
15:35	2日目アンケート、総合評価アンケート、連絡事項の伝達	25分
16:00	解散	

ワークショップ参加者および班分け

I チーム

チーフ: 河野武幸

A班	
國富 寛大	徳島文理大学香川
小泉 佑里子	帝京大学
後藤 晴香	高崎健康福祉大学
佐藤 輝	国際医療福祉大学
田中 彩弥加	大阪大谷大学
中野 裕介	北海道大学
松原 匡希	愛知学院大学
渡邊 愛子	静岡県立大学

タスクフォース: 塩田澄子 安原智久

II チーム

チーフ: 賀川義之

A班	
池田 優理子	武庫川女子大学
伊藤 聡子	京都大学
内海 尊雄	千葉大学
河村 瞳	新潟薬科大学
菅原 弘貴	第一薬科大学
瀧波 磨理江	日本大学
丸山 修	日本薬科大学
三好 翔太	兵庫医療大学

タスクフォース: 大津史子

III チーム

チーフ: 大野尚仁

A班	
近藤 健太	鈴鹿医療科学大学
伊達 裕美子	慶應義塾大学
田辺 聡	徳島文理大学
出町 歩	北里大学
長谷部 早紀	大阪大学
福島 美岬	東邦大学
吉澤 美咲	摂南大学
吉田 寛伸	東北大学

タスクフォース: 亀井美和子 中村明弘

B班	
加藤 早希	神戸薬科大学
佐々木 裕太	千葉科学大学
繁田 紘子	東京理科大学
スタッフ 由紀子	金沢大学
中川 幸紀	姫路獨協大学
丹村 亜梨朱	金城学院大学
藤原 顕弘	長崎国際大学
渡邊 尚也	岡山大学

タスクフォース: 川崎郁勇 平田收正

B班	
青木 雅史	崇城大学
今井 伸治	就実大学
久米谷 萌水	帝京平成大学
佐々木 彩乃	広島大学
名執 翔	城西国際大学
福井 彩香	立命館大学
松浦 涉	神戸学院大学
渡辺 鮎美	名古屋市立大学

タスクフォース: 小佐野博史

B班	
今井 貴彦	岐阜薬科大学
菅 倫子	京都薬科大学
栗原 潤	城西大学
坂田 紫帆	北海道医療大学
清水 南	九州保健福祉大学
瀬田 有似子	横浜薬科大学
藤田 裕太郎	広島国際大学
山田 侑世	熊本大学

タスクフォース: 木内祐二 徳山尚吾

C班	
石光 一幾	福山大学
上田 夏瑞	徳島大学
大館 祐佳	東京薬科大学
小田切 望	青森大学
毛屋 幸司	長崎大学
齊藤 凌	昭和大学
寺井 唯	同志社女子大学

タスクフォース: 入江徹美

C班	
池谷 怜	明治薬科大学
梅川 奈津実	武蔵野大学
橋本 由李	大阪薬科大学
東本 諭哉	岩手医科大学
山田 晃己	北海道薬科大学
吉田 優哉	九州大学
吉光 咲弥	福岡大学

タスクフォース: 田村 豊 橋詰 勉

C班	
河合 史保里	近畿大学
國遠 孝斗	名城大学
熊谷 文哉	奥羽大学
廣田 未彩	富山大学
宮崎 耕平	松山大学
森 亜沙美	昭和薬科大学
山名 咲穂	いわき明星大学

タスクフォース: 高橋 寛

講 師	
木下 牧子	光風園病院

行 政	
前島 一実	文部科学省
佐口 健一	
吉光 紗綾子	
高桑 沙織	

ディレクター	
赤池 昭紀	薬学教育委員長
太田 茂	会頭

タスクフォース	
長谷川 洋一	名城大学
入江 徹美	熊本大学
大津 史子	名城大学
大野 尚仁	東京薬科大学
賀川 義之	静岡県立大学
亀井 美和子	日本大学
川崎 郁勇	武庫川女子大学
木内 祐二	昭和大学
河野 武幸	摂南大学
小佐野 博史	帝京大学
塩田 澄子	就実大学
高橋 寛	岩手医科大学
田村 豊	福山大学
徳山 尚吾	神戸学院大学
中村 明弘	昭和大学
橋詰 勉	京都薬科大学
平田 收正	大阪大学
安原 智久	摂南大学

事 務 局	
土肥 三央子	日本薬学会

卒業生		参加WS
小川 隆弘	北里大学病院薬剤部	第1回
宮坂 知幸	内閣官庁日本経済再生総合事務局	
山口 奈美子	東京大学大学院博士課程	
磯崎 未帆	東邦大学佐倉病院薬剤部	第2回
小野寺 祐里香	日立製作所日立総合病院薬務局	
菊池 光太	盛岡赤十字病院薬剤部	
黒岩 亮平	横浜市立みなと赤十字病院薬剤部	
小嶋 崇弘	スギ薬局	
相良 篤信	星薬科大学大学院博士課程	
志田 拓頭	浜松医科大学附属病院薬剤部	第3回
吉川 望美	浜松医科大学病院薬剤部	
伊藤 智代	金沢大学附属病院薬剤部	
井元 優美	シミックGサイトサポートインスティテュート	
柏原 道志	聖隷浜松病院薬剤部	
澤本 篤志	松山大学大学院博士課程	
志田 美春	神戸薬科大学大学院博士課程	第4回
高坂 祥菜	コム・メディカル	
中川 有衣	金沢大学附属病院薬剤部	
東本 祐佳	総合臨床サイエンス	
日原 章詔	赤穂市民病院薬剤部	
稲嶺 盛佳	沖縄県中頭病院薬剤科	
大石 信雄	PMDA	
岡 慧	坂下厚生総合病院薬剤科	
津倉 秀幸	国立がん研究センター中央病院薬剤部	
鶴留 優也	九州大学大学院博士課程	
松下 俊介	厚生労働省医政局研究開発振興課	
真鍋 ひとみ	協和発酵キリン	
山田 梨愛	松山大学大学院博士課程	
吉川 恵理	静岡市立静岡病院薬剤科	

卒業生担当: 亀井美和子 中村明弘

日本薬学会 第5回全国学生ワークショップ

ワークショップ開催の経緯

実行委員長 長谷川 洋一

2015年8月8日(土)
クロスウェーブ府中

公益社団法人日本薬学会 The Pharmaceutical Society of Japan

6年制薬学教育を支える機関、団体等



日本薬学会 全国学生ワークショップ



過去4回のテーマ

- 第1回 2011年8月4日 大阪大学中之島センター 62名(62大学)
「6年制一期生として薬学教育に望むこと」
- 第2回 2012年8月8～9日 クロスウェーブ府中 67名(67大学)
「6年制薬学教育に望むこと、卒業後に取り組んでいきたいこと」
- 第3回 2013年8月10～11日 クロスウェーブ府中 70名(70大学)
「医療への貢献、社会への貢献：これから薬剤師としてどのように行動するか」
- 第4回 2013年8月9～10日 クロスウェーブ府中 69名(69大学)
「私達が築く新しい医療と社会：将来への思いを共有しよう」

先生たちも・・・

日本薬学会 薬学教育者のためのアドバンスワークショップ

- 第1回 2011年12月
- 第2回 2012年11月
- 第3回 2013年10月
- 第4回 2014年11月
- 第5回 2015年10月(予定)



6年制薬学教育プログラム



薬学教育も薬学生とともに成長する！

平成25年度 薬学教育モデル・コアカリキュラム 改訂

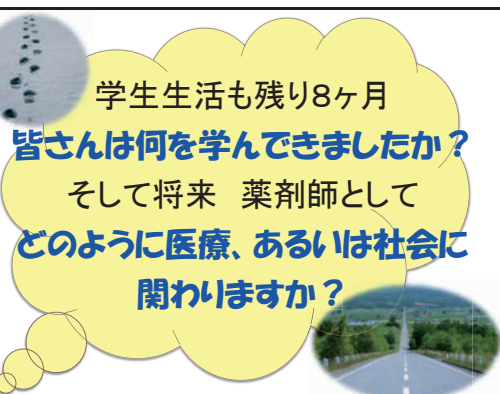
薬剤師として求められる基本的な資質

豊かな人間性と医療人としての高い使命感を有し、生命の尊さを深く認識し、生涯にわたって薬の専門家としての責任を持ち、人の命と健康な生活を守ることを通して 社会に貢献する。

- | | |
|---------------|---------------------|
| ① 薬剤師としての心構え | ⑥ 薬物療法における実践的能力 |
| ② 患者・生活者本位の視点 | ⑦ 地域の保健・医療における実践的能力 |
| ③ コミュニケーション能力 | ⑧ 研究能力 |
| ④ チーム医療への参画 | ⑨ 自己研鑽 |
| ⑤ 基礎的な科学力 | ⑩ 教育能力 |

平成28年4月

それぞれの
進路へ...



日本薬学会 第5回全国学生ワークショップ

2015年8月8日～9日

クロスウエーブ 府中

「私達のプロフェッショナリズム、
私達が築く新しい医療と社会」

参加者 69名(69大学)
タスクフォース 18名(15大学)
第1回～第4回参加者 30名



構成

- 各班は7～8名で 1班(S)
A班 ・ B班 ・ C班
- 3つの班で 1チーム(P) : I・II・III

I A	・	I B	・	I C	} 3P (全9班)
II A	・	II B	・	II C	
III A	・	III B	・	III C	

まずは同じ班から、そしてたくさんの仲間と
話して、考えて、仲良くなろう！
ここにいる仲間は一生涯「同期生」です！

プログラム概要

- 8日(土)
 10:15 アイスブレイク P
 10:45 第一部 P
 13:30 第二部(Ⅰ) 3P⇒S
 16:05 第二部(Ⅱ) 3P⇒S
 19:30 情報交換会 3P
 9日(日)
 8:35 教育講演 3P
 9:20 第三部(Ⅰ) 3P
 12:50 第三部(Ⅱ) P⇒S
 14:30 第四部(総合討論) 3P
 16:00 解散



ワークショップのテーマ

**私達のプロフェッショナリズム、
私達が築く新しい医療と社会**

今日・明日は同期の仲間と共に
 大学生生活・学習を振り返り
 プロフェッショナリズム・医療・社会
 について 存分に
 情報や意見を交換して下さい



ワークショップのルール

- お互いに名前を呼びましょう。:○○さん、○○くん ⇒ 名札は見える位置に
- タスクフォースの大学教員も「先生」でなく「○○さん」で呼んで下さい。
- 集合時間を守りましょう。
- スマホ・携帯電話の電源は切っておきましょう。
 大学から1人しか参加していないからといって
 大学を代表する必要はありません。
 みんな仲間とおもって、意見交換を積極的に楽しんで下さい。

セッション報告



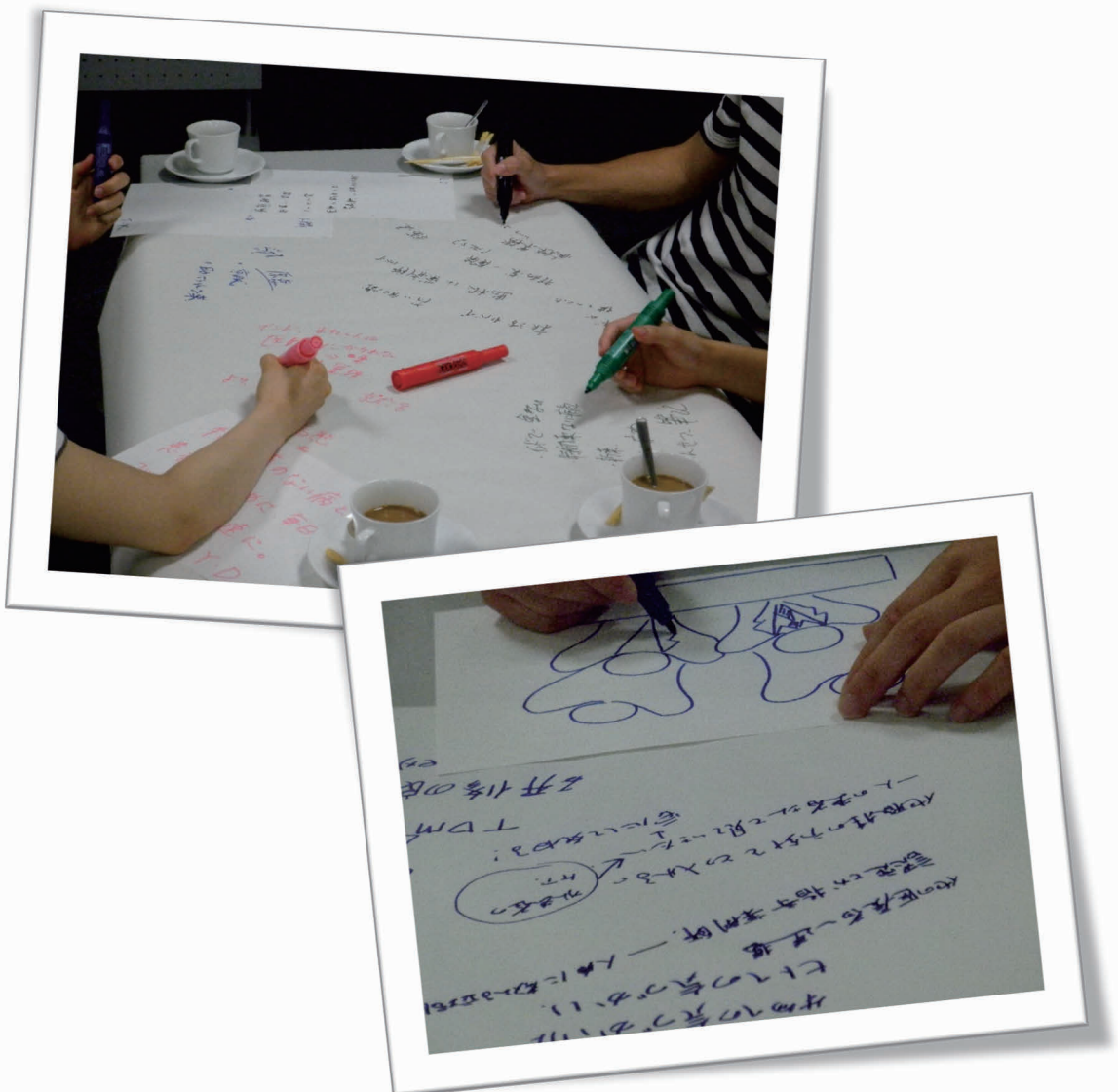
第一部

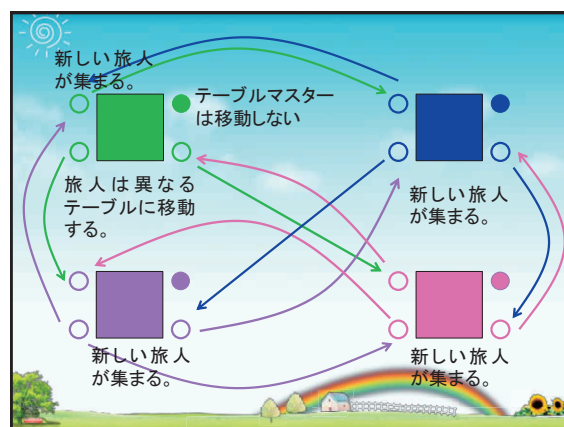
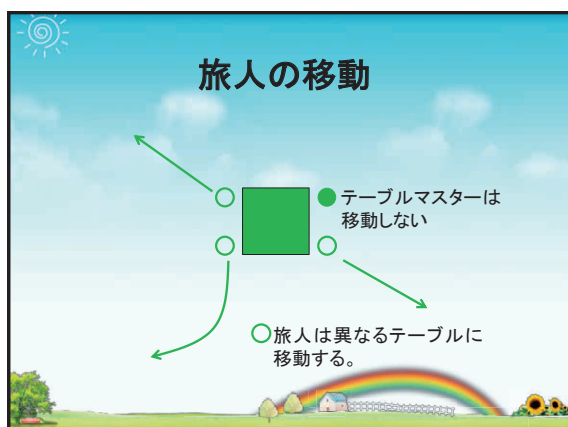
「プロを目指して:私達の進路と夢」

テーマ 1 「私の進路と夢」

テーマ 2 「プロを感じた場面」

テーマ 3 「あなたが目指す職業のプロとは」





テーブルマスターのお仕事

1. 各テーブルにおける「おしゃべり」が盛り上がるように工夫してください。
2. 第1ラウンドでは、指定されたテーマでの「おしゃべり」の司会をお願いします。
3. 第2ラウンド以降は、旅人の「自己紹介」の前に、テーブルマスターから「前のラウンド」で面白かったお話を1分で紹介して下さい。その後、そのラウンドのテーマの「おしゃべり」の司会をして下さい。
4. 旅人は「おしゃべり」に夢中になる傾向があります。旅人に「落書き(気づきや感想)」をするように促して下さい。
5. 第1部の報告書(概要と感想 A4 1 枚)を担当して下さい。

模造紙の提出はありません。 (旅人の落書き帳です！)



落書きはたくさんあるほど楽しいです！

World Café では...

- たくさんの旅人と知り合いになれます。
- ということは、いろいろな人の話が聞けます。
- いろいろなお話し(他花受粉)によって、新しい発想が生まれます。
- でも、「声の大きい人」の旅の軌跡が分かっちゃいます。
- テーブルマスターは、ちょっと大変なので、旅人は「利他的」な行動をお願いします。
- 自由討論での発言は、一人 1分以内をお願いします。

今日の World Café のスケジュール

移動
11:00 ~ 11:20 第1ラウンド

移動
11:25 ~ 11:50 第2ラウンド

移動
11:55 ~ 12:30 第3ラウンド

12:30 昼食(4階)

第1ラウンドのグループ編成

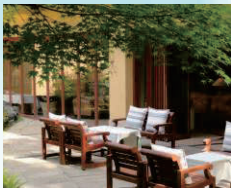
- 今から P のメンバーでグループを6つ作ります。
- P 会場を Café に模様替えしつつ、グループを作ります。少しだけお手伝い下さい。
- 時間の都合上、テーブルマスターはこちらで指名させていただきます。
- 旅人になった方は、各テーブルに移動して下さい。テーブルの定員は3~4名です。

テーブルの位置とテーブルマスター

1 〇〇さん	2 〇〇さん	3 〇〇さん
4 〇〇さん	5 〇〇さん	6 〇〇さん

☀️

Welcome to
World Café Pharmacy



第 1 ラウンド



☀️

第 1 ラウンドのメニュー

11:00 ~ 11:20 (20 分)

テーマ:「私の進路と夢」

- 自己紹介を兼ねて「自分の進路と夢」についておしゃべりします。
- まず、A4 用紙に「自分の進路と夢」のイメージを書いて下さい(1分程度)。
- 自己紹介を兼ねて「自分の進路と夢」について発表して下さい(1人 3 ~ 4 分程度)。
- 時間があれば自由におしゃべりして下さい。



☀️

移動です

- 旅人は、旅に出て別のテーブルに移動して下さい。
- 第 1 ラウンドのメンバーと同じにならないように！
- 各テーブルの定員は 3 ~ 4 名です。テーブルマスターは人数を調整して下さい。



☀️

Welcome to
World Café Pharmacy



第 2 ラウンド



☀️

第 2 ラウンドのメニュー

11:25 ~ 11:50 (25 分)

テーマ:「プロを感じた場面」

- 旅人の「自己紹介」の前に、テーブルマスターから「第 1 ラウンド」で面白かったお話を紹介して下さい(1分)。
- **「プロを感じた場面」**をA4用紙に文章で記入して下さい(5分)。
- 自己紹介を兼ねて**「プロを感じた場面」**を発表して下さい(1人 3 ~ 4 分程度)。
- 今まで生きてきた中で、いろんな場面を思い出してみてください。

それでは、始めましょう！

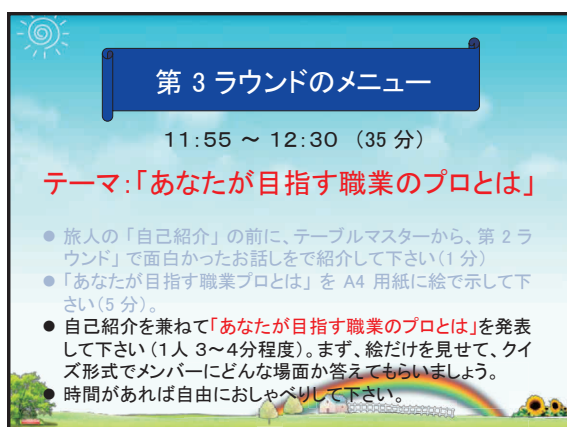
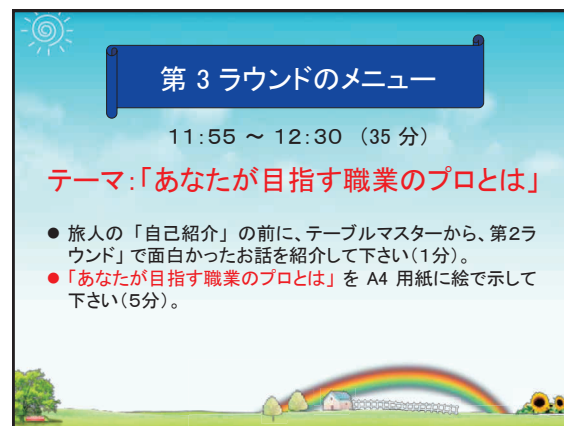


☀️

移動です

- 旅人は、旅に出て別のテーブルに移動して下さい。
- 第 1、第 2 ラウンドのメンバーと同じにならないように！
- 各テーブルの定員は3~4名です。テーブルマスターは人数を調整して下さい。





第一部では「プロを目指して：私達の進路と夢」というテーマで World Café 形式で討論を行った。3~4名のグループで、テーマごとにメンバーを入れ替えて「ラウンド」を行った。今回はA4用紙に文字や絵で表現し発表した。各ラウンドでの討論について以下にまとめる。

<第1ラウンド>「私の進路と夢」

第1ラウンドでは、自分の夢と進路についてイメージ図を用いて発表した。

- 患者さんのためにできることはすべてやる。
- 一人一人の患者さんと長く向き合える薬局薬剤師になって在宅医療や緩和ケアに携わりたい。
- 認定薬剤師、指導薬剤師の資格を取りたい。
- まずは包括ケア病院で勉強して、将来は薬局を経営したい。

第1ラウンドでは上記のような意見がでた。中でも、「患者さんのためにできることは全てやる」という意見が最も印象的だった。患者さんのためにできることは全てしたい。しかし、薬剤師だけではできることに限界がある。だから、他職種としっかり連携をとって、チームで患者さんに包括的な医療を提供できる薬剤師になりたい。これは医療人として最も大切な姿勢であるとしてこのラウンドのグループ全員が同意見であった。

<第2ラウンド>「プロを感じた場面」

第2ラウンドでは、自分が生活の中でプロを感じた瞬間について文章で説明した。

- 患者さんに分かりやすい指導をして、「ありがとう」と言われている薬剤師
- 他職種と専門用語で会話している薬剤師
- 筋道立てて論理的な話ができる人
- 職場の環境、ツールを自分で改革していく人

第2ラウンドで最も注目をあびた意見が「職場の環境、ツールを自分で改革していく人」である。これは病院実習中にお世話になった薬剤師の方のことである。その方はTDMの血中濃度推測ソフトを自分で作り、効率的にTDMを実施していた。その方曰く、「医療の現場では速く、正確に業務を行う必要がある。そのために自分で環境やツールを改革していくことが大事。」とのこと。これを受けて、このグループ全員が将来各々の職場で率先して環境やツールを改革していき、より良い医療を患者さんに提供できることを期待したい。

<第3ラウンド>「あなたが目指すプロとは」

第3ラウンドでは、自分がプロとして活躍している場面を絵で表現し発表した。

- 検査値だけでなく様子からも患者さんの状態を推測できる薬剤師
- 身近な症状（風邪、鼻水、頭痛など）をすぐに解決できる薬剤師

- オールラウンダーな薬剤師
- 誰とでも気軽にコミュニケーションがとれてチーム医療で活躍する薬剤師

第3ラウンドでは主に実務実習や大学での経験から述べられた意見が多かった。特に、ある大学では医学部や歯学部など他学部の学生と交流する時間が多いという意見が注目をあびていた。コミュニケーション力が重要視されている中、このような場は大変重要であり、どの大学でも他学部の学生と交流して意見を交わす場をもっと積極的に設けてほしいという意見にまとまった。他にも、ある病院では毎日カンファレンス前に患者さんと握手をし、そのときの様子から状態を推測している、などそれぞれが実習先や学校で貴重な経験をしていた。

今回これらの経験談を共有できたこと自体がメンバーそれぞれにとって大変貴重な経験になったと思う。

<プロを目指して：私達の進路と夢（World Café）全体を通して>

World Café を通して進路や夢、目標像というものを討論することができた。また自分が頭の中で思い描いている将来を文字や絵にして相手に伝えることでより具体的なものになった。さらに、様々な人の意見を聞くことで自分の将来像に足りないものについても考えることができた。この World Café ではそれぞれが他のメンバーから良い刺激を受けたに違いない。

I A班－2

「プロを目指して：私たちの進路と夢」をテーマに掲げ、World Café 形式を用いてグループ討論を行った。3つのラウンドにそれぞれの小テーマが与えられ、そのテーマに対する自分の考えや意見を交換した。以下に各ラウンドの議論の内容をまとめる。

第1ラウンド：「私の進路と夢」

<より良い医療>

医療人は常に患者さんのことを第一に考え、患者さんのQOLが向上するように医療を提供していかなければならない。そのために病院において、薬剤師は専属の病棟に配属され、患者さんと接する機会を増やし、他の医療従事者と連携を行いチーム医療に貢献することが必要である。薬局では、患者さんのカルテを薬局でも閲覧できるようなシステムを作ることで、患者の状態をより詳しく知ることができ、適切な医療の提供に繋がる。

<頼られる薬剤師>

薬剤師は薬について正確な知識を身に付けているが、それだけではなく新薬や薬の副作用などの情報を医療従事者に発信していく必要がある。情報を発信し、共有することで適切な医療につながり、患者さんや医療従事者から信頼され、求められる存在になる。

＜まとめ＞

グループとしては全員が、現在の医療よりもより質の高い医療を提供することができる存在になるという夢を持っていた。そのための進路として、病院薬剤師と薬局薬剤師になるという意見が多かった。今日において病院では、病棟専属の薬剤師が少なく、チーム医療に貢献できている薬剤師も少ない。また薬局では、患者さんの情報を処方せんや薬歴からしか得ることができていない。今できていないことを実践することで、より良い医療につながるという結論になった。

第2ラウンド：「プロを感じた場面」

＜意識を変える＞

自分の信念を持って音楽活動をしていたシンガーソングライターが、メジャーデビューをきっかけに周りの環境が変わった。これに伴い自分に求められていることも変化した。これに対応するために、メジャーデビュー後の音楽活動における意識を変えた。

＜自信を持つ＞

実習先の薬剤師さんが、医療従事者と接するときに自信を持って接し、様々なことに対応していた。自分の考えを伝えるとき、また行動を起こすときには必ず自信がないと成功しないと感じた。

＜まとめ＞

自分の好きなことだけをやるのではなく、周りの人から求められているものを理解し、それに応えた瞬間にプロを感じたという意見が多かった。また、プロを感じさせる人は、自分自身がプロであるという自覚を持っていることに気が付いた。プロの自覚を持ち、努力を継続することが自信につながると思われた。これから薬剤師として社会に出る際には、まずはプロの自覚を持ち、社会に貢献できるように努力を怠らないことが必要であると考えた。

第3ラウンド：「あなたが目指すプロとは」

＜発言する＞

正確な知識を身に付けるだけではなく、医療従事者に対して新薬や薬の副作用などの情報を伝えることが必要であり、それが薬剤師として社会に求められていることである。

＜自己研鑽＞

医療は日進月歩するものであるため、時間を惜しむことなく新しい知識を身に付ける努力が必要である。

＜まとめ＞

各々が目指しているプロを文字ではなく絵のみを用いて表現した。薬剤師として発言する相手の医療従事者は主に医師であった。そのため、目指しているプロは、医師と対等な立場で接する薬剤師という意見が多かった。そのようなプロになるためには、知識を身に付けるために日々の努力を惜しまず、薬剤師として求められていることを理解し行動に移すことが必要であると考えられた。

【総括】

World Café を通じ、他大学の学生と意見交換を行うことで、自分とは異なる価値観に触れることができ、視野が広がり新しい考え方を持つなどの様々な刺激をもらった。また、各々の目標やその目標に近づくためにすべき事を明確にすることができたと思う。個人個人が抱えている夢を実現するためには、World Café において学んだことや感じたことを行動に移し、努力を続けることが必要であると考えられる。

I B 班－1

第1部では「プロを目指して：私達の進路と夢」というテーマで world café 形式で討論が行われた。テーブルマスターを固定し、1 テーブル 4 人の小グループに分かれ、「私の進路と夢」「プロを感じた場面」「あなたが目指すプロとは」の3つのテーマを3つのラウンドにて討論を行った。

第1ラウンド「私の進路と夢」

- ・精神科の認定薬剤師になりたい
- ・緩和に関わり「人」という字の支える方の人間になりたい
- ・薬剤師と患者や医師との間にある一線を消したコミュニケーションをとれるようにしたい
- ・医師や他医療従事者と信頼関係を築ける薬剤師になりたい。

このラウンドではそれぞれの思い描く進路について話し合った。グループ全員が病院志望の学生であり、何かの専門や認定薬剤師になりたいという夢を持つ人もいれば、コミュニケーションを重視した薬剤師になりたいという夢をもつ人もいて、同じ病院志望でもそれぞれが思い描く進路は異なるということを感じた。

第2ラウンド「プロを感じた場面」

- ・薬剤師は癌患者への服薬指導を行う際に、薬の説明を行うだけでなく使用するかつらについての説明も詳しく指導している姿にプロを感じた。
- ・学生の苦手なところを簡単にアドバイスをするだけで、改善させることができる先生に対してプロを感じた。
- ・薬剤師が医師に糖尿病薬について聞かれた際に的確に素早く反応し、応えられている姿にプロを感じた。
- ・看護師が医師よりも患者のことをよく見ていて、細かな気配りやサポートを行っている姿にプロを感じた。

それぞれがプロを感じた場面は薬剤師の姿を見た場合もあり、看護師の場合もあり多種多様だった。特に癌患者に対するかつらの説明のことは印象が強く、患者の QOL を改善することができるように薬の知識だけでなく、それ以外の知識を吸収するということも重要なことであると気づかされた。

第3ラウンド「あなたが目指すプロとは」

- ・ICTに関わり抗菌薬の適正使用に努め、耐性菌出現防止に貢献したい。
- ・薬の専門家としての自覚をもち、専門性をつきつめていきたい。
- ・糖尿病の認定をとり、家族のように患者に寄り添える薬剤師になりたい。
- ・医師に対する確な処方提案ができる薬剤師になりたい。

それぞれの目指すプロの考え方は様々であるが、その根底には患者のためになりたいという気持ちがあるのは同じであることが分かった。今回自分の夢を他の人に打ち明けることで、自分の目指す道が明確に分かったのではないかと思う。

全体を通しての感想

World caféを通してさまざまな人の目指す薬剤師像に触れることで大きな刺激になったのではないかと思う。薬剤師のプロとは何なのか、またプロになるためには何をしたらいいのか、これまで漠然と考えていたことが今回の World café ではっきりとした形となって見えてきたのではないか。

I B班－2

テーマⅠ「私の進路と夢」

議題では、調剤薬局やドラッグストアで勤務したいという意見があった。現状では、地域の住民が健康のことで困った場合に、気軽に相談しに行ける存在でありたい、という思いがあった。確かに、現状では、体調面で医療の専門家に相談したいことがある場合に、診療所に行くのが一般的で、専門知識のない一般住民には、診療所にかかるべきかという判断も難しいという課題がある。また、処方せんをもたないで薬局に相談に行くということも習慣としては根付いてない。そこで、ドラッグストアや調剤薬局の住民にとって気軽に相談できる存在になるべきではないかと考えられる。そのために、より深い病態の知識やOTCの知識が必要になると考えられ、学習が必要である。

テーマⅡ「プロを感じた場面」

実習中に指導薬剤師の「自分にできることを自分で探す」という姿勢をプロだと思ったという意見があった。実習中に、自分にできることが何もないと落胆していたときにその言葉をかけられ、患者や家族のケアなど自分にできることを探す姿勢が大事だと気付いたそうだ。確かに薬剤師としてできる仕事は制限されているが、患者や家族の精神的なケアも重要な使命のひとつと捉える、と賛同の声があがった。

テーマⅢ「あなたが目指すプロとは」

EBMの考えに基づき、臨床研究を行い、治療の有効性や安全性に関してエビデンスの構築に貢献する人材でありたいという意見があった。医療現場では未解決に放置されている問題が山積みであ

り、少しでも対処できる術を増やして行くべきである。これに対し、データを出して満足するのではなく、それが患者の利益になるよう還元に勤めるべきだという意見があがった。

I C 班－1

第一部では、「プロを目指して：私達の進路と夢」というテーマを World Café 形式で小グループ討論を行い、自己紹介を含め意見交換をすることで交流を深めた。各ラウンドに小テーマが与えられ、討論の内容(気づきや感想)を模造紙に記載し、自身の意見や経験など情報交換を行った。以下に各ラウンドについて内容を記載する。

第一ラウンド：「私の進路と夢」

自己紹介を兼ねて自身の進路や将来の夢、目標について討論した。

●病院薬剤師

専門薬剤師を目指し、より高度な医療を提供し患者を支えたい。

●薬局薬剤師

地域完成型の包括ケア(病院からお寺まで)の中で、在宅医療を通じて地域貢献したい。

●ドラッグストアの薬剤師

セルフメディケーションを中心に疾病予防など地域住民の健康を維持する。OTC の知識だけでなく、サプリメントや健康食品の知識も身につける。また、医薬品だけに捉われずアロマセラピーを用い、心の癒しを提供したい。

第一ラウンドのメンバーは、病院・薬局・ドラッグストアと様々な就職を志望していた。また、同じ就職先でも個々によって異なった将来の薬剤師像があり、改めて薬剤師の職域の広さ・活躍の場を実感した。進路や夢を達成するために、基本的な薬学的知識の習得、就職先や社会のニーズに応えるために専門的知識からサプリメントやアロマなど医薬品以外の知識の習得のため生涯学習が必要である。医薬品を通じてしか患者と接することができない薬剤師でなく、それ以外にも患者を支える手段やスキルを身に付けた薬剤師が必要であるという結論に至った。

第二ラウンド：「プロを感じた場面」

今まで生きてきた中で、色々な場面（バイト先、サークル活動、ボランティアなど）について討論した。第1ラウンドで印象に残った内容について情報共有を行った。

●サプリメント開発者

サプリメントを1つ開発するにも、情熱を注ぎストイックに向き合い、自分の仕事を人生の一部のように仕事に打ち込んでいる。そして、仕事の先には、患者がいると思って仕事をしている

●ダンスの先生

グループでダンスの際中に足を骨折したにも関わらず、笑顔を絶やさず踊り続けていた。ダンスはチームでやっているもの。周りのことを考え、自分勝手になってはいけないと学んだ。

●スーパーのバイトリダーH先輩

模造紙の中央に存在感をだしているのが H 先輩。「7 色のいらっしやいませ」を使い、お客さんの年齢・性別・性格などを判断し声や話し方を使い分けている。

様々な場面での「プロ」が話題に挙がった。サプリメント開発者から、ダンスの先生、スーパーのバイトリダーH先輩と職種は多岐に渡った。そして、共通している点として、行動の先には他者があり、自分の仕事に生きがいを感じ信念・情熱・軸を持っているということ。Professional な薬剤師になる過程で必要不可欠な事柄である。

つまり、チームで行っているのも、一人が欠けても完成しないということ。チーム医療でも同じことで、患者を中心に円を描き、医療従事者一人欠けても質の高い医療を提供できないのではないかと結論に至った。一つの職種が自分勝手に治療を考えても、チーム医療が成り立たないと思う。

第三ラウンド：「あなたが目指すプロとは」

プロとして活躍している場面について、絵を描き表現した。描いた絵をメンバーに当ててもらい、補足説明を行った。すぐに伝わる内容から考えさせられる独創的な絵もあった。World café の総括的な内容をでもあった。第 2 ラウンドで印象に残った内容について情報共有を行った。

●薬局の薬剤師

地域密着型の薬局薬剤師を目指す。患者が処方薬を受け取りにだけ訪れる薬局でなく、日常生活の中で誰もが気軽に訪れ、健康相談できる駆け込み寺のような薬局を開局する。

●病院薬剤師

医薬品の知識や技術だけでなく、手順書を作成し、チーム医療の中で他職種との知識差を埋める。図や表を用いて、どの職種でも分かるようにする工夫をすることで患者だけでなく他職種の助けになれる薬剤師。

新たな薬剤師の職能であるセルフメディケーションやフィジカルアセスメントを行い、疾病予防や受診勧奨することで地域住民の健康増進に貢献する。業務が円滑に進み、医療事故の防止や、患者への医薬品の適正使用と質の高い提供に繋がる。また、手順書を作成だけでなく、さらに薬剤師が介入することが大切であると結論に至った。

そして、進路や夢の根底には、実務実習先での経験が大きく反映されていると感じた。実務実習での貴重な経験や薬剤師を初め医療従事者との出会いが、私達の進路や夢の転機になっているのではないかと結論に至った。

World Café 形式の討論により、多彩な学生の経験談や考えを共有することで新たな発見や新たな目標を見つめ直す貴重な時間であった。また、その目標の為に何が必要なのかという具体的な行動計画を討論し繋げることができたと感じた。

第一部では「プロを目指して：私たちの進路と夢」というテーマのもと world café 形式で討論を行った。3～4人ずつテーブルに集まりラウンド毎に設定されたテーマについてそれぞれの考えを話し合った。

ラウンド1「私の進路と夢」

テーマについてA4用紙にキーワードを書き、その内容について他のメンバーに詳しく発表していった。こうした形式で議論するのは初めてだからか、前半はそれぞれのメンバーのキーワードについて話していたが、後半はやや雑談に話しがそれてしまった。ただ、メンバーはそれぞれ薬局あるいは病院の薬剤師になりたいという夢があり、実習先での経験がきっかけになったという意見もあった。考えや意見も様々ななかで共通していたのは患者さんにとってより良い薬剤師になりたいという思いだった。

ラウンド2「プロ感じた場面」

いままでの人生のなかでプロを感じた場面についてA4用紙一枚に書き発表した。プロがなんなのか想像しづらいからか何を書けばいいか皆苦戦しているようだった。どんなプロがいるかについては大学の准教授や実務実習中に接した薬剤師、看護師などにプロを感じたという意見が出た。学生のために指導者自身が現場に出て学ぶ、自分がどんな状況でも患者さんを第一に考える、笑顔を絶やさないと「誰か」を中心に考え行動できるのがプロだという認識をもっていると感じた。そして自分たちが彼らのようなプロになるには精神的にも身体的にもタフな薬剤師を目指さなければならないのではないかという結論になった。

テーマ3「あなたが目指すプロとは」

それぞれの目指すプロをイラストで表現し、クイズ形式でイラストの解釈を言い合いその後、書いた本人に説明してもらった。イラストには「薬剤師個人としてだけでなく地域などの包括ケアにも携わる」「患者さんに一人ひとりに目を向ける」「患者さんのためなら僻地まで訪問する」「チーム医療を円ではなく球体として考える」ことなどさまざまなプロの形が表現されていた。総じて、いまの薬剤師の状況を継続するだけでなく、新しい形を構築して患者さんを初めてとした周囲と関係していくことが大事であるという流れだった。

感想：テーブルマスターとして議論を上手く進めていくことは難しかったですが、どのメンバーも自分のなかに一つのイメージ、考えをきちんともっている人ばかりだと思いました。「プロ」という一つの単語に対してこれだけ多くの考え・捉え方があることを知り触れることが出来たのはとても良い刺激になりました。

Ⅱ A班－ 1

<概要>

- ・ 第一ラウンド：テーマ「私の進路と夢」

自己紹介を兼ねて発表。

- ・ 第二ラウンド：テーマ「プロを感じた場面」

自己紹介及びテーマについて文章で記入。第一ラウンドについて簡潔に説明。

- ・ 第三ラウンド：テーマ「あなたが目指すプロは」

自己紹介及びあなたがプロとして活躍している場면을絵で表現。第二ラウンドについて簡潔に説明。

<感想>

第一ラウンドでは、初めて顔を合わせるメンバーの様々な夢についてお互い語り合うことができたが、私の大学では病院薬剤師や、薬局薬剤師になることを希望する人が多い中、予備校の講師や、企業、大学院への進学など普段聞かないような進路に進もうとする人が多く、非常に新鮮であり、また良い刺激でもあった。薬剤師として働くにあたって幅広く活躍できるということを実感した。第二ラウンドでは、それぞれが今まで経験してきた中でのプロを感じた場面について文章にして発表をしたが、バイト先の先輩の話や、研究室の先輩の話、実習での薬剤師の話など様々な場面でプロを感じているようであった。

第三ラウンドでは、あなたが目指すプロを絵で表現するということであったので、スラスラ絵を描く人もいる一方で、なかなか描けないでいる人もいた。しかし、皆で絵の内容について話し合ったり語り合ったりすることで、納得できる絵なども多くあり非常に会話が弾んだテーマであった。また、一見何を描いているかわからない絵というものは、相手に興味を持たせることができるので、コミュニケーションの一つとして説明が必要な絵というのも面白いと感じた。

全体としては、三つのラウンドでは顔を合わせることができなかった人もいたが、話伝いでどういう人なのか、どういう人が前のテーブルにいたのかなどその場にいない人のことも理解することができ、非常に楽しかったと感じている。

Ⅱ A班－ 2

第Ⅰ部では、「プロを目指して：私達の進路と夢」について World Café 形式で3つのラウンドに分けて討議を行った。各ラウンドでテーマとメンバーを変え、テーマにおける個人の意見はA4に書き、ラウンド3では絵を描いて意見を交換する機会となった。

◆ ラウンド1「私の進路と夢」

将来の夢として、「薬ゼミ講師になりたい」、「研究・業務・教育に関して病院薬剤師として関わりたい」、「薬剤疫学を研究したい」、「糖尿病療養指導士の資格を取り、糖尿病治療に関わりたい」という意見が挙がり、臨床に就く薬剤師としての仕事だけではなく、研究や教育の面でも活動をした

いと幅広い内容となった。その中で印象に残った内容で、薬剤疫学に関連して、病院では最新、薬局では最前線の医療に触れることができるのではないかという意見があった。それぞれが今までに経験してきたことを踏まえて、また、今ある現状から発展させて、将来、携わる仕事に明確な考えを持っていた。

◆ ラウンド2「プロを感じた場面」

「海外での体験談」、「救急救命士に救助された事例」、「すぐ病気が治った時の医師の知識・技術・信頼関係」「バドミントン選手のハードな試合」の場面が挙がりました。海外へ行く機会が少ないためか、聞き手の興味・関心を惹き、討議の主題が海外の体験談について集中し、グローバルな内容となった。その話者が受けた言葉で、行き詰ったときに、「物事の考え方や視点を変える、何が学べるのか考える」ことを実践してみることを助言されたことがあった。これはどんな人にも当てはまる内容であり、改めてその考え方の必要性について感じた。

また、話題に上がったこととして、薬剤師のプロである一面に、ある程度のレベルを保持したジェネラリストであり、その基盤の上に専門性を高めたスペシャリストでもある一面をもつという意見に賛同していた。

◆ ラウンド3「あなたが目指すプロとは」

- ・患者さんから大根を頂く関係を築く、名前で指名される信頼関係を築く。
- ・地域医療で医師よりも上の立場で薬剤師が意見を言える。そのような場面があってもいいのではないか。
- ・医療従事者と患者が笑顔になれる医療を提供できる、笑顔を大切にしたい。
- ・個々に合わせた患者のための医療を提供する。

上記の意見がありました。

将来目指す薬剤師像とともに、自分が大切にしたいことやどんな医療を提供したいのか、芯のある意見であり、各々それが現れていた。このラウンドでは、笑顔の重要性について話が盛り上がった。人と関わることに於いて笑顔の影響は大きく、素敵な笑顔はファンをつくる、笑顔の練習をすることもあるなどという意見もあり、薬剤師も相手の顔を見たコミュニケーションを行う職業であるため、基本的な「笑顔」を大切にすると感じた。

◆ 全体を通して

初めて話をする方々と様々な考えを聞くことができとても良いセッションとなった。全てのラウンドで時間が足りなく、もっと話したいという思いが強くなり、それだけ各ラウンドで多岐にわたるメンバーの思いが聞けた。各々が刺激を受け、考えを共有できたことで目指す将来像を再確認できたのではないかとされる。

Ⅱ B班－1

第1部では、「プロを目指して：私達の進路と夢」というテーマで World Café を用いて各グループ3、4人でディスカッションを行った。1回のラウンド（おしゃべり）を20分～30分の3ラウンドを行った。各ラウンドでのテーマは異なり、その内容を以下にまとめた。

第1ラウンド：「私の進路と夢」

最初のグループでは、県職員（公務員）や病院薬剤師、大学院生、MRになりたいメンバーが集まった。それぞれがその道を選んだ理由と将来はどのような姿を描いているのかを話した。県職員や病院薬剤師を選んだメンバーは、薬学部で学んだ知識をより多くの患者さんや地域の方々に還元したいという気持ちが強かった。そして、相手が困っていた際はいつでも相談に来てもらえるような信頼の高い薬剤師を描いていた。次に、大学院という道を選んだメンバーは6年間で得た知識をさらに深めたいという探究心がきっかけであった。その先として、臨床の現場で深めた知識を活かしより治療効果の高い医療を届ける未来であった。最後に、MRを選んだメンバーは実習で医薬品を用いての治療を体験してきたが、その原点に近い医薬品を患者に届ける役割をやりたいと考えていた。そして、病院や薬局を通してより多くの患者に効果のある医薬品を届けるMR像であった。

全員の意見としては、誰もが患者や地域の人といった相手のために自分ができることを一生懸命やりたいという気持ちが共通していた。そのためには、薬学を勉強するのは当然のことで多くの経験をさらに積み重ねることが重要という意見でまとまった。

第2ラウンド：「プロを感じた場面」

次のラウンドでは、テーマにある場面を感じたこととして5年の実務実習での薬剤師の疑義照会やアルバイトで一緒に働いていたおばちゃんの接客、コンビニでよく見かけた店員さんの対応などが挙げられた。それらの中でも、より印象的だったのが塾で一緒に働いていた事務員さん（見た目は、金髪のお姉さんだそうです。）の情熱であった。

その事務員さんが働いていた塾では、進学先のレベル毎にクラスがあり塾生のレベルと希望で振り分けられていた。希望を取る際に、一人の塾生が力を持っているのに進学先に合わせた下のクラスを選択していた。その時、プロの事務員さんは塾生の能力を把握し、モチベーションを崩すことなく適切なクラスへと導いたとのことであった。その後、その塾生の親にも感謝され、多くのファンを惹きつけていた。

私たちの今回の話しで気づいたことは、プロと感じる人には必ずファンがいて、そこには人と人の間に信頼が生まれていることを実感した。

第3ラウンド：「あなたが目指すプロとは」

最後のラウンドでは、各々が目指すプロを絵で描きみんなイメージしながら話した。薬学生が集まっていた内容だったので、全員が共通して医療や薬剤師に関する絵であった。

- ・元氣な薬剤師がいて、患者や仲間といった相手が良いことをしていたら素直に褒め、悪いことであれば的確に指摘をすること。また、自分自身ができていないことは素直に認めて改善を図ることのできる人物。

- ・患者を中心に医師や看護師など他の医療従事者とチームを構築し、互いに同じ目線でディスカッションを行うこと。その際、自分の専門とする分野には自信を持つことであり、そのためには日々の経験などから学ぶ姿勢。
- ・相手とのコミュニケーションにおいて、喜怒哀楽を大事にすること。良い意味で感情を出すことで自分の考えをしっかりと伝え、そこに信頼関係を築ける人。

上記のような意見を含めた絵があった。

ここで共通していたことは、必ず私たち（自分）がいて相手がいることであった。何か1人でできることをコツコツと磨きプロになるのではなく、相手がいることでコミュニケーションを用いて信頼＝愛を築くことも重要であると強く感じた。

感想

全体のラウンドを通して、各々が経験してきたことが異なれば観点も十人十色であり非常に面白かった。その中でも共通していたのは、「医療人の心」だと思いました。誰もが自分よりも相手に注目し、相手のためになることを最優先に考えている部分は驚くほど合致していました。このコアとなる部分を多くのメンバーとお話しで見つけることができたのは、大変有意義なことでした。この経験を次なる環境でも活かし、また時間が経って話せる日が待ち遠しいと感じた時間でした。

Ⅱ B 班－ 2

第一部では「プロを目指して：私達の進路と夢」と題して、World Café 形式を用いた3ラウンドの意見交換を行った。以下に、各ラウンドでの討議内容を紹介する。

第1ラウンド：「私の進路と夢」

それぞれの進路や将来の夢について意見交換を行ったところ、「多くを学んで人々の為に働く」、社会や他職種に対して「発信力のある薬剤師」、地域の健康を守る、地域の方々にとって身近な存在の「大根をもらえる薬剤師」、「行政薬剤師として公衆衛生の向上に寄与する」といった意見が得られた。自由討議では互いの将来像を踏まえた上で、これからの実務実習制度のあり方について話題が派生した。具体的には、薬剤師一人一人が後進の育成意識を持つこと、指導薬剤師だけではなく周囲の人や施設が一体となって実習生が学べる場を提供すること、薬剤師同士で世代を越えた縦の繋がりを増やすこと、の重要性が挙げられた。

第2ラウンド：「プロを感じた場面」

医療現場においては、「気分が悪くなった実習生に迅速に対応した看護師」、「プロとして実習生に対し厳しい言葉をかけた病院薬剤師」に出会った際の場面が挙げられた。その他には、「客の前ではエンターテイナーとして振る舞い、決して弱音を吐かないインストラクター」を見てプロを感じたという意見も得られた。またこの討議の過程で、プロとして仕事をこなす上ではプライベートとの両立が大事であるという話に至った。趣味や家庭など、仕事以外の世界を持つことの重要性につい

て議論した結果、我々にとって一番身近なプロは「親」なのではないかという意見が挙がり、この意見に対して納得の声が多く聞かれた。

第3ラウンド：「あなたが目指すプロとは」

第3ラウンドでは、自分が目指すプロの姿をイラストで表現した。文章にすると、「服薬指導のプロ」、「後輩や学生指導のプロ」、時間の管理を大事にし、医師と対等に話のできる「臨床開発職のプロ」、行政薬剤師としての「食品衛生監視指導のプロ」、をそれぞれ目指していることが分かった。第1ラウンドとはメンバーが異なるため、改めて卒業後の進路や夢の話も絡めながら理想のプロについて語り合い、互いに将来での活躍を応援した。

【感想】

3つのラウンドを通して、皆がそれぞれ明確に自分の意見を持っていることに対し感心するとともに、その多様な意見に触れることで自分の視野が広がる楽しさを感じた。さらに、考え方や進路の異なる学生同士が討議を重ねることにより、互いを理解するだけでなく、そこから新たな見方が生まれて発展していく様子を非常に興味深く感じた。「旅人」として集まって下さった学生の皆さん、サポートして下さった先生方に感謝申し上げます。

Ⅱ C 班－ 1

第一部では、「プロを目指して：私達の進路と夢」と題して、World Café 形式を用いて思い思いのおしゃべりを行った。ラウンドごとにテーブルマスターを除くメンバーがテーブルからテーブルを渡り歩くことで、様々な人とのおしゃべりができた。

第1ラウンド「私の進路と夢」

参加した4名の進路と夢は以下の通りであった。

- 大学院進学 ⇒ 薬剤師の臨床研究を活発化する
- 大学院進学 ⇒ 国の役人になって、薬剤師の成果に対する報酬を増やす
- MR ⇒ 医師から信頼される良きパートナーになる
- 病院薬剤師 ⇒ 小児専門薬剤師になる

なぜMRになろうと思ったのか、色々な事情がある中で、薬学人としてどのように貢献したいのか、が話の大部分であった。その後は大学院進学が話の中心を占めたが、卒業後の年齢が懸念されていた。

第2ラウンド「プロを感じた場面」

参加した3名のプロを感じた場面は以下の通りであった。

- 早くても22時、遅いときは次の日まで自己研鑽に努めているのを知ったとき

- 患者の緊急対応時、医師との激しいディスカッションを見たとき
- 麻薬に関する法律を一字一句覚えており、それをそらんじているのを見たとき

それぞれ、実務実習によって、プロを感じる機会を持ったようだった。中でも、救急病棟こそ薬剤師が必要とされる領域であり、それだけに患者最優先で臨む姿勢が印象的であったとのことだった。

第3ラウンド「あなたが目指すプロとは」

参加した4名の目指すプロは以下の通りであった。また、このラウンドは、各人の考えるプロを絵で表現し、他の参加者がそれを見て何を示しているかを当てる試みがとられた。

- その人みたいになりたい、と周りに思わせる人
- 一人の患者のために他職種と協同し、そして自身の役割を全うする人
- 薬ゼミの講師として、人当たりよく、皆を自然と笑顔にできる人
- 自分を示すもののうちの1割が薬剤師で、9割がそれ以外である人

追求するだけがプロではない、というのが印象的なラウンドだった。他者の評価の中にあるプロを考え話すことが多い中で、純粹に自分が自分をどうプロと思うのかを考えるのか、が意見の一つとして表れていた。

Ⅱ C 班－2

第1ラウンド：「私の進路と夢」

進路先が決定している方、まだ模索している方がいるなかで次のような夢を話しました。「人に教えることが好きなので教育関係者になりたい」「地域活性に携われるようになりたい」「薬局薬剤師と病院薬剤師との距離を縮めるような人になりたい」「薬の開発者になっていろいろな人の役に立ちたい」と、さまざまな夢がありました。これらの夢をどう実現していくのか議論したところ、それぞれに必要な知識やあらゆる人との関わりが重要であるという結論に至りました。

第2ラウンド：「プロを感じた場面」

プロを感じる場面は様々であり、例えば、HKTの指腹さんという方はアイドルという立場なのに、裏方の仕事などもこなしているそうです。「他にはイチロー選手の背面キャッチ」、「メイドカフェの従業員の立ち振る舞い」にプロを感じたとかができました。これらの話のあと、薬剤師のプロを感じた場面は何かという話になり、実務実習での処方提案や疑義照会などが挙がりました。

第3ラウンド：「あなたが目指すプロとは」

このラウンドでは、イラストを描いて他の人がどのようなプロを目指しているのか考えるものでした。コミュニケーション力が大事というようなイラストや、メーカーと患者さんとの距離を縮め

るものなどがあり、それらを実現するためには、普段からの努力が必要だと考えられました。

<総括>

World Café では毎回ラウンド毎に人が変わり、新しい考えを持った人と討議をすることが出来たので、自分に足りないことや知らなかったことなどに気付かせてもらうことができ、とても有意義な時間を過ごすことが出来ました。最後ではありますが、セッションを円滑に進めるようサポートしてくださったタスクフォースの先生方に感謝と御礼を申し上げます。

Ⅲ A班－ 1

第一ラウンド：「私の進路と夢」

私たちが話し合った意見として、進路について「薬学で学んだことを臨床現場で活かしたい」、「開発新薬を患者に提供したい」などの意見が挙がった。私たちのグループは病院薬剤師と研究職志望の方々が多く、それぞれに活躍の場所や目標は異なっている、議論の中で「薬剤師として患者や社会のために貢献したい」という共通した想いを抱いているという結論となった。

その後、夢に関する話になり、「科学で医療を発展させたい」、「新しいことを知り、楽しみたい」、「病院薬剤師として患者に貢献したい」などの意見があり、それぞれの夢の実現のために卒業試験、国家試験を合格しようという結論に至った。

第二ラウンド：「プロを感じた場面」

プロを感じた場面としては、「業務と休憩時間の切り替えができる場所」、「患者の個別性を活かした服薬指導を行っていた場面」、「調剤ミスを防ぐため、処方箋の1文字監査を行っていた場面」など実務実習で体験した意見が多かった。一方で、「テレビで国境なき医師団が五感を使って診断を行う場面にプロを感じた」という意見もあり、現場で得た経験を医療に役立てることができるということがプロであるとの結論であった。

第三ラウンド：「あなたが目指すプロとは」

「自分の目指すプロの姿」をイラストで表現し、他の人に描いた絵の内容を当ててもらうという課題であった。班のメンバーは皆病院あるいは薬局の薬剤師を目指している方であったので、「薬剤師はどれだけ患者さんのところに行けるかが重要。」「在宅業務を積極的に行う薬局薬剤師になりたい」、「幅広い知識を持つジェネラリストを目指す」などの意見が挙がった。それぞれが表現したプロフェッショナル像について議論することで、理想とするプロフェッショナルとなるために、具体的にどう行動していくべきかを考えるきっかけとなった。

第3ラウンド 「あなたが目指すプロとは」

第3ラウンドでは、それぞれが目指すプロについて絵で表現し、それを汲み取ってもらうことから始まった。絵はシンプルなもの（研究風景や投薬シーンなど）が多かったが、そこに込められた考えを聴くと、実地志望者は患者1人1人に寄り添える薬剤師になりたいという意思が強いことが伝わってきた。一方で研究職志望者では、それぞれの専門的な研究の話も出たが、最終的にはその研究成果をもって患者1人1人を救うことができればよいと考えているようであった。どの職種においても患者1人1人に対して、それぞれの職種から、それぞれの方法で患者を救うことを考えており、このような書き方は恐縮だが、プロになり得る意識を持っていると感じさせた。

感想

World Café という討論のスタイルは経験したことがなかったので、テーブルマスターとしてうまく討論できるかどうか心配であったが、参加者全員がとても積極的に意見を交わしてくれたため、スムーズに進めることができた。病院や薬局の薬剤師志望の人だけでなく、企業志望や進学者も多く、特に進学する自分としては博士課程に進む学生の多さに勇気をもらいました。

Ⅲ B 班－ 1

第一部では、「プロを目指して：私達の進路と夢」ということに関して、以下の3テーマを World Cafeke 形式で討議した。

- ① 自分たちの進路と夢
- ② プロを感じた場面
- ③ 自分が目指すプロ(絵を描いて伝える)

① 自分たちの進路と夢

進路・夢に関しては、病院薬剤師・薬局薬剤師・研究者と同じ薬学部でも様々な進路を目指す人々がいたため、それぞれで分けていきたいと思う。

(1) 病院薬剤師

- ・患者さんから指名されるような薬剤師になりたい。
- ・看護師や医師などと協力しながら患者を第一に考える医療を提供したい。
- ・看護師などと同様に採血などの医療行為を将来的には行えるようにしたい。
- ・高い向上心をもって、より新しい医療知識を得ていきたい。
- ・患者さんと良好なコミュニケーションをはかり、頼られる薬剤師になりたい。

(2) 薬局薬剤師

- ・過疎地での地域医療に貢献したい。
- ・在宅に力を入れ、他の医療人よりも身近な存在になりたい。
- ・ふらっと立ち寄れるような薬局を作りたい。

(3) 研究者

- ・希少疾患に対する特効薬を開発したい。
- ・ノーベル賞を受賞できるような、後世に名を残す研究がしたい。
- ・より臨床に近い研究がしたい。
- ・専門家として、豊富な知識や能力を持った研究者になりたい。

以上のことが主に挙げられた。

他には、薬剤師を経て政治家になり、薬剤師の地位向上や職能の拡大、医薬分業の推進を行う。つというような意見もあった。

② プロを感じた場面

これまでの人生で、どのような職でも構わないため、“プロ”を感じた瞬間を互いに述べた。箇条書き形式で述べていこうと思う。

- ・自論を否定・批判されても、膨大な知識量や経験または話術により、その批判などに負けず、自論を持ち続ける時をみたとき
- ・簡単には仕事を休むことができないと知ったとき
- ・自身の業務が中断することで他人に迷惑や何らかの影響が生じるのを見たとき。
- ・多くの人がいる際に、あえてある特定の人が頼られているのを見たとき。
- ・No.1を常に目指す、貪欲な向上心を感じたとき。
- ・自己満足ではなく、他社に伝え、自身の中で完結させずに発表をしているとき。

このようなことが挙げられた。

これらは、主に研究発表・実務実習などの際に感じたことであった。

③ 自分が目指すプロ

これに関しては、絵を描いて伝えるというものであったが、文章で伝えたいと思う。

- ・同じようなことを話していても、これまでの経験や実績などによる信頼から聞き手に説得力を持たせるような人間。
- ・同じ職種の人が他にいても、良好なコミュニケーションや豊富な知識などをもっているため、患者さんからあえて指名されるような人間。
- ・高い実務能力、豊富な知識、円滑にコミュニケーションをとることができる能力をもち自身に満ち溢れた人間。
- ・自己の能力はもちろんのこと、周囲に目を向けられるような広い視野や観察力をもち、後進を育成できる人間。

などが将来目指すプロとして挙げられた。

一貫して大事なことは、自身の能力を向上させることが絶対条件であるということだった。そこに何か+αすることで、プロになるのではないかと考えられる。

以上の①～③を通して、将来自身が目指す職においてのプロになるためには、何が必要かということとを議論した。そして、まず自己の能力の向上が絶対条件となり、その上で他者との関係に意識を向けることが必要となると感じた。

Ⅲ B 班－2

第1ラウンド

テーマ：「私の進路と夢」

それぞれの進路や夢は、以下の通りである。

- ・英語が話せる病院薬剤師になる。
- ・大学教員になって、基礎研究を続ける。
- ・病院薬剤師として臨床研究に関わる。
- ・思いやりのある薬剤師になる。

それぞれが思い描く夢・進路は異なっていたが、その夢や進路に至った経緯は共通していた。それぞれが大学での研究や実務実習を通して実際に経験し、目にしたことから上記のような進路・夢に至っていた。また薬剤師として人のことを思い、社会貢献したいという考えは皆共通であった。

第2ラウンド

テーマ：「プロを感じた場面」

それぞれのプロを感じた場面は以下の通りである。

- ・お客様のクレーム対応をした社員にプロを感じた。最初はすごい剣幕だったお客様が社員の対応で、最後には笑顔で帰っていった(ドラックストアでの出来事)。
- ・ある薬局の社長の言葉「全ては患者さんのため」
- ・某テーマパークのキャストが、安全確認のためにアトラクションが停止した際の臨機応変な対応(並んでいるお客さんに対してクイズを出して運転再開まで退屈させないようにしていた)。
- ・他職種の企業説明会に参加した際に、素人の自分には全くわからない内容に、そこに参加している人皆が興味と関心を示している姿にプロを感じた。

皆それぞれにプロを感じた場面は異なっていたが、他人に対する思いやりを感じる言動や行動にプロを感じていた。薬剤師におけるプロではなく、他職種におけるプロについて考えるいい機会となった。グループではどんな職種においてもプロというのはお客さんなど相手を思っている行動にあるという考えになった。

第3ラウンド

テーマ：「あなたが目指すプロとは」

このラウンドは、自分のプロとして活躍している場面を絵で描き、メンバーに見せて当ててもらったという方法で行った。

自分の思い描いているものをイラストで表現するのは難しかった。しかし、それぞれに様々な表現方法で自分が思うプロを描いていた。ある一場面に焦点を当てて描いていたり、一場面に限定するわけではなく思いつくたくさんの場面を描いたりと様々であった。相手に上手く伝わるかは別として、自分の将来目指したいものを言葉ではない方法で表現するということは、より明確にイメージしやすくなりそれぞれ説明しやすかったように思う。また他の人の絵を見てその人の目指すものを考えることで、自分に置き換えて考えたりすることもでき視野が広がったように思う。またグループ全員が人物を描いていたのだが、皆1人ではなく複数人描いていて、将来目指すものが異なっている、プロというのは人との関係の中で成り立つことであると改めて思った。

Ⅲ C 班－1

第一部では、「プロを目指して：私達の進路と夢」についての World Café による討議を行った。Café ということでコーヒーやジュースを飲みながら、メンバーを旅人になぞらえテーブルを旅しながら、テーブルマスターを含む3～4人で与えられたテーマについて、約20分間ずつ、自己紹介を兼ねた話し合いを行った。

テーマ

第1ラウンド：私の進路と夢

第2ラウンド：プロを感じた場面

第3ラウンド：あなたが目指すプロとは

第1ラウンド

私のテーブルでは、一般用医薬品の知識も持ち在宅医療に携わりたい、長く生活に寄り添うような薬局薬剤師になりたい、患者さんと話すことを大切にする薬剤師になりたい、という夢が挙げられた。薬局薬剤師を目指したい旅人が集まったこともあり、自分の目指す薬剤師像から発展し、薬局でこれから必要となる医療行為についてなど、幅広い内容の話し合いを行うことが出来た。

今後、薬局では在宅医療に携わることは必須であると言われており、さらに24時間体制がスタートしていることなどから、薬局薬剤師のプロとは何かという議論となり、患者さんの心に寄り添い、頼られる薬剤師ではないかというところに落ち着いた。私自身も在宅医療や終末期の介護などに興味があるため、将来に繋がるような会話になった。また、薬剤師として活躍するためにも、国家試験合格に向けて勉強していこうと励まし合った。

第2ラウンド

これまでの人生の中での経験から、それぞれにエピソードを出し合った。高熱がありインフルエンザだと思っていたが実は虫垂炎で緊急手術となり医師に感謝した、病院実習中に採用された医薬品について薬剤師が看護師にきちんと説明を行っていた、実習中に起こったシステムエラーの際に逸早く対応策を各所に伝達した薬剤部長が凄かった、舞台中に怪我をしたダンサーが最後まで踊り

きった、などの意見が挙がった。今回は様々な経験の中で感じた、という趣旨のテーマだったが、医療関係のエピソードは多いように感じたが、プロを感じて心を動かされたことがあるからこそ、その職業に就きたいという夢が出来ると思うので、偏ってしまうのは仕方がないことなのではないかと考えている。

この様に出し合ったエピソードから、プロとはどういう人かという議論になった。緊急時に予測して動ける人、経験を活かせる人、他人から憧れられる人などが挙げられたが、どれもプロフェッショナルと成りえると思うので、一つにまとめることは出来なかった。

また、麻薬取締官を目指して薬学部に入學したが、薬剤師として働くことにしたという旅人もいた。志望を変えた理由は、実習中に患者さんから「ありがとう」と言われ、薬剤師は直接感謝される機会が多いと思ったことだと聞き、薬学部卒業後の進路の中で直接感謝される現場というのは薬剤師ならではのかもしれないと感じた。

第3ラウンド

このラウンドでは、話す内容を絵で表現し、その絵を見ながら意見を伝え合った。臨床で患者さんから直接話を聞きながら研究をしている研究員、在宅医療においてバイタルチェックなどの出来る薬剤師、開発や治験の中で結果に応じてドロップアウトにも踏みきれる研究員、患者さんとの些細な会話からでもコンプライアンスなどの情報を感じ取れる薬剤師、などが挙げられた。

第3ラウンドで初めて薬剤師志望以外の旅人に出会えたので驚いたが、聞いていると、そういう旅人も沢山いるとのことであった。志望職種が異なれば、当然目指すプロは違うと考えていたが、全ての意見の中に患者さんへの思いやりが感じられたことにとっても感動した。素晴らしい絵から個性的な絵まで様々だったが（私自身も絵心は無い）、絵だけでは表現できないことが沢山あり、言葉にすることがいかに大切かという考えに至った。

話の流れで、「患者さんを親と思え」という話題も挙がった。どんな患者さんに対してでも、自分の親だと思えば、少しでも違和感があれば疑義紹介もするだろうし、新薬開発においても中途半端なことは出来ない。どんな職業においても、親と同じくらい他人を大切にすべきだという結論に至った。

考察

将来像は違えども、これから全国各地に散らばり各々の志望する職業に就く全員の心に、「患者さんのために」、「社会のために」という気持ちがあることが分かり、私自身も負けないようにもっと頑張らなければという強い気持ちを持つことが出来た。

私は今回初めて、World Café という手法のディスカッションを行ったが、かしこまり過ぎず、誰もが発言しやすい議論方法だと考える。初対面の人ばかりがいる中で、自分の意見を言える、討議できるということは難しいと思うので、第1部のセッションとして良い方法だったと思った。

今回はテーブルマスターとして、自分のテーブルの話を進めていく立場だったので、他のテーブルマスターがどのように進行していたのか、どんな雰囲気だったのか、など、分からない点が多かった。後々聞いたところ、他よりもかなり穏和なテーブルだった様なので、また機会があれば、今度は私も旅人としてテーブルを巡ってみたいと考えている。

Ⅲ C 班－2

第一部では「プロを目指して：私達の進路と夢」をテーマに World café 形式で討論を行った。3 ラウンドに分け各ラウンドでは異なるテーマで討論を行った。以下に各ラウンドの詳細を示す。

第1ラウンド：私の進路と夢

第1ラウンドでは自分自身の進路と夢について、そのイメージを一言で表現した後、討論を行った。我々のグループでは臨床開発に関わりたい人と、病院薬剤師になりたい人が集まり、それぞれの意見を話した。病院薬剤師になりたい人は、患者さんから信頼され憧れる薬剤師になりたいと考えていた。さらに、認定薬剤師や専門薬剤師の資格を取り、薬剤師として活躍の場を広げたいと考えていた。一方、臨床開発に関わりたい人は、新薬をいち早く病気で苦しんでいる人々に届けたいと考えていた。世界 No.1 のモニターになり、臨床開発の現場で活躍していきたいと考えていた。

グループ全体としては、各々の進路や夢は異なるものであったが、各々が強い意志を持ち、それに向け行動していることが伺えた。また、グループ全員が女性であったことから、女性薬剤師としてどのように活躍していくかの討論も行うことができた。やりたいことをやり、欲張って行動することも大切であろうという結論を出し、このラウンドは終了した。

第2ラウンド：プロを感じた場面

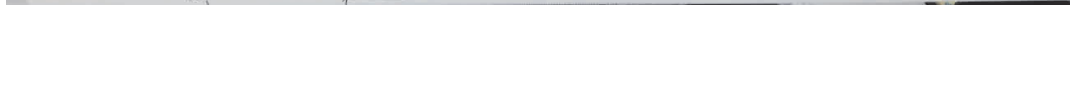
第2ラウンドではプロを感じた場面について文章で表現した後、討論を行った。我々のグループでは研究室での出来事についてと、病院実習での出来事について意見を話した。研究室でプロを感じた場面としては研究室の先輩が自身の研究を最後まで達成したことがあげられていた。一方、病院実習でプロを感じた場面としては病院内にあるものを用いて pH を調整し、薬剤の溶解性を向上させていたことがあげられていた。

グループ全体としては、その人のもつ能力を活かし、自身に与えられた仕事を全うする人に対し、プロを感じている人が多かった。また、各々が薬局実習、病院実習を通してプロを感じた場面について討論を行い、このラウンドは終了した。

第3ラウンド：あなたが目指すプロとは

第3ラウンドではプロとして活躍している場面を絵にして表現した後、討論を行った。我々のグループでは 病院薬剤師と薬局薬剤師を目指している人が集まり、それぞれの意見を話した。病院薬剤師を目指している人は患者さんを中心とした医療チームにおいて医師や看護師などの他の医療従事者としてしっかり意思疎通を図っていくことをプロとして考えていた。一方、薬局薬剤師を目指している人は患者さんから心を開いてくれるように努めることをプロとして考えていた。

グループ全体としては困っている患者さんの話をしっかりと聞き、そのニーズに応えることがプロではないかと考えていた。そのためには患者さんの背景をしっかりと理解する必要があり、また、日常的な会話から患者さんの異変を読み取る必要もあると感じた。どのように患者さんに接し、より良い医療を提供していくかの討論を行い、このラウンドは終了した。

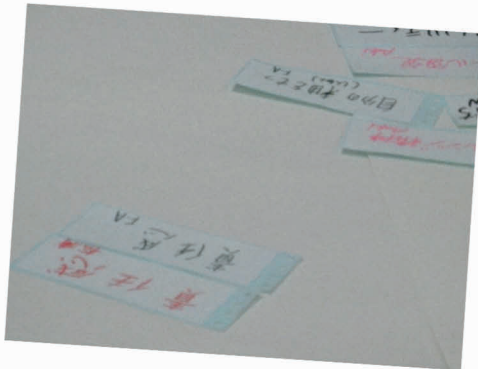


第二部

「私達のプロフェッショナルリズム」

セッションⅠ

「プロフェッショナルリズムの要件とは？」



第2部 「私達のプロフェッショナリズム」

セッション1 「プロフェッショナリズムの要件とは？」



第一部、やってみてどうでしたか？



第二部では・・・
「プロに求められること」
を考えてみましょう。

薬学部の卒業生として、
自分の目指す仕事だけでなく、
友達の進路も含めて考えてください。



KJ法

「プロフェッショナリズムの要件とは？」



さまざまな情報

KJ法

情報を徹底して収集



語るところを聞く

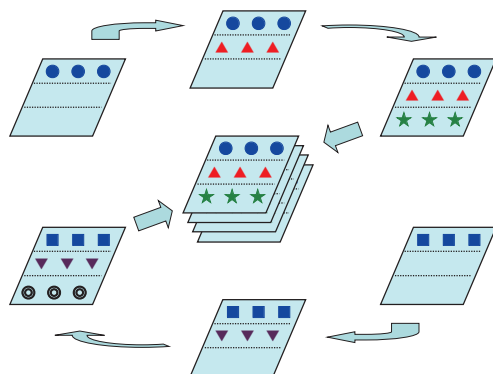


情報の整理

情報の整理と共有

今回は、KJ法の手法を用いて、「プロフェッショナリズムの要件」を抽出し、みんなで共有します。

要件の抽出



記載上の注意点

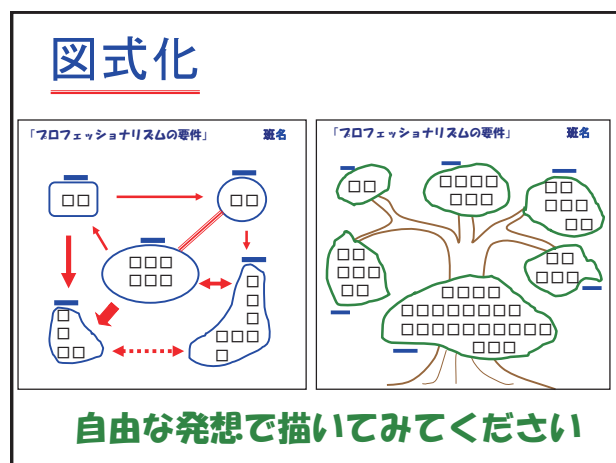
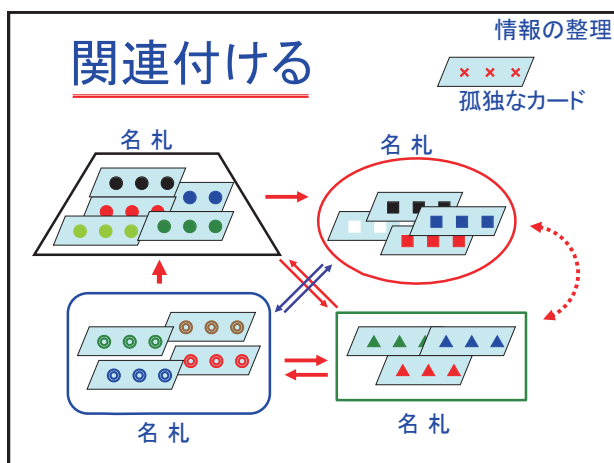
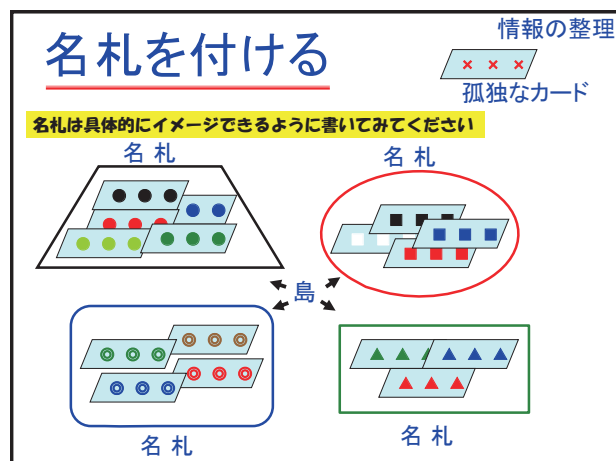
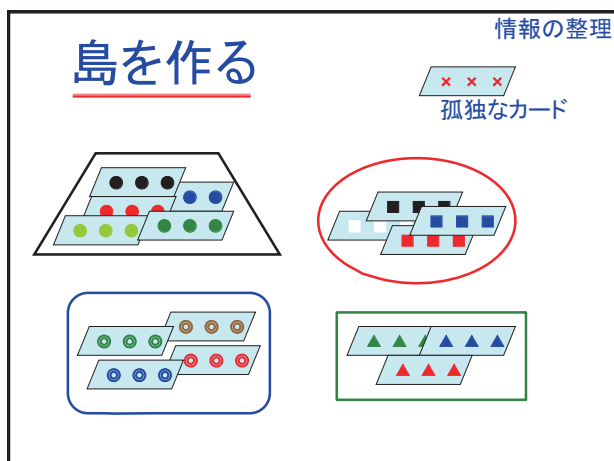
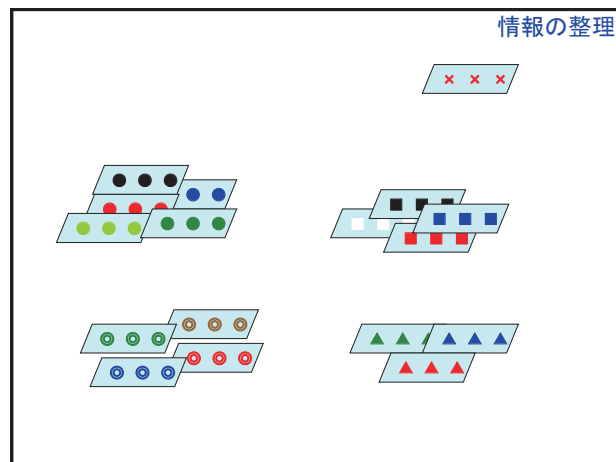
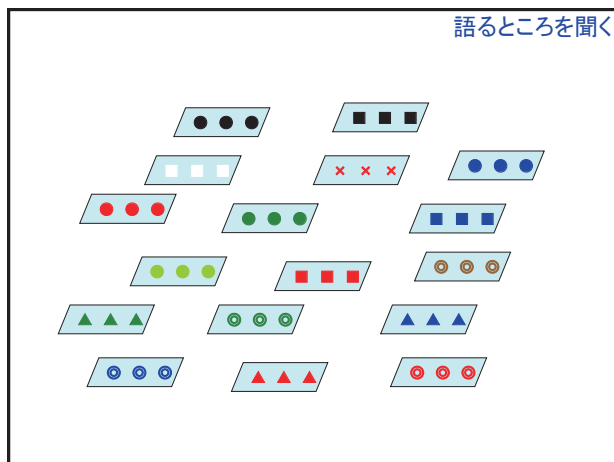
大きな文字で

明瞭に

誰が書いたか分かるように。イニシャルetc.

前の人の意見を参考にしても、なくてもよい

一人、5～6つ「プロフェッショナリズムの要件」を書く



これからの作業

KJ法でプロフェッショナリズムの 要件を整理して発表

- まず…4役(司会、記録、発表、報告書担当)を決めましょう!
- 自己紹介とWorld cafeで印象に残ったことを共有しましょう。10分
- 次に…KJ法 90分



I A班

第2部セッションIでは、プロになるためにすべきこと、またプロに求められていることを考えるために、KJ法を用いて「プロフェッショナルリズムの要件」を抽出した。まず初めに、個々が必要だと思う要件をカードに書き出した。次に、出てきた要件を島に分け、その島に名前をつけた。最後に、それぞれの島を関連付け図式化した。

議論の経緯

プロフェッショナルリズムの到達点として周りの人から信頼され求められる人を1つの島とし、そのために必要なことを5つの島と5つの孤立のカードに分けた。矢印は、島や孤立のカードの関係を表している。プロフェッショナルの根底として必要なことは、「知識」と「コミュニケーション能力」が挙げられた。

知識という面では、ただ単に知識を深めるだけではなく、向上心を持って積極的に取り組むことが、専門性を高め、資格を取得することにつながると考えられた。また、正確な知識を身に付け、その知識を実践に結び付けることができる応用力が必要である。これらの知識が、薬物治療だけではなく、疾病の予防につながる。

コミュニケーション能力は「態度」と「心」の2つの面に分けることができた。相手が不快感を抱かず、話をしやすくなるような態度で接すること、また、思いやりの心を持ち、相手の気持ちに共感し、寄り添い相手に興味を持つことが、良いコミュニケーションを図るきっかけになるという意見も出た。

知識を深め、コミュニケーション能力を高めることで、患者さんの体調や様子の変化を検査値などのデータからだけではなく、会話やスキンシップからでも推測できるのではないかと考えられた。また、この能力を活用し、様々な事態や環境に適応する力も必要である。薬剤師として何を求められているかを理解し、それを行動に移すことで、他職種との連携につながり、チーム医療へ貢献することにつながる。医療人としての自覚を持ち、これらの5つの島に誠心誠意取り組むことで、周りの人から信頼され、求められるようなプロフェッショナルになると考えた。

まとめ

医療は日進月歩するものであるため、日々の自己研鑽は必須であり、それに加え専門的な知識も身に付ける必要がある。また、専門用語ではなく平易な言葉で伝える力と相手の様子や会話から相手の気持ちや状態を読み取る力も必須である。知識やコミュニケーション能力を身に付けることで、様々な場面において適切に対応することができ、結果として最適な医療につながる。プロフェッショナルリズムとは、これらのことを継続して行うことができ、患者さんや医療従事者から信頼され、求められるようになることである。

以下に、島の名前と各カードに書かれた要件を示す。

コミュニケーション能力

<態度>

- ・話を引き出す力
- ・難しい言葉をわかりやすく相手に伝える能力

- ・相手の言葉を引き出すような態度
- ・笑顔
- ・聴く力
- ・相手に不快感を与えない口調

＜心＞

- ・相手の気持ちに共感できる
- ・思いやりの心
- ・相手の気持ちを考える
- ・優しい心を持つ
- ・治療のことだけではなく、患者背景も考えられる
- ・相手に興味を持つ

適応する力

- ・違うことを怖がらない
- ・エラーを予測できること
- ・柔軟性
- ・考える力
- ・工夫すること
- ・トラブルが起きても動じない
- ・環境やツールを作る力、改革していく力

知識

- ・知識と経験
- ・正確な知識
- ・知識を誰でも分かる言葉で説明できる
- ・専門性
- ・知識の応用力
- ・知識を実践に結び付けられる
- ・常に新しいものを取り入れる
- ・資格を持つ

予防

- ・病気の予防
- ・OTC 等多くの知識を持つ

向上心

- ・目指すものを決める
- ・やる気
- ・妥協しないこと
- ・探求心
- ・日々の努力
- ・積極性

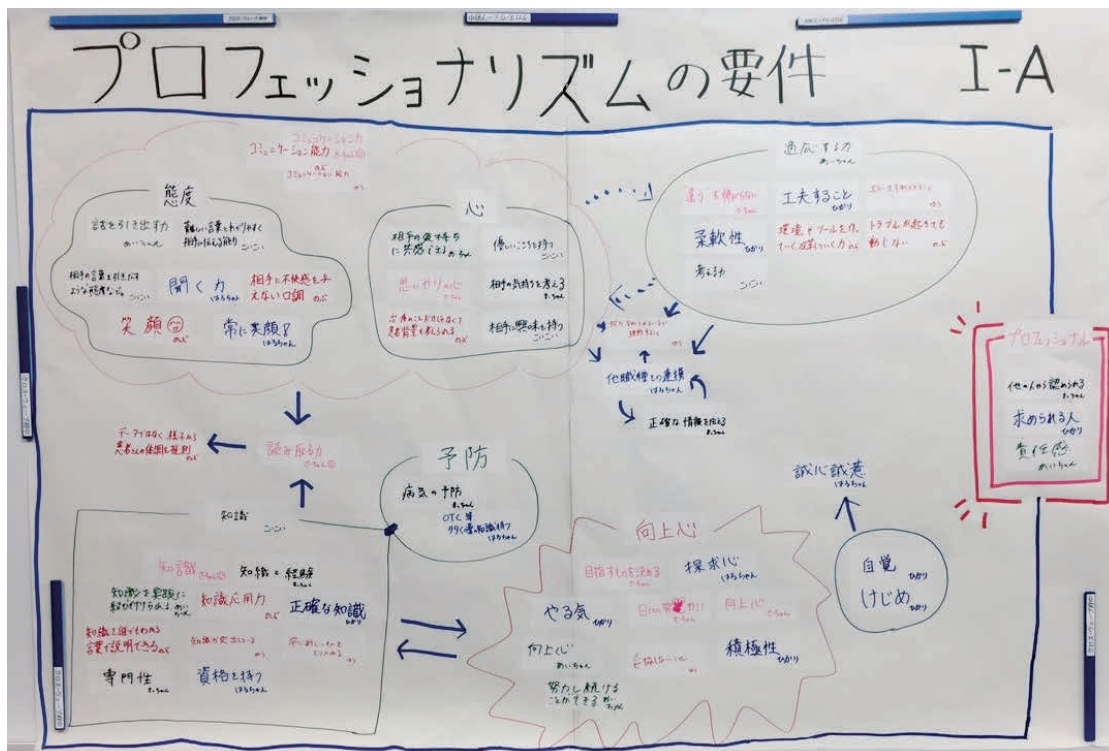
プロフェッショナリズム

- ・他人から認められる
- ・責任感
- ・求められる人

孤独なカード

- ・読み取る力
- ・何が求められているか理解すること
- ・正確な情報を伝える
- ・自覚
- ・データではなく様子から患者さんの体調を推測
- ・他職種との連携
- ・誠心誠意
- ・けじめ

【プロダクト】



I B班

【目的】

テーマ「プロフェッショナルイズムの要件」に関して議論を行い、プロフェッショナルイズムに関する考えを共有・深化させることを目的とした。

【方法】

KJ法により、以下の手順で情報の整理と共有を行った。

- ① 各自、テーマから連想する事を5つ程度カードに書き出した（要件の抽出）。
- ② 各カードの説明を聞き、それをもとに類似するカードをまとめ、島を作成（グループ分け）した。
- ③ ②で作成した島にタイトル付けを行った。
- ④ 各島を関連付け、図式化した。

【結果】

議論の経緯：要件の抽出、島の作成（手順①-③）

我々が書き出した59枚のカードを整理し、下記の通り、8つの島に分類した。

<島のタイトル>

- ・基礎力
- ・分析力
- ・教育
- ・広い視野

・自分の心と向き合う ・自己管理

・医療安全

・他者と向き合う

<カードの記載内容>

●基礎力

- ・問題を発見する力
- ・向上心
- ・常に疑うこと
- ・1つの事をつきつめる
- ・豊富な知識
- ・知識を応用できる力
- ・研究心
- ・知的好奇心
- ・常に疑問を持ち、探究心を忘れない
- ・薬の知識
- ・患者状態の把握（フィジカルアセスメント）

●分析力

- ・論理的考え方
- ・情報を集め、評価ができる力
- ・判断力
- ・論理的思考
- ・新しい情報を常に仕入れ、取捨選択できる
- ・データを読む力

●教育

- ・後輩に伝える力、教育する力
- ・未来の薬剤師への教え

●広い視野

- ・世界に目を向ける（←海外の医薬品情報や臨床試験にも目を向ける）
- ・地域など広い視野を持つ
- ・医療現場以外
- ・専門にとらわれすぎない
- ・地域住民の健康増進に尽くす
- ・衛生面でも気がついた所を言う

●自分の心と向き合う

- ・独自の視点で考えられる（←他職種が見逃してしまうような細かい点にも注目する）
- ・先の事まで考えて行動できる（←求められる事を予測し、場合によっては計画を立てる）
- ・意見を言える
- ・相手の受け入れる寛大さ
- ・自分の意見を持つ
- ・人間性

●自己管理

- ・元気
- ・仕事と生活の切り替え

●医療安全

- ・誠実さ
- ・信頼関係の維持
- ・事故分析（←医療事故を隠蔽するのではなくしっかりと受け止め、原因を分析する）
- ・信頼の回復の難しさ（←インシデント等を起こした後も信頼を維持するためには、責任を持って
- ・責任感

対処することが必要である)

●他者と向き合う

- ・人との関わり
- ・医療従事者と信頼関係を築く
- ・相手に合わせることができる
- ・自分中心にならず相手の立場に立てる
- ・患者の気持ちに寄り添える
- ・コミュニケーションを大切にする
- ・相手の話のポイントを見極める
- ・相手に合わせた言葉づかい
- ・伝えたい事をきちんと相手に伝える
- ・説得力
- ・様々な人（職種）の意見に耳を傾ける
- ・薬剤師間でフォローし合える
- ・信頼される（×2）
- ・患者の立場になって考えることができる
- ・スムーズなコミュニケーション力
- ・もう一度確かめる
- ・平易な言葉の選択
- ・交渉力
- ・根拠のある意見が言える

●孤独なカード

- ・結果にコミットする（←考えて行動した結果を患者・医療に還元する）

議論の経緯：島の関連付け、図式化（手順④）

8つの島と独立したカードの関連について議論した結果を、以下の図1に示す。
我々の班では、8つの島のうち「基礎力」が全ての土台であるとした。基礎知識を付けた上で疑問や研究心、向上心を持つことにより、薬剤師としてのスキルを高めることができると考えたからだ。そこで、土台となる基礎力が他の7つの島に派生し、最終的に患者・医療に結果が還元されるように行動することがプロフェッショナリズムの要件であるとし、図1のようにまとめた。

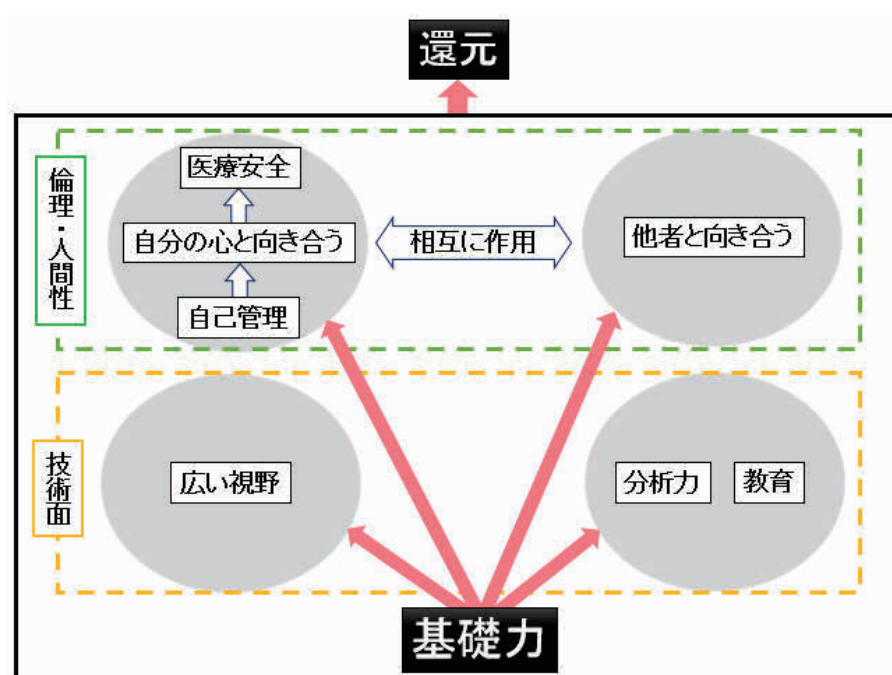


Fig.1 各島の相関図

「基礎力」以外の7つの島に関しては、下段に技術や職能に関する内容である「分析力」、「教育」、「広い視野」を配置し、上段に倫理や人間性に関する「自分の心と向き合う」、「他者と向き合う」、「自己管理」、「医療安全」を配置した。「医療安全」は下段に含めるべきという考え方もあるが、カードの内容が責任や信頼により関与するものであると考え、上段に含めた。さらに、心身ともに健康な状態を保つことで、たとえミスをして倫理観を失うことなく、誠実に責任を持ってそれに向き合うことができるようになると考え、「自己管理」、「自分の心と向き合う」、「医療安全」をひとまとめとした。「自分の心と向き合う」と「他者と向き合う」の島は、相互に作用し合うことで、良好な人間関係のもと、より質の高い医療を提供することにつながると考え、横に並べて配置した。

【考察・結論】

我々のカード配置は、技術的な面と倫理・人間性に関わる面の両方に焦点を当てた、バランスが良いものであった。このことから、どちらか一方ではなく、両方を兼ね備えていることがプロフェッショナリズムの要件として重要であると考えている人が多いと考えられる。

つまり、本相関関係は、基礎力を土台とし、技術を身につけていることが重要ではあるが、そこで終わってしまってはならないことを示唆していると考ええる。基礎力に裏打ちされる技術力は、倫理や人間性の方を向いている必要がある。技術力は自己満足のための道具ではなく、患者や医療現場に還元できるものでなければならないのである。

以上より、我々の班が考えるプロフェッショナリズムの要件とは、「基礎力をもとに技術と人間性を同時に培い、その力を患者や医療現場に還元できるような行動をとり続けること」であるとの結論に至った。



Fig. 2 作成したプロダクト（世界地図をモチーフとした）

第二部セッション I では、「プロフェッショナリズムの要件とは？」をテーマに、KJ 法にて各々の考えを思いつくままにカードに記し、書いた本人に理由や経験を聞きつつ、最終的に 7 つの島へとまとめ上げた。

1. 議論の経緯

我々はまず、それぞれが思いつく「要件」を 10-15 分ほどかけて書き出した。次いでカードの内容を確認する意味も込めて、一つひとつのカードを全員でチェックし大まかな島に分けることとした。この際につくられた島は大きく分けると、①知識と②気持ちであったが、はっきり分けるとのできない間に浮かぶ島が 3 つほど存在した。そこで、ぼんやりと浮かぶ島も含めて 5 つ程度の島に分けるために、それぞれのカードの内容を具体的に書いた本人に聞き、それを基に全員でどの島に当てはまるかを考えた。ここで特に議論に上がったカードが「タフさ」である。書いた本人は、薬剤師として仕事をする上で体力が絶対的に必要であることに加え、医療現場であるため人の死と直面した際などの精神的ダメージにも耐える気力の意味も含まれているという話であったことから、あえてカードを 2 つの島に分けることで、図式化した際に一目で内容を想像できるように工夫した。また、「軸」というカードは、チーム医療の中で様々な意見を聞く際にすべての意見を行動に移すと、薬剤師として自分がすべきことの客観性が損なわれてしまうという考えから、自分の「軸」をしっかり持つておくことが大切だという意味のカードである。このカードは我々の班の個性を表すカードであり、注目してほしいカードであったため、独立させることとした。

ここまでで、初めに分けた①知識、②気持ち (Passion) に加えて、そこから派生して③思いやり、④能力、⑤姿勢、⑥チーム力、⑦信念の島を新たに作り出した。この時点で孤独なカードとして残っていたのは総合力、探究心の 2 つであった。当初、総合力は全体的な力を兼ね備えることを意味することから、このカードがすべての中心にあるとしていたが、「それ以前に熱意・情熱をしっかり持つておくことがすべての力 (要件) を身に付けるモチベーションになるのではないか」という考えから、熱意、つまり「Passion」を中心に図式化することとした。

2. KJ 法の詳細

➤ Passion

- ・熱意 (2)
- ・情熱
- ・想い続けること
- ・タフさ (気持ち)
- ・継続する力

→患者のためにあらゆる努力をし、医療に関わり続けていく情熱が薬剤師の「プロフェッショナルリズムの要件」の根底にあると考え、「熱意=Passion」をすべての島の中心に置くこととした。

➤ 以下の知識を持つこと

- ・知識 (2)
- ・病態の知識
- ・専門性
- ・技術

- ・医薬品の知識
- ・医薬品の専門家
- ・栄養学などの知識
- ・生涯学習
- ・新しい職域の開発（チャレンジ）

→医薬品の専門家としての知識を有することはもちろん、他職種と関わり深く議論していくためには、病態学や栄養学などの基礎知識も身に付けておく必要がある。また、医療は日々進歩することから、薬剤師には生涯学習が欠かせないと考えられる。

➤ 患者さんへの思いやり

- ・思いやり（2）
- ・思いやりの心
- ・包容力
- ・受容力
- ・笑顔
- ・優しさ
- ・患者の生活を考える
- ・患者に寄り添える
- ・責任感
- ・支える気持ち

→医療において大切にすべきものは患者であり、患者を元気にすることである。そのため思いやりを持ち患者に寄り添うことが大切であり、疾患、医療行為、医薬品ばかりに目を向けるのではなく、目の前の患者の気持ちをもサポートしていかなければならない。

➤ 薬剤師として仕事をするうえで必要な能力

- ・慎重さ
- ・タフさ（体力）
- ・正確さ
- ・先見力
- ・まじめさ
- ・予測する力
- ・気持ちの切り替え

→医薬品の有効性・安全性を担保することが薬剤師の使命であることから、慎重さ・正確さは欠かせない要件である。また、日々進歩する医療を現場に届け続けるために必要な体力や、副作等を予測し対応策を考える力も薬剤師がもつべき能力である。

- ・コミュニケーション力（3）
- ・発信力

➤ 他職種連携チーム

- ・協調性（2）
- ・他の職種への理解
- ・人を動かす力
- ・知識の共有
- ・相手の立場に立って考える

→医療現場で薬剤師が活躍するためには、ただ自分の知識を高めるのではなく、チーム医療の中でその知識を生かさなければならぬ。そのためには相手の立場に立つことや協調性が重要になる。また、薬の専門家として必要な情報を発信していかなければならない。

➤ 信念

- ・軸
- ・自分の軸

→チーム医療は様々な意見や考えが飛び交うことから、多くの情報が得られるというメリットをもつ反面、意見に流されやすくなるという危険性もある。自分が積極的にチーム医療に関わっていくためには、自分の軸をしっかり持った上でチームに参加していかなければならない。

➤ 薬剤師としての姿勢

- ・向上心 (2)
- ・謙虚さ
- ・客観的な視点
- ・経験 (チャレンジ)
- ・薬剤師としての姿勢
- ・やりがいをもつ
- ・広い視野

→薬剤師として働く際の姿勢として、薬剤師能力を高めていくための向上心や経験が重要となる。
また、「謙虚さ」をもつことは相手から親しまれ、自分自身も知識をより吸収しやすくなる。

➤ 孤独なカード

- ・新人教育
- ・探究心
- ・後輩を育てる
- ・総合力

→プロとして薬剤師がより幅広く活躍していくことを考えると、知識や経験をインプットするだけでなく、次世代の薬剤師にアウトプットしていかなければならない。

3. 作製したプロダクト



4. 結論

今回の議論から、プロとして仕事をするために必要な要件として、薬や病態に関する知識だけでなく、コミュニケーション能力や思いやり、向上心といった日ごろから意識して持つべきものが挙げられた。これらの根底にあるのが「Passion」であり、熱意をもって仕事をするのが、患者の最適な治療に貢献できる、つまりプロとしての役割を果たすことができると考える。

Ⅱ A班

まずは、**KJ** 法に基づき「プロフェッショナルリズムの要件とは？」をテーマに、各々カードに思いついたことを書き出した。次に似た内容のカードを集めて島を作成し、一つずつのカードの内容を全員で確認しつつ、島に名前をつけていった。以下に島の名前（下線を引いた）と各カードに書かれていた内容を示す。

コミュニケーション能力

- ・コミュニケーション力（2枚）
- ・他者への発言力
- ・他の医療従事者や患者さんへの発信力
- ・他人を巻き込む力
- ・広い視野で考える
- ・伝える力
- ・柔軟な頭
- ・傾聴力
- ・育てる力
- ・臨機応変力!!

向上心

- ・向上心（3枚）
- ・一生勉強
- ・答えのない問いを追い続ける力

自己管理

- ・ON と OFF の切り替え
- ・多くの時間をかける
- ・健康第一
- ・ON と OFF がくっきりしている
- ・タフさ
- ・自分を良く知る

人として

- ・気遣い
- ・人を思いやる心

スペシャル

- ・専門的な知識
- ・専門的な技術
- ・専門性
- ・持続力
- ・5年後、10年後の自分が見えている
- ・こだわり
- ・最先端
- ・科学の視点
- ・マニア力

ジェネラル

- ・多岐にわたる知識
- ・じみーな日常生活のこともよく分かっている
- ・プロはプロでもスペシャリストじゃなくてジェネラリスト
- ・医療を学んだという自覚
- ・幅広い知識
- ・ソウゾウ力

責任感

- ・ 責任感（2枚）
- ・ 正しい判断力
- ・ 医療に関するいろんな雑多な情報のウソホントがわかること
- ・ 自分の仕事に責任を持つ
- ・ タイムマネジメント力

信頼

- ・ 信頼される
- ・ 他人に信頼される
- ・ 尊敬される

自信

- ・ 自信
- ・ 自分の仕事に自信を持つ

職業として成立する

- ・ 金をもらおう（かせぐ）
- ・ お金をかせぐ

孤独なカード

- ・ 垣間見える普通の人感

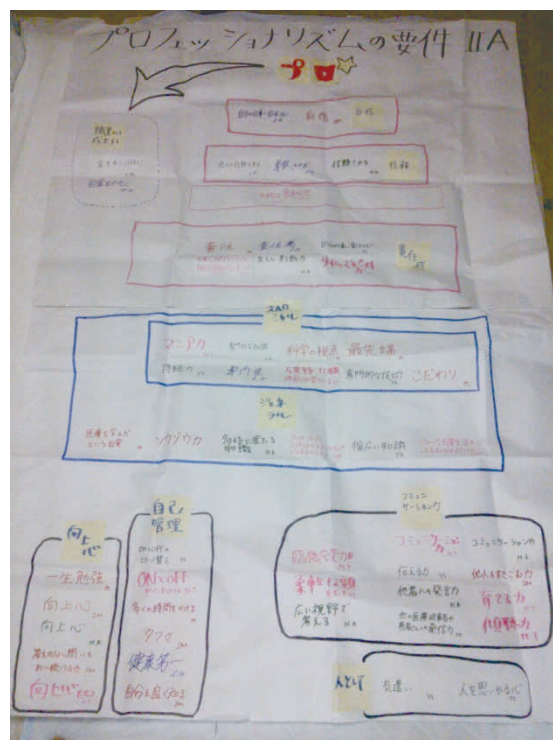
その後、ひとつひとつのカードの内容や、島と島との関係などを話し合った。そうした議論を進めるうちに、プロを目指す道を歩む過程において、比較的初期の頃から求められる要件（自己管理や人として）もあれば、その道のある程度究めた者に求められる要件（自信や信頼）もあることに気が付いた。そこでプロに求められる要件を、土台から積み上げていき、徐々に達成していきながらプロになっていくというイメージで、プロダクトをピラミッドの形でまとめることとした。

まず、プロになるために最初に必要となる土台（プロダクト中の黒色の島）について議論した。多くのメンバーが挙げていたコミュニケーション能力は、多くの人と関わる仕事をする人が多い薬学部卒業生にとって、やはり必須であることを全員で再確認した。向上心というカードも多数出ており、ある一つの道を究めるプロは現状に満足せず上を目指して努力し続ける姿勢が大切である。自己管理も大切だ。プロになるには多くの時間を費やす必要があるため無理もしたが、自身の健康やメリハリも重要である。また、そもそも人として気遣いや思いやりも必要だという意見も出た。

さきほどの土台は、「態度」に関する内容が多かった。次に、プロになるための土台が固まってきたら、「知識」や「技術」が求められてくる（プロダクト中の青色の島）。プロというと、多くの人がその分野に関する専門的な知識や技術が必要だと考えるだろう。私たちの班でも半分以上の人がこの島に属するカードを挙げた。一方、この狭く深く追求する専門性に対して、広く浅く取り組む一般性も大事だという意見も多く出た。私たちはこの2つを対比してスペシャルとジェネラルと島の名前をつけた。なお、幅広い分野の中のある特定の分野という意味で、この2つの島は包括の関係にした。

「態度」「知識」「技術」が身についてきたら、いよいよ熟練者に求められる要件（プロダクト中のピンク色の島）である。例えば、新人の頃は仕事でミスをして先輩がフォローしてくれたかもしれないが、先輩になった今、仕事にミスがあったら責任を取らされるのは自分である。できることが増える分、仕事の責任も重くなっていくと考えた。良い仕事ができるようになると、周りの人から信頼されるようになり、それが自分の自信にもつながっていく。そうしてプロになるのだ。プロになったら、自然と報酬もついてくる（職業として成立する）。

ところで、私たちの班では興味深い一枚のカードが出た。「垣間見える普通の人感」である。例えば薬剤師の場合を考えてみると、仕事がものすごい良くできたとしても、完璧すぎて隙が全くないようではとっつきにくく、患者にとっても近寄りがたい人であろう。そうではなく、同じ目線で、時折プロの自分でも同じ普通の人なんだという姿を患者に見せれば、親近感を感じ、話も引き出しやすくなったりするはずだ。この「垣間見える普通の人感」があるからこそ、人に信頼されやすくなると考え、信頼の島のすぐ下に配置した。以下が完成したプロダクトである。



II B 班

「プロフェッショナリズムの要件とは？」というテーマで KJ 法により議論を行った。各自がテーマに関する意見をカードに記入することで要件を抽出し、その後情報の整理を行ったところ、大きく分けて以下の 15 の島が作成できた。以下にその内容を示す。

愛・共感

- 愛 ・ HEARTFUL なところ
- 共感態度 ・ 共感力
- 人望
- 信頼 ・ 親しみやすさ ・ 笑顔
- ・ 他の医療従事者に頼られる
- 好きこそものの上手なれ（仕事に愛情をもつ）

向上心

- ・ 向上心
- ・ 前向きな気持ち
- ・ ゴール設定
- ・ 自信をもつ
- ・ マイノリティー
- ・ チャレンジ精神
- ・ でかいことに挑戦するマインド
- ・ 探究心
- ・ 自分の軸（信念）をもつ
- ・ 前に出る力

專門性

- ・ 専門性
 - ・ スペシャリスト
 - ・ 疑うこと
 - ・ 化学者としての知識
 - ・ 論文の活用
- ・ ジェネラリスト
 - ・ 一般教養、時事の知識
 - ・ 確かな知識
 - ・ 薬の知識
 - ・ 薬の最新情報

社会

- ・世論をとらえる ・政治への理解

発信

- ・発信力
- ・プレゼン能力
- ・専門用語を以下に分かり易くするか

聞く

- ・傾聴力
- ・患者情報を読み取る力
- ・ニーズ把握力

情報処理

- ・問題発見、解決力
- ・分析力
- ・収集力

コミュニケーション

- ・ コミュニケーション
- ・ コミュニケーション能力

つながり

- ・ つながり
- ・ 地域の人とのつながり
- ・ 共有する力
- ・ 多職種と対等であること
- ・ その地域に溶け込む
- ・ プライベートの交流
- ・ ネットワーク
- ・ 多職種への興味

協調性

- ・ 協調性
- ・ 臨機応変さ
- ・ 柔軟な思考
- ・ おごらない心（後輩から学ぶことは多い）
- ・ 多様性を受け入れること
- ・ 認める力

心

- ・ 正直な心
- ・ 素直さ
- ・ まっすぐ捉える

実行・行動

- ・ 行動力
- ・ 手際の良さ
- ・ 素早い行動
- ・ 様々なデバイスの活用

責任感

- ・ 責任感
- ・ 指導方法の修得
- ・ 毅然とした態度
- ・ 教育者としての心構え（後継者を育てる気持ち）

自己管理

- ・ 最低限の身だしなみ
- ・ スケジュール管理
- ・ 整理整頓

メリハリ

- ・ ON と OFF

その他独立したカード

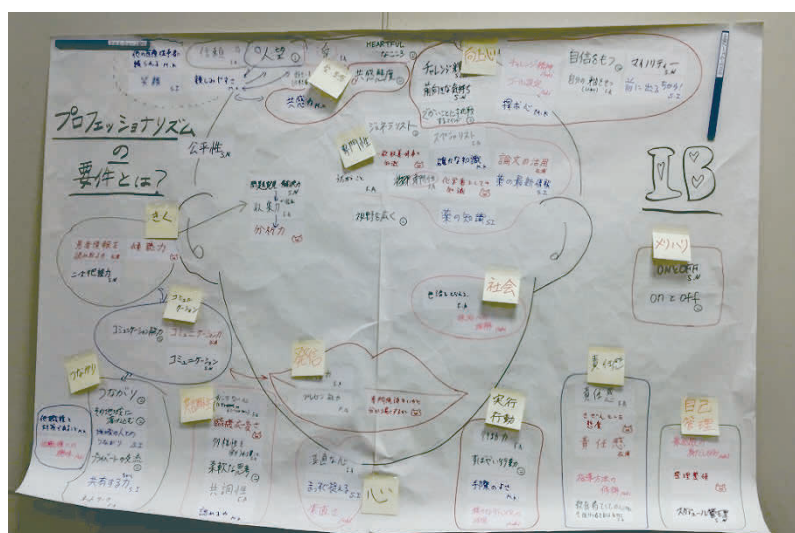
- ・ 公平性
- ・ 視野を広く

この中で、プロフェッショナルの要件として最も重要なものは何か一人ずつ意見を出し合った結果、「愛・共感」と「向上心」が特に重要であるという意見がでたため、「愛・共感」と「向上心」をプロフェッショナルイズムの要件の二本の柱として議論を進めた。

島の中で「聞く」や「発信」など、人間の器官に関わる項目が出たことから、プロダクトを人間に見立てて図式化し、作成していくこととした。その中で要件の二本の柱である「愛・共感」と「向上心」は人間の脳に見立てプロダクトを作成した。

その他の島に関しては、「専門性」は知識に関わることから、脳の近くに配置し、「聞く」は耳、「聞く」からつながる「情報処理」に関しては脳から目のあたりに配置した。「発信」は口に配置し、「コミュニケーション」は「聞く」と「発信」からつながり、さらに「つながり」、「協調性」にも関わってくるとした。「心」は心臓を模したハートを描いてその中に配置し、「社会」は耳、目、脳の近くに配置した。「実行・行動」、「責任感」「自己管理」「メリハリ」に関しては顔からは少し離れたところに配置した。独立していた「公平性」、「視野を広く」に関しては、「公平性」脳の近く、「視野を広く」は目の近くに配置した。

以上のことから、メンタル面や行動面など様々な方向からプロフェッショナルイズムの要件を抽出し、まとめることができた。以下に作成したプロダクトを示す。



プロダクト

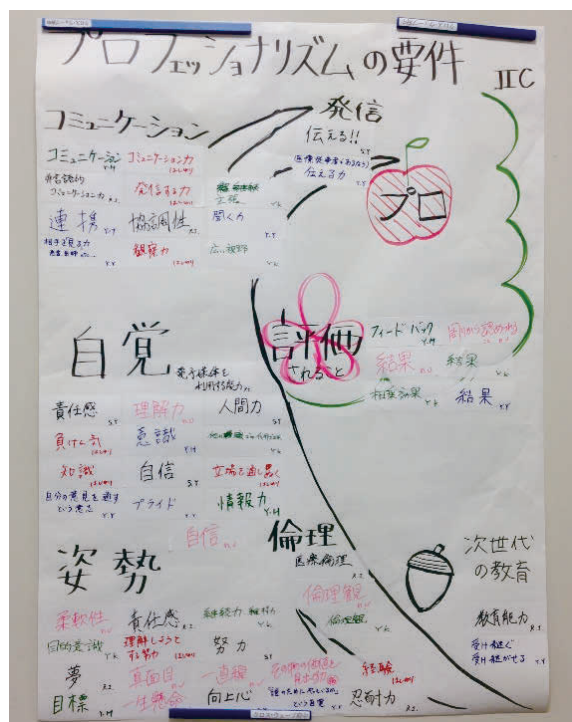
ⅡC班

第二部のセッションⅠでは、「私達のプロフェッショナルイズム」という大テーマに基づく小テーマ「プロフェッショナルイズムの要件とは？」について、KJ法を用いて議論を行った。

◆議論の経緯◆

まずⅡC班では、「プロフェッショナルの要件」「プロに求められること」を1人1人考え、思いつく限り単語でカードに書いていき、情報を徹底して収集した。一通り挙げ終えた後、皆で1枚ずつカードを見ていき、書いた人がどのような意味でこの意見を挙げたのかを聞き、情

報を整理してカードを島に分けていった。語るところを聞くことにより、同じ言葉であっても意味が異なって書かれたものは、違う島に分類をした。その後で島に名札をつけ、島と島の間での関係やつながりを考えて流れができるように並び替えを行い、木をモチーフにして図式化し、図のようなプロダクトが完成した。以下、実際のプロダクトとその概略図を示す。なお、今回カードに書かれた意見の内容は、このセッションの報告書の最後にまとめて記載する。



画像.実際のプロダクト

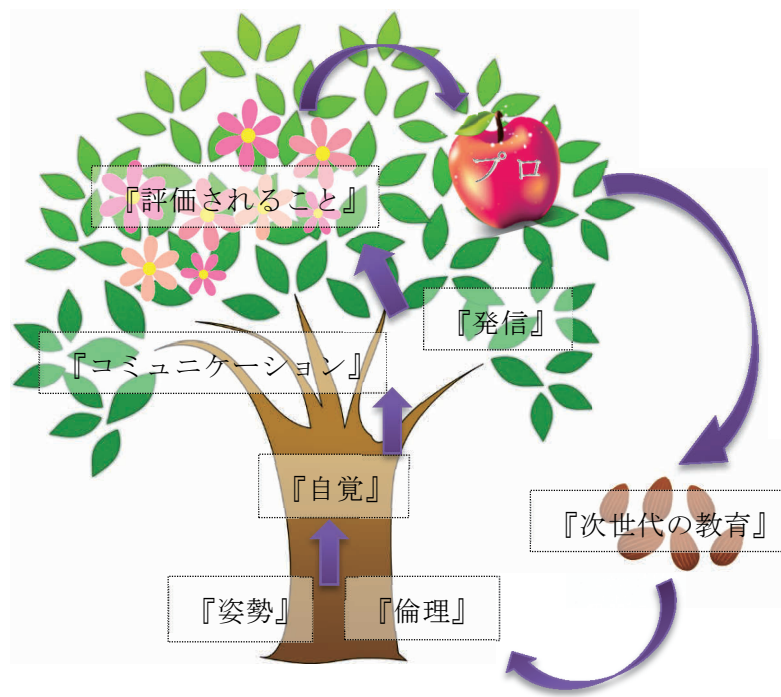


図.プロダクトの概略図

◆議論の結果◆

島は、「姿勢」「倫理」「自覚」「コミュニケーション」「発信」「評価されること」「次世代の教育」の7つに分けられた。中でも、最初に挙げた「姿勢」と「倫理」は、その人の内面や土台に起因するものであり、後ろの島にいくにつれ、技術やスキルなど外面に起因する要素であると分類した。この流れから、私たちはプロダクト作成のモチーフに木を選択し、図式化を行い表現した。

まず、プロの人の根幹には、柔軟性や責任感・目標に向かって一直線に努力するなどといった姿勢や、倫理観を兼ね備えていることが重要な要素として存在すると考えられた。そして、その土台から、自覚が芽生え、自信やプライドを育んでいくこととなる。その幹を経て、枝葉となるコミュニケーションや発信をしていくスキルを身につけることも、必要だと考えられた。なお、「発信」と「コミュニケーション」は、似た意味をもつものとも見られるが、この班で指す「コミュニケーション」は、協調性や連携という意味合いが強く、「発信」の指す伝える力とは言いたいことが異なるという結果となったため、別の枝として並列して表している。それら

の過程を経ることで花が咲き、周りからの評価が得られる。そのことによって初めて「プロ」という実になることを表した。つまり、プロというものは自己評価ではなく、結果を出し、周りからの評価やフィードバックを得られてなるものだというのである。そして強く主張したことは、自分が実を実らせて終わるのではなく、次世代へ受け継いでいき教育していくということも、プロとして欠かせないものだと、私達の議論では結論づけられた。この次世代の種がまた芽を出し、成長していくことによってこの流れはまた続いていくということが考えられる。

◆このセッションを終えての総評◆

「プロフェッショナルイズムの要件とは？」というテーマで各班議論を行ったが、各班で出る意見に似たようなものはあっても、最終的に強くカラーとして現れる部分が違うところが、議論の面白さであり重要な部分であるというように感じた。ⅡC班では「教育」ということがカラーとして出ていたように思っているが、それぞれの班で出たものは異なった。しかし、これらの大切に思われた要素に優劣はなく、私達はプロとして社会に出るにあたり、それらの全てを忘れず行動していくことが必要不可欠であると考えられた。

◆カードの意見一覧◆

以下に、各島の名札とそれに属した意見の詳細を示す。

『姿勢』

- | | |
|-------------|------------------------|
| ○柔軟性 | ○そのものの価値を見出す力 |
| ○責任感 | ○経験 |
| ○継続力・維持力 | ○目標 |
| ○目的意識 | ○一生懸命 |
| ○理解しようとする努力 | ○向上心 |
| ○努力 | ○「誰のためにやっているかという」という自覚 |
| ○夢 | ○忍耐力 |
| ○真面目 | ○一直線 |

『倫理』

- | | |
|-------|--------|
| ○医療倫理 | ○倫理観×2 |
|-------|--------|

『自覚』

- 責任感
- 理解力
- 人間力
- 負けん気
- 意識
- 他の職では代用できない
- 電子媒体を利用する能力
- 知識
- 自信×2
- 立場を通しぬく
- 自分の意見を通すという意志
- プライド
- 情報力

『コミュニケーション』

- コミュニケーション
- コミュニケーション力
- 非言語的コミュニケーション
- 発信する力
- 主張
- 広い視野
- 連携
- 協調性
- 聞く力
- 相手を「見る」力 患者、医師…etc
- 観察力

『発信』

- 伝える!!
- (医療従事者であるなら)伝える力

『評価されること』

- フィードバック
- 周りから認められる
- 結果×3
- 相乗効果

『次世代の教』

- 教育能力
- 受け継ぐ、受け継がせる

Ⅲ A班

第二部セッションⅠでは「プロフェッショナルイズムの要件とは？」というテーマで、ディスカッションを行った。

我々の班では「自身の姿勢」や「相手に対する姿勢」といった専門家としての心構えを基盤として、最終的には社会貢献を行うことがプロフェッショナルイズムの要件であるという結論に至った。社会貢献にはコミュニケーション能力や柔軟性、論理的思考などの様々な能力が必要不可欠と考えられ、これらを向上させていくことで一層プロフェッショナルイズムを高めることが出来る。そのため我々はプロフェッショナルイズムの要件をクリスマスツリーに模してまとめることとした。つまり専門家としての心構えが全てを支える根となり、様々な能力が多方面に成長し続ける枝葉、そしてクリスマスツリーの頂に掲げられる星が社会貢献である。この討議を通して、漠然としていた「プロフェッショナルイズム」は社会貢献に集約できる概念であるという一つの考え方を得ることが出来た。実際に討議で作成したプロダクトを Figure1 に示す。

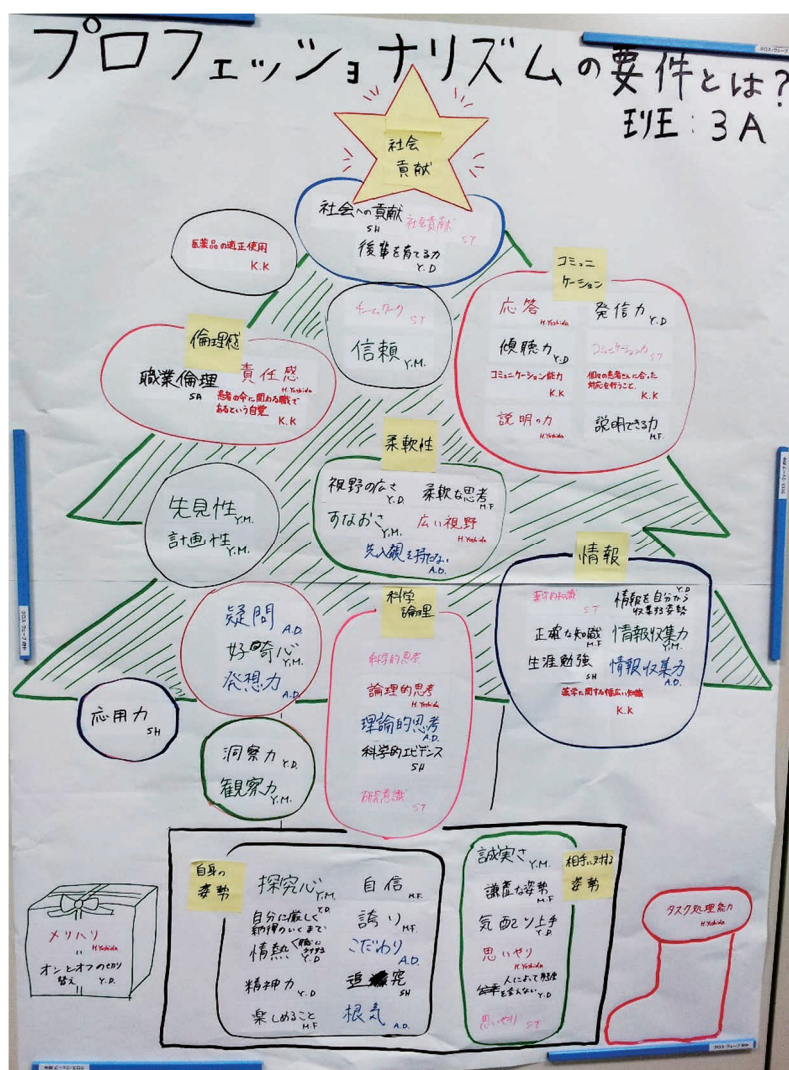


Figure 1. 作成したプロダクト

以下に討議中抽出された要件を、島ごとに列挙する。

Table1. 討議により抽出された要件

島	要件	島	要件
1.社会貢献	社会への貢献	6.柔軟性	視野の広さ
	社会貢献		すなおさ
	後輩を育てる力		柔軟な思考
2.自身の姿勢	探究心		広い視野
	自分に厳しく納得のいくまで		先入観を持たない
	職に対する情熱	7.コミュニケーション力	応答
	精神力		傾聴力
	楽しめること		コミュニケーション能力
	自信		説明の力
	誇り		発信力
	こだわり		コミュニケーション力
	追求		個々の患者さんに合った対応を行うこと
	根気		説明できる力
3.相手に対する姿勢	誠実さ	8.倫理観	職業倫理
	謙虚な姿勢		責任感
	気配り上手		患者の命に関わる職であるという自覚
	思いやり	9.その他（名札のない島の要件は並列に記した）	チームワーク、信頼
	人によって態度を変えない		医薬品の適正使用
4.科学・論理的思考	科学的思考		先見性、計画性
	論理的思考		疑問、好奇心、発想力
	理論的思考		洞察力、観察力
	科学的エビデンス		応用力
	研究意識		メリハリ、オンとオフの切り替え
5.情報	薬学的知識		タスク処理能力
	正確な知識		
	生涯勉強		
	薬学に関する幅広い知識		
	情報を自分から収集する姿勢		
	情報収集力		

Ⅲ B 班

方法

第二部セッションⅠでは、KJ 法に基づいて「プロフェッショナルリズムの要件」をテーマに、各々思いつく限りカードにプロフェッショナルリズムを満たすために必要な要件を書き出し、似たカード同士を集めて、島（グループ）を作成した。続いて各島に名札をつけ、それぞれの島を関連付けし、最後に図式化した。プロダクト作成後、各々の班で発表した。

議論の経緯

ⅢB 班では、9つの大きな島と1つの孤独なカードができ、さらに大きな島のうち1つはさらに2つの島に分けることができた。1つずつカードの内容を確認していくとともに、島のタイトルを考えた。私たちの班では、プロフェッショナルリズムの要件として、知識、自信・責任、飽くなき向上心、コミュニケーション能力（さらに思いやり及び育成力に分けた）、存在感・影響力、伝える力、問題解決能力、プロ同士（医師等）との関係及び受け手（患者等）との関係というように、それぞれ島にタイトルを付けた。これらの島のタイトルに基づき、議論を進めた。

私たちの班ではプロフェッショナルリズムの要件について、レストランでの料理の流れと関連させて考えた。プロ（＝薬剤師）が料理（＝薬剤師として職能）を作る際に必要なものには材料があり、そのためには料理を作るための知識や自信が求められる。また、レストランでの経営を成功させるためには他のスタッフや顧客（＝医療従事者、同業者及び患者）とのコミュニケーション能力や責任力が必要となる。出来上がった料理を評価してもらうために、評判をメディア等で発信し、影響力を広めることが考えられる。そして、様々な問題点等を対応していくことで、顧客との信頼性が上がり、プロ同士でのサポートや協調性について向上させることができる。プロの能力の向上や顧客との信頼が、世間一般に評価されることでそれらを糧とし、プロの能力にフィードバックされ、さらによりよい料理を作るために腕を磨くことができる。

プロとして薬剤師が必要なものとして、土台となるものにまず薬学的知識や一般常識が挙げられた。さらによりよい医療を提供するために最先端の医療について学び、自分の能力向上のつなげることも挙げられた。薬学的知識は薬剤師の職能を活かすために必要であり、医師や看護師等に薬学的な助言等をする際の基礎として大事であると私たちは考えた。また、向上心や自信も薬剤師としての職務を果たすための原動力として大事であると考えた。病院や薬局では患者との意思疎通が大事となっており、さらに病院では他の医療従事者との連携の際に、高いコミュニケーション能力が必要である。高いコミュニケーション能力を持つためには周囲への思いやりや育成する力等が挙げられ、チーム医療や地域医療で薬剤師が患者を支援していく際の土台として必要であると私たちは考えた。これらの知識や能力をベースとし、薬剤師はチーム医療での連携や患者との円滑な信頼関係を築くことができるとした。薬剤師との関係について、プロ同士と受け手に分けて話し合い、それぞれの類似点をまとめた。これらは相互に関係

し合い、プロ同士や受け手との現場での様々な問題に臨機応変に対応し、解決していく能力が必要であると考えた。さらに薬剤師のプロフェッショナルとしての職務を世間の人に広めるためには、テレビ等のメディアに参加して情報発信をしたり、自らの影響力をアピールすることも要件として必要であることが挙げられた。これらの薬剤師としての能力が他の医療従事者や患者に評価されることで、薬剤師のプロフェッショナルとしての価値が上がると私たちは考えた。

以上のことから、薬剤師のプロフェッショナルとしての要件としてはまず、基礎となる知識やコミュニケーション能力等を持つことが必要であり、それを活かして他の医療従事者や患者との相互関係をより良いものとする事で薬剤師の職能が評価され、さらに自らの技術等を向上させることができると私たちはまとめた。

各島の名前と内容

1) 知識

- ・基礎を大切にする
- ・行動する上での根拠を提示する力
- ・幅広い知識
- ・知識の応用力
- ・専門知識及び一般常識
- ・正しく評価できる力

2) 自信・責任

- ・経験と知識を使う自信
- ・自分の職種に自信を持つこと
- ・自分の考えに信念を持つ
- ・余裕、責任

3) 飽くなき向上心

- ・目標、目的
- ・妥協しないこと
- ・気力、努力、食欲さ
- ・自己研鑽

4) コミュニケーション能力

< 4・1 > 思いやり

- ・利他主義
- ・相手の立場を考えられる、相手に合わせられる
- ・周囲への思いやり
- ・相手が何を求めているかを気づいて対処すること

< 4・2 > 育成力

- ・育成力
- ・教育能力

5) プロ同士の関係

- ・足りない部分を補える力
- ・プロフェッショナルを支えるジェネラリスト
- ・サポート能力
- ・協調性

- ・困った時に頼られる存在

6) 受け手の関係

- ・患者さんとの信頼
- ・知識を相手に合わせて活用すること
- ・患者さん個々に合わせた対応力

7) 問題解決能力

- ・物がなくても工夫や知識で対応できる力
- ・適応能力
- ・緊急時の対応力
- ・臨機応変

8) 伝える力

- ・世界に対する情報発信
- ・アウトプット
- ・NHK に出演

9) 存在感・影響力

- ・存在感、影響力
 - ・専門家である自分が他人に与える影響
- を推測する力

* 孤独なカード *

- ・最先端

プロダクト



Ⅲ C 班

プロの薬剤師になるためには、国家試験に合格することは当然必要な条件ではあるが、それだけでなく、自分自身が目指す薬剤師像や薬のプロになるために必要なことも考えていく必要がある。

第一部での内容を踏まえて、第二部セッションⅠでは「プロフェッショナルリズムの要件」というテーマに沿い、KJ法を用いてプロに求められることや現状の様々な問題点について討議した。

【討議の経緯】

まずそれぞれで意見を出し、出された意見をいくつかの島に分けた。図式化は樹木的方式で行い、それぞれの島のキーワードが木の根、幹、枝、実のどの部位に該当するか検討した。

検討の結果、他人の力が必要というよりはむしろ自分自身の努力で満たすことができる要件を根に設定した。厳密に幹と枝に区分できなかったものもあるが、コミュニケーション能力、広い視野など他人の力が必要なものの中で比較的基礎となるものを幹とし、より応用させたものを枝にした。そして達成されるのに長い年月を必要とし、ようやく得られる要件を実として表現した。

【討議の結果】

我々が考えるプロフェッショナルリズムに必要な要件は、単に患者様、お客様から信頼され、尊敬されるだけでなく、「ファンができる薬剤師」なのではないかと考えた。孤独なカードもいくつか存在したが、各カードに記載された意見を以下に示す。

<根>

- プライバシーの保護
- 規律を守る
- 薬剤師に必要な手技

- 時間の有効活用
 - 無駄なく効率的に仕事をこなす
 - 時間を大切にする
 - 仕事を家に持ち込まない

- 自分を知る
 - 自分の限界を知る
 - 自分の能力の限界を作らない
 - 健康などの自己管理能力

- 知識
- 幅広い知識
- 生涯勉強
- 薬の物性について理解する
- 学び続ける姿勢

<幹>

- 知識の利用
- コミュニケーション能力
- 知識や物事を理解する力

- 周りを見る力
- 応用力
- 広い視野

<枝>

- 洞察力
- 様々な視点から物事を考える力
- 疑問を持ち続ける
- 様々な事項をつなげる能力
- 聴く力
- 臨機応変に対応する力
- 適切な言葉を選び、分かりやすく説明できる力
- 行動力
- 自ら行動する力
- 小さな違和感に気付く力
- 思いやり
- 他の職種を尊敬する気持ち
- 相手に寄り添う
- 共感する心・態度

<実>

- ファンができる
- 薬剤師の〇〇さんと指名されるようになる
- 感謝されるようになる
- 豊富な実務経験

- 患者様・お客様に元気を与えられる
- 一次予防、二次予防を提供し、実行できる

[まとめ]

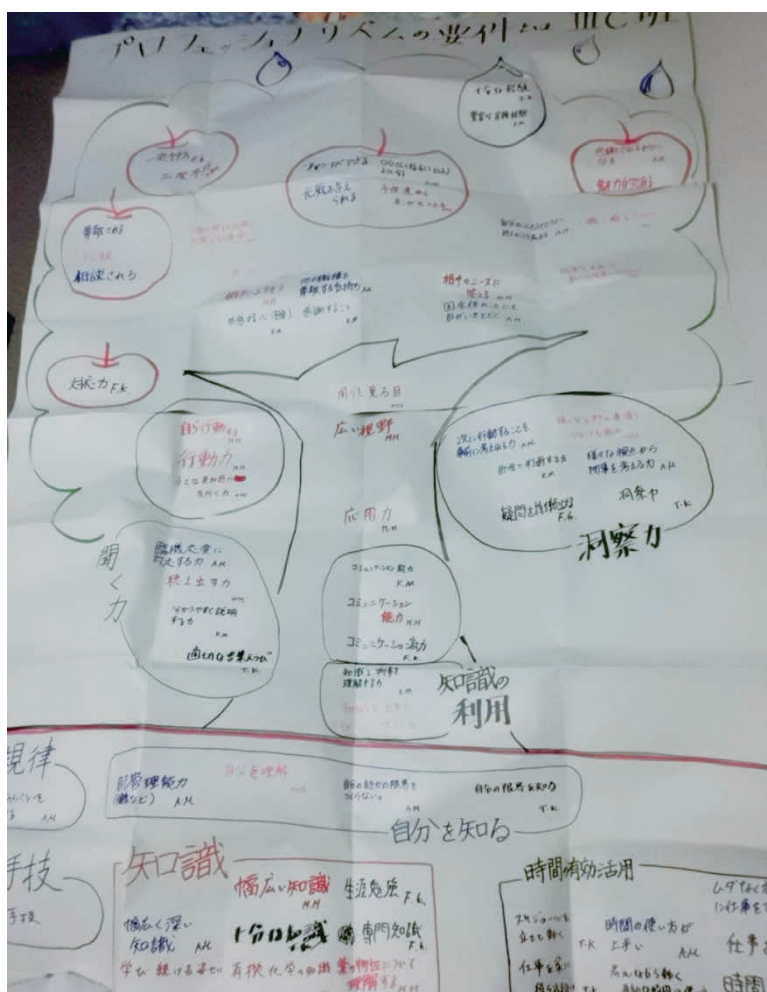
議論の中で自分の能力に限界を作らない方が良いという意見が出た。その一方で自分を理解するという意味で、自分の限界もやはり知る必要があるのではないかという見解も出されたのが印象的であった。

我々の班では、現状では患者様や地域社会から薬剤師の仕事内容を十分に理解されていないため、積極的に薬剤師ができることをアピールしていく必要があるという意見が多く出された。薬剤師しか知らないことや薬剤師だから出来ることをもっとPRしていくためには、病気のことだけでなく、薬のどの構造がどのような作用を有するのかを知る必要がある。そのため薬理学、病態学はもちろんのこと、有機化学の知識も今後より一層必要になると考えられる。

また、調剤に要する時間を可能な限り短縮し、患者様とのコミュニケーションを取る時間を増やしていく必要があると思われる。そうすることで患者様の話の内容だけでなく、背景まで理解できるような洞察力・判断力も身に付けていくことができるのではないかと我々は考える。

[謝辞]

ディスカッションを行うにあたり、温かく丁寧に指導して頂きましたタスクフォースの先生方、先輩方をはじめ、参加されたすべての方に感謝致します。最後に、実際にディスカッションにより作成したⅢC班の資料を添付する。



第二部

「私達のプロフェッショナルリズム」

セッション II

「自分達のプロフェッショナルリズムを表現しよう」



第二部 セッションII

自分達のフロフェッショナルリズム
を表現しよう

第一部では、
World Café

フロを目指して：
私たちの進路と夢

自分の進路と夢を話せましたか？
フロを感じた場面を共有できましたか？
目指すフロを描けましたか？

第二部セッションIでは、
KJ法

フロフェッショナルリズム
の要件とは？

自分達の目指す職業の
フロフェッショナルリズムの要件の
抽出と整理ができました

自分達のフロフェッショナルリズム
を表現しよう

これからの作業は、

1. 司会、記録、報告書担当の3役を決める
2. KJ法のフロダクトの見直し：
島の名札を確認する

自分達のフロフェッショナルリズム
を表現しよう

3. SGD:
- ・KJ法で整理した要件を盛り込んで、卒業後に実践したいと思う場面をイメージして寸劇を作成する



自分達のフロフェッショナルリズム
を表現しよう

3. SGD:
- ・KJ法で整理した要件を盛り込んで、卒業後に実践したいと思う場面をイメージして寸劇を作成する
- 1 テーマを決める
 - 2 盛り込む要件を決める
 - 3 場面を設定する
 - 4 シナリオを作成し、配役を決める
 - 5 劇のテーマ、場面、シナリオの要点を模造紙に

構造紙に・・・

テーマ 個人タクシーの熟練ドライバーのスキル

場面 街中で、急いでいる客を、速く安全に目的地まで運ぶタクシードライバー

シナリオの要点

- ・急いでいる客がタクシーに乗り込み、行き先を告げる
- ・混んでいる大通りではなく、狭いが空いている近道を選ぶ
- ・路地から、子供が飛び出して来るが、予想していたように難なく止まる

・
・



自分達のプロフェッショナリズムを表現しよう

4. 発表:

グループで作成したケースから自分達が考えるプロフェッショナリズムを劇で表現して下さい。



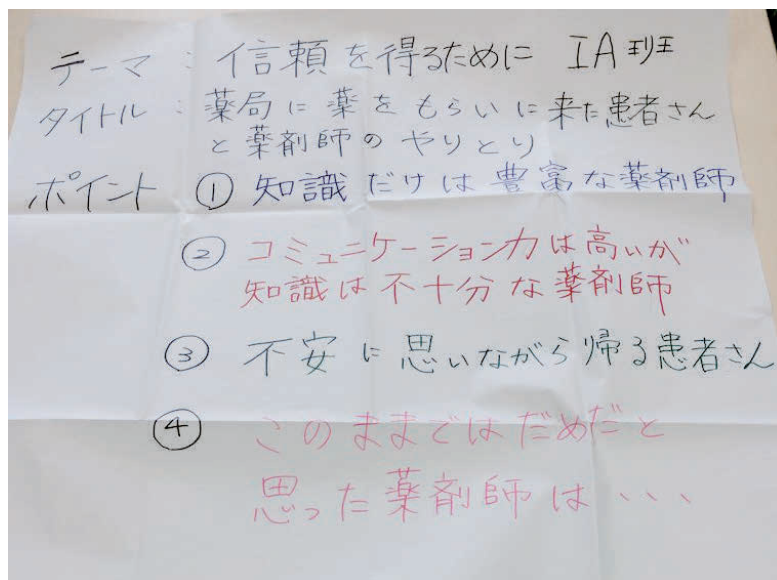
I A班

【目的】

第二部セッションⅠにおいて抽出及び整理した自分たちのプロフェッショナリズムを寸劇で表現する。

【議論の経緯】

第二部セッションⅠにおいて KJ 法を用いて抽出したプロフェッショナリズムの要件をもとに島ごとに分析を行った。私達は、プロフェッショナリズムを持った薬剤師の最終的な目的として患者さんや他職種の医療従事者に認められ、求められる能力であると考えた。そこで私達は劇のテーマを「信頼を得るために」と設定した。プロフェッショナル薬剤師となるためには知識やコミュニケーション能力を根底に適応する力や向上心などが必要となると考えこれらを踏まえた劇の場面やシナリオを考えた。以下にプロダクトと劇の場面設定やあらすじについて示した。



セッションⅡプロダクト

・場面設定

今回は患者さんから信頼を得るエピソードを展開しようという意見に基づき、同じ患者さんが何度も訪れても不自然にならないよう舞台は OTC 併設型の薬局となった。信頼を得るためにはコミュニケーション能力や知識を根底に、向上心や適応する力など様々な要素が必要になると考えられる。知識だけの薬剤師、あるいはコミュニケーション能力だけの薬剤師では患者さんや他の医療従事者を不安にさせてしまうため、どちらの要素も必要であると考えた私達は、それがより分かりやすく伝わるよう、知識だけの薬剤師とコミュニケーション能力だけの薬剤師をそれぞれ役として取り入れた。

・あらすじ

薬局に二回に渡り処方箋を持ってきた患者さんは知識だけの薬剤師、コミュニケーション能力だけの薬剤師とそれぞれ一度ずつやり取りをする。知識だけの薬剤師は患者さんの話を聞かず、難しい言葉を羅列した服薬指導内容で患者さんを不安にさせてしまう。一方、コミュニケーション能力だけの薬剤師は、患者さんとのコミュニケーションはとれているものの、肝心の服薬指導を疎かにしてしまい患者さんを不安にさせてしまう。患者さんが薬局を去った後、コミュニケーション能力だけの薬剤師と知識だけの薬剤師がお互いに患者さんとの接し方を反省する。このままではだめだと強く思った薬剤師たちから知識とコミュニケーション能力を兼ね揃えたプロフェッショナル薬剤師が誕生する。プロフェッショナル薬剤師は知識とコミュニケーション能力を最大限に活かし、患者さんからの相談への対応や生活におけるアドバイスなどを行うことで患者さんからの信頼を得る。

【まとめ】

プロフェッショナル薬剤師となるためには様々な要素が必要であると考えた。知識を持ち合わせていても患者さんや他の医療従事者から情報を引き出し、適切な対応をするためにはコミュニケーション能力が必要である。今回は知識とコミュニケーション能力に焦点を当てた内容となったが、これらと密接に関係する向上心や患者さんの状態に適応し、適切な情報提供を行うことなどもプロフェッショナルリズムの要件として挙げられる。今回の議論を通して考えたこと、学んだことを忘れずに、現場にて信頼されるような薬剤師となれるよう努力していきたい。

I B 班

【目的・手法】

第二部セッションⅠにおいて「プロフェッショナルリズムの要件とは？」をテーマに、自分達の目指す職業のプロフェッショナルリズムの要件を抽出し、整理した。そこで、セッションⅡでは「自分達のプロフェッショナルリズムを表現しよう」のテーマのもと、卒業後に実践したいと思う場面をイメージし、1つのケースで劇を作成・発表することで、より具体的・現実的にプロフェッショナルリズムについて討議した。

【経緯】

私達はプロフェッショナルに必要な要件として、セッションⅠにおいて以下の8つを挙げた。

- ・基礎力（知識、向上心、研究心、問題発見能力）
- ・広い視野（地域に目を向ける、専門にとらわれすぎない、衛生面への気遣い、世界に目を向ける）
- ・医療安全（誠実さ、責任感、事故分析）
- ・自分と向き合う（薬剤師独自の視点で考える、寛大さ、先を見越した行動、人間性）

- ・人と向き合う（信頼される、コミュニケーション、相手の立場に立てる）
- ・分析力（論理的思考、情報収集・評価能力、判断力）
- ・教育（後輩に伝える）
- ・自己管理（元氣、On-Offの切り替え）

これらのうち、一番ベースになるのは**基礎力**であると私達は考えた。基礎力がしっかりして初めて他の7つの要件を支え、それらを患者さんの利益、QOLの向上へ繋げることができるの思いからである。

また、薬剤師は薬に関しての**ジェネラリスト**であることが必要だと私達は考えた。これは医師が専門分野のスペシャリストであるということを意識し、医師が専門外の薬を使用した場合などで重要なことだと思われる。

例えば、医師の専門外の薬を使用した時に患者さんが体調の変化を訴えられ、それが専門外の薬の副作用だった場合が想定された。専門分野において医師の右に出ることは容易ではないだろう。しかし専門外の薬の副作用であるなら、医師でも気付かない場合もあるのではないかと考えた。

その様な状況で薬剤師として必要なことは**基礎知識**と**問題発見能力**である。基礎知識が欠けていた場合は副作用であると疑うこともできず、また問題発見能力が備わっていなかったら、重要なところで問題を見過ごししてしまう可能性がある。したがって、どちらも備えていることが重要である。

そこで、どの様にすればこれらを身につけることができるかを考えたところ、常に**向上心**を持ち、日ごろの業務と勉強に励むことが必要だという意見が出た。ただ漫然と業務をこなしていくのではなく、向上心を持つことで些細なことにも目を向け、疑問を感じ、それらを解決していく中で基礎知識、問題発見能力が身についていくと考えられた。

以上より、私達は「基礎力（向上心、基礎知識、問題発見能力）」をテーマに劇を作成することになった。以下に、その実際のプロダクトを示す（図1）。

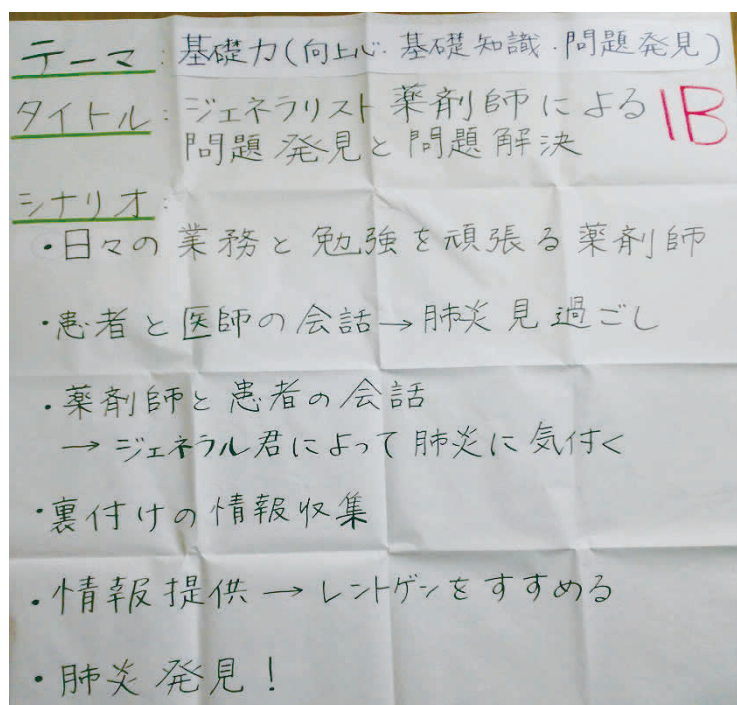


図1. 劇のテーマ、タイトル、シナリオ

I C 班

第二部セッションⅠ「プロフェッショナルリズムの要件とは？」の内容をふまえ、セッションⅡでは、自分たちが考えるプロフェッショナルリズムを劇で表現するため、話し合いを行った。

【議論の経緯】

セッションⅠで、プロフェッショナルリズムの要件として、**Passion**（情熱）がすべての根源にあるという結果となった。情熱を持っていれば、セッションⅠで考えたプロフェッショナルリズム要件である、①チーム力、②思いやり、③知識、④信念を身に付け、薬剤師として‘プロフェッショナル’になれるという話し合いになった。そのため、テーマを「**Passion** を持った軸がぶれない薬剤師」とした。また、①～④の観点が盛り込めるようなストーリーにできるように議論した。さらに、プロフェッショナルの要件として、次世代の育成の重要性もあると考えた。次世代の育成という観点を盛り込むために、成長した薬剤師が、新人の頃の経験談を用いて、新人に指導するという劇の流れを考えた。そこでタイトルは「新人薬剤師の成長」とした。薬剤師は、薬のプロフェッショナルであるため、処方提案をする場面を入れようということになった。班の中に実習中、便秘の症例で薬剤師が活躍していた症例を体験した人がいたため、便秘を題材にし、処方提案を行うという内容に仕上げた。

①チーム力・・・病院中を場面として選び、患者さん、看護師、薬剤師、医師が連携を図っている場面を作り、チーム力を表現することにした。

②思いやり・・・薬剤師が、医師に処方提案することは患者さんのためであり、この部分で思いやりを表現することにした。

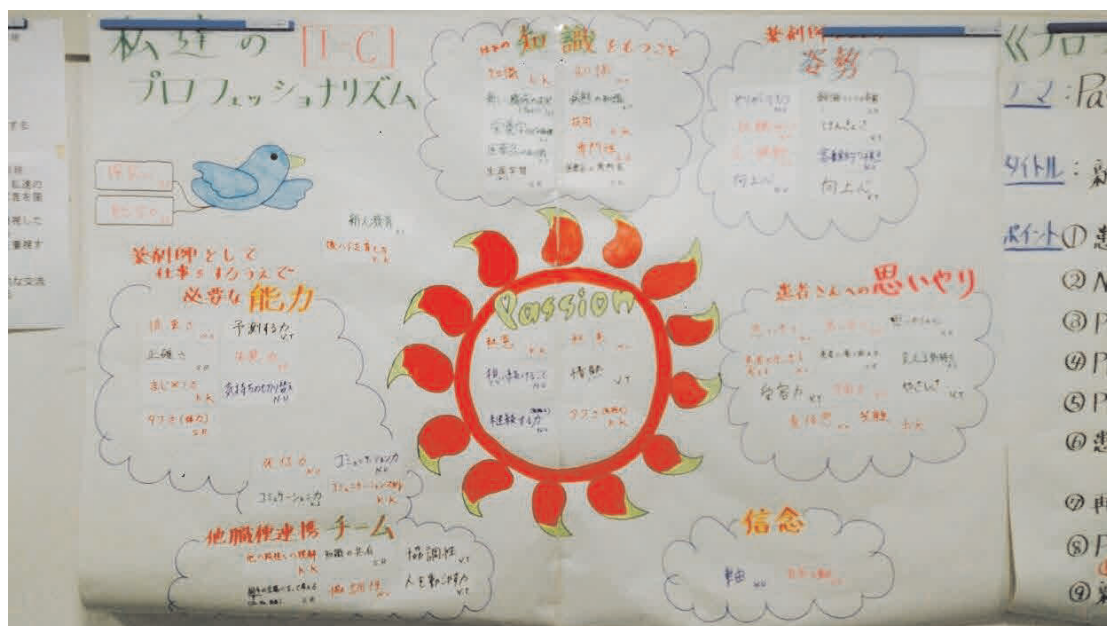
③知識・・・チームで働くときは、各々が専門的な知識をもち、根拠のある発言をしなければならない。成長した薬剤師は、知識を身に付け医師を説得することができる部分で表現することにした。

④信念・・・新人の頃は薬剤師としての軸を持たず、医師に流されてしまう。その薬剤師が成長し、自分の信念を曲げず医師と議論する部分で表現することにした。

ストーリーの締めとして、情熱を1番大切に働くことで、新人の頃よりプロフェッショナルリズムを身に付けることができることを、新人薬剤師に教えてエンディングとした。

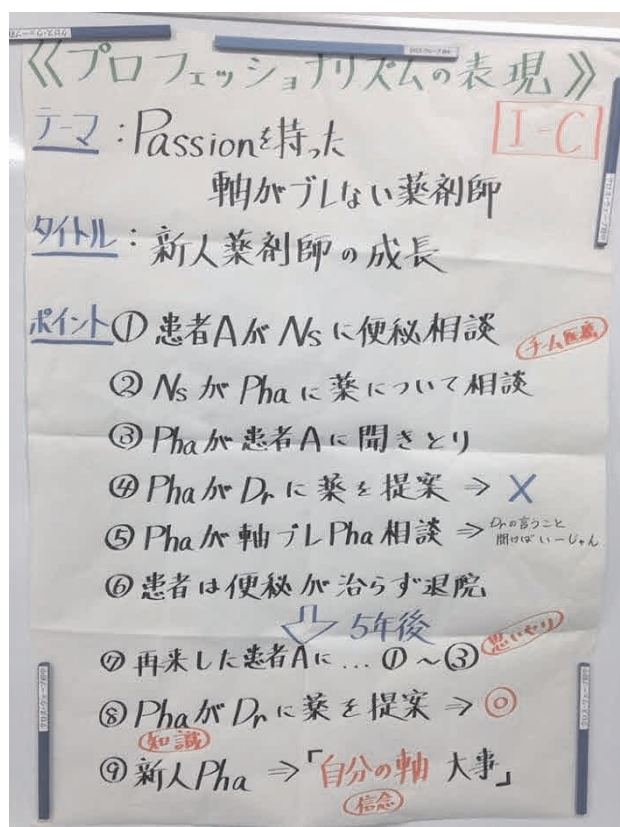
【プロダクト】

1、作製した模造紙



(Fig. 1) プロフェッショナルリズムの要件

第二部 セッションⅠプロダクトを元に、セッションⅡを考えた。



(Fig. 2) 私たちのプロフェッショナルリズムの表現

プロフェッショナルリズムを劇で表現する際のテーマ、タイトル、ポイントを示した。

2、劇のセリフ

発表した劇のセリフを以下に示す。登場人物は、主人公である薬剤師（上田夏瑞）、ピチピチ新人薬剤師（寺井唯）、便秘の患者さん（毛屋幸司）、看護師（石光一幾）、頑固な医師（大舘祐佳）、軸ブレブレの先輩薬剤師（小田切望）の6人と、ナレーター（齋藤凌）を加えた7名である。

ピチピチ新人薬剤師（寺井）：上田先輩、聞いて下さい！

成長した薬剤師（上田）：どうしたの、寺井～。

ピチピチ新人薬剤師（寺井）：この前、ドクターに処方提案したんですけど、すごい勢いで突っぱねられて。私は自分の提案の方があってると思うんですけど、全然聞いてくれなかったんです。

成長した薬剤師（上田）：そんなことあったんだ。でも私も5年前の新人の頃は、同じようなことあったよ。

ピチピチ新人薬剤師（寺井）：そうなんですか！

成長した薬剤師（上田）：こんなことがあったんよ～。

～回想シーンの始まり～

ナレーター（齋藤）：ここからは回想シーンです。ある日患者さんが便秘を訴え看護師に相談しています。

便秘の患者さん（毛屋）：うー。

看護師（石光）：どうされたんですか？

便秘の患者さん（毛屋）：便がでねえーんだよ。本当によー。

看護師（石光）：お薬は飲んでますか？

便秘の患者さん（毛屋）：薬も飲んでるのに。

看護師（石光）：飲んでるんですね。分かりました。ちょっと薬剤師さんに聞いてみますね。

便秘の患者さん（毛屋）：どうにかしてくれよ。

ナレーター（齋藤）：薬に詳しくない看護師（石光）はまだ新人の薬剤師（上田）に相談しに行きました。

看護師（石光）：406号室の毛屋さんについてなんですが、マグミットは飲んでいらっしゃるのですが便が出ねえーって訴えておられます。お願いしてもいいですか？

成長する前の薬剤師（上田）：分かりました。ありがとうございます。

成長する前の薬剤師（上田）：すいません。失礼します。新人薬剤師の上田です。

便秘の患者さん（毛屋）：新人。大丈夫？！

成長する前の薬剤師（上田）：大丈夫です。毛屋さん、便秘がひどいって聞いたんですけど。

便秘の患者さん（毛屋）：そうなんだよ。薬ちゃんと飲んでんだけど、全然効かなくてね。

成長する前の薬剤師（上田）：そうなんですね。じゃ、先生に確認してきますね。

便秘の患者さん（毛屋）：お願いします。

成長する前の薬剤師（上田）：すみません。大館先生、今お時間よろしいですか？

頑固な医師（大館）：忙しいんだけど。

成長する前の薬剤師（上田）：あの、少しだけ。406号室の毛屋さんなんですけど、マグミットが効かないらしくて。

頑固な医師（大館）：あーそう。

成長する前の薬剤師（上田）：ラキソベロンを考えたんですけど、どうですか？

頑固な医師（大館）：でもマグミット飲んでるんでしょう。私の処方にもケチ付けるの！あなた新人でしょう。

成長する前の薬剤師（上田）：いや、そういうことじゃないんです。

頑固な医師（大館）：じゃ、いいじゃん。そのままにしといて。私、忙しいし。

成長する前の薬剤師（上田）：すみません。

成長する前の薬剤師（上田）：小田切先輩！すみません。406号室の毛さんが便秘が治らないっておっしゃってて、大館医師に処方提案したんですけど、全然考えてくれないんです。

軸ブレブレ薬剤師（小田切）：そうなんだ。でも、先生も患者さんの状態分かって言ってるから大丈夫だよ。

成長する前の薬剤師（上田）：そのままでいいですかね。じゃ、そうします。ありがとうございます。

成長する前の薬剤師（上田）：毛屋さん、お薬そのままになりました。

便秘の患者さん（毛屋）：え！絶対この薬効いてないんですけど。

成長する前の薬剤師（上田）：でも、ちょっと様子見るってことなんで。

便秘の患者さん（毛屋）：えー！本当、大丈夫？

成長する前の薬剤師（上田）：もちよっとだけ何とかかりますかね。

便秘の患者さん（毛屋）：えー、はい。分かりました。

成長する前の薬剤師（上田）：すみません。失礼しました。

ナレーター：結局、薬を変更することはなく、成長する前の薬剤師（上田）は患者さんの悩みを解決できず、患者さんは退院してしまいました。新人薬剤師（上田）は自分の考えを通すことができず、反省し自分の信念を通せる薬剤師になろうと決意しました。そして5年後新人薬剤師はどうなったのでしょうか？また、患者さんが便秘を訴える場面から始まります。

～5年後～

便秘の患者さん（毛屋）：うう～。

成長した薬剤師（上田）：毛屋さん！お久しぶりです。

便秘の患者さん（毛屋）：効かなかったよ全然。大丈夫、本当に。

成長した薬剤師（上田）：もしかして、マグミットでてます？

便秘の患者さん（毛屋）：絶対効かないよー。

成長した薬剤師（上田）：先生に聞いてみますね。

便秘の患者さん（毛屋）：お願いします。今の便秘の薬効かないからね。

成長した薬剤師（上田）：少々お待ちください。

軸ブレブレの先輩薬剤師（小田切）：上田、どうしたの？

成長した薬剤師（上田）：5年前も入院されていた、毛屋さんなのですが、前に入院されていた時からマグミットが効かないのですが。やっぱり先生にもう一回、きちん言おうと思って。

軸ブレブレの先輩薬剤師（小田切）：私は先生に従っといたらいいと思うよ。

成長した薬剤師（上田）：でも、1回話してみますね。

成長した薬剤師（上田）：大館先生すいません。305号室の毛屋さんのことで相談があるので。入院されて便秘が全然治らないらしいんですが、お薬変更されませんか？

頑固な医師（大館）：飲んでるんだよね。それでいいじゃん。

成長した薬剤師（上田）：そうなのですが、弛緩性の便秘にラキソベロンが良く効くらしくて。一度、毛屋さんに試してみてもいいかなって思うのですが。

頑固な医師（大館）：へー知らなかったよ。あなたよく勉強してるね。じゃ、私の方で変えとくから、よろしく。

成長した薬剤師（上田）：ありがとうございます。

成長した薬剤師（上田）：毛屋さん！お薬変わりました。ラキソベロンっていうお薬なんですけど、試してもらえます？便秘が治るかもしれないので。

便秘の患者さん（毛屋）：ありがとう！

成長した薬剤師（上田）：お大事になさってくださいね。

便秘の患者さん（毛屋）：成長したね。

成長した薬剤師（上田）：ありがとうございます。失礼します。

ナレーター（齋藤）：今回は薬学的知識を用いて、自分の軸を通した薬剤師の提案で、患者さんの便秘は解消されました。

～回想シーンの終わり～

成長した薬剤師（上田）：っていうことがあったんよ。

ピチピチ新人薬剤師（寺井）：そうなんですネ。

成長した薬剤師（上田）：だからチーム医療っていうのはすごく大事だし、ドクターの言うことは大切だけど、プロフェッショナルになるためには、知識と、能力を活かして自分の信念を曲げずに頑張っていくことが大事なんだよ。

ピチピチ新人薬剤師：分かりました。

成長した薬剤師（上田）：結局、一番大事なのは、

全員：PASSION！！！！

Ⅱ A 班

本セッションでのプロダクト

◆タイトル：サラリーマンは気付いた！！

◆場所：薬局

◆要素

①前回、当薬局で薬を受け取ったサラリーマンが再び来局したが、彼は薬剤師というものをあまり知らない。②薬のうけとりを待つ間にサラリーマンは別の患者と薬剤師とのやりとりを見ていた。③サラリーマンはそのやりとりを見て心の中でつぶやいた。

◆役者：サラリーマン、河村おばあちゃん、いとう薬剤師、ナレーター（各1人ずつ）

◆シナリオ

（スタート）

ナレーター「前回、当薬局で薬を受け取ったサラリーマンが再び来局したが、彼は薬剤師というものをあまり知らない。」

（「ウィーン」と薬局のドアが開いてサラリーマンが入ってきた）

サラリーマン「（処方箋を差し出しながら）お願いします」

薬剤師「（受け取りながら）こんにちは。処方箋ですね。あちらでお待ち下さい。（と待合席をご案内）」

（薬剤師、処方箋を持って調剤室へ）

（薬剤師が別の患者のお薬を持って窓口へ戻って来る）

薬剤師「河村さん！お待たせいたしました！」

（河村おばあちゃんが投薬窓口に座る）

（薬剤師は投薬カウンターにお薬を置いて、おばあちゃんの横に回り、膝をついてしゃがむ）

薬剤師「河村さん、こんにちは。薬剤師のいとうです。」

おばあちゃん「えっ、なんて？（少々耳が遠め）」

薬剤師「（in larger and slowly voice）やくざいしのいとうです！」

おばあちゃん「ああ、いとうさんね！」

薬剤師「今日外めっちゃ暑いけど体調大丈夫？」

おばあちゃん「ほんとねえ…あつ〜くて、あつ〜くて…」

薬剤師「ごはん食べられてますか？」

おばあちゃん「なんとか。いまのところは変わらないよ。」

薬剤師「前回、体調が悪いときにあーしてね、こーしてね、って言ったけど、いっぱい言い過ぎちゃったなあと思って…（おばあちゃんは糖尿病薬を飲んでいるので、低血糖やsick dayなどの話を前回、口頭でいっぱいし、のちに反省）。全部覚えようとすると、私でも大変なくらいいっぱいあるから、何か気になるときにこの紙見てくださいね。（と言って見やすくまとめた紙を見せる）」

おばあちゃん「わあ〜！そーなのよ。家で全部思い出せなくて心配してました。ありがとう。ところでね、汗いっぱいかく時って、スポーツドリンクの方がやっぱりいいの？」

薬剤師「おうちではいつもお水ですか？」 ……

ナレーター「と続くのであった。」

（待合席にいるサラリーマンがつぶやく）

サラリーマン「へえ〜薬剤師ってただ薬を渡すだけの仕事かと思ってたなあ。患者1人1人に合わせて話してて、薬のことに詳しいし、信頼できそうだし、もっと相談してみたいようかな。患者目線で話してて、意外と普通の人って感じもしてとっつきやすいな。薬剤師ってプロだな…」

（おしまい）

プロダクト作成の過程

KJ法でのプロダクトを見直したところ、「かいま見える普通の人感」という孤独なカードがⅡA班のポイントになることで皆一致した。

はじめ、薬剤師の「普通の人感」が「かいま見えない薬剤師」バージョンと「かいま見える薬剤師」バージョンの2本立てで行こう、という話をしてしたが、制作途中で「かいま見えない」バージョンがただの「薬剤師の免許を持っただけのポンコツな人」を演じるだけになってしまうことに気づき、作り直し。

前セッションのプロダクト制作時に「プロは人から認められて初めてプロになる」という内容の会話があったのを思い出し、それを元に「薬剤師というものをあまり知らない人」にプロを感じてもらうストーリーを作った。「自立していて、普段は健康だから、薬局に来てても薬剤師が薬剤師らしい介入を披露する場面がなさそうな人」にプロだと思ってもらいたい、いうところから、「薬さえもらえればよく、薬局で時間をあまりとりられたくなさそうな花粉症患者のサラリーマン」に至りました。（眼科の目薬が欲しいだけのOLでもよかった。）

肝心の「かいま見える普通の人感」は、「糖尿病薬だから服薬指導上の注意事項がたくさんあり、前回それを正しく伝えた（薬剤師の仕事をした）が、口頭だった&おばあちゃんであったため、逆に不安を煽ったのではないかと後で心配になった（人間身あふれる気持ち）」という設定で表現した。「それをもう一回、不安なく、紙を作って伝えよう」というところに、KJ法のプロダクトにある「向上心」も盛り込んだ。夏バテして食欲落ちていないか自然な会話の中で聞き出したり、おばあちゃんの疑問も自然とぶつけてもらえる関係性を築けていたり、その会話をおばあちゃんが座って無理のない態勢でできるよう気配りしていたり、などKJ法で挙げたプロ要素を可能な限り盛り込んだ。

Ⅱ B 班

(目的)

第 2 部のセッション 1 で KJ 法によって、自分たちの目指す職業のプロフェッショナリズムの要件を抽出し、整理した。KJ 法で整理した要素を盛り込んだ劇を作成し、自分たちが考えるプロフェッショナリズムを劇で表現する。

(討論の経緯)

1: テーマを決める

私たちは、セッション 1 で KJ 法によって整理した要素の「愛」、「向上心」を表現しようとグループ内討論で決まった。

「愛」→ 薬剤師に患者に対する愛がないときちゃんと向き合えない

「向上心」→ 患者に対してより良い医療を提供するために知識、コミュニケーション力の向上が大事
上記の 2 点が薬剤師が患者に接する上で一番大事だと感じ、この 2 つを劇で表現しようとなった。

2: 盛り込む要素

「愛」、「向上心」

3: 場面、ストーリーの作成

ポイントを 3 つ挙げた。

- I. 新人薬剤師という設定で、患者に対して頑張って対応するが上手くいかない。
- II. 同期の薬剤師と共に励まし合い、共に頑張る。
- III. 月日を経て再度同じ患者に服薬指導を行い、少しは成長したと認められる。

ストーリー

新人薬剤師が、患者に対して指導を行うが、患者はその薬剤師の態度に納得がいかず、激怒して「二度と来るか」と言われてしまう。その出来事を同期の薬剤師に相談し、お互いに頑張る必要があると励まされ、日々勉強に励む。

月日は流れ、再び同じ患者に指導を行うことになる。最初は患者に嫌悪感を抱かれていたが、以前とは違う薬剤師の姿に成長したと認められる。

再び同期の薬剤師にこのことを報告するが、確認不足があったことを指摘され、慢心してはいけないと感じる。

ⅡC班

第二部セッションⅠにて、KJ法を用いてプロフェッショナリズムの要件について話し合った。それを基に、このセッションⅡでは、自分達の考えるプロフェッショナリズムを表現するために劇を作成した。

作業1：KJ法のプロダクトの見直し

作業2：KJ法で整理した要素を盛り込んだ、卒業後に実践したいと思う場面をイメージして1つのケースで劇を作成

2-1. テーマを決める

我々の班では、表現したいテーマは「次世代の教育」に定めた。セッションⅠのチーム(P)発表の際、我々の発表後に他のグループから次世代の教育について質問をもらい意見交換が出来たことから、我々の班の特徴が「次世代の教育」にあると考え、劇の大きなテーマをこれに決定した。

2-2. 盛り込む要素

まず、「次世代の教育」のなかでも具体的にどのようなことを表現したいのかについて話し合った。そこで「学校を出た瞬間『教育者』であるということが最終的に伝えたいテーマになった。このテーマの伝えたい意図は、学校を卒業した瞬間から、新人であっても次世代の教育に努める教育者になるべきということで、つまり「みんなが『教育者』」ということだ。そこで、表現したい場面はおのずと実習ということになった。

次に、シナリオと並行しながら他の盛り込む要素を話し合っていた。

【教育に関わる姿勢】

今の実習では指導薬剤師以外の薬剤師の方が実習(教育)に関わっているか否かに、かなりばらつきがあることが問題点だという意見が出た。今現場で活躍している薬剤師の方々は、指導薬剤師を含め多くが四年制卒業である。その方々は、我々六年制のような長期の実務実習をしていないので、指導薬剤師以外の薬剤師はどうやって実習に関わってよいかわからない人も多くいるであろう。そこで、我々六年制卒業の薬剤師は、実務実習を経験しているからこそ、経験を活かしてフォローすることが出来る。また、指導薬剤師とそれ以外の薬剤師の実習への関わり方のばらつきをなくすため、また皆が次世代の教育に目を向けるため、将来的には現場で働いている薬剤師全員が指導薬剤師の資格をもっているという実習の在り方、薬剤師の在り方が理想的であるという意見が出た。ここで、最終的に伝えたいことは「みんな『教育者』」であるが、それが実現できていない現状を踏まえ、現状に警鐘を鳴らすような「プロには次世代の教育も必要」ということを最終的なテーマにするというような意見もあったが、これは自分たちが実践したいプロフェッショナリズムとは離れてしまうため、最初に立ち返り上記に示したテーマを最終的に伝えたいこととした。

【実習生に何を感じてもらいたいのか】

盛り込む要素の一つとして、実習生に何を感じてもらいたいのかについても話し合いを行った。ここでは、医師など他の医療職種から頼りにされている薬剤師の姿をみて、薬剤師ってすごいなと感じてもらうという

案や、患者と薬剤師の関わりから薬剤師という仕事の素晴らしさを感じてもらおうといった案も出たが、教育に焦点をあてたことから、実習生にも薬剤師全員が実習生の教育に関わっていることを感じてもらえるようにしようという意見でまとまった。

2-3. シナリオ

以上のような話し合いから、シナリオを決定した。以下に大まかなシナリオを示す。

実習前日、翌日から始まる病院実習についてどのように指導を行うかミーティングを行う病院薬剤師たち。どの薬剤師も積極的に実習に関わる姿勢をみせミーティングは終わる。そこに、ミーティング後も残って仕事をするという新米薬剤師。

実習が始まると、指導薬剤師だけではなく、専門的な知識をもった薬剤師たちもそのスキルをいかんなく発揮し、実習の指導にあたっている。ある日、薬剤師に出された課題をすっかり忘れていた実習生は、新米薬剤師のもとへ質問に行く。すると新米薬剤師は、すんなりと実習生の質問に答える。実はこの新米薬剤師、自分の実習の経験を活かし実習生から質問される前に、このような課題が出されるだろうと予測しあらかじめ自分で調べていたのだった。時間はあっという間にすぎ、実習最終日。最終日であったにも関わらず忘れ物をしてしまった実習生。誰もいないだろうと立ち寄った薬剤部には、まだ新米薬剤師の姿が。新米薬剤師に声をかけようとする実習生、そこで新米薬剤師が指導薬剤師マニュアルを読んでいたことに気がつく。新米の薬剤師であるにも関わらず指導薬剤師のマニュアルを読んでいたことに驚く実習生。実はこの新米薬剤師、自分の実習での経験を活かし少しでも実習生の教育に関わろうと実習前日からずっと準備をしていたのであった。そこには、指導薬剤師やまだ専門分野の指導を行えない薬剤師でも自身の実習に積極的に関わってくれたことに気がつく実習生の姿があった。

所感

自分達の考えるプロフェッショナリズムを劇で表現するにあたり、テーマを考え、最終的に伝えたいことを考え、それを伝えるまでのプロセスを考え、シナリオや台本を作り、さらには劇の練習もしなければならなかったのもとても難しいセッションだったと思う。しかし、実際に劇で表現すること、そしてそれを作る過程において自分達が本当に伝えたいことを議論できたとてもよいディスカッションができたように感じた。

Ⅲ A 班

第二部セッションⅠでは、KJ法によってプロフェッショナルリズムの要件の抽出と整理を行った結果、異なる職種の間であっても、専門的な心構えを根底に様々なスキルを向上させ、最終的に社会貢献を行うことがプロフェッショナルリズムの要件であるという結論に至った。第二部セッションⅡでは、自分たちの考えるプロフェッショナルリズムに関して、セッションⅠで整理した要件を盛り込み、将来実現したいと思う場面をイメージした劇の作成を行い、実際に演じた。

◆ プロダクト

- ✓ テーマ 「スペシャリストとしての社会貢献」
- ✓ タイトル 「新薬が患者さんに届くまで」
- ✓ 内容・ポイント (cf. Fig 1)

1. 難病の患者さんと薬学実習生が会う

原因不明、治療方法なしの「学校行きたくない病」を発症したみっちゃんは父親の勧めで入院することになった。病院実習中の実習生2人は指導薬剤師に連れられ、入院していたみっちゃんと面談する機会を得た。

2. 実習生がそれぞれの役割を決意する

薬剤師志望、研究者志望の実習生2人は、現場で患者の目線を知り、それぞれがそれぞれの職業から社会のためにすべき使命を抱き、熱い気持ちとともに努力することを決意した。

3. 新薬ができる

研究者の1人は「学校行きたくない病」の原因が「学校行きたくない受容体」にあることを明らかにし、また1人はその論文情報から治療薬のアイデアを思いつき、学校行きたくない病治療薬の「ガッコウイキタクナール®（作用機序：学校行きたくない受容体阻害）」の開発に成功した。ガッコウイキタクナールは、それに込められた思いとともにモニターへ受け継がれ、モニターの努力と熱意により臨床試験を見事にパス、新薬として世に出回ることとなった。

4. 難病が治る

かつて薬剤師志望の実習生であった彼は、今や立派な薬剤師となっていた。不治の病であった学校行きたくない病の治療薬「ガッコウイキタクナール」を受け取った彼は、患者のみっちゃんにガッコウイキタクナールを勧めた。彼の適切なコミュニケーションスキルによって、みっちゃんはガッコウイキタクナールを安心して飲むと…なんとみるみる気力に満ち溢れ、学校に行きたくなったではないか！ついにみっちゃんは学校に通うことができるようになり、楽しい学生生活を送ることができるようになった。

5. みんな治る ハッピー☆

ガッコウイキタクナールは全世界に普及し、子どもたちはみな楽しく学校に通えるようになった。あの日の熱い決意がなければ、またそれぞれのスペシャリストた

ちが社会貢献という共通の目標に向かって努力し続けていなければ、この大業は為し得なかっただろう。しかし、これで終わりではない。彼らは自分たちのプロフェッショナルリズムをもとに、さらなる社会貢献のため自己研鑽し続けるのだ。

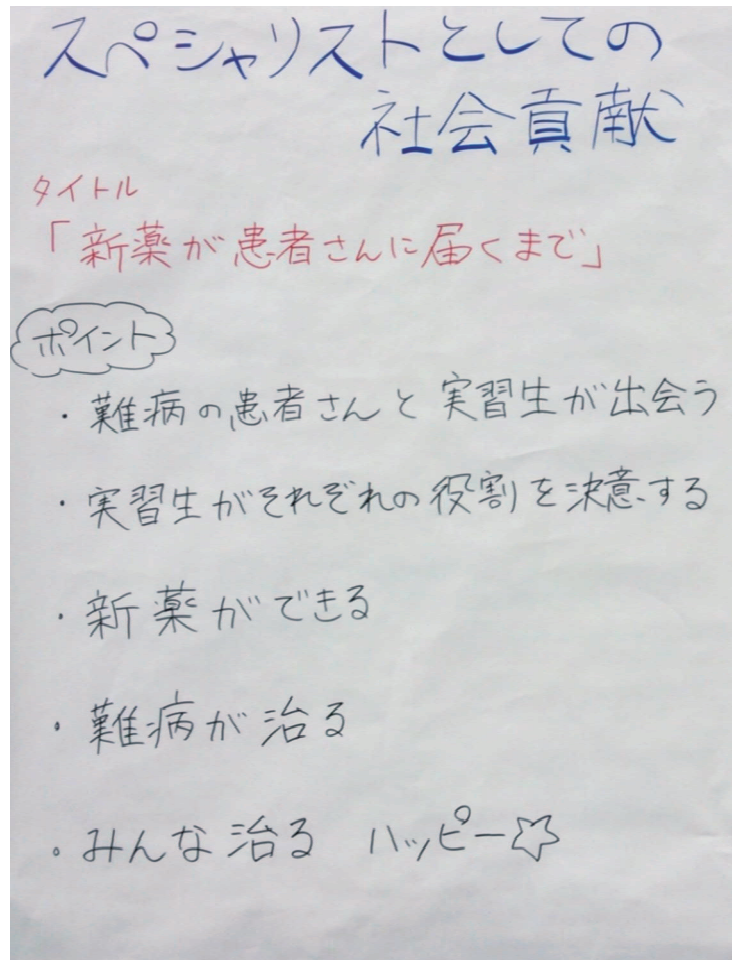


Figure 1. 劇のテーマ、タイトル、ポイント

◆ プロダクト作成の経緯

第二部セッション I では、プロフェッショナルリズムの要件をクリスマスツリーに模し、根底に心構えを据え、枝葉のように様々な能力を伸ばし、そして頂で輝く星である社会貢献に集約する、という考え方を得た。また、この考え方は薬剤師、研究者、モニターなど、異なる職業の間であっても多くの共通点が見出せることに気付いた。そこで、3つの異なる職種（薬剤師、研究者、モニター）が KJ 法でまとめたプロフェッショナルリズムを体現し、共通の目標である社会貢献に繋がるような劇を作成することにした。

それぞれの職種の人たち、つまりスペシャリストたちが、それぞれのプロフェッショナルリズムを持って社会貢献を行うという流れであるため、テーマは「スペシャリストとしての社会貢献」とした。KJ 法でまとめたプロフェッショナルリズムの要件の島のタイトル

（姿勢、コミュニケーション能力、柔軟性、情報、倫理、科学論理）をキーワードとして劇中に盛り込む方針で作成を始めた。

シナリオは、薬剤師、研究者、モニターが共通に関わることができるようにするため、「新薬が開発され、臨床試験を通過し承認、実際に患者に投与し病気が治る」という流れにした。

シナリオ1ではイントロとして不治の病「学校行きたくない病」の紹介、シナリオ2では実習生たちの決意を表した。苦しむ患者を目の前にし、自らの決意を固める様子は、「現場での患者の目線を知る」というキーワードを表現している。また、患者の目線を知るということは、薬剤師だけではなく研究者にとっても、プロ意識を芽生えさせるために重要な要素であると考えた。なお、「学校行きたくない病」の設定は、疾患に具体性を持たせることでシナリオのリアリティを出す目的で立てており、また観客を劇にひき込むためキャッチーなものにした。

決意を固めた実習生たちが成長し、それぞれがスペシャリストとして活躍する場面を表現したのがシナリオ3である。「柔軟な発想」、「情報収集能力」、「科学的な論理構築」、「倫理」といった、KJ法において枝葉（様々な能力）で表した部分を盛り込んだ。

承認された薬を患者に交付するシナリオ4では、薬剤師の「コミュニケーション能力」が表現されている。患者の目線を知っている立派な薬剤師の適切なコミュニケーションによって、患者は安心して薬を服用することができる。そしてその結果、学校行きたくない病は治療され、みっちゃんに笑顔が戻った。

シナリオ5での、多くの患者がガッコウイキタクナールによって学校に行きたくなる様子は、「社会貢献」を表している。みっちゃん一人だけではなく、多くの患者を治療している場面を入れたのは、「社会」という広がりを持たせるためである。そして、みんなが学校に行きたくなり大団円、劇としてもまとまりのあるものに仕上げた。

シナリオ作成後、通し稽古を行い、問題点や改善点を話し合い、劇をブラッシュアップした。なお、配役に関しては以下の通りである。

● 配役

✓ 患者のみっちゃん	：	福島 美岬
✓ みっちゃんの父親	：	近藤 健太
✓ 指導薬剤師	：	吉田 寛伸
✓ 薬剤師志望の実習生・立派な薬剤師	：	田辺 聡
✓ 研究者志望の実習生・研究者	：	出町 歩
✓ 学校行きたくない病の原因を発見した研究者	：	伊達 裕美子
✓ モニター	：	吉澤 美咲
✓ ナレーション	：	長谷部 早紀

演技がしやすいように、薬剤師、研究者、モニターの3職種はそれぞれを志望する人を配役した。

◆ 発表を終えて

練習の成果もあり、劇は大成功を収めた。タスクからは、第二部セッションⅠで作成したクリスマスツリーを見事に表現した劇であったと、お褒めの言葉をいただいた。また卒業生からも、演技について細かいところまで気が配られていて素晴らしい、と評価してもらった。私たちの班は薬剤師志望、研究者志望、モニター志望と他の班に比べバラエティに富んだ構成であり、つまり異なる複数の視点を持った班であると言える。スペシャリスト方面からの切り口でプロフェッショナリズムを考えることができたのも、この班ならではと思う。この独自の視点からのアプローチが、他の班の人たちに刺激を与えることができたのではないかと、自負している。

Ⅲ B 班

第二部 セッションⅡでは、セッションⅠで KJ 法によりグループごとに抽出し整理した「プロフェッショナリズムの要件」を基に、自分たちが考えるプロフェッショナリズムを劇により表現した。

【議論の経緯】

まず私達の班では、セッションⅠの KJ 法をシェフ（料理人）に例えてまとめた。そこで今回作成する劇の題材を、セッションⅠとの繋がりも表現しやすく、より伝えやすいと考え、そのままシェフ（プロ）を主人公に劇を作成することとした。次に劇に盛り込む要素としては、KJ 法で作成した島を全て盛り込むことにした。全ての要素を盛り込むため、場面を大きく 3 つに分けて劇を作成した。劇の内容（ストーリー）とその場面に盛り込まれた要素については以下の通りとなった。

場面(1)：あるレストランの厨房での一コマ。①店が忙しいときに後輩がミス^①を犯し^②そうになり、そのことにシェフが気が付きミス^③を未然に防ぐ。④後輩に間違い^⑤を指導する。

➤下線①では、どんなに忙しくても周りをよく見て状況を把握し、責任を持って厨房を仕切る姿で『余裕』を、そして後輩にも気を配りミスに気が付くということで『サポート能力』を表現した。②ではミスを防ぐだけでなく、何が間違いであったかを教えきちんと正すことで『育成力』も表した。③では的確な指示を後輩に出し緊急時にもしっかりと対応する姿で『問題解決能力』を表した。

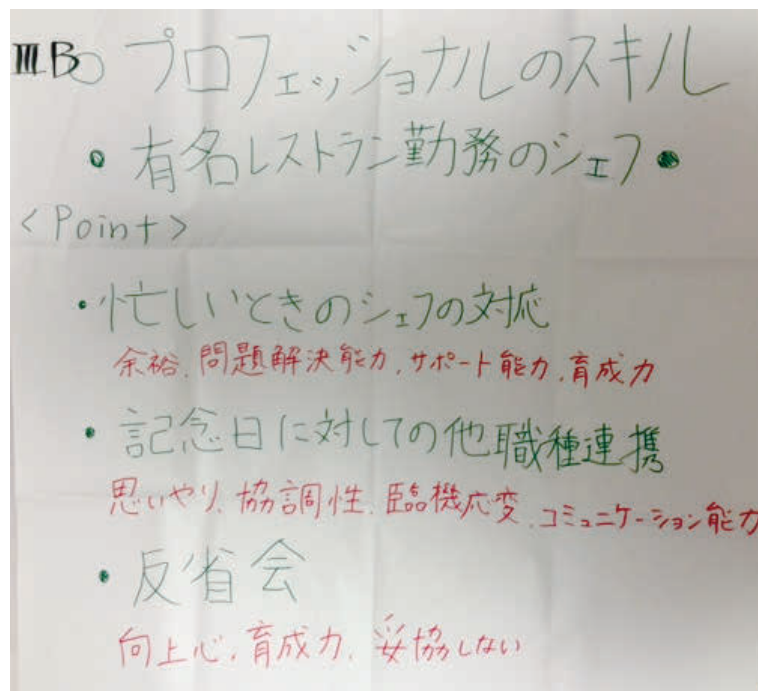
場面(2) : あるお客さんへの対応の一コマ。お客さん(カップル)の様子から①ベテランのウェイター(プロ)がお客さんが結婚記念日(結婚10周年)のお祝いで来店していることに気が付き、シェフに報告する。シェフはこのお客さんが常連であることに気が付き、②自分のレシピノートを振り返りサプライズを企画。③店のスタッフに指示を出し、10年前の結婚式と同じ料理作る。④シェフ自ら直接お客さんに振る舞うことで⑤お客さんに喜んでもらった。

➤下線①では、ベテランのウェイターをもう一人のプロと考え、ウェイターとシェフの間の信頼関係やお互いのやり取りにより、プロ同士における『協調性』を表した。②では、サプライズを企画するということでお客さんに合わせた対応力、またお客さんのニーズを考える姿で、受け手に対する『思いやり』を表した。③では店のスタッフに協力を仰ぎ、足りない部分を補い合うことで『コミュニケーション』や『協調性』を表した。④ではシェフ自らお客さんに振る舞う様子で受け手との間の『コミュニケーション能力』を表した。⑤でお客さんに喜んでもらうことで『評価』を受けることを表した。

場面(3):閉店後の一コマ。店の営業時間も終わり、シェフは今日を振り返り、反省をする。

後輩に対しても今日の反省点を指導する。店の営業時間は終了したが、レシピノート

➤反省を行い、飽くなき向上心で料理の研究を続け努力する姿に『自己研鑽』を、後輩の指導を行う姿に『育成力』を表現した。



図：劇の概要についての説明

【総括】

今回プロフェッショナルリズム表現する上で、薬剤師ではなく他職種をテーマに劇を作成することはとても困難であった。しかし私達はあえて他職種で表現することで、プロフェッショナルリズムとはどんな職種においても共通しているということも表現したいと考え発表を行った。実際、セッションⅠでの要素を全て盛り込んで他職種でも表現することができ、プロフェッショナルリズムはどのような場面・職種においても共通であることを改めて認識できた。また劇を3つの場面で構成し、その職種における1日を表現したことで、「プロ同士の関係」、「受け手との関係」、「自己研鑽」の3つは相互に関係し、評価されることでプロとして存在できるということを認識した。

Ⅲ C 班

第二部セッションⅡ「自分達のプロフェッショナルリズムを表現しよう」ということで、私達は第二部セッションⅠ「プロフェッショナルリズムの要件とは？」で導いたプロの要件である「ファンができる薬剤師」を1番伝えたいこととして、意見を出し合い劇の構成を考えました。以下に議論の経緯とプロダクトを示します。

【議論の経緯】

ファンができる薬剤師とはなにか？また、どうしたらファンができるのか？これらの疑問に対しそれぞれが思う意見を出し合い、以下の2つの点を中心に設定を考えました。

- ・患者との何気ない会話から患者の状態を把握し、適切な行動をすることで患者は「薬剤師すごい」、「この人なら信頼できる」と思い、ファンになるのではないか？
- ・ファンになった患者は薬剤師に会うために処方箋を持たずに薬局を訪れるようになり、なんでも相談するような関係を築けるのではないか？

以下に初期の設定を示します。

出演者

ナレーター、薬剤師、おじいちゃん

ストーリー

8月の猛暑日におじいちゃんが〇〇薬局に血圧降下薬が処方されている処方箋を持って2回目の来局。

薬剤師「今日も暑いですね。」

おじいちゃん「最近夏バテ気味で食欲がなくて、食事があまり摂れていないんだ。」

薬剤師「食欲がないということは…水分も取れてないのかな？水分不足はこの薬の副作用（ふらつき、転倒など）が現れやすくなるかも」と想像。

薬剤師「わかります、暑いと食欲なくなりますよね。」と共感の態度を示し、「ご飯が食べられないときはみそ汁だけでもいいですよ、夏は熱中症の危険があるから水分はしっかりと摂りましょうね。」

おじいちゃん「そうだね、ちゃんと水分とるようにするよ。教えてくれてありがとう。薬剤師って薬以外のことも詳しいんだね。」「そういえば、こんな相談もあるんだけど…」

こうしておじいちゃんは薬剤師のファンとなりました。

以上の設定を見直してみると、この設定は現実的すぎるし、インパクトがたりない、これだけでファンになるのか？もっといい例があるのではないか？という意見が多く、内容をもっと詰めるためにさらに議論して、以下の意見が挙がりました。

- ・食事や健康食品と医薬品の相互作用を発見し副作用を未然に防ぐ
- ・薬にこだわらなくてもいいのかもしれない
- ・処方箋の薬から離れてみよう
- ・実際には無いが、水分補給が一瞬でできる OTC の紹介
- ・季節の果物には体を冷ます効果や温める効果がある（実習で学んだ知識）
- ・お年寄りに人気の薬局にしよう
- ・ファンになることはリピーターになること

これらの意見を参考に、薬以外の知識を前面に出し、患者に「薬剤師ってこんなことまで知ってるんだ、薬剤師すごいな」、「薬に関係ない質問していいのかも」と思われること、患者が接しやすい薬剤師の態度をうまく表現できるようにすることに重きを置き、第二部セッション I で導いたプロの要素を盛り込み劇の設定を練り直しました。すべての要件を組み込むことは難しいため、共感的な態度、洞察力、豊富な知識の利用、魅力的と感じ尊敬される、再度来局し相談できる関係、対応力の 6 点をポイントとしました。

【プロダクト】

テーマ

リピーターのできる薬剤師

タイトル

夏バテ気味の患者さんへのアドバイスから信頼を得た薬剤師

ポイント

- 1.共感的な態度で接する
- 2.洞察力
- 3.豊富な知識を利用する
- 4.魅力的と感じ、尊敬される
- 5.再度来局し、相談できる関係
- 6.対応力

出演者

薬剤師森ちゃん、タカじい（インド旅行済）、ナレーター、森ちゃんの心、タカじいの心

ストーリー

ナレーター：ここはお年寄りに人気なもり薬局です。本日は 39℃の猛暑の中、患者さんのタカじいが来局しました。

タカじい：あー、暑い…ナマステー（こんにちは）

森ちゃん：ナマステー（こんにちは）、処方箋をお預かりします。おかけになってお待ちください。

ナレーター：数分後…

森ちゃん：お待たせしました。本日担当させていただく薬剤師の森です。よろしくお願いします。今日も暑いですねー。

タカじい：最近夏バテ気味で…

森ちゃん：夏バテですか…お辛いですね。ご飯とかちゃんと食べてますか？

タカじい：食欲があんまりなくて…

森ちゃん心の心：食欲ない？水分も摂れてないのかも？

森ちゃん：私も暑いと食欲ないけど、最近はスイカとか食べてますよ。

タカじい：へー。

森ちゃん：例えば暖かい地域で育った果物は体を冷やしますし、寒い地域の青森で育つリンゴには体を温める効果があるんですよ。良かったら試してみてください。

タカじいの心：薬剤師ってこんなことまで知ってるんだ…

森ちゃん：こちら夏バテ防止に効く果物のパンフレットです、良かったら読んでみてください。

タカじい：へーありがとう。

森ちゃん：では、本日のお薬ですね～

ナレーター：季節が変わり秋になりました。タカじいが処方箋を持たずに来局しました。

タカじい：森ちゃん！森ちゃんいるー？

森ちゃん：タカじいお元気ですか？ナマステー

タカじい：ナマステー。この前貰った夏バテ防止のやつ貰ったんだけど…これ良かった！

森ちゃん：そうですか？良かったです。

タカじい：秋のやつはないの？

森ちゃん：ありますよ！こちらが秋のパンフレットです。

タカじい：あー、あるんだー！ありがとう。そういえば相談なんだけど…

ナレーター：これを機にタカじいは森ちゃんのファンとなり週に 1 回来局するようになってしまいました。

教育講演

「医療人のプロフェッショナリズムとは」



日本医学教育学会理事
光風園病院
木下 牧子 先生

医療人教育

医療人フロンティナリズムとは

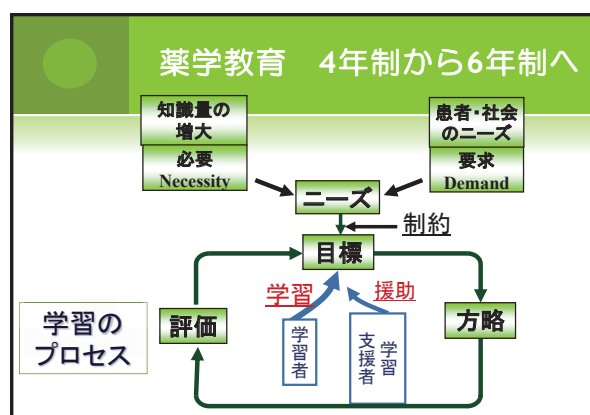
日本医学教育学会理事
木下 牧子
2015年8月9日

自己紹介

- もともとは膠原病、今は高齢者医療
- 自分が育った国際医療研究センターで研修医と戯れていた。
- 医学教育、特に卒後臨床研修教育にかかわるように
- その流れのなかで、薬学部の実習指導者講習のお手伝いをするように

医療人フロンティナリズム

私達が築く新しい医療と社会



医療に対する社会のニーズ

“病を持つ人”が抱える
身体・心理・社会上の問題の
解決を支援する

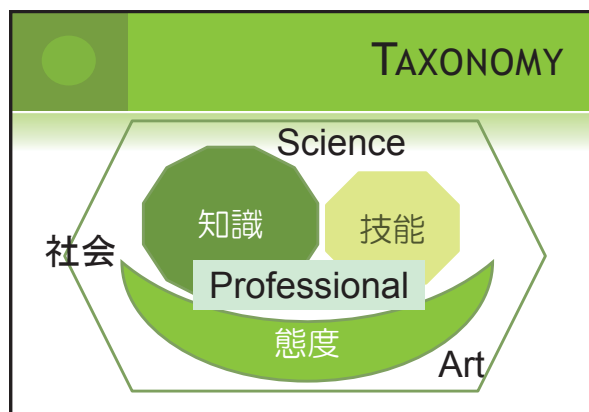
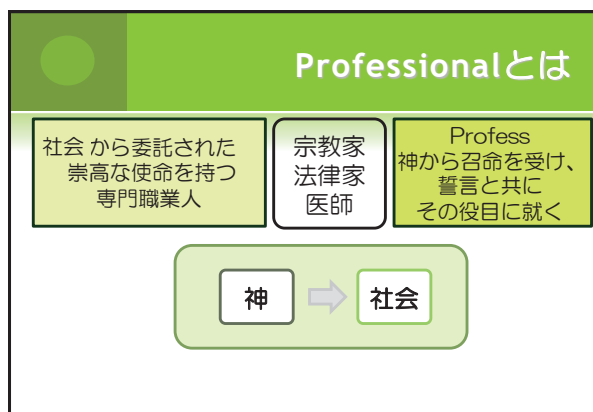
↑ 家族、友人 地域 ↑ 専門職

専門家

複雑で高度な知識と技能の習得が必要な職業

↓ Specialist ↓ Professional

社会的使命 Mission



医療人プロフェッショナリズム

医師：
ヒポクラテスの誓い
新ミレニアム医師憲章
2002 アメリカ・欧州内科3学会

ABIM, ACP-ASIM, and European Federation of Internal Medicine
The Lancet 2002; 359: 520-522, Ann Intern Med 2002; 136:243-46
日本語訳 内科専門医会誌 2006; 18

新ミレニアム医師憲章 序文

プロフェッショナリズムは、**医学と社会との相互契約の根底**をなす。

プロフェッショナリズムは、医師の利益よりも**患者の利益**に重きを置くこと、**高い水準の能力と誠実さ**を有し続けること、健康に関して社会に専門的助言を与えることを要求する

・・・根底をなすものは、個々の医師および医師全体としての**誠実さ**で決まる公衆の医師への**信頼**である。

新ミレニアム医師憲章

3つの基本的原則

- 患者の福利優先の原則
- 患者の自律性(autonomy)に関する原則
- 社会正義 (social justice, 公正性) の原則

新ミレニアム医師憲章10の責務

1. プロフェッショナルとしての**能力**に関する責務
2. 患者に対して**正直**である責務
3. 患者情報を**守秘**する責務
4. 患者との**適切な関係**を維持する責務
5. 医療の**質**を向上させる責務
6. 医療への**アクセス**を向上させる責務
7. 有限の医療資源の**適正配置**に関する責務
8. 科学的な**知識**に関する責務
9. **利害衝突**に適切に対処して信頼を維持する責務
10. プロフェッショナル (専門職) の**責任**を果たす責務

医療人プロフェッショナル

- 利他主義
患者の利益を最優先する
- 専門職としての質の向上
高いレベルの知識と技能を身につけ、常にその向上をはかる
- 社会的責任
公平性、正義、信頼、資源の適正配置
説明責任 (Accountability)

18.50

医(薬)学と医療

学問 (Science) **正しさの追求**
 EBM : Evidence Based Medicine
 Gordon Guyatt (Sackett D) 1992

- 1) 問題の抽出
- 2) 文献検索 ⇄ 研究・論文作成
- 3) 文献吟味
- 4) 患者への適応**

医(薬)学と医療

NBM : Narrative Based Medicine
 T. Greenhalgh & B. Hurwitz, 1998

すべての患者さんには物語がある。

1000人の患者さんがいれば、1000の物語がある。
 これは決して 平均 ± 標準偏差では表せない。

個人的体験

90歳の認知症の母、大腿骨頸部骨折で入院
 社会復帰のためのリハを始めた
 入院前の母の物語を誰も聞かない

どんな生い立ち？ どんな生活？
 どんな性格？ 趣味は？ 大事なものは？
 好きな食べ物は？

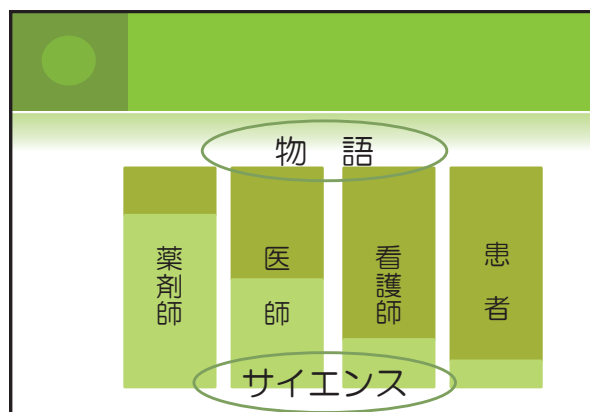
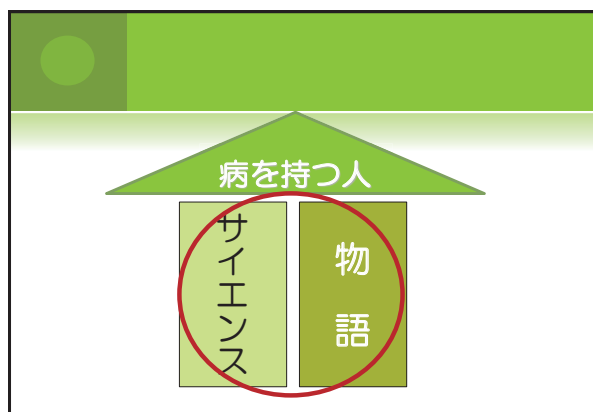
高齢者医療

- ◎ 終末期医療
- ◎ 物語：一人ひとりの人生の物語なしでは、考えられない

医(薬)学と医療

難しい！

医(薬)学	心技	医療
正しさの追求 (EBM) 全体としての確率	→	物語の追求 (NBM) 一人ひとりに寄り添う

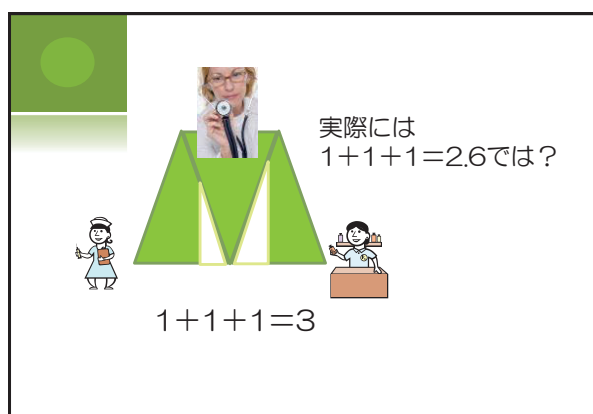
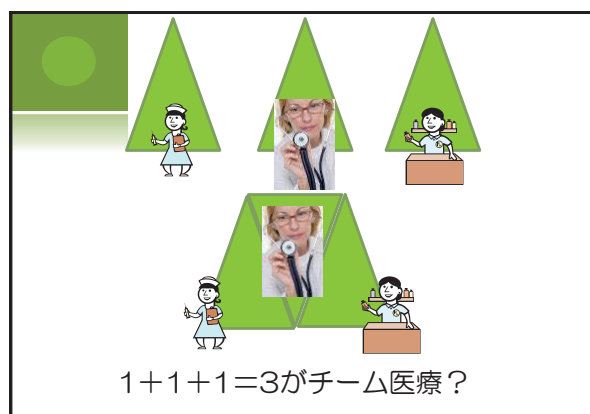


チーム医療

- ◎ それぞれの専門性
- ◎ 緊張感をもった協働
コミュニケーション能力
- ◎ 共通の基盤 志を共にする

↓

医療人プロフェッショナリズム



チーム医療

- ◎ それぞれの専門性
- ◎ 緊張感をもった協働
コミュニケーション能力
- ◎ 共通の基盤 志を共にする

医療人プロフェッショナリズム

社会のニーズ

“病を持つ人”が抱える身体・心理・社会上の問題の解決

◎社会的責任を果たす

Mission

◎一人ひとりに「医療」をとどける

Narrative: 物語

◎皆で力を合わせる

チーム医療

社会のニーズ

「改めて、しっかり」

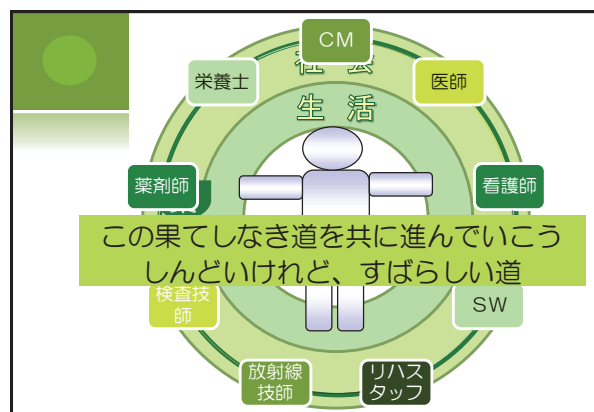
この三つを学ぶために6年制になったのでは？



私達はこれをきちんと教えているのだろうか？
きちんと学んでいるのだろうか？



1610



人生の目的

- 1 自分に潜在する能力をできるだけ引き出す
- 2 他の人と好ましい人間関係をつくることできる
- 3 他の人の人生に意味のある貢献をする

by Tony Devine et al. 1975

第三部

「私達が築く新しい医療と社会」

セッションⅠ 「薬剤師の職能将来像と社会貢献」

「行動を宣言しよう！」

セッションⅡ 「私達の職能将来像を共有しよう」



昨日の振り返り

私達のプロフェッショナルリズムを表現してみよう

プロをめざして：私達の進路と夢

プロフェッショナルリズムの要件とは？

木下牧子先生
「医療人のプロフェッショナルリズムとは」

日本・ウォール・ストリート・ジャーナル 2015年 7月 12日 (日)

ロボットは次第に人間の職場を浸食している。ロボットが人間以上の能率を上げている職業や、今後は人間に代わってロボットの活躍の余地が大きいとみられる10の職業がこれらである。雇用のライバルはロボット？

702の職種について米国の労働省のデータを用い、コンピュータ化でどこまで影響を受けるかを分析したところ、おそらく今後10～20年という比較的早いタイミングで約47%の職種が自動化されるリスクが高いという結果が出た。

I A班

第三部「私たちが築く新しい医療と社会」では、プロフェッショナルとしての薬剤師がやるべき事を挙げていき、そのうえでこれまで議論してきたプロフェッショナルリズムを踏まえながら、薬剤師の職能将来像を描き、班の意見をまとめ、私たちの行動宣言を作成した。

【議論の経緯】

まず、第二部で議論した「プロフェッショナルリズムの要件」を踏まえながら、薬剤師のやるべきことについて列挙していった。やるべきこととして、患者に対して患者背景を考えながら思いやりの気持ちを持った対応をすることや予防医学的なセルフメディケーションの支援、臨床研究、在宅医療、薬剤の適正使用の推進、チーム医療への参加など様々な意見が挙げられた。しかし、これらのやるべきこととして挙げた事項は、薬剤師として当然求められる仕事でスペシャリストとしてやるべき事柄である。薬学部のカリキュラムは4年制から6年制に変換し、社会に対する薬剤師のニーズが変化していることが分かる。6年制への変換は患者或いは医療従事者と積極的に交流し情報を発信することが求められたためであると考えた。スペシャリストとしてやるべき事柄を踏まえ、社会に貢献していくことがプロフェッショナルとしての薬剤師のやるべきことであり、地域医療や患者のQOLの向上、衛生管理、医療費削減に関わることが薬剤師の使命であるという意見にまとまった。地域に根差した医療を提供するためには、同じ薬剤師間或いは他職種と連携をとることが必要である。そのために、World caféを実施し他職種と交流できる場を設けること、県内から全国へ薬剤師集会を開くことを行動宣言の一部とした。都市部と地方では医療に差があり、僻地では患者が十分な医療を受けられないこともある。僻地医療参加表明サイトを立ち上げることにより、医療の地域差を少なくすることが出来ると考えた。また、薬剤師は積極的に患者と接することが求められており、看護師以上に患者と寄り添うことで処方薬の選択権を得ていきたいと考えた。

【まとめ】

薬学部のカリキュラムが4年生から6年制へと変換し、薬剤師は調剤室だけでなくその外へ出て行動し、より患者や他の職種と接していくことで地域医療に貢献することが求められている。そのため、行動宣言では具体的にどのように関わっていくかに多く焦点が当たった。薬剤師のプロフェッショナルとしてのやるべきことを掲げ、行動宣言を示すことで、将来、薬剤師として医療や社会に貢献していくという自覚を持つことが出来た。

以下にプロダクトの内容を示す。

【プロダクト】

I-A班 1. プロフェッショナルとしての「薬剤師」としてやるべきこと ・地域医療 ・患者のQOLの向上 ・衛生管理 (震災等の非常事態、院内感染) ・医療費削減 (予防、ジェネリック医薬品の推進、医薬品の適正使用)	2. 私たちの行動宣言 ・ World Café を実施します。 → 他職種と情報を共有出来る「場」を積極的に設けたい ・ 県内から全国へ薬剤師集会を実施します。 ・ 僻地医療参加の表明サイトを立ち上げます。 → 医療の地域差を無くしたい ・ 看護師以上に患者さんに寄り添います。 → 処方薬の選択権を得たい
--	--

I B 班

【議論の経緯】

私たち I B 班は、I 部、II 部での討論、そして木下先生のご講演、III 部導入講義を振り返り、様々な職種がコンピューター導入によって作業効率上昇に繋げる中、薬剤師の領域において、調剤だけではなく、鑑査までもロボット化することが推進している現状から、コンピューター（ロボット）には不可能で、私たちにしか出来ないことは何か意見を出し合った。

そこで出た意見に、社会的使命を関連させることが重要であると考えた。そして、私たちが第 I 部で重要視していた基礎力としての専門知識や向上心・探求心等を併せ持つことは前提とし、+αのスキルを身に着けた薬剤師こそ、「プロフェッショナルな薬剤師像」に通じるのではないかという結論に至り、より具体的に必要なことはなにか、そのために何をすべきかを考え、プロダクトを作成した。

【プロダクト1】

1B班 1. プロフェッショナルとしての「薬剤師」としてやるべきこと ・人と向き合う ・五感を用いた患者の状態の把握 ・職域を超えた活躍 ・社会的ニーズに応じた教育 ・エビデンスの構築し、社会に還元する
--

【詳細】

「人と向き合う」—相手に関心を抱くことの重要性—

- 私達は、機械と違い、相手の表情や声のトーン、言葉遣いからも調子の良さや変化を確認することができるため、患者さんだけではなく、他の医療従事者とも一人ひとりと向き合うことが重要である。
- 関心を持ち、一人ひとりの物語に耳を傾けることで、生い立ちや趣味、性格を理解し、心を通わせる。
- 医療従事者とは多くの意見交換を行うことで、個々の患者に最適な医療を提供できる。

「五感を用いた患者の状態の把握」—安心と信頼関係を築く—

- 私たちの生まれ持った感性を活かすことで、多くの情報を得ることが可能である。
- ・ 患者さんをしっかりと目で見ると（状態・表情の変化、副作用発現の有無）
⇒状態に合った言葉かけが出来る。副作用の早期発見に繋がる。
⇒患者の変化に気付くためには、病態の理解が必要であると考えられた。
- ・ 患者さんの言葉に耳を傾ける（薬学的情報を伝えるだけではない。物語、ニーズ理解）
⇒距離を縮め、必要とされることで信頼関係を築くことが出来る。
- ・ 患者さんに触れる（手を握る、さする）
⇒患者さんに寄り添い、温かみと安心感を与えることが出来る。

「職域を超えた活躍」—幅広い分野を学び、柔軟に対応する—

- 看護師の領域のように考えられているフィジカルアセスメント技術を身に着ける。
- ・ バイタルサインの確認をする。薬剤師が行うことは決して違法ではないため、積極的に取り入れるべきである。
- ・ 患者さんの病状をより深く知ることが可能になり、薬学的知見から、最適な提案が出来るため、チーム全体の質の向上に繋がる。
- 栄養や栄養に関しても、基本的な知識は身に付けておく。
- ・ 糖尿病等の生活習慣病による再入院の患者さんを減らすためにも知っておきたい。

「社会的ニーズに応じた教育」—求められる人材へ—

（薬学部での教育）

- 薬学部6年間の学習では、臨床現場や研究分野において、即戦力として対応することが困難であると実習で気付かされた。
- ・ 進路に合わせ、各分野に分けて実践的な講義を望む。
⇒専門学校制、レジデント制等
- ・ 病態の知識を深める
⇒教科書の文字でしか記載されていない、多くの副作用や症状などを写真で掲載する。
⇒副作用の早期発見や、病態理解に繋がる。

（社会に出た後の教育）

- 患者さんや地域の人や同じ職域の人との交流や、マスメディアを通じ、社会で求められていることはなにかを知り、教育の場を見直すことが必要。
- ・ 私たちが学んだことや新たな発想を就職や進学先の現場に還元する。
- ・ 屋根瓦方式で後輩に伝えていき、自分自身の知識を深めながら、今後の薬学の基盤を支えていく。

「エビデンスを構築し、社会に還元する」—薬学の未来を創造する—

- クリニカルクエスションの発見と、論理的に判断する力が必要である。
- 地域包括医療の推進による統計研究を行う。
⇒病院間、病院・薬局間でのカルテの共有による情報収集など。
- 従来の医療に固執するだけでなく、新たなエビデンスの構築により、より多くの患者さんを救い社会に貢献することに全力を注ぐ。
- 今まで学んだ知識や得られた情報をインプットするだけでなく、アウトプットする姿勢が大切。

私たちはこれらの意見を踏まえて、未来的な行動宣言を考え、まとめた。

1B班

2. プロフェッショナルリズムを踏まえ、私たちの職能将来像を描き、未来的な行動宣言を箇条書きにする

- ・相手の気持ちとメンタルケアを重視したコミュニケーションを大切にする
- ・経験による学習と視覚的な学習を重視する
- ・フィジカルアセスメント
- ・社会的ニーズを知るための積極的な交流
- ・地域連携を深めるように努力する
- ・論理性、判断力、問題発見

【総括】

- 相手に寄り添い、温かみのあるメンタルケアをしていくことが大切である。病気を見るのではなく、患者さん個人を見ていく。一人ひとりに物語があることを忘れてはいけない。
- 経験から得られるものは大きい。多くの人との関わりを通し、様々な考え方、治療法を学んでいくことが必要である。その際にも、感性をフルに活用し、多くの情報を取り込む努力を心がける。地域や社会全体に目を向けて、話し合える場を設けることで必要とされる薬剤師を目指す。
- 論理立てて説明することが出来ると、相手も納得し、信頼する。自分が理解したレベルではいけない。私たちは、伝えることを怠らない。

- 冷静に且つ迅速に判断することが出来る、揺るぎない自信を持つためには、知識と経験は重要である。常に探求心を抱き、臨床研究、基礎研究、地域での統計研究において、問題を抽出し、社会に発信していくことで、薬学の発展に繋がり、それが患者さんに最良の医療を提供することに繋がるのである。

〔IB班 行動宣言と具体的な行動計画〕

自分たちの行動宣言をまとめた。これから、私達一人ひとりが行動を実行していき、新しい医療と社会を築いていくことを決意することができた。

1〔自分の行動宣言〕

- ・病棟の中で幅広い活躍ができる薬剤師となるために患者の状態を確認できるようになる。

〔具体的な行動計画〕

- ・地域や病院などで行われるフェジカルアセスメントの講習会などに参加してバイタルサインを確認できるようになる。
- ・コミュニケーション力を高めて患者から病態や副作用を聞きだせるようになる。

2〔自分の行動宣言〕

- ・多くの地域に携われる薬剤師

(同じ地域、医療施設で働き続けるだけでなく色々な地域で薬剤師として活動したい)

- ・地域の人たちから信用される人に

(プロフェッショナルとしてだけでなく自分自身の人間性を多くの人に知ってもらいたい)

〔具体的な行動宣言〕

- ・いろんな地域の勉強会に参加する

(郡での勉強会や市内での勉強会を通して自分のことを知ってもらうことから始めたい)

- ・コミュニケーションを積極的に行う

(自分を知ってもらうためには自らのことを話しかけることから始まると考えており、薬剤師として、人間として信頼を得られるような関係を作り上げていきたい)

3〔自分の行動宣言〕

- ・大学における教育を変える。
- ・臨床現場における教育を変える。
- ・社会の、薬剤師に対するイメージを変える。

〔具体的な行動計画〕

- ・他学部との学生との合同研修、ワークショップ等の活動を企画する。(そのサポートを行う。)
- ・薬剤師や実習生だけでなく、他職種(看護師、新人の医師等)に対する教育も行う。また、

薬剤師としての経験を積んだ後も、今回の学生ワークショップのようなイベントに参加し、薬学生が大学で受けている教育について理解する。

・薬剤師の役割についてより多くの人に知っていただくために、勉強会、講演やメディア等を通して情報を発信する。また、社会が薬剤師に求める事を把握し、業務に役立て、還元する。

4〔自分の行動宣言〕

- ・臨床現場で生じる問題を抽出し、基礎研究と複合させ解明に導きます。エビデンスの構築に貢献します。
- ・薬剤師がやるべき仕事と、他職種の人がやるべき仕事を明確化します。
- ・患者さんひとりひとりを尊重し、思いやりの心をもつ。
- ・チーム医療の一員として、他職種の医療従事者と協力します。
- ・生涯学習を欠かさず行います。
- ・地域の施設の薬剤師と連携をとります。
- ・次世代の医療を担う薬剤師を育てます。

〔具体的な行動計画〕

- ・大学に所属し、附属病院と連携のうえで一連のリバーストランスレーショナル研究を行う。
- ・薬剤師によるプロフェッショナルジャッジメントの必要な仕事を、薬剤師が行うようにする。そうでない単純作業的な仕事は事務職員等に委託する。また、患者の状態の把握に必要なフィジカルアセスメントの知識や、検査値、画像所見等を、評価できる能力を培う。
- ・患者に対し薬剤情報提供を中心に関わるが、他に薬剤師としてできることを探す。家族へも配慮を行う。
- ・他職種の従事者に対し十分な説得力を持った情報提供を行う。また、他職種の範疇である業務や知識を身につけ、それぞれの立場から患者の状態を評価、必要な対応を協議し、患者へ最適な医療を提供する。
- ・積極的に学習会や学会へ参加する。
- ・地域と連携して臨床研究を推進し、他施設で生じる問題とその解決方法を共に探る。
- ・後輩薬剤師や薬学生に薬剤師としてやるべき仕事を伝えて行く。

5〔自分の行動宣言〕

- ・職域を超えた技能をもつ薬剤師になる。

〔具体的な行動計画〕

・例えばフィジカルアセスメントを用いて医師、看護師のサポートをすることで医療現場の疲弊を少しでも解消し、チーム医療を円滑に行うことで患者さんに良い医療を提供する。また、薬のプロとしてフィジカルアセスメントをすることで、他職種が気付けなかった副作用の早期発見にも貢献することができる。

6〔自分の行動宣言〕

- ・患者さんに誰よりも寄り添うことの出来る薬剤師になる。

〔具体的な行動計画〕

- ・知識面：薬学的知識はもちろんのこと、職域を超えて、専門分野以外の知識を今から学んでいき、患者さんのニーズに対応できるようにする。

→フィジカルアセスメント能力を培い状態変化を早期に察知する。また、カツラや化粧品など、副作用や症状に応じたアドバイスが出来る幅広い分野を学ぶ。

- ・精神面：患者さん個々の物語（生い立ち、趣味、嫌いなもの）に耳を傾け、それを治療に活かし、信頼関係を築く。

→服薬指導の際に患者さんが関心のあることや趣味を用いた例えや分かりやすい説明を心がけ、相互に理解し合いながら最良の医療を提供する。

7〔自分の行動宣言〕

- ・患者さんの背景（生活、趣味、大事にしていること etc、公演中にあった“物語”）を大切に

- ・研究心を持ち、エビデンスの探求・構築と社会への応用に努める。

〔具体的な行動計画〕

- ・患者さんの背景への意識を忘れない。
- ・頻繁に患者さんの所へ行き、自分から心を開いてコミュニケーションをとる。
- ・教えてもらった物語を医療者で共有し、患者さん各々にとって最善の医療を提供する。
- ・疑問に思ったことに対して探求する。
- ・研究に必要なツール（統計、研究手法 etc）を勉強する。
- ・学会等で研究成果を発表する。

8〔自分の行動宣言〕

- ・積極的に交流します。

〔具体的な行動計画〕

・患者さん・地域の方・薬剤師の方・他の医療従事者の方・行政の方など多くの方面の人と話をする機会に積極的に参加し、今求められていることや状況など常に幅広く物事をとらえられるように努力する。また、自分自身でもそういった活動を主催できるようになる。そして、それを様々な形で様々なところに還元できるようにする。これらのことを目標として、まずは身近なところから初めて行きたいと思う。学生同士でやるのも第一歩であると考えている。これは一人でやるのは難しいと思うので、自分にあった人脈も作っていく必要があると考えている。

I C 班

第三部ではプロフェッショナルとしての薬剤師がすべきことをあげ、これまで議論してきたプロフェッショナルリズムを踏まえ、私達の職能将来像を描き、各グループと個人の行動宣言を作成した。まず小グループで議論してまとめ、さらにチームで議論しチームとしての意見をまとめた。

プロフェッショナルとしての薬剤師がすべきこと

【討議の経緯】

第一部、第二部で整理したプロフェッショナルリズムをもとにプロフェッショナルとしての薬剤師がすべきことを各自の実習での経験などから議論した。プロフェッショナルとしての薬剤師がすべきことについてはまず知識、能力、チームと大きく分けて議論を進めた。知識においては基本的に必要な知識を持つは当然で、それと加えてより最先端で専門的な知識を持つことが必要であるとの意見が多かった。能力としてはやはりコミュニケーションスキルを挙げる人が多く、それは患者さんに対してだけでなくその家族、他の医療従事者に対するコミュニケーションが重要であるとの意見で一致した。医療チーム内での薬剤師の役割についても議論し、トリアージの必要性や病態、解剖学の修得の必要性についての意見が挙がった。離島医療、フィジカルアセスメントや英語の必要性など幅広い意見がでた。結果、以下のようにまとめた。

【プロダクト】

1. プロフェッショナルとしての「薬剤師」としてやるべきこと

I-C班

- ・薬局でも患者情報の共有(カルテ、検査値)→薬薬連携(病院薬剤師の仕事を知るために、薬局と病院の人的交流する)
 - 病院薬剤と薬局薬剤師の交流する。
 - 生涯にわたって学ぶ。ベースの知識、調剤、薬の安全性を確保する。
 - コミュニケーションしてチーム力を強める(患者さん、患者さんの家族、医療従事者、医療事務、地域、実習生、MR、SR)
 - 自分で情報発信するために足を動かす。
- 過疎地域(離島等、人不足)情熱、ボランティア精神 離島の医師を助ける システムの構築
 - 患者さんによりそう(フィジカルアセスメント 握手で患者さんの状態把握→患者の状態を知る。)
 - (ドクターに言えなかったことをきける。)
- ・症候学を学ぶ→病院外来で薬剤師がトリアージ(OTC、医療用)←現場から頑張る
- ・病態・解剖学を学ぶ。→医者とのスムーズなコミュニケーション。
- ・英語力→海外の添付文書、薬に対応

行動宣言(I -C 班)

【討議の経緯】

続いてプロフェッショナルリズムを踏まえ、私達の職能将来像を描き、以下のような行動宣言を作成した。知識、コミュニケーション力を持つ個人としても充実したスキルを持つだけでなく、チーム力の強化にも貢献できる薬剤師を目指す意見で一致した。薬薬連携の積極的実施やフィジカルアセスメントによる患者さんに寄り添うという姿勢が大切であるという意見もとり入れた。また僻地や離島などの医療にも目を向け、「積極的に行動をする」ことの重要性を自覚し、それができる薬剤師を目指すことでまとまった。

【プロダクト】

2. プロフェッショナルリズムを踏まえ、私達の職能将来像を描き、未来的な行動宣言を箇条書きにする。

- ・生涯にわたって知識を深めていく。
- ・薬の有効性、安全性を確保する。(正確に、慎重に)
- ・薬の適正使用を推進する。(処方提案、国の医療費削減、ジェネリック医薬品の選択)
- ・病院薬剤と薬局薬剤師の交流する。(薬局薬剤師と病院薬剤師の交換)
- ・コミュニケーションしてチーム力を強める。(患者さん、患者さんの家族、医療従事者、医療事務、地域、実習生、MR、SR)
- ・自分で情報発信するために足を動かす。
過疎地域(離島等、人不足)情熱、ボランティア精神 離島の医師を助ける システムの構築
- ・患者さんによりそう
(フィジカルアセスメント 握手で患者さんの状態把握→患者の状態を知る。)
(ドクターに言えなかったことをきける。)
- ・病院外来で薬剤師がトリアージ(OTC、医療用)←現場から頑張る
- ・医者とのスムーズなコミュニケーション。
- ・海外の添付文書、薬に対応

行動宣言 (I チーム)

【討議の経緯】

三グループの意見は以下ようになった。

A 班

- ・ World Café を実施します。
→ 他職種と情報を共有出来る「場」を積極的に設けたい
- ・ 県内から全国へ薬剤師集会を実施します。
- ・ 僻地医療参加の表明サイトを立ち上げます。→医療の地域差を無くしたい
- ・ 看護師以上に患者さんに寄り添います。→ 処方薬の選択権を得たい

B 班

- ・相手の気持ちとメンタルケアを重視したコミュニケーションを大切にする
- ・経験による学習と視覚的な学習を重視する
- ・フィジカルアセスメント
- ・社会的ニーズを知るための積極的な交流
- ・地域連携を深めるように努力する
- ・論理性、判断力、問題発見

C 班

- ・生涯にわたって知識を深めていく。
- ・薬の有効性、安全性を確保する。(正確に、慎重に)
- ・薬の適正使用を推進する(処方提案、国の医療費削減、ジェネリック医薬品の選択)
- ・病院薬剤師と薬局薬剤師の交流する。(薬局薬剤師と病院薬剤師の交換)
- ・コミュニケーションしてチーム力を強める。(患者さん、患者さんの家族、医療従事者、医療事務、地域、実習生、MR、SR)
- ・自分で情報発信するために足を動かす。
過疎地域(離島等、人不足)情熱、ボランティア精神 離島の医師を助けるシステムの構築
- ・患者さんによりそう(フィジカルアセスメント 握手で患者さんの状態把握→患者の状態を知る。)(ドクターに言えなかったことをさげる。)
- ・病院外来で薬剤師がトリアージ(OTC、医療用)←現場から頑張る
- ・医者とのスムーズなコミュニケーション。 海外の添付文書、薬に対応

グループで共通していた知識、コミュニケーション、チーム医療をいれ、どうしてそれが必要か議論した。知識はベースとなる薬学的知識だけではなくさらに幅広い知識や専門的な知識を持つことが大切であること、薬の使用に対して薬剤師としてどのように関わっていくのかを吟味した。適正使用だけではなく幅広い意味での社会的還元ができることが求められているのでそのことをいれた。フィジカルアセスメントについては各班で少し意見が異なっていたが、今までの薬剤師像にはとらわれない五感を用いた患者状態の把握ができるためにもフィジカルアセスメントを重要視することでまとまった。コミュニケーションについてはI・C班だけの時の意見とほとんど同じである。ニーズに応え、情報を共有化するためにも交流を積極的に行う必要がある。最後に教育の面でも次世代に自分達が学んできたことを教えていけることが望まれていることから教育の強化もいれた。

以上の結果、Iチームとしての以下のような行動宣言を作成した

【プロダクト】

- ・知識
- ・薬の使用 (エビデンスの構築と社会還元)
- ・フィジカルアセスメント重要視する (今までの薬剤師像にとらわれない)
→五感を用いた患者の状態の把握
→バイタルサインなど
→副作用の早期発見と受診勧奨につなげる
- ・コミュニケーションを大切にする (インプットとアウトプットを大切に)
→患者に寄り添う・メンタルケア(看護師以上に)
→チーム力を高める
- ・交流を積極的に行う (ニーズに応える・情報共有)
→薬業連携
→患者さん
→他職種との交流
→地域
→行政
- ・教育に力をいれる (社会的ニーズに応える・次世代の育成)
→自分自身の経験をいかす

各個人の行動宣言と行動計画

1

【自分の行動宣言】

- ①生涯にわたって知識を深めていく薬剤師（病院での外来セルフメディケーション）
- ②薬の適正使用を提供できる薬剤師
- ③次世代育成できる薬剤師

【具体的な行動計画】

- ①、②基本的な薬識から専門的な薬識を身につける。

カウンセリング、フィジカルアセスメントを身につける。

生化学、病態学、解剖学、サプリメントの知識を学ぶ。

→副作用の早期発見、受診勧奨などセルフメディケーションの推進。

→過剰な服用薬を整理又は減らし、退薬を意識し職務する。

- ③薬識の共有やスキルアップのシステムの構築する。

他医療施設や他職種とのワークショップや共同研修の企画する。

中学・高校生の薬剤師への認知度向上。

2

【自分の行動宣言】

- 1)「患者の利益」のためなら、自分の努力・他者との協同を惜しみません。
- 2)薬剤師が社会で活躍できるよう自分自身を高めるとともに、薬学教育のさらなる発展に協力します。

【具体的な行動計画】

1)

・薬の専門家として、薬に関する基礎的な知識を有することは勿論、最新のデータを現場に届け、患者個々の治療の選択肢を広げることができるよう、専門的知識を高める（生涯学習・向上心）。

・他の医療従事者・患者のいる「現場」に積極的に足を運び、「現場」に必要なニーズを把握・理解する。

・強いチーム力で「患者のために」最適な医療が提供できるよう、自分自身のコミュニケーション力を高めていく。

2)

・様々な社会・考えを知るために、本WS参加者とのつながりを強めていく。

・薬学部6年制教育が充実したものとなるよう、他大学・他職種との交流の場を増やして行くことに協力し、さらに自分自身も積極的に情報を発信していく。

これらの行動計画を実施していくうえで、患者のために積極的に行動することを、日ごろから意識する。

【自分の行動宣言】

私は次の四点について行動宣言します。一つ目は薬剤師のオールラウンダーとして調剤等は勿論、病棟間をまたぐ仕事に携わり、チーム医療に貢献していく事、二つ目はアメリカの薬剤師のようにトリアージが出来るよう、総合的な視点や知識を身につける事、三点目はより良い医療を行うため、様々な可能性を考えられるよう視野を広げる事、そして四点目はこのワークショップの認知を広める活動に携わる事です。最初の三点は、今回このワークショップに参加しグループの仲間達と共に議論を重ねていく事で感じました。知識はもちろん、皆モチベーションが高く非常に刺激され圧倒されました。常に向上心を持って日本の医療をよりレベルの高いものとしていけたらと思いました。そして四点目はこのワークショップを通じて全国にはこんなにも意識が高く、強い思いを持った薬学生達や先輩方がいる事に感動し、この事をもっと世の中に広めていきたいと強く感じました。

【具体的な行動計画】

最初の二点を達成する為に、現在圧倒的に足りないものは経験です。まずは、積極的に自ら様々な事に挑戦します。そして、薬剤師として第一に求められるものは薬についてです。薬に関わるいかなる事にも応えられるよう、知識量を常に増やしていかなければなりません。1年目から症例検討会等積極的に勉強会等に参加し、つかめる機会は無駄にならないうちから多くの経験を積むようにします。また基礎知識に加え、薬は毎年新しくなっていき、それらはより複雑になっていくと思います。これに対応すべく常にアンテナを張り、ベースの部分を薬剤師として働いてからも学びながら、新しく得る情報についても同時に学び対応出来るようにします。これらを行いながら、薬学部での学習では不足している解剖学や症候学についても学び、より薬学的観点からトリアージが行えるようになります。

視野を広げるためには、様々な人に関わる事が重要であると今回のワークショップで改めて思いました。医療の現場では様々な職種の方がいて、皆それぞれの考えや思いを持っていると思います。他職種の方々とも多くコミュニケーションをとり、それぞれがどのような考えを持っているのか共有する事は自分の視野を広げる事に繋がると思います。またこれは、普段からコミュニケーションを行う事でチーム医療に必要なお互い信頼し合う事や、コミュニケーション力の向上にも繋がると思います。

行動宣言でも述べましたが、今回このワークショップに参加して薬学生がこんなにも強い思いを持って学んでいる事に感銘を受けました。しかし、世間的には認知が低く、非常に残念でなりません。そもそも現在放送されているメディア等を見ると、薬学部生や薬剤師はどのような事を学び、どのような思いを持ち、日本の医療に携わっていこうとしているかすら、社会には知られていないと思います。私は常々メディアの方々が勝手な事ばかり言っているこの現状を悔しく思っていました。私自身、大学で案内を見て今回参加するまでこのような活動がある事を知りませんでした。この活動を広めていく事で薬学部生や薬剤師の方々が日々励んでいる事をもっと知ってほしいと思いました。光栄にも参加させて頂けた一員として、今後この活動や活動を社会に発信していく事に何らかの形で少しでも携わりたいと感じました。現状まだまだ「薬剤師は薬局で薬を取る仕事」と勘違いをされている国民が多くいると思います。この活動を社会に広めていく事を通じて、薬剤師の職能理解にも繋がると感じました。

今回このワークショップに参加出来て本当に良かったです。このワークショップに携わる全ての皆様に心より御礼申し上げます。

4

【自分の行動宣言】

①トリアージの実践

現在の薬剤師は医療機関で最後の砦として役割を果たしている。今後は医師の診察の前に薬剤師が本当に薬が必要なのか重症度、緊急度の判断をする最初の砦として機能することができれば、患者さんの医療費の削減、医師の負担軽減にも繋がるのではないかと思う。

②患者さんに寄り添い生活面までカバーできる。

薬を渡すだけではなく、患者さんの置かれている環境・状況を加味して本人にとって一番ベストな医療を提供できるようになりたい。

【具体的な行動計画】

①いまはどちらかといえば「病気→症状」という考え方だと思うが「症状→病気」の考え方ができるように症候学を学ぶと共に現場での臨床経験を積んでいく。知識だけでは柔軟な対応も出来ないなので正確・適切な判断をするためにも経験が必要だと思う。また、病態に関しては医師が一番の専門家なので積極的に交流を深めていきたい。

②患者さんがどうしてその薬が必要な状況になったのか背景・環境に関心をもつ。そしてなによりも忙しいことなどを言い訳にせず患者さんの訴えにきちんと耳を傾け信頼を得られる行動をとっていく。また、治療に関して栄養学や食事、運動療法などの観点からもアプローチしていく。専門分野以外の知識も深めることでより健康や生活面のアドバイスに説得力をもたせることが出来るようになると思う。こうした総合的な視点をもてれば患者さんにとって何がベストな方法なのかを考えることができるとともに、QOLの向上にも繋げていけると考えている。

5

【自分の行動宣言】

- ・常に向上心を持って勉強し知識、技能を高める。
- ・コミュニケーションスキルのある薬剤師になる。
- ・柔軟に考え、対応できる薬剤師になる。

【具体的な行動計画】

・ベースとなるような薬学的知識をしっかりと身に付ける。また最新の論文などにも目を通しニーズに対応できる新しい知識を取り入れる。

・今回のWSでも様々な意見がでてとても参考なり勉強にもなった。多くの人と交流を持つことで色々な考え方を知ることができ、さらに吸収するところは吸収して柔軟に対応できる薬剤師を目指したい。

6

【自分の行動宣言】

臨床：実際に患者さんに接し、支援をする。

研究：自分の得た知識を共有する。

教育：次世代の育成

【具体的な行動計画】

臨床：・目の前の患者さんの状態を把握する。

・一人の患者さんに対して薬学的判断でサポートする。

・病院・地域のチームで情報を共有する。

研究：・臨床の現場で学んだ知識を研究として共有する。

・他社の研究内容を吸収して蓄積する。

教育：・新人・学生のサポートをする。（指導薬剤師など）

7

【自分の行動宣言】

コミュニケーションをして、チーム力を強める。

そのために、①薬剤師として専門的な知識はもちろん、幅広い知識を身に付ける。②コミュニケーション力、論理的思考力の2点を向上させる。

【具体的な行動計画】

①知識

薬剤師は薬の専門家として、新薬、適応拡大についても日々学ぶ必要がある。日々医療は進歩しており、薬剤師としては常に勉強が必要である。薬の勉強だけでなくチーム内のメンバーとスムーズにコミュニケーションを行うためのベースとなる知識を身に付けたい。

②－1 コミュニケーション力

・言語的コミュニケーション力の向上

→患者さん1人1人に合わせた言葉選びをする。

→医療従事者1人1人に合わせた、内容、言葉選び、

・非言語的コミュニケーション力の向上

→ジェスチャー・笑顔・うなずき・アイコンタクトを患者さんだけでなく、一緒に働く仲間に対しても大切にする。気持ちよく働け、患者さんのために全力を使える現場にしたい。

②－2 論理的思考力

チーム力を高めるためには知識を身に付けるだけでなく、論理的に相手が納得するようアウトプットしなければならない。また、薬剤師は研究者としての側面も持っていると考え、論理的思考力を身に付けたいと思う。

Ⅱ A班

議論の経緯（120 分）

議題

- ① プロフェッショナルとしての「薬剤師」としてすべき事を上げてみよう
- ② これまで議論してきたプロフェッショナリズムを踏まえて、私たちの職能将来像を描き、行動宣言を作成しよう

10 分間 1 人 1 人、①について自分なりの考えをまとめる

60 分間 それぞれ自分の考えをみなに伝えていく

30 分間 班の意見をまとめる

20 分間 まとめた①の意見をもとに、②を決めていく

①プロフェッショナルとしての「薬剤師」としてすべきこと

●意識

- ・薬剤師は社会のために働くという意識を常に持つべきである

●研究

- ・すべての薬剤師は研究の精神を持つべきであり、生涯研究すべきである

●実務

- ・すべての薬剤師は新たな境地を開拓すべきである
- ・薬局薬剤師は街の科学者であるべきである

●教育

<次世代>

- ・現役で臨床に携わる教育者が薬学生を指導すべきである。

<患者>

- ・潜在的なニーズを引き出すために、患者に対して薬剤師の職能をアピールするべきである。

<他職種>

- ・積極的に医療に関わるために、他職種に対して薬剤師の職能をアピールするべきである。

（解説）

意識：

社会という言葉を選んだ理由は、患者はもちろんのこと他業種とのかかわりなども考え、あえて社会のためという言葉を使いました

研究：

わからないことをそのままにせず、調べることから、高度医療を行う病院での研究など、広い意味での研究を指す

実務：

これから自分が入る場所で、薬剤師として何ができるか、どう介入するかを常に頭におき積極的に行動することを心掛ける。

- ②これまで議論してきたプロフェッショナリズムを踏まえて、私たちの職能将来像を描き、行動宣言を作成しよう
- 処方最適化をします（引き算もします）
 - 相談を引き受けています
 - 地域を巻き込みます

（解説）

処方最適化：

薬局の今の課題として、残薬を減らすことがあげられる。また、薬を服用しその副作用を抑えるために、新しい薬を重ねている場合に気付くのは薬剤師しかいないため、処方を最適化この場合、処方の薬剤の数を減らすことから引き算もできる、という表現にした

相談：

あえて誰にとかなかったのは、相談者は患者だけでなく他業種も対象になると考えたため地域をまきこむ：

なにより、薬剤師が何をしているのかを知ってもらうために、おとなを巻き込む手段として親子で薬剤師体験を開催し興味を持ってもらったり、薬局だよりをだしたりする

三部 「私たちが築く新しい医療と社会」

セッションⅠ プロダクト

自分の行動宣言

- ① 私は社会のために働くという意識を常に持ちます！
- ② 私は次世代に教育し、ともに成長します！
- ③ 私は研究の精神を持ち、生涯研究します！

具体的な行動計画

*私は、今ではなく卒業し働きだしたあとの行動計画をたてました。

社会人1年目 日常に疑問を持ち、わからないことはそのままにせず、その場で解決。

また、わからないからといってすぐ人に聞くのではなく、自分で調べたうえで本当にわからないもの、理解できないことを尋ねる
雑用もちゃんとやる

社会人5年目 新人を教育（共育）・サポートする部署を希望する

共感的に接していき、他人・周囲に興味をもち、よい人材を育成する

自分の行動宣言：

- 1、 私は社会のために働くという意識を常に持ちます
- 2、 私は新たな境地を開拓します。
- 3、 私は生涯研究します
- 4、 私は人とともに成長します。

具体的な行動計画：

- 1、 薬剤師になる、薬剤師であることが大変で辛くなると思うが、社会に求められる薬剤師がどういうものなのかを考え乗り越えていきたい。自分になりたい薬剤師というものを再確認し、今何ができるのかをしっかりと考えて行動する。
- 2、 今まで薬剤師が関わってこなかった領域に積極的にいかかわっていく。そのためには他職種のひとと、また患者さんとのコミュニケーションが重要であると考え。コミュニケーションというものについてもしっかりと学んでいく。
- 3、 興味のある分野を見つけるために幅広い視野を持つ。いろいろなものに積極的に関わっていき、その中で専門性を身に着ける。
- 4、 常に学ぶという意識を持ち、独りよがりの考えを持たないようにする。人の意見にもしっかりと耳を傾けていく。

自分の行動宣言

周りに目を向け、社会のために働くという意識を常に持ちます。
研究の精神を持つべきであり、問題や疑問を追及していきます。
多方面に接点を持ち、共育し、成長していきます。

具体的な行動宣言

患者、他職種、薬剤師、学生など、周囲に興味を持ち、今ある現状を把握する。
一歩前を常に考える意識を持つ。
自分のすべきことを常に考えて行動する。
相手へ伝えるために最適な言葉と行動は何か考える意識を持ち、伝える力を身につける
学ぶ姿勢、探求心を持ち続ける。
積極的な情報収集と情報発信を行う。

自分の行動宣言：

私は大学病院の薬剤師として次の3つの行動を宣言します。

- ① 実務…従来から行われていた業務をこなすだけでなく、新たな分野の仕事にも積極的に挑戦します。
- ② 研究…日常の業務の中でも「なぜ？」と思ったことを突き詰め、患者さんにとって有益な研究を行います。
- ③ 教育…次世代の薬剤師（薬学生）はもちろん、患者さんや他の医療職者の教育にも力を入れ

ます。

具体的な行動計画：

- ・ ニュースや新聞を積極的に見ることや様々な人と交流することを通して、幅広い視野・知識を身に付けます。
- ・ 卒業研究に力を注ぎ、問題解決能力を養います。
- ・ 日常から疑問を感じることを大切にします。
- ・ 研究室で、後輩や留学生の育成に努めます。積極的に声をかけます。

自分の行動宣言：

私は、社会のために働くという意識を常に持ちます

私は、研究の精神を持ち、生涯研究します

私は、人からの相談を受けます

私は、薬剤師や患者、他の医療従事者などと交流し合い、共に成長していきます

具体的な行動計画：

患者や他の医療従事者を思いを考えながら仕事を行う

常に何事にも興味をもち、抱いた疑問を解決しようとする

コミュニケーション能力を身につけ、他者と積極的に関わる

様々な分野の知識や技術を身につける

私の行動宣言

- ・ 私は常に探究心を持ち続け、生涯研究します。
- ・ 私は得た利益を還元します。
- ・ 私は共育し続けます。

具体的な行動計画

- ・ 在学中に統計解析学やその利用方法を学び、積極的に学会に参加する。
- ・ 特に薬剤疫学について学び、またそれを国、学会、病院、薬局へフィードバックする。
- ・ 医療では解決できない心の問題を、お祭りや美術、コンサートなど癒しから解決する。
- ・ 共に成長していくために、聴く力や吸収する力を養う。
- ・ 地域住民の意見を聴く場を持ち、積極的に参加する。

自分の行動宣言

1 いとうは社会のために働くという意識を常に持ちます。

2 いとうは探求の精神を持ち、社会問題の解決に取り組みます。

3 いとうは自分にしかできない役割を探し、それに取り組み、成功例として他の人でも実践できる形に落とし込んで、布教に励みます。

- 4 いとうは街のお助け人として認められるよう、1人1人のご利用者様へ知恵とハッピーをおすそ分けし、地道にファンを増やします。
- 5 いとうはいとうに関わる全ての人と共に成長します。

具体的な行動計画

②について

「どうしたら精神疾患を減らせるか」「どうしたら介護を日常生活へ苦なく溶け込ませられるか」「どうしたら小売業、外食産業といった職業の人が精神的にも肉体的にも追い込まれずに生き生きと働けるのか」といったところに自分自身の興味がある（ため、ドラッグストアという就職先にも繋がった）。

③について

『成功例を重ね、これらの問いに対する1つの回答を自分なりに持てるようになる→自分だけでなく他の人でもできるように布教する→誰でもそうすることが当たり前な世の中になって意識されなくなる（＝問題解決）』という道筋があるのではないかと考えているので、人を巻き込みつつ、それを実践していこうと思います。

④について

ご利用者様に対して、「ここぞ」という時に「これぞ」ということをしてあげられるためには、何事もない時からその人のことを知り、時と場合を見定めることが必要だと思います。その人の日常を知ることが、『私が相手を「〇〇〇さん」と認識し、相手が私を「いとう」と認識する』ところから始まると考えるので、店舗配属の初日から、自分の名前を売ること、ご利用者様の顔とお名前を覚えることをしていこうと思います。

自分の行動宣言：

私は予備校の講師になり、生徒と『共に』成長していく。

私は社会のために働くという意識を常に持ち、行動する。

具体的な行動計画：

まず、明確な目標を持ち、やるべきことを決める。

一人でできること（知識向上、技術向上）は、常に自己研鑽に努める。

生徒の将来がかかっていることを忘れず、責任感を持って取り組む。

生徒一人一人に関心を持つ。

生徒の疑問や悩みを一緒に解決する。

自分が知らないことを素直に受け止めて、生徒と共に成長する。

そして将来薬剤師になったその子達が社会に貢献していくとともに間接的にも社会貢献に携わっている感に浸る。

その積み重ねで、周りからの信頼を勝ち取り、沢山のファンをつくる。

Ⅱ B 班

Ⅱ B 班、及びグループⅡの第三部における議論の経緯とプロダクトを、以下の通り、報告する。

1. 【概要】

第三部では、「私たちが築く新しい医療と社会」と題して議論を進めた。まず、セッションⅠで、Ⅱ B 班のみの小グループ討議を行い、プロフェッショナルとして薬剤師がすべきこと、プロフェッショナリズムを踏まえた我々の職能将来像と行動宣言を決定した。その後、セッションⅡでは、各班の意見を踏まえ、チームⅡ全体で同じ内容について議論を進めた。

2. 【セッションⅠ（Ⅱ B 班 小グループ討議）】

Ⅱ B 班では、まず、薬剤師の特性について話し合った。つまり、薬剤師はどういう職業で、社会とどういう関わりを持てるのか、という点である。議論を進める中で、次のような意見が出た。

- ◆ 薬剤師は、病院・薬局・行政等のさまざまな場所で、患者だけでなく健康な人にも関わる機会が、多職種よりも多い。
- ◆ 薬剤や薬物動態等の知識をもって、調剤や処方設計にも関与している。

これらの意見を受けて、薬剤師に対して社会が求めるニーズについて話し合った。結果として、「**患者だけでなく健康な人も含め、社会全体の日常生活の充実・向上に貢献する事こそ、薬剤師に求められるニーズ**であろう。」という結論に至った。

次に、実習等で気付いた薬剤師の改善すべき点や社会的なニーズ等を総合的に考え、何が課題として挙げられるのかを議論した。

議論の中で、さまざまな意見が出された。

- ◆ 患者よりお金（点数）。
- ◆ 薬剤師自身が誇りをもって行っているのか？
- ◆ 患者と話すべき。調剤室に閉じこもっているのでは？
- ◆ 薬剤師は何に注目すべきかわかっていない。

当然、上記意見には反論もあったが、議論を進めるにつれ、「**薬剤師は患者のため（利他主義）**」という意識が不足しているのではないかと我々は考えるに至った。

また、議論される全ての問題に共通する部分として、「**利他主義意識の不足した現状で、医療人、特に薬剤師として、何のために何が必要かという目的を明確にすべきであり、目的達成のためにどんな手法を使うか**」という点が根底にあると考えた。

そして、薬剤師不要論についても議論した。例えば、「調剤等の作業は、機械でも可能になる部分が多いのでは？」という意見が出た。一方で、「介護の現場では、薬剤師による服用方法の

工夫で患者が飲みやすくなっていた」、「患者が正しく飲んでいるのかどうか、それを知ることが出来るのは薬剤師ならでは。」との意見もあった。

結局、患者（人）を相手にする以上、患者の服薬サポートには機械ではなく「人」が関わることが重要という意見にまとまった。また、「患者が自分の家族だったら？」という意見から、患者に対する思いの大切さについても各自が再認識した。

調剤については、次の意見が出た。

- ◆ 薬剤師は、自ら調剤しているからこそ薬剤の味や苦み、物性等が分かるのでは？
- ◆ 薬の味など医師は知らない。患者が直接感じる部分は薬剤師だからこそ分かるのではないか？

上記の意見から、我々は次の結論に至った。

- ◆ 薬剤師は、患者さんのことを思って常に行動する。この思いが相手にも伝わり、より良い信頼関係を築くことが重要である。そしてそこには、業務におけるリスク以上の利益がある。

そして、これまでの議論を踏まえ、プロフェッショナルとして薬剤師がすべきことを列挙し、具体的な行動宣言へと結び付けた。以下に、ⅡB班のプロダクトを示す（図1～5）。

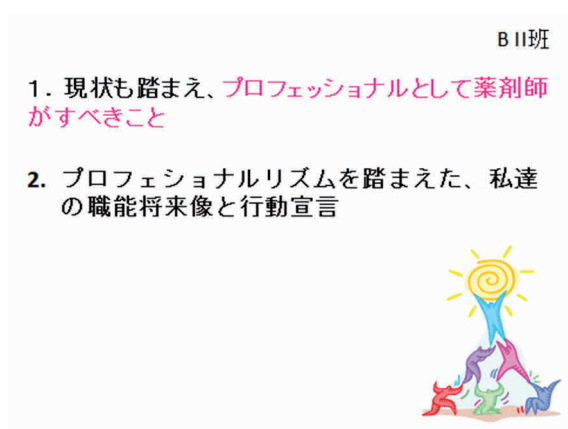


図 1. セッションⅠプロダクト1

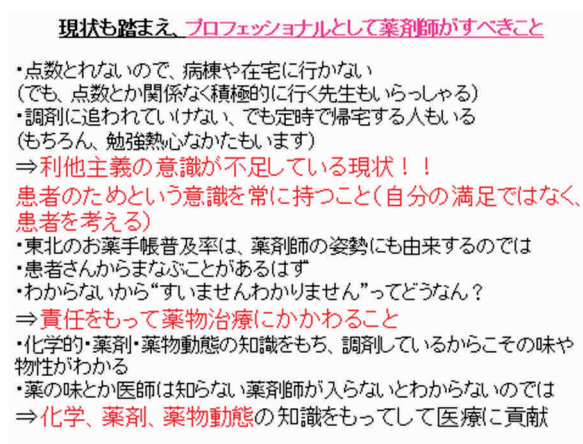


図 2. セッションⅠプロダクト2

プロフェッショナルとして薬剤師がすべきこと

- ◆ 「患者のためという意識を常に持つこと（自分の満足ではなく、患者を考える）」
→ 利他主義意識が不足している現状がある。
- ◆ 「責任を持って薬物治療に関わること」
→ 医療人として責任を持って行動する。これは信頼関係構築にもつながる。
- ◆ 「化学、薬剤、薬物動態の知識をもってして医療に貢献」
→ 薬のプロとして医療に貢献する。

現状も踏まえ、プロフェッショナルとして薬剤師がすべきこと

- ・ドラッグストアや調剤薬局でも患者以外ともかかわるきっかけがあるのにも関わらず、スルーしている
- ・公衆衛生、行政にも関与している
- ⇒ **薬剤師の職能を社会に認識**してもらうようにすべき
- 個人から健康に対する潜在的なニーズを引き出す**
- ・薬剤師はサイエンスメインとかいいつつ、サイエンスもできていないわけではないのでは
- ⇒ **サイエンスと臨床の両立**
- ・機械を効率化のためにつかう(調剤、データ管理)あくまでも手法
- ⇒ **効果的で効率的な医療へ**
- ・薬剤師はもっと医療人、臨床に在ることを意識すべき
- ・経済力など、患者背景を踏まえた薬物治療
- ⇒ **患者の物語に寄り添う**
- ・実習や教育制度これでもいいのだろうか？
- ⇒ **後継者育成の意識(自分の成長にもつながる)**

図 3. セッション I プロダクト 3

BII班 行動宣言！！

1. 白衣を着たら医療人
2. 患者さん第一！！毎日患者さんに会いに行く
3. 日々学習、スキルアップをはかる
*コミュニケーション能力なども含む

図 4. セッション I プロダクト 4

◆ 「**薬剤師の職能を社会に認識してもらう**」

→ 薬剤師はさまざまな場所で活躍しており、これまで以上に、個人から健康に対する潜在的なニーズを引き出す。

◆ 「**サイエンスと臨床の両立**」

→ 薬剤や動態等、多くの使える知識で臨床現場に臨む。

◆ 「**効果的で効率的な医療へ**」

→ 効率化のための機械使用。機械の使用は手段であり、目的ではない。

◆ 「**患者の物語に寄り添う**」

→ 患者背景をより把握して、患者に寄り添った薬物治療を行う。

◆ 「**後継者育成の意識 (自分の成長にもつながる)**」

→ 後輩の育成は、現状改善への第一歩。教えることは、自己の成長にもつながる。

行動宣言

1. 「**白衣を着たら医療人**」

→ ON/OFF のけじめを付けて、責任感あるプロとして行動する。

2. 「**患者さん第一！！毎日患者さんに会いに行く**」

→ 薬を使う人のことを第一に考え、その人に寄り添って信頼関係を構築する。

3. 「**日々学習、スキルアップを図る (コミュニケーション能力なども含む)**」

→ 常に向上心を持ち、薬剤師としてのスキルアップを図る。

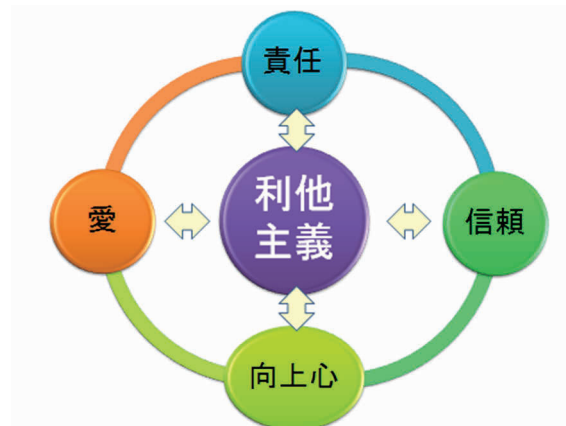


図 5. セッション I プロダクト 5

ⅡB 班では、これまで文章で述べたプロダクト 1～4 を、図 5 として別にまとめた。まず、医療人として基本的な部分の「利他主義」を中心に据えて、周囲に「愛」、「向上心」、「信頼」、「責任」の 4 つを配置した。

医療人として基本的な部分の「利他主義」の意識を持ち、患者背景(物語)に寄り添い(「愛」)、常に「向上心」や「責任」を持って薬物治療に臨む。これにより深い「信頼」関係が生まれていく。得られた信頼関係は、さらに向上心や責任感、患者への愛を増幅させる。このような理由から、それぞれの要素が相互に結びつき、互いに関連しあう図とした。

3. 【セッションⅡ (グループⅡ 総合討論)】

セッションⅠの各班での討論内容を踏まえ、グループⅡの 3 班(ⅡA、ⅡB、ⅡC) 合同で総合討論を行った。

総合討論では、各班の共通項目を手掛かりとして議論を進め、以下の意見が出された。

- ◆ 医療人としての意識を持ち、今まで以上に薬を使う人に寄り添う必要性がある。
- ◆ 生涯研鑽を積む必要がある。
- ◆ 常に探究心を持ち、新たな境地を開拓しなければならない。
- ◆ 薬局薬剤師は街の科学者であるべき。
- ◆ 教育も重要な要素。

教育は、次世代の薬剤師の育成に限定されないとの意見があったため、患者や他職種への教育も入れた。そして、教育する事は自己の成長に繋がるとの考えから、「共育」と併記した。また、薬剤師はプレゼンする力が不足しているとの意見も出されたため、「教育(共育)」の部分に、「薬剤師の職能をアピール」する文言を盛り込むこととした。

このような議論を経て、グループⅡ全体の行動宣言を決定した。プロダクトを以下に示す(図 6)。

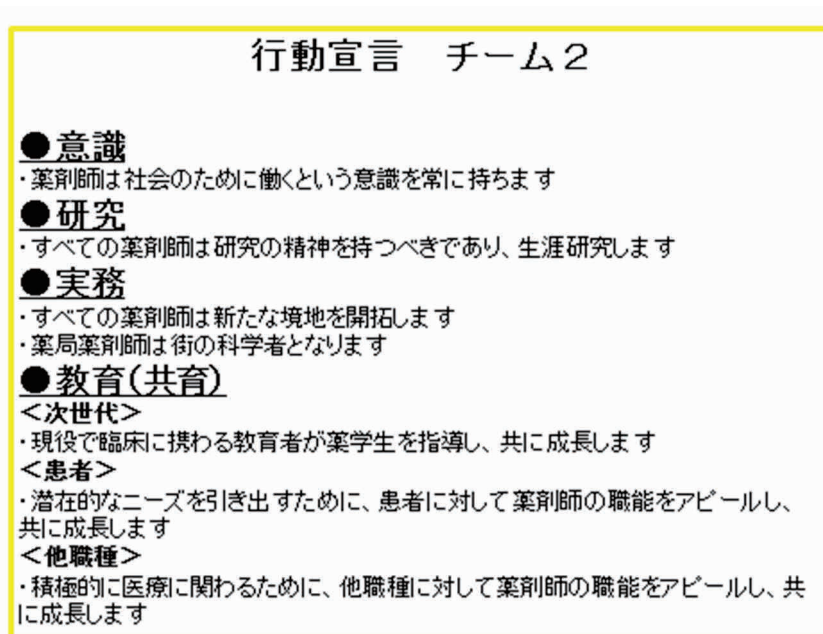


図 6. セッションⅡプロダクト

大きく、「意識」、「研究」、「実務」、「教育（共育）」の4つに分類した。「教育（共育）」はさらに、「次世代」、「患者」、「他職種」の3つに細分化した。

総合討論で作成した上記プロダクトを基に、個人の行動宣言を決定した。以下にⅡB班の各自の行動宣言を示す。

Aさん

<自分の行動宣言>

患者を第一に考え、患者さんや多職種から信頼していただける薬剤師となれるよう、向上心を持ち生涯学習*に励みます。 *コミュニケーションや研究・発信力も含む

<具体的な行動計画>

基本と応用の二段柱を、内訳を変えながら徐々に習得・発展していきたいと思います。スパンは5年単位で考えています。

初期は主に基本的なスキルや知識の習得を図ります。

具体的な手法としては、主に日常業務や学習会への参加、予習復習を考えています。また、現段階から国家試験勉強を兼ね基本的な薬学知識の構築と研究活動を通じた思考力・発信力の強化に努めます。中期、後期は知識の応用を目標とし、日常業務の病棟やチーム医療、専門薬剤師としての活躍を行っていききたいと思います。また研究活動も実施し、業務環境の改善・貢献に寄与できる課題を見つけ行っていききたいと考えております。



Bさん

<自分の行動宣言>

感謝の気持ちを忘れず、感謝される薬剤師 MR

<具体的な行動計画>

- 一、 常に私自身が薬剤師としての倫理観を持ち、例えば、実務実習で現場を見て、患者さんの痛み・現場の問題点を知った事を忘れずに行動する。
- 二、 高い公平性を持った情熱的かつ冷静な行動（診断・処方 Dr.、調剤・服薬指導は薬剤師。観点は違えど、一人の患者さんを支える人として同じ。数字のために Dr. ばかりに頼らない）。
- 三、 対話から汲み取られるニーズに応え、それにより貢献している感謝の気持ちを忘れる。感謝される使命感を持ち行動する（ベースとして、幅広い確かな知識）。

Cさん

<自分の行動宣言>

私は、医療従事者と協力し、社会の潜在的なニーズを引き出すために情報収集と伝達を行います（MR として）。

<具体的な行動計画>

誰かと協力するにも信頼がなければ成立しないので、まずは医療従事者のニーズへ迅速に応える。

↓

それらのニーズへ応えるためには、様々なデバイスを活用し、多くの情報を集め整理する。

↓

たくさんの情報よりニーズに合うものを選択し、伝達を行うことで信頼の獲得を図る。

↓

医療従事者の先にいる患者（社会）のニーズを引き出すとともに自ら考えまとめた情報伝達を行う。

↓

社会の潜在的なニーズに合った情報を集め、整理、伝達を行い、医薬品と社会（患者）の懸け橋となる。

Dさん

<自分の行動宣言>

・潜在的なニーズを引き出すために、市民に対して行政薬剤師の職能をアピールし、共に成長します。

<具体的な行動計画>

世の中には、行政薬剤師の存在すら知らない人が多い。したがって、まずは行政薬剤師の仕事内容を紹介し、具体的にどのような場面で市民の役に立てるのかをアピールするところから始める。しかし、行政薬剤師の存在感をアピールすることが最終目標となってしまうのは、薬剤師の単なる自己満足に過ぎない結果をもたらすであろう。市民により良い衛生環境で生活して

頂くことを最大の目標とした場合に、その最初のステップとして挙げられるのが職能アピールであり、これはあくまでも「利他的」な行為であるべきなのだ。

実際に職能アピールを通して、市民に行政薬剤師の具体的な業務内容イメージして頂けたら、目標達成に向けて次のステップに進む。それは、現時点で物足りない点、改善してほしい点、新しく行ってほしい点などの要望を市民から聞くことである。

さらに、市民が声を発するのを待つだけではなく、こちらから積極的に潜在ニーズの探索を行うことも重要である。ただし、押し付けがましくならないように十分気を付けなければならない。市民に提案をして、そこから得られた意見を行政側にフィードバックし、吟味を重ねるという姿勢が望ましいと考えられる。

このような市民との対話によって得られた案を少しでも多く実践に移すことで、より良い衛生環境の提供につなげていきたい。

E さん

＜自分の行動宣言＞

名前を覚えてもらえる薬剤師になる。

＜具体的な行動計画＞

- ・患者のために働くという意識を持ちます。
- ・個々の患者に合わせながら、積極的に患者に関与していきます。
- ・向上心を持って、生涯研究、自己研鑽を行います。
- ・他職種の業務について理解し、薬剤師の立場からどのようにサポートできるか常に考えていきます。
- ・先輩、後輩、患者、他職種の方々等、様々な立場の人から常に学ぶ姿勢を示します。

F さん

＜自分の行動宣言＞

薬局薬剤師として、街の科学者としての立場で生涯研究し、教育（共育）に携わります。

＜具体的な行動計画＞

地域の身近な街の科学者としての立場で、Dr. 等の他職種と連携を取りながら研究発表し、情報・成果を地元還元します。また、薬局実習指導薬剤師の認定を受け、次世代の薬剤師の指導に当たります。患者様はもちろん、他職種とも広く関わり、薬剤師の職能をアピールします。そして、さまざまな人と信頼関係を結んでいく中で、自分自身も成長します。

G さん

＜自分の行動宣言＞

患者の潜在するニーズを引き出せる医療人になる。

＜具体的な行動計画＞

- ・専門知識の習得に対する努力を惜しまない。
- ・患者主体の医療であるという意識を持ち続ける。
- ・能動的な態度を忘れない。

H さん

<自分の行動宣言>

患者や他の医療従事者が求めているニーズを理解し、またそのニーズの1つでも多くのことに応えられるようになっていきたい。

<具体的な行動計画>

- ・薬剤師のやっている業務などを世に発信して、理解していただくために講演会などを開いたり、YouTubeなどを活用する。
- ・日々新しい情報を正確かどうか吟味しながら、論文などから取り入れておく。

4. 【終わりに】

現場と大学では学びの質が異なる。実体験を通じて、初めて活きた「使える知識」となることも多い。我々は大学卒業後、薬剤師として使える知識・技能を駆使して、各自が立案した具合的な行動計画の実現に動く必要がある。

Ⅱ C 班

はじめに、「プロとしてすべきことは何か？」というテーマでグループディスカッションを行った。現在の医療現場では、機械化が進み、薬剤師の業務は対「薬」から対「患者」に移りつつある。このような背景も含め、我々の班では「機械にできないことで、薬剤師（人間）ができることは何か？」という視点から議論を展開した。挙げた意見を下記に示す。

- | | |
|-----------------|----------|
| ・服薬指導 | ・教育 |
| ・チーム医療 | ・努力 |
| ・世間話（コミュニケーション） | ・フィードバック |
| ・情報交換 | ・研究 |
| ・察すること、観察 | ・医療費削減 |
| ・セルフメディケーション | |

そこで、現在の医療費の削減に議論の焦点が移った。医療費の削減の原因として、我が国では、患者（地域住民）は、体調に不安を感じたら、すぐに病院を受診するという風潮があることが挙げられると考えた。よって、患者が体調に不安を感じたときのファーストアクセスを、病院ではなく薬局と意識づけるために薬剤師がプロとしてすべきことを、セルフメディケーションの観点と関係づけながら、より深い議論を行った。

そもそも、なぜ、薬局が現在患者のファーストアクセスではないのかという問いについて、未だ、薬局は一般的に「処方された薬をもらうところ」という認識をされており、セルフメディケーションについては、現在はドラッグストアが担っているという状態であることが挙げられた。また、店舗の構造による、入りにくさもあるのではないかという意見も出た。これらの問題を解決するためには、薬剤師の職能を多くの人に理解してもらうことが重要であると考え、下記の四点を挙げた。

- ・ **PR 活動**

薬剤師の職能についての動画や冊子を作成する、小学校で講義をするなど、直接的な PR と、薬剤師の職能を実際に見てもらうという二つの意見が挙がった。

- ・ **健康相談窓口をつくる**

薬局内に相談窓口を設ける。ここで、血液検査、健康相談応需、地域住民向けのセミナーなどを開催することによって、地域住民の「薬局は病気の時だけに行くところ」という概念を払拭出来るのではないかと考えた。

- ・ **調剤に対する薬剤師の態度の見直し**

事務員のいる薬局だと、事務が処方箋を受け取ることが多い。しかし、薬剤師が処方箋受け取ることで、処方監査や患者の体調について話すきっかけになり、よりよい薬物治療の一助になるのではないかと考えた。

- ・ **研修の制度化**

薬局においても、認定ならびに専門薬剤師の取得を普遍的なものにすることで、薬局薬剤師にも個人の専門分野をつくることができる。今までは病院薬剤師のみが取得していたような認定・専門も、生涯教育における薬薬連携によって、薬局薬剤師も取得できるようにする。薬剤師個人の得意分野をつくることで、「この疾患と言ったらこの薬剤師」と住民に意識づけることができ、相談応需などに繋がるのではないかと考えた。

この議論が落ち着いた後、医療費削減は「薬剤師がプロとしてすべきこと」ではなく、「プロとしてすべきことをした上での結果」である、と考え、医療費削減という結果を出すためには、セルフメディケーションの他に何が挙げられるか、という議論を行った。これについては、はじめの議題である「プロとしてすべきことは何か？」での議論に立ち返り、議論を深めた結果、大きく①セルフメディケーション、②NBM、③教育、④研究に分類されると考えた。

以上の議論の経緯より、薬剤師がすべきことは、

- ① セルフメディケーションを推進する（セルフメディケーション）
- ② 患者一人ひとりに寄り添った医療を提供する（NBM）
- ③ 皆が教育者となって次世代を育成する(教育)
- ④ 問題抽出能力と解決能力を養う（研究）

の4つであると結論づけた。

その中でも、セルフメディケーションに焦点を絞り、その行動宣言として、下記のような具体案を挙げた。

- ・積極的に来局者へ介入し、健康相談応需を行う
- ・処方箋を薬剤師が受け取る
- ・学校でセルフメディケーションの講義を行う
- ・地域住民向けのセミナーを行う
- ・職能をPRする動画を作成し、動画サイトで公開する

とした。

この後、Ⅱチーム全体によるディスカッションを行った。

次ページより、第三部「私たちが築く新しい医療と社会」セッションⅠにおける個人のプロダクトを紹介する。

【メンバー1】

➤ 自分の行動宣言

臨床研究を支援できる能力を身につけ、薬剤師による臨床研究を活発化します。

➤ 具体的な行動計画

① 将来の共同研究者を作る

在学しているうちに、将来、臨床研究をするとともに専門薬剤師の取得を目指したい人との繋がりを作る。出来れば、癌領域、感染症領域、精神神経領域のそれぞれで繋がりを作る。

② 大学院へ進学する

大学院へ進学し、独立して研究を支援できる素養を身につける。例えば、研究のお作法、生物統計学、論文作成能力などを身につける。

③ 実践する

大学院に在学中、あるいは卒業してから、薬剤師の提示するクリニカルクエスションの解決をサポートし、高品質かつ洗練された研究結果を導く。最終的な目標は論文投稿とする。

④ セミナーを開催する

実績を作ることで、公の場で臨床研究のノウハウを教える機会を作る。これにより、薬剤師による高品質かつ洗練された臨床研究を増やし、薬剤師の社会的立場の向上に寄与する。もって、医師のよきパートナーとしての信頼を勝ち得るための一助とし、円滑なチーム医療を推進することで、よりよい医療を患者へ提供する。

【メンバー2】

➤ 自分の行動宣言

- ① 薬剤師の国家資格を持っている者としての自覚を持ち、新境地を開拓していきます。
- ② 今のままだと薬剤師が人である理由が不明確なので、プロとして問題解決能力をもち、人であればだめであるという理由を明確化して発信します。

➤ 具体的な行動計画

- ① 勤め先の病院で、まずは仕事に慣れる。
 - それから、内部と患者様視点両方で問題点を探す。
 - 自分ができる範囲で対策を講じる。
 - 人と人とのつながりを以て、行動し解決に尽力する。
 - 現状に安住せず、病院・患者様の為、常に働きかけを行っていく。
- ② 薬剤師は人でないといけない理由について、他人と共有し意見を聴く。
 - 考えることを続ける。Face to face を大事にする。
 - 人でないといけないという部分で、現状できていないものがあれば実現していく。
 - 機械は、あくまで上手く「使って」いき、共存していく。機械主体にはさせない。
 - 実際に働きながら出した答えを、行動を以て発信する。次世代に受け継いでいく。
 - プロの薬剤師には、機械ではなく人だからこそなれるものだと個人的には考えている。
 - 答えが出ても、その答えについて考え直すことを繰り返して確かなものとしていく。

【メンバー3】

➤ 自分の行動宣言

薬剤師は医療者、教育者、研究者であることを念頭に置き、国民に福利をもたらし、貪欲に成長する。

➤ 具体的な行動計画

- ① 介入が必要だと感じた人は皆、私の患者である。そのため、その人の健康を維持・向上するために尽力する。
- ② 薬学生、その他医療系学生への教育（共育）は努力を惜しまない。
- ③ 常に問題抽出、解決を意識し、日々の業務に取り組む。

【メンバー4】

➤ 自分の行動宣言

薬剤師の仕事を世間にもっと認識してもらい、真の評価をされるようにします。

➤ 具体的な行動計画

- ① 薬局などで中高生などに職務体験を行い、その動画をネットに上げ薬剤師の仕事内容を理解してもらう
- ② 薬局、病院だけでなく公共の場での触れ合う機会を作る
- ③ プロフェッショナルな意識を持って行動する

【メンバー5】

➤ 自分の行動宣言

双方向の教育の実践と共育の精神を伝える

➤ 具体的な行動計画

学生に教える機会があれば、一方向でなく学生間での相互教育の場をあたえる。例えば、下の学年に勉強を教える機会を与えたり、他学部の学生とディスカッションの場を増やすことで相互に学ぶ姿勢を伝えていく。

【メンバー6】

➤ 自分の行動宣言

「プロフェッショナル意識を持った」薬剤師が、その信念に基づいて活躍できうる「対価」が得られるような制度・体制づくりに携わります。

(「患者を助きたい人々」を助けます)

➤ 具体的な行動計画

- ① 大学(博士)や現場(病院、薬局)を通じて自分の中の「プロフェッショナル」をあらゆる方面から磨く
- ② ボランティア活動やワークショップ等に参加して、他の方の「プロフェッショナル」を学ぶ
- ③ 実績を積んで偉くなる
- ④ 医療の世界に爪跡を残す

【メンバー7】

➤ 自分の行動宣言

- ① 次世代の育成に務めます。
- ② 常に他者から学びを得る姿勢を忘れません。
- ③ 自分に何を求められていくかを考え、自分が何を出来るかを意識し行動します。

➤ 具体的な行動計画

- ① 新人のうちは教育に関わらなくて良いという考えは持たず、2年目から後輩の指導に携われるように社会人1年目を過ごす。
- ② 薬剤師や他の医療職、患者さんからだけでなく日常の色々なところに学びがあるということを意識し、仕事に限らず様々なことに挑戦したい。
- ③ 専門職は社会の氏名を全うするということを念頭に置き、日々うつりかわる社会のニーズを敏感にキャッチできるよう、常に“社旗”を意識し、そこから自分に何ができるのかというところまで落としこんでいく志向を身につけ、それに向かって努力する。

ⅢA班

はじめに

私達ⅢA班メンバーの進路は、病院薬剤師・薬局薬剤師・研究者・モニターというように多岐にわたるのが特徴である。第二部の議論では、職種は違っても6年制教育で受けた実習の経験等をもとに薬学関係者として社会貢献を目指すという共通の姿勢を確認した。第三部セッションⅠのテーマは「薬剤師の職能将来像と社会貢献」であるが、ⅢA班では薬剤師免許を持って働く者全てを広義の「薬剤師」とみなし議論を進めた。

班内での議論

はじめに「プロフェッショナルとしての薬剤師がすべきこと」をそれぞれの立場から挙げ、それらを医療現場ですべきこと・研究ですべきこと・共通ですべきことに分類した。臨床薬剤師の立場、研究者の立場での意見と考えられる項目は以下のものがあつた。

臨床薬剤師

- ・ 患者の物語を踏まえ、生活面にも考慮して服薬指導を行う
- ・ 薬学部の知識を活かして有効性・副作用を確認する
- ・ 患者の声を研究・開発分野につなげる
- ・ カルテから得る数値変動のようなデータだけではなく、患者の体・心の変化を把握する

研究者

- ・ 臨床に応用しやすい実験系を構築する
- ・ 患者のニーズに合わせた創薬を行う
- ・ 多くの創薬シーズを提供する
- ・ 有効性・安全性のバランスを考えた創薬を行う

共通して必要と考えられる項目には以下のものがあつた。

- ・ 思いやりを持ち、心を開いて人に接する
- ・ 他職種に対しエビデンスに基づいた情報提供を行う
- ・ 未病にも着目しトータルヘルスケアに関わる
- ・ 臨床現場の声に耳を傾け、需要に応える
- ・ ニーズを把握できる環境を整備する
- ・ 社会・医療の効率を上げる
- ・ 仕事の効率を上げ、結果を出す
- ・ 生きた知識を身につける
- ・ 後進の教育を行う
- ・ 仕事に多くの人を巻き込む
- ・ 柔軟に考え、広い視野をもって、勉強・論文を読む・論理的思考のトレーニングなど自己研鑽を続ける

このように、立場が違っていてもすべきことには多くの共通項が見られた。また、研究をする際には臨床現場を意識し、臨床現場からは研究者に情報を提供していくというように、互いを意識しあっている様子が見て取れた。これらは、第二部で確認した、同じ6年制教育での経験をもとにそれぞれの立場から社会貢献を目指すという共通の姿勢と一致している。

ここで、私達の目指す社会貢献とは何かについて考えた。病院実習・薬局実習を経験した私達は、研究者となっても臨床現場を知っている。患者目線に立って仕事を行い患者の QOL を向上させることが、広義の薬剤師にふさわしい社会貢献ではないかと考えた。また、後進の育成に努めることも社会貢献になる。

臨床薬剤師を目指す者と研究者を目指す者との考えが近く、加えて、互いに目を向けあう必要性を感じている。そのことから私達は、将来の薬剤師は臨床現場と研究分野の相互理解を深め連携を強化していく必要があると考えた。現在は臨床現場と研究分野の意識が解離しており、仲が悪いといえる部分すらあると感じている。この現状を変えるために具体的には何をすればいいのかを話し合い、以下のような意見が出た。

- 高校・大学で各職種についての理解を深める教育を行い、臨床と研究との繋がりも理解させ、相互理解の基盤を作る
- 交流会や勉強会を開催する
- 共通のニーズを把握できる環境を整備する
- 臨床現場や研究などの各薬学関連団体をまとめる
- 新薬開発にあたり臨床薬剤師がディスカッションに参加する
- 臨床でのカンファレンスに研究者が参加する

班内での結論

私達薬剤師は、患者目線から患者の QOL を向上させ、後進を育成するという社会貢献を行うべきである。臨床現場と研究の場は連携を強化し、相互理解を深めていく。

Ⅲ チーム総合討論において

Ⅲチームの中で、私達 A 班の行動宣言は、特に研究に携わる者に当てはまる。

それぞれの行動宣言・行動計画

1. <行動宣言>

患者さんの個別性を活かした服薬指導が行える薬剤師になります。

<行動計画>

在学中：薬剤師国家試験に合格し、病院薬剤師として働ける資格を得る。

患者さんのコンプライアンス・アドヒアランスの向上につながる服薬指導を行うためには、患者さんの状態をしっかりとアセスメントすることが大切だと考えるので、病態や薬剤に関する知識を身につけるために毎日学習を行う。

病院に勤務：患者さんにより最適な医薬品を提供するために、新薬・既存の医薬品に関す

る情報を日々収集し記録する。服薬指導時には、患者さんの病態や服用している医薬品だけでなく、睡眠状況や食生活など患者さんの生活面にも配慮した服薬指導を心がける。

2. <行動宣言>

特効薬の無い疾患に苦しむ患者様のために、患者様への思いを忘れずに日々研究にうちこみます。

<行動内容>

- 現在の研究室での実験を今後も続け正確なデータを収集、現在取り組んでいる疾患の病態の一端を解明する。
- 博士課程に入ったら、薬局でアルバイトをすることで患者様と積極的に関わり、自分の研究の先に患者様の生活や命があることを自覚し、実験に取り組む。
- 上記の内容を実現するために、薬剤師国家試験に合格できるように計画的に勉強する。
- 新聞や雑誌などで医療系のニュースを中心にチェックする。
-

3. <行動宣言>

大学での基礎的な知識をベースとして臨床応用的な知識へと発展させ、現場で即戦力となる。

街の科学者として未病の段階から疾患に至るまで患者さんのトータルヘルスケアに関わることで地域に貢献する。

<行動計画>

まずは、国家試験の勉強を通して、添付文書に目を通すなど、基礎的な知識をもとに臨床を意識した勉強を心がける。

また、医療現場では日々情報が更新、変化しているため PMDA などから配信される様々な改変情報入手に貪欲であり続ける。

さらに、地域のイベントなどには積極的に参加することで、セルフメディケーションなどの健康に関する知識、情報の普及活動を行う。

コミュニケーション能力を磨き、患者さん、お客さんに頼られる薬剤師になることで、気軽に立ち寄り、声をかけてもらえるようになる。

様々な認定薬剤師の資格を取得すると共に後輩の指導、育成にも力を注ぐ。

4. <行動宣言>

社会に貢献できる研究者になる。

<行動計画>

- 社会のニーズや現場を知るために、積極的に臨床系の方と交流を持ちます。
- 多くの情報を調べて、本当に必要な知見や創薬シーズを見出します。
- 後輩に研究や臨床、それらが関連することの重要性を伝えます。
-

5. <行動宣言>

患者ニーズの把握に努めます。把握したニーズを基に、よく動きます。

<行動計画>

- 会話力を高めるため、多くの人と話す。
- 薬学的知識や経験談の収集・蓄積に励む。
- 言うべきことは言う心構えをしておく（患者・医師・企業等）。
-

6. <行動宣言>

社会の効率を向上させます

<行動計画>

- 臨床現場および研究、開発過程において現在不足している、あるいは時間を要する工程を調査する
- 効率化させるための手段や方法（即時可視化できる検査薬など）を研究開発する。
-

7. <行動宣言>

世界 No.1 のモニターになって(会社を作って)、1 日でも早く新薬を創出することで社会貢献する。

<行動計画>

- 1 年目：新人社員の中でトップの成績を残す。
- 3 年目：同期内で一番経験のあるモニターになる。後輩指導もしている。
- 5 年目：チームのリーダーになる。社内業績 No.1 のチームにする。
- 10 年目：臨床開発部のマネージャーになる。世界いち安全性、倫理性が守られていて、さらにスピード、品質も世界 No.1 の会社にする。

8. <行動宣言>

臨床と研究の 2 つの視点を持った、社会のニーズに応えることができる薬剤師になる

<行動計画>

- 幅広い知識を得る
- 学び続ける意欲を持つ
- 論文に目を通し続ける
- 信頼のおける人物になる、患者目線に立てるようになる
- 薬剤師として一定水準まで成長できたら、臨床と研究の橋渡しができるポジションにつく
- 大学で学んだこと、得たことをいかんなく発揮する
- 教育者となる

Ⅲ B 班

：方法：

第Ⅲ部では、「私達が築く新しい医療と社会」をテーマに、第Ⅰ部・第Ⅱ部で議論した「プロフェッショナリズム」や、木下 牧子先生の講演を踏まえ、プロフェッショナルとしての薬剤師がすべきことを挙げ、我々の職能将来像を描いた。また、班・個人のそれぞれで具体的な行動宣言を作成することで将来行うべき行動を明確にした。セッションⅠでは班ごとに議論し、行動宣言を作成した。セッションⅡでは班として作成した行動宣言をグループ間で共有し、グループとしての意見をまとめた。

：議論の経緯：

セッションⅠ

ⅢB 班では、実習で体験しており想定しやすい病院と薬局においてプロフェッショナルとしての薬剤師がすべきことを挙げていった。まず、セッションⅠ冒頭での説明で挙げられた近年のロボット化の話題を踏まえ、薬剤師が何をしていくべきかを話し合った。話し合いの中で、実習での経験などからロボット化が進む中で調剤はロボットに任せ、薬剤師はもっと調剤室の外へ出ていくという点と、薬学教育が4年制から6年制へ移行したことから職能を増やしていくという2つの点で病院と薬局で共通していることから「プロフェッショナルとしての薬剤師としてやるべきこと」は薬に関わることを全てに関わっていくことであり、未来的な行動宣言として、どこでも会うことができる薬剤師になることを宣言した。以下にセッションⅠで挙げた行動計画を記す。

〈行動計画〉

・採血、注射、TDM、処方権の獲得等職能の幅を広げる

→薬剤師が現在取り組むことのできない権利の獲得。ジェネラリストとしてスペシャリストをカバーしつつも、薬剤師の専門である動態学などを活かせる領域では最終的には処方権を任せられるようになるなど。

・命の重みをより感じるができる

→現在では他の医療従事者と比べると患者の物語よりもサイエンス寄りであるため、調剤室から患者により近い領域へと踏み出すことで倫理観を身に付ける。また、チーム内でも病棟へ上がって毎日患者の様子を伺いたいとの声が多かった。

・薬のコンプライアンスは可能な限り薬剤師が確認する。

・機械にできる部分はまかせる

→薬剤師の調剤室外での仕事を推進していくためには〈ロボットに仕事を取られる〉のではなく、ロボットと適切に付き合っていくことで上記のような機会を増やすべきである。

また、これらの行動計画を実行していく上での障壁として、**世間体**と**責任の所在**の2点が挙げられた。以前医師や他の医療従事者が行っていたことを薬剤師が行うことで疑問の声が世

間で上がらないか、また関わる職種が多くなることで問題が発生した際の責任の所在がどこへ向かうのかという問題が壁となると想定できる。

セッションⅡ

セッションⅡでは、セッションⅠで議論した「私達が築く新しい医療と社会」についてⅢA~ⅢC班で共有し、グループの行動宣言・行動計画としてまとめた。各班ではそれぞれ異なる視点から本題にアプローチしており、ⅢA班では、臨床と研究の繋がりの観点で論議しており、研究者の臨床でのカンファレンスへの参加や、繋がりをもつことにより社会のニーズに対する相互理解を深めていくことを主張していた。ⅢB班は上記のように調剤室の外へ出て行き、患者と接する機会を増やしていくことを主張した。ⅢC班は薬剤師が患者の物語よりもサイエンス寄りであることから、サイエンスは維持しつつも患者・社会の物語に寄り添う(パーソナルな対応を行う)という主張をしていた。

これらは別の視点から本題を捉えながらもそれぞれの主張では“**社会のニーズに応じて、社会に提供する医療の質を上げる**”ことが共通しており、無理矢理主張をまとめるのではなく、それぞれの班の主張を活かす方針とした。

以下にチームⅢ班のスライドを記す。

チームⅢ

目標

ニーズに応じて、社会に提供する医療の質を上げる

行動宣言

臨床現場と研究の場の連携強化、相互理解を深める
どこでも会える薬剤師
パーソナルな対応をする

2. プロフェッショナルリズムを踏まえ、私達の職能将来像を描き、未来的な行動宣言を箇条書きにする

◆ 臨床現場と研究の場の連携強化、相互理解を深める

基盤 {

- ・ 高校・大学教育での職種教育の強化(職種の理解)
- ・ **臨床と研究の繋がり**の教育
- ・ 臨床と研究の場の交流会(**生身の人間同士での交流、勉強**)
- ・ 共通ニーズの把握
- ・ 各薬学関連団体をまとめる(行政面など)
- ・ 新薬開発の際に研究者と薬剤師が一緒にディスカッション
- ・ 臨床でのカンファレンスに研究者も参加

2. 未来的な行動宣言

どこにでもいる薬剤師

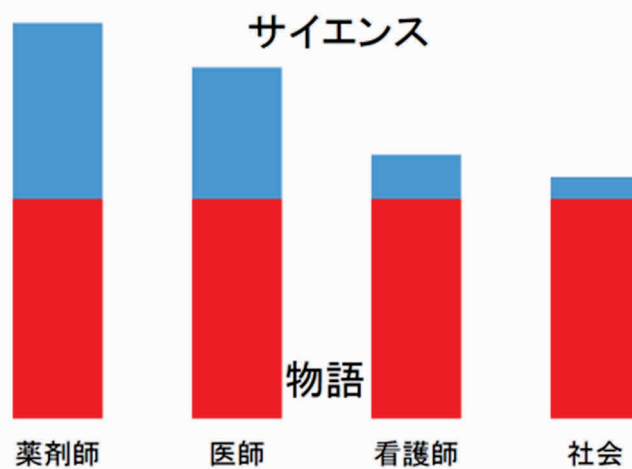
- ・毎日患者さんに会いに行く。
→コンプライアンスの確認、命の重みを感じる。
- ・投与のタイミングに立ち会う。
→採血、混注、TDM等の職能を広げる
- ・地域の人とより関わっていく。

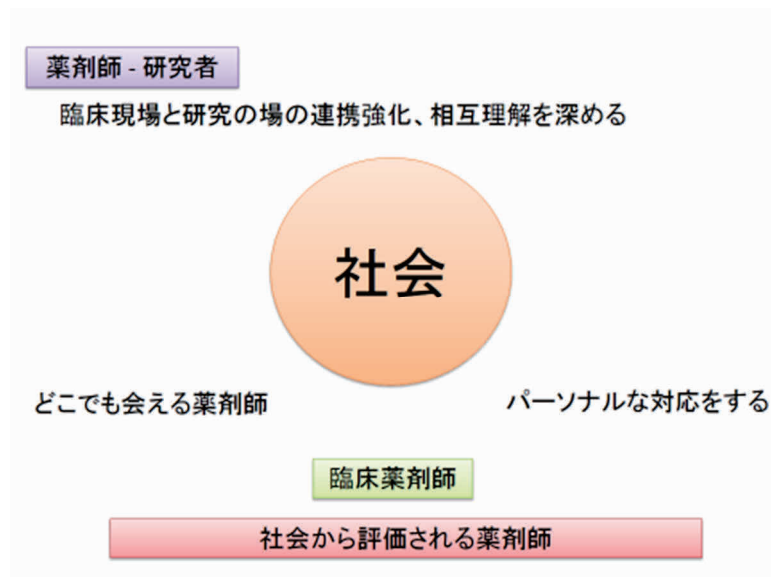
今は普通じゃないことを、
当たり前のような流れに！！！！

2. プロフェッショナルリズムを踏まえ、私達の職能将来像を描き、未来的な行動宣言を箇条書きにする

- ・交流の場を増やします！
- ・薬剤師を身近な存在にします！
- ・未来像知ってもらいます！

サイエンスは維持し、
物語に寄り添います！





最後に、学生ワークショップ2日間を踏まえ、班員それぞれの行動宣言・行動計画を以下に記す。

：各行動宣言・行動計画：

○自分の行動宣言：

薬のスペシャリストとして、患者さんの目線に立って安全な医療を提供する。

具体的な行動計画：

- ・薬の相談については、どんな患者さん、職種の方からであっても答えられるように、自己研鑽に努めます。
- ・院外採用薬であっても、積極的に学ぶ姿勢を忘れない。
- ・薬以外の医療についても把握し、それらと薬の関係が分かるジェネラリストを目指す。
- ・他の職種の仕事を理解するとともに、薬剤師の仕事を理解して頂き、チーム医療に貢献する。

○自分の行動宣言：

自己満足で終わらない社会貢献を目指す。

具体的な行動計画：

- ・自分のしたい事が社会のニーズであると履き違えないようにする。そのために積極的な情報交換、共有を行い本当の社会のニーズを知る。
- ・自分の行動、結果についての社会からの評価を知り、フィードバックしていく。
- ・プロフェッショナルを目指す。

○自分の行動宣言：

私は将来的に指導薬剤師としてプロを目指します。

具体的な行動計画：

- ・まずは薬剤師免許を取得します。

・認定・専門薬剤師となることで知識の向上と認定・専門薬剤師を目指す学生へアドバイスができるようにする。具体的には免許取得後にすぐにでも取得可能で、より知識の幅の広がり期待できるスポーツファーマシストの免許を目指します。

・WSへ今後も参加し、OB・OGとのディベートによる意識の向上、また学生のリアルな意見・感想を自分が指導薬剤師となった際の指導に活かします。

・1年目で仕事が休めるほど社会は甘くないので、しっかり1年目は力(energy)を貯めて、2年目から、現場で得た経験を未来の薬剤師へ返していきます。

・広げた知識は自己満足で終わるのではなく、社会へ提供し、フィードバック(評価)の過程を経て、正の循環を目指します。

○自分の行動宣言：

相手（患者さんなど）の物語を汲み取った上での提案や対応ができる薬剤師になります。

具体的な行動計画：

- ・積極的に患者さんのそばにいる時間を作る薬剤師になります。
- ・薬剤師の仕事や頼りがいを知ってもらい、その上で信頼してもらえるようなコミュニケーションをとります。
- ・患者さんから評価して頂く中でより成長していきます。
- ・そのために今は学生の間でできる事（知識を増やす、コミュニケーション力の向上など）に努めます。

○自分の行動宣言：

研究を活かし、医療の場に活用する。

具体的な行動計画：

私は大学院へ進学することを考えており、私はそこで基礎研究を充実させ、先進医療の探索を行っていきたい。自分の行っている研究をより突き詰めていき、加えて後輩等の研究にもサポートをできる限り行い、相互に刺激し合える研究者としてかかわっていきたい。また、実際の臨床の場での情報を得るために、薬局や病院等の同僚や医師等の他職種との交流を盛んに関わっていき、ネットワークをより広げていきたいと考えている。

○自分の行動宣言：

社会が必要とする基礎研究・臨床研究結果を世界に発信していく

具体的な行動計画：

まずは、現在行っている基礎研究の結果を海外誌に投稿することで、世界に対する情報発信のプロセスを学ぶ。また、行動宣言を現実化するために必要不可欠な薬剤師免許を取得する。その後、大学院進学もしくは病院薬剤師として勤務する。

大学院に進学した場合は、現在行っている研究を続けるつもりであるが、実際の患者はどのような状態なのか、問題点は何か、真実のニーズは何なのか等を把握するため、患者のもとを訪れたいと考えている。そこで得られた情報を基盤として、基礎研究と臨床研究を橋渡しする研究結果を発信していく。大学院卒業後は、大学教員となって自身で基礎・臨床研究を行いつ

つ、薬学をさらに発展させるような次世代の薬学出身者を育成する。

病院薬剤師として社会と関わる場合は、最も臨床に近い現場で医療に携わることによって見えてくる治療の問題点を抽出・解析・集約することで、社会に対してより上質な医療を提供するための情報を発信していく。

○自分の行動宣言：

現場の意見や社会のニーズを意識した臨床のための研究を行う

具体的な行動計画：

- ・薬剤師免許を取得する。
- ・卒業し、他職種（MR、薬剤師、行政などの薬学関連）に就職した同期や先輩後輩たちと定期的に交流し、意見交換を行う。
- ・基礎研究を取り扱った論文だけでなく、臨床試験に関係した論文なども積極的に読む。
- ・学会や研究室などで出会う医師の方々との意見交換を行い、より新しく、より臨床に近い知識を取り入れる。
- ・自身の研究する疾患だけでなく、他の疾患からも知識を得ていく。
- ・自身の研究に関して、自分がスペシャリストであるという絶対的自信を持つ。

Ⅲ C 班

我々の班では

『プロフェッショナルとして『薬剤師』がすべきこと』として以下の意見が出たので箇条書きで示す。

- 病気にさせない
- 薬剤師の役割を広く知らせる
- 病気になった時は悪化させない
- 薬の開発
- 調剤前後の鑑査、指導力、協調性
- 医療費削減
- 薬剤師同士の価値観の共有
- 守秘義務
- ➡パーソナルな対応をする

ここでは、患者や社会が求めるものに答えていく事がプロフェッショナルな薬剤師であると考え議論を進めた。今現在、薬剤師と患者・社会との距離が遠いという意見が挙がり、薬剤師側から何かしらのアピール・行動が必要なのではないかと考えた。そこで、薬剤師が薬局・ドラ

ッグストアなどでドンと構え患者を待つのではなく、社会の中で、バイタルの測定や、教室を開くなどが有効であることが我々の意見として一致した。例えば、幼稚園などに薬剤師が出向き、そこで子供達、またその親に一括して薬や病気のことについて情報を共有することができ、それが結果として一次予防、二次予防につながり、薬剤師の役割を広く社会に広める事ができると考えた。

『プロフェッショナルとして『薬剤師』がすべきこと』を踏まえ、私たちの職能将来像を描き、未来的な行動宣言を箇条書きに以下に示す。

- 交流の場を増やします！
- 薬剤師を身近な存在にします！
- 未来像を知ってもらいます！
- ➡サイエンスは維持し、物語に寄り添います！（図1参照）

議論の経緯

まず第3部セッションの議論に始まるに当たって、第1部、第2部セッションの内容の振り返りを行った。第1部セッションでは『プロを目指して：私たちの進路と夢』として、私の進路と夢、プロを感じた場面、あなたが目指すプロとは について意見を交換し、プロフェッショナルな存在を自分の過去の経験や体験談から掘り起こした。第2部セッションでは、『プロフェッショナルリズムの要件とは？』という議題で、プロとは何か、プロに求められることについてKJ法を用いて議論を行い、我々の班では、土台として知識や技術などの自分自身で磨くことができること、木の根幹として相手が伴うコミュニケーション能力など、そして、プロフェッショナルリズムの最終的な要件として患者・社会に尊敬される、信頼される、ファンができるなどの相手から求められる結果を導き出した。それらを踏まえ、プロフェッショナルとして薬剤師がすべき事、私たちの職能将来像を描き、行動宣言を作成した。

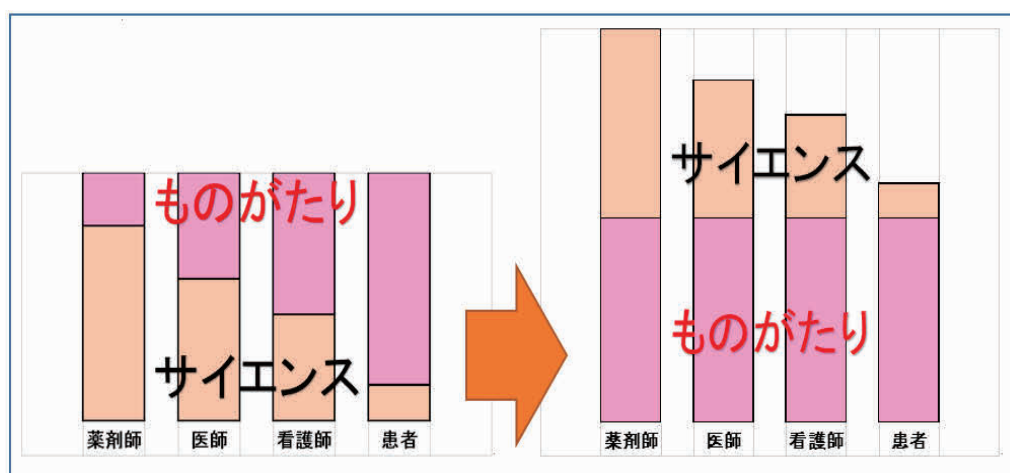


図 1

ニーズに答えるとは、“病気を持つ人”が抱える身体・心理・社会上の問題を解決すること。それには、①社会的責任を果たす②ものがたりに寄り添い、一人ひとりに「医療」をとどける③チーム医療を通して他職種と力を合わせる事が最も重要である。したがって、サイエンスは他職種と比較して高い傾向にあるが、患者に寄り添ったものがたりの部分は乏しいとされる薬剤師は今後我々が病棟に積極的に出向いたり、自ら行動し地域に溶け込み、患者に寄り添えるような機会を作ることで、他職種と同程度のものがたりを獲得し、サイエンスはそのまま維持していくことが望まれ、我々はそういった薬剤師になっていこうと考えた。

【自分の行動宣言】

患者・社会の立場に立って、患者・社会の声を積極的に拾える薬剤師に！

【具体的な行動計画】

- ・患者の近い位置で常に患者のバックグラウンドに寄り添う
- ・医療従事者間で連携して、より良い治療法を導き出すコミュニケーション能力を培う
- ・病棟であった事を共有し、常に最新の社会・患者のニーズに応えることができるような環境づくり
- ・今回のワークショップのような情報共有の場に積極的に参加し情報を発信する
- ・不安を与える服薬指導より安心でいっぱい服薬指導を！
- ・一人一人の患者と”自分の親”の様な関わりを！
- ・薬学に関しては他職種に負けない
- ・在宅移行した患者さんにもフォローアップを！
- ・まずは薬剤師としての generalist を！その後、専門部分に特化した specialist へ！最終的には professional へ！
- ・患者さんを病気にさせない
- ・患者さんが病気になった時は、薬識を深め、悪化させない
- ・個々の患者さんにあったパーソナルな対応を心がける

【自分の行動宣言】

一人よがりにならず、外に出て様々なことを学び、相手の求めるニーズに応える。

【具体的な行動計画】

- ・国家試験の勉強をするに当たり、一人でするのではなく、複数人で集まってお互いの苦手を教えあう。
- ・臨床の現場で働くとき、薬局や病院薬剤部の内にこもっているばかりでなく、患者さんに会いに行き、実際に会話などを行うことで患者さんの求めていることを理解する。
- ・県の薬剤師会や病院薬剤師会、市の薬剤師会などが開催する講演や交流会に参加し、薬剤師同士の連携を深める。

【自分の行動宣言】

自分の職域を飛び出し、国民の健康意識を向上することで社会に貢献します！

【具体的な行動計画】

- ・薬剤師国家試験合格に向けて知識を蓄える
- ・学校内でも交流会の場を提案し、生徒ひとりひとりの意識の向上に関与する
- ・薬剤師免許獲得
- ・医療人としての意識を高く持ち、更新し続ける
- ・患者・社会のニーズ：今求められているものを常に意識する
- ・他職種との交流会の場に参加、あるいは計画する
- ・糖尿病教室などを行い国民の健康に対する意識向上に努める

【自分の行動宣言】

自らの夢を実現すると同時に、社会のニーズに応え続ける薬剤師であり続けます！

＜行動宣言の解説＞

15年前経験した小児がん。入院した際、病床まで来て薬だけでなく薬剤師という職業について語ってくれた薬剤師さんに憧れました。今となっては憧れが尊敬に変わり、自分も薬剤師として尊敬される人になりたいという夢を持つようになりました。この2日間を通して、社会のニーズに使命感を感じ、それに応え続けるのがプロフェッショナルであることを学び、主観的および客観的にプロフェッショナルといえる薬剤師へと成長し続けることをここに宣言致します。

【具体的な行動計画】

＜学生として＞

- ・友人と協力して勉学に励むことで知識の共有をします！
- ・薬学だけでなく幅広い知識を増やします！
- ・日々当たり前のように勉学に励み、薬剤師国家試験に合格します！

＜薬剤師として＞

- ・先輩薬剤師の先生方の長年にわたる経験から得られた知識および技能を吸収します！
- ・同期の薬剤師と協力および切磋琢磨することで成長します！
- ・学生時代につけた知識を100%使うために、応用力を成長させます！
- ・疾患に詳しい薬剤師として成長します！
- ・病院薬剤師になり、病棟業務以外を効率的に行うことで、病棟で患者様と接する時間をより多くとります！
- ・自らの小児期の経験を活かし、患者様だけでなく、周囲で支えるご家族の気持ちも理解できる人になります！
- ・患者様の薬物治療だけでなく、人生そのものを支えられる人として成長します！
- ・病院の様々な診療科の病棟担当になります！
- ・多くの診療科を経験した上で小児病棟担当薬剤師になります！
- ・小児学級にも薬剤師として顔を出します！

- ・病院薬剤師として日々の業務をこなすことに集中するだけでなく、臨床現場にいる人としてクリニカルクエスチョンを見つけ研究にも力を注ぎます！
- ・臨床で得た知識および技能をきちんと後輩薬剤師の教育に活かします！
- ・スペシャリストを目指す以前に、ジェネラリストとして成長します！
- ・自らの成長とともに病院組織全体や薬剤師という職業の成長に貢献します！
- ・日々常に向上心、探求心を持ち続け、自己研鑽します！
- ・薬剤師としてだけでなく、人として成長します！
- ・社会からの薬剤師へのニーズを増やすために、薬剤師職能について情報発信していきます！
- ・社会のニーズに応えるために、自分の主張をするだけでなく、周囲の話をきちんと聞きます！
- ・移り変わる薬剤師へのニーズに応えるために、薬剤師としての未来像を常に描きます！
- ・この WS のような人々のつながりを大切にします！

【自分の行動宣言】

知識を深める努力を惜しまず、患者さんの背景を踏まえた上で行動し
影響力があり かつ 愛される薬剤師になります。

【具体的な行動計画】

・基礎・臨床研究を論文から抽出したり学会や勉強会に参加したりと積極的に知識を得ます。
その得た知識を存分に活かせるよう、患者さんの背景を洞察し、患者さんから伝えたい・聞いてほしいと思わせる能力を身に付けます。これによって、患者さんの物語に寄り添ったパーソナルな対応をします。その結果、患者さんが薬識を高めることで治療に積極的になりより安心して自立した生活が出来るようになるよう努力します。

【自分の行動宣言】

- ・患者さんのことを想像し、五感を使って業務をします！
- ・たくさん会話することで患者さんの心に寄り添います！
- ・憧れられる薬剤師になります！

【具体的な行動計画】

・患者さんのことを想像し、五感を使って業務をします
調剤や監査、患者さんとの会話の中で、洞察力や想像力などに磨きをかけるため、日常の些細な変化にも気付くようにするなど、違和感に敏感になるように努力したい。また、処方箋から患者さんのことを考えられるようになるには、何よりも経験が必要だと思うので、これから向き合う全ての処方箋の向こうに患者さんがいることを意識したい。薬剤師の「あれ？」はほとんどが正しい感覚だと言われたことがあるので、いち早く間違いに気付くことで、患者さんに問題が起こらないように努めたい。

- ・たくさん会話することで患者さんの心に寄り添います

患者さんは、医師に言えないことを信頼できる薬剤師に話すことが多いので、患者さんとの会話を大事にし、出来る限りバックグラウンドを知る努力をしたい。しかし実際には、業務時間

も限られてくると思うが、以前「1分で聞き出す力が必要だ」という話を聞いたことがあるので、より端的に患者さんから聞き出すための工夫を考えなければいけないと感じている。また、患者さんに信頼されるためには、聞かれることに何でも答えられるなど、知識があることは当然だと思うので、勉強をし続けていきたい。

・憧れられる薬剤師になります

地域の方々に頼られる薬剤師、職場の同僚に尊敬される薬剤師など、将来目指したい到達点は多々あるが、最終的には子供たちから「大人になったら、私も薬剤師になりたい」と言ってもらえるような薬剤師になりたい。そのためには、まず職能を知ってもらう必要があり、薬局をカフェやスーパーと併設するなど、地域の中に溶け込む存在になり、気軽に立ち寄ってもらえるようにならなければと考える。他にも、小学校や公民館などで、家族で参加してもらえるようなお薬教室や子供薬剤師などのイベントを積極的に行いたい。

【自分の行動宣言】

自分の行動宣言：地域医療に貢献し、患者様・お客様のニーズに応えられる薬剤師を目指します。

【具体的な行動計画】

- ・在宅医療の一員になれるよう、自ら積極的に行動していきます
- ・日々、自己研鑽に励みます
- ・他職種との連携だけでなく、患者様・お客様の気持ちに寄り添い、適切な判断力、洞察力を磨いていきます
- ・セルフメディケーションを推進し、病気にさせない薬剤師を目指します

参加者印象記

グループ I A 氏名 國富 寛大

私は日本薬学会第5回全国学生ワークショップに参加し、全国の薬学部6年生の方々と様々な体験を通して交流を深め、貴重な体験をすることができました。

今回のテーマは、「私達のプロフェッショナリズム、私達が築く新しい医療と社会」ということで、プロフェッショナリズムとは何か、プロフェッショナルとしての薬剤師がすべきことは何か、自分たちが将来どう社会に貢献したいか、などについて議論を行いました。これを通して、スペシャリストとプロフェッショナルの違いがよく理解できました。それと同時に自分が描いている将来像はプロフェッショナルな薬剤師なのか考え直す良いきっかけとなりました。

また志の高い方々と出会うことで多くの刺激を得ることができました。この出会いを大切に、お互いに切磋琢磨してより良い医療、社会を築いていきたいと感じました。

最後になりましたが、今回このような機会を与えてくださったことに深く感謝いたします。ありがとうございました。

グループ I A 氏名 小泉 佑理子

今回、日本薬学会第5回全国学生ワークショップ(以下WS)に参加させていただき、多くの貴重な経験をする事が出来ました。2日間に渡るWSでは、「私達のプロフェッショナリズム、私たちが築く医療と社会」というテーマに基づき自分達の思い描くプロフェッショナリズムについて意見を交換することが出来ました。同じ薬学生ではあるものの、大学の教育方針や実習先での経験などにより、抱いている意見は様々でした。薬学生と意見を交換することで、自分では考えることのできなかった意見に出会うことが出来た一方、自分の考えの甘さを実感することとなりました。WSでは薬剤師のあり方や、薬剤師が直面している問題について熱心に考えている薬学生が多いと感じました。しかしWSにおいて最も大きな収穫は、全国に高い志を持った仲間との出会いだと思います。そこで、今後もWSを通して出会った仲間との出会いを大切にしつつ、自分の周りにも今回のWSの事を伝えていきたいです。

最後になりますが、今回このような機会を与えてくださった関係者の皆さま、及びWS参加者の皆さまに心から感謝いたします。

グループ I A 氏名 後藤 晴香

今回のワークショップを通じて、最初は初対面の人達と討論出来るのか緊張していましたが、全国から集まった薬学生と将来について、これからの薬剤師についてどのような考えを持ち、どうあるべきか等2日間じっくりと話し合っていく中で、自分と同じ考えを持つ人がいることに心強く思えたと同時に、違う考えを持つ人からは視野を広げて物事を考えるきっかけを頂くことができ、私にとって有意義な時間となりました。議論を重ねるごとに、皆それぞれが高い志を持って将来や薬剤師について考えており、その人達と深く考え、議論出来たことは私にとって貴重な経験となりました。また、情報交換会では、先輩方から現場での薬剤師の仕事についてお話を聞くことができ、大変勉強になりました。この2日間は、将来の薬剤師像について改めて考えることが出来た貴重な時間であり、ここで得られたことを活かせるよう、日々努力していきたいと思っています。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えて下さった大学の先生、日本薬学会の関係者の皆様及びタスクフォースの先生方・先輩方に心より感謝申し上げます。また、この2日間、熱い議論を交わした6年生の皆様に深く感謝致します。

グループ I A 氏名 佐藤 輝

全国から集まる薬学生との意見交換や討論を行うWSは、あるテーマについて討論を行う機会が少ない私にとってとても貴重な経験になりました。初めて出会う人たちとの討論は刺激を受けとても楽しかったですが、自分の考えを簡潔にまとめ発言する力が足りないことを痛感しました。また、World CaféやKJ法を通して様々な意見に触れることで、自分の考えを明確なものにできたのと同時に、視野を広げることができたため、GDのすばらしさを感じました。

今回のWSを通して、良質な医療を提供し、患者さんのQOLを向上するという強い意志を皆が持っていることを感じました。また、薬剤師は社会的使命を全うするプロフェッショナルでなければならず、そのためには社会にどのように貢献していくかを常に考え行動していく必要があると感じました。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださいました日本薬学会の関係者の皆様、タスクフォースの先生方や先輩方に心より御礼申し上げます。また、2日間共に過ごした仲間に深く感謝いたします。

グループ I A 氏名 田中 彩弥加

全国の薬学部から代表者が集まるということで、どんな人たちに会えるのか、ほんの少しの不安と期待に胸を膨らませ、日本薬学会第5回全国学生ワークショップ(以下、WS)に参加させていただきました。

今回のWSのテーマである「プロフェッショナル」についての異なる大学の薬学部生と熱い議論を交わし、その中で共通する意見や、今までの自分では考えもしなかった意見もあり、とても刺激を受けるものとなりました。なにより、初めて会ったばかりの人との寸劇は衝撃的で、短い時間で台本を作製し、一生懸命練習したのが印象的でした。

2日目の木下牧子先生の講演では、NBMという言葉を知り、先生が「医療行為を患者一人一人に届ける」とおっしゃっていたのが心に残っています。医療という果てなき道を様々な人と関わりを持ちながら、薬剤師という立場から患者さん一人一人に合った医療を届けていけるようになりたいと思いました。

2日間という短い時間でしたがとても充実しており、同じ志を持つ多くの仲間とも出会うことが出来ました。

最後になりましたが、このような素晴らしい機会を与えて下さった大学の先生、日本薬学会の関係者ならびに、タスクフォースの先生方、先輩方には心より御礼申し上げます。

グループ I A 氏名 中野 裕介

日本薬学会第5回全国学生WSに参加させていただき、全国の仲間たちと薬剤師の将来について議論することで、自分の視野が大きく広がったように思います。各SGDでは地域差の問題や薬剤師の地位の向上など様々な視点から薬剤師がこれから進むべき方向性についての意見が

出ましたが、離島へ薬剤師を派遣することや、政界に薬剤師の意見を反映させることなど、とても自分では思いつかないような意見が次々と出され、いかに自分が小さな視野しか持っていなかったのかを実感しました。また同時に、薬剤師の将来について深く話し合うことのできる仲間が全国にいるのだととても心強く思いました。

私は、医療人は常に最善を目指すべきであると考えています。しかし同時に、一人で出来ることには限界があります。その時にお互いを補い合う関係が必要であり、それがチーム医療や、このようなWSを通じた繋がりであると思います。今回のWSでは自分の進む方向性を確認すると同時に、同じ道を進む仲間とのつながりを得ることが出来たと思います。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださりました関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。

グループ I A 氏名 松原 匡希

今回、全国学生ワークショップへ参加させていただき、ディスカッションを通して他大学の薬学生の仲間と意見を交わすことで多くの刺激を受けました。2日という短い間でしたが、それぞれが志す薬剤師像について聞くことで、自分自身も目指す将来像に近づきたいという思いがよりいっそう高まりました。

「私達のプロフェッショナルリズム、私達が築く新しい医療と社会」というテーマについて薬剤師のプロフェッショナルリズムとは何か、薬剤師は何をしていく必要があるのかということを考え、話し合うことで個人やグループとして様々な意見が出ました。多様な意見の中で共通する部分や異なる部分がそれぞれあり、1つの決まった答えはありませんでしたが、今後、薬剤師として働いていく上で、何をしていく必要があるのかということを中心に考え模索していくことや近い将来だけでなくもっと先も見据えることが重要であると本ワークショップを通して強く感じました。今回受けた刺激を今後も大切にしていきたいと思います。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えて下さった日本薬学会の方々をはじめ、関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

グループ I A 氏名 渡邊 愛子

日本薬学会第5回全国学生ワークショップに参加し、2日間に渡って薬剤師のプロフェッショナルリズムと将来像について全国から集まった薬学生の方たちとともに議論を行っていききました。第一部で行ったWorld Caféでは、飲み物を飲みながら気楽に、進路やプロについて語り合うことが出来ました。その中で、絵でプロとして自分が活躍している場面を表現するラウンドがありましたが、自分の絵がMVPの1人として選ばれたのは残念なような光栄なような気がします。

第二部で行った討論ではI A班では豊富な知識とコミュニケーション能力が根底にあり、常に向上心を持ち続け努力を怠らず、周りに求められるような人がプロフェッショナルの要件であると結論付けました。その要件としてまとめた中に「やる気」というワードも入っていましたが、ワークショップに参加した薬学生全員からやる気が溢れ、目標を持って行動していることを感じ取ることができとても良い刺激になりました。

ワークショップで得た貴重な経験を薬剤師として社会に出た際に生かして行動していきたいと

思いました。最後にワークショップで関わったすべての人達に感謝したいです。

グループ I B 氏名 加藤 早希

今回のワークショップでは第一部での world café を始め、寸劇やディスカッションを通して自分の目指すプロの薬剤師とは何なのか、楽しみながらも深く考えることができました。

最初は知らない人達ばかりで、本当に打ち解けあうことができるのか非常に不安でしたが、いざ討論を始めると色々な意見が飛び交うようになり、それに納得したり疑問を抱いて質問してみたり、気が付けば完全に打ち解けながら討論をすることができるようになっていました。

今までプロの薬剤師とはこうあるべきだ、と決めつけに近いような思いを持っていましたが、色んな地域からきた様々な人の、様々なプロフェッショナル像を聞いていくうちに自分の中の考えがどんどん広がっていきました。同じ薬剤師を目指しているのにさまざまな考え方があるのだということを今回のワークショップで学ぶことができました。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださいました日本薬学会の関係者の皆様、タスクフォースの先生・先輩方に心より御礼申し上げます。また、この二日間で出会い共に話し合った友人たちに深く感謝いたします。

グループ I B 氏名 佐々木 裕太

今回のワークショップを通じて参加者それぞれが思ったプロフェッショナルが今後どういう形で社会に現れるのか。それが今から楽しみで仕方ありません。これが2日間を終えて感じた最初の感想でした。全国から学生たちが集まっていることや国立や私立といった薬学の学生同士の意見交換は実に充実したものとなりました。確かに薬学のカリキュラムは全国一律です。しかし、大学での教育や実務実習の方法は各地域によって様々です。それら全てを変えることは難しくてもその情報をお互いに知ることによって小さな教育改革が起こり質の高い薬剤師の育成が行われるのではないかと考えられました。

また、医療の格差やその教育の違いは地域によって生まれてしまうものですがその情報を知ることが大事だと考えています。今やネット等を通して情報を得ることが出来る時代の中で生身の人と会って話すことや学び合うことは非常に大きな経験となることを再確認することができました。

最後に、今回各大学の学生が参加し自分たちの未来について話し合うことが出来たことを日本薬剤師会の方をはじめ多くの関係者に感謝の言葉を述べさせていただきます。本当にありがとうございました。

グループ I B 氏名 繁田 紘子

2日間のワークショップを通して、プロフェッショナルとは、相手の要求を適切に理解した上で、自らの技術をもってそれに最大限応える者であると学んだ。特に講演においては、薬剤師としての使命は多岐にわたっており、技術力向上だけでは不十分で、患者や医療従事者を含めた社会のニーズに適切に応えられるプロフェッショナルになることが必要だと学んだ。そして講演後のディスカッションでは、薬剤師の視点に留まることなく、多様な視点から今後の薬

剤師にとって必要となることを議論した。その結果、社会的ニーズを適切に理解するためのコミュニケーションの重要性を再認識するとともに、そのニーズに応えるために必要な技術を考え、習得し続けていくことが重要であるという、自身にとって新しい考え方を得ることができた。

私はこれまで、薬のスペシャリストになるための単なる問題解決力向上や知識の拡大といったことに目が奪われていた。しかし、今回のワークショップに参加したことで、技術以前に、患者や社会のために貢献したいという使命感、ニーズに応えようとする心を持ったプロフェッショナルになることの重要性に気づいた。

グループ I B 氏名 スタッフ 由紀子

本ワークショップでは「私達のプロフェッショナリズム、私達が築く新しい医療と社会」という議題で討議した。全国の大学から薬学生が参加しており、それぞれの大学での実務実習及び事前学習を終え、今後何をしていくべきかという考えを交換できた。各自、何が重要と捉えるかという価値観は異なっており、自分の考えの及ばなかったことにも気付くことができた。まあ、その考えに至る背景、つまり経験した事柄を共有でき、自身の財産になった。本題である、プロフェッショナルとしてどうあるべきかという考え方を、これまでしたことがなく、改めて社会の中での自身の責務を考えるきっかけとなった。私は将来、薬剤師教育に関わる教員を志望しており、実務だけでなく、現場で生じている多くの問題を少しでも解決できるような研究をしていきたいと考えている。このような自分の目標を再認識するとともに、これからのプロフェッショナルな薬剤師の使命のひとつであると捉え、新しい医療を築いて行こうという決意ができた。

グループ I B 氏名 中川 幸紀

今回のワークショップの大きなタイトルであるプロフェッショナリズムについての議論では、知識をつけることは大前提でそこからコミュニケーション能力をつけたり、フィジカルアセスメントによる職域の拡大、教育にも力を入れるといった話がでた。そして将来、調剤の機械化により薬剤師の仕事が減り、雇用人数が減らされることがないようにはどういった能力が必要かといった深い議論もすることができた。

それから各セッションでの議論の仕方では、world café 方式や KJ 法、将来の像を劇で表現してみるなど初めてやる方法ばかりなので、楽しく取り組むことができた。

2 日間グループ内やチームで意見交換や自分から積極的に発言をすることで、自分がどういう薬剤師になりたいのか、それを実現するためには何をしていくべきかということが確立したように感じた。そして、各人受けてきた教育・今後の進路も様々であり、何がしたいかも異なるのでそういった自分とは違う意見に触れることで新たな分野に対する興味も湧いてきた。

グループ I B 氏名 丹村亜梨朱

今回のワークショップに参加したことで、自ら行動し、社会に貢献していくことの重要性を強く感じました。全国の志高き仲間との交流を通して、様々な角度から物事を考えるということの大切さと、患者様のため、社会のために薬剤師ができることは、多岐に渡り、それを実践し

ていくことが重要であるという無限の可能性を感じました。また、他大学の学生のプレゼンテーション力や独創力は、非常に刺激的で、魅力を感じました。自分も、聞いている相手に対して、心に響く言葉を発信できるようになりたいと思いましたし、それは、今後の薬剤師として患者様や他の医療従事者の方とのコミュニケーションにおいても、重要な能力であるように感じます。このように、共に尊敬し合える仲間と出会えたことを、大変嬉しく感じています。今後は広い世界に目を向け、今回出会った仲間たちと、多様な分野において、個々が活躍することで、よりよい社会を築いていきたいです。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えて下さった関係者の皆様に、深く御礼申し上げます。

グループ I B 氏名 藤原 顕弘

全国の同期が一堂に会して討論を行うことができ、とても充実した2日間を過ごせたと感じています。今回のワークショップのテーマを初めに聞いた時はどんな討論ができるのか想像もつきませんでした。ところが実際に参加してみると、様々な地域から来た人たちの様々な意見を聞き、刺激を受け、自分も想像していた以上の意見を言うことができ驚きました。

皆それぞれ異なる経験を積んできている中で、プロフェッショナリズムについて討論ができたのは非常にいい機会でした。特に自分とは異なる意見を持っている人の話はとても刺激的で、視野を広げる貴重な経験となりました。また、この2日間で最終的に皆でまとめた行動宣言・行動計画は、私達が社会に出たときの1つの道標です。大いに理想を含んだ内容にはなっているけれど、それは皆で考えた理想であり、私自身の理想でもあるので、一步でもそこに近づけるように努力していきたいと思います。

最後になりましたが、今回このような素晴らしい機会を与えてくださった皆様に心より感謝申し上げます。

グループ I B 氏名 渡邊 尚也

今回のワークショップに参加した感想を一言で表すと、「楽しかった」になります。時間は本当にあっという間に過ぎました。僕は正直なんとなく推薦されたので参加した会でした。同期から様々な考え・意見・将来像などを聞くだけで多くの刺激を受け、自分のやる気を久しぶりに実感できる、向上心を再燃できるよい機会に参加してよかったと自信を持って言えます。薬剤師として将来働いていくことに対して、不安を感じる部分も多くありましたが、今回参加してみて、その不安を同世代の人たちと共有できたこと、それに対して自分たちが何かしていこうという気持ちをみんなで確認できたことは本当に良かったです。そして、今回出会えた同期と今後も交流を維持していきたいと強く思っています。

今回参加してみて、こういった活動の重要性を感じずにはいられません。今回のようにできれば他大学のひとと、交流を深め、意見を言い合い、刺激を受ける機会というのをできるだけ多くの人が経験できればいいなと感じました。また、薬学系のみでなく、他の医療系のひととも今回のような話をしてみたいと思いました。

グループ I C 氏名 石光 一幾

ワークショップ参加時は自分なりの偏った薬剤師像でしたが、他の学生との討論や情報交換を通じてより一層視野が広がり、薬剤師ニーズの広さを実感しました。

討論の印象に残っているのは、「積極性」です。私達の目指す薬剤師像は既存の薬剤師像を含め、医療格差のある過疎地域の医療充実、新たな職域拡大、さらなる生涯教育が課題であると考えさせられました。そのためには自ら情報発信や受信し、積極的な行動する必要があります、1C班ではその全ての原動力はPassion(情熱)だと考えました。passionを持ち、新しい世代の私達が新たな薬剤師像を築き上げ、次世代へ還元していくことで薬剤師のニーズが高まると思いました。

大学生活の中で、他大学の学生とこのような交流はなかったので新鮮で刺激的な時間でした。それと同時に他大学と交流の場を増やして頂ければと感じました。

最後になりましたが、このような貴重な体験を設けてくださった日本薬剤師会の関係者の方々、タスクフォースの先生に心より感謝申し上げます。また、2日間を共有した仲間に深く御礼申し上げます。

グループ I C 氏名 上田 夏瑞

この度全国学生ワークショップ (WS) へ参加させていただき、刺激のある有意義な2日間を過ごすことができました。本WSで学んだことは「行動力」がいかに大切かということです。薬剤師が臨床現場で活躍するためには、積極的に現場に足を運びニーズを把握し、それに応えることが重要です。又、普段から様々な場所へ足を運ぶことは、新たな出会い・価値観を知ることのきっかけになり、自分の視野を広げていくことができるに違いありません。特に私もそうですが、地方の大学では情報が入ってきにくいため、知らない世界が多く、自分の活躍の幅を狭めてしまっているように思います。

本WSを終えて私の6年間の学生生活が浅いものであったことに気付いたと同時に、今の医療の現状や薬剤師のニーズを知れたことで、薬剤師として働く気持ちが一層強くなりました。この出会い・経験を大切に、来春より薬剤師としてしっかり頑張っていきたいと思います。

最後になりましたが、本WSの運営・準備に尽力頂きました日本薬学会関係者およびタスクフォースの皆様、本WSの出会いの大切さを教えてくださった先輩方、さらに活発に討議し合った仲間に深く感謝致します。

グループ I C 氏名 大舘 祐佳

まず初めに貴重な機会を頂いた事に心より感謝致します。二日間という短い時間でしたが、メンバーにも恵まれとても内容の濃い充実した時間でした。

「私達のプロフェッショナリズム、私達が築く新しい医療と社会」というテーマの元グループの仲間達と共に多くの討議を行い、自分では思いつかなかった多くの視点や考えに触れ、自分の視野が広まりました。同世代の薬学生がこんなにも様々な意見を持ち考え実行している知り、その白熱した討議に圧倒され、とても刺激を受けたと同時に自分の甘さを痛感しました。Professionalについて深く議論した事で、自分がこの六年間学んできた事を薬剤師として社会にどう還元していくか自分を見直す良い機会になりました。今回行動宣言した事を実行出来る

よう、道は険しいとは思いますが行動していきたいと思っています。

また、全国の薬学生や卒業生の方々と交流する事で多くのお話を伺えた事も貴重な財産となりました。実習一つとってもそれぞれ違った経験をしており、それを共有する事で新たな発見もありました。

最後になりましたが、このワークショップに関わった全ての皆様に深く御礼申し上げます。

グループ I C 氏名 小田切 望

今回の第五回全国学生 WS に参加するにあたり正直に言うと私は不安の方が大きくありました。しかし、実際に参加者の皆さんと顔を合わせ話すうちにそんな不安はすぐになくなりました。皆さん明るく気さくな方ばかりでとても楽しい二日間を過ごすことができました。一つのテーマに関してここまで熱く語り合うことは同じ大学の同期相手でもしたことがなかったのですごく刺激になりました。今回のような機会がなければ、ここまで様々な考え・視点に一度に触れることは絶対に出来なかったと思います。同時に、自分の考えの未熟さ・甘さにも気づくことができ、今後どういう行動が必要か考えるための一つの指標を得ることができたと思います。

今回のような貴重な経験をさせていただいたことを感謝するとともに、WS 運営関係者の皆様に深く御礼申し上げます。またこのように濃密で充実した刺激的な二日間を過ごすことが出来たのはグループ I C の皆と出会えたからです。本当にありがとうございました。

グループ I C 氏名 毛屋 幸司

他大学の学生と交流したことがほとんどなかったので行く前は不安だったが、最初のアイスブレイクで積極的に話をしてくれる学生ばかりだったので、うまくうちとけることができた。長崎大学の薬学部生ともあまり将来どのような薬剤師になりたいか話したことがなかったのでとても新鮮で面白かった。また食事の時などの空き時間では実習、就職、研究など様々な情報交換を行うことができたことは有意義であった。議論を通して他の学生の経験や考え方を知ることができ、自分とは視点の違う見方もあり勉強になることも多かった。また議論においてコミュニケーション力の必要性を痛感した。自分の考えを論理的に相手に分かりやすく伝えることは薬剤師になってからも必要なのでしっかりと身に付けたいと思う。他の大学の学生と知り合いになりこれからも交流をしていきたいと思う。このような交流し議論する機会がもって増えてほしいと思う。今回このような場を提供し協力してくださった先生方や先輩方に感謝したい。

グループ I C 氏名 齊藤 凌

今回、全国学生ワークショップに参加させていただき、四年制から六年制教育が導入され「薬剤師のプロフェッショナルとは、どのような薬剤師が求められているのか」という内容を全国の薬学部の同期と情報交換をし合う、貴重な体験をすることができた。

最初は初対面の人ばかりで緊張していたが、World café で話し合ううちに自然と熱い意見を交わし合うまでに。その中でも「グループや班の仲間との協力」が最も印象に残っている。自分が何気なく発した一言が、様々な視点や考えによって、自分だけでは導き出せない意見をま

とめられたこと、チームで協力することでより質の高いものが出来上がることを実際に体験することができた。今回は参加メンバーとの協力だが、今後臨床の現場に出た際にはこの経験を活かし『チーム医療』として患者さんに還元できたらと思う。

医薬品の知識のみでスペシャリストになりがちな薬剤師だが、社会から何が求められているかを考え社会的使命に応えることが重要だと木下先生よりご教授いただいた。そのためにも処方せん上の医薬品だけでなく、患者さんと寄り添い物語を聞く NBIM を実践する薬剤師が求められていると、今回の WS を終えて強く思った。

グループ I C 氏名 寺井 唯

「私たちのプロフェッショナルリズム、私達が築く新しい医療と社会」というテーマで全国の学生とワークショップをした2日間は私にとって非常に充実し、楽しい時間でした。初めて会った薬学生とワークショップをするからこそ、普段なら照れてしまって言えない自分の夢について語ることができました。自分が言葉に出すことで、また他の人の話を聞くことで、自分の考え方や目標を自分自身でも明確にすることができました。

このワークショップを通して、社会人となった時、私は情熱を持ちプロフェッショナルとして患者さんに貢献していく責任があると感じました。また、今回のワークショップで出会った他の大学の方々は、才能や可能性に溢れている方ばかりでした。そのことは私に刺激になり、私も個性を活かして頑張っていきたいという気持ちになりました。全国にはこんなに心強い同期の仲間がおりみんなと共になら、責任を果たすために頑張っていけると感じました。熱い情熱をもって仕事をし、社会から求められるプロフェッショナルになりたいと強く思うようになりました。

今回のワークショップを開催するに当たり、ご尽力くださった皆様に心から感謝しております。

グループ II A 氏名 池田優理子

ワークショップを終えて、どういう薬剤師になりたいか、どういう薬剤師が社会から望まれているかなどより深く考えるようになりました。ワークショップでは自分と同年の人が普段こんなにもいろいろと考えて行動しているということに非常に驚き、すごくいい刺激にもなりました。また、今まで気づいていなかった自分の大学の良い部分も、他大学の方々に指摘されて初めて気づく部分もありました。今回このようなワークショップには初めて参加させていただきましたが、本当に楽しかったです。先生方の貴重なお話も非常に勉強になりました。ありがとうございました。

グループ II A 氏名 伊藤 聡子

この度は日本薬学会第5回全国学生ワークショップに参加させていただき、貴重な討論を経験することができました。タスクフォースの先生方をはじめ、関係者の皆様にお礼申し上げます。

各大学1名ずつ参加し、テーマも「私達のプロフェッショナルリズム、私達が築く新しい医療と社会」ということで、希望に満ち溢れたキラキラした薬剤師像（自分のこれまでの経験を集約

して得られるマイナスなイメージな薬剤師から遠くかけ離れたプラスイメージばかりの薬剤師像)を語りあう場かもしれない、と少々心配していました。しかし、会のはじめに「大学を代表していると思わなくてよい」という前置きをいただいたおかげで、積極的に「自分が思うこと」をぶつけることができました。

議論の中で、薬剤師という職業の現状に対して不満に思うことがありそれを変えたいという学生の一体感を感じました。私は不満を持ちながらも、薬局薬剤師という職業選択をしたので、その不満を原動力に変えて、素敵な未来を作る過程に必要な一員になろうと思います。

グループⅡA 氏名 内海 尊雄

今回のワークショップ(WS)を通して感じたことを2点ほど書き記そうと思います。

①多数の学生の意見で、薬学部卒業生はどんな職業のプロになるにしても「研究心」が大切だというものがありました。私も同感です。「研究心」を学生の内にもっと養うべきです。具体的に言うと、ある問題点を抽出し、仮説や解決策を立案し、それを検証、評価できる力(問題解決能力)を磨くべきだと思います。薬学生は研究室に配属されて卒業研究を行います、ただ先生の言われるがまま漫然と手を動かすのではなく、ある問題を解決するために自分の頭で考えることが大切なのではないでしょうか。薬学生はもっとこのことを意識すべきだと思います。同時に、薬学部の教員の皆様にも、薬学生の問題解決能力を伸ばす(手助けになる)ような御指導・教育を私は強く望みます。

②自分の世界の狭さを実感しました。WSに参加して、様々な物事の考え方、議論への取り組み方、卒業生や先生方のお考えの深さなど、本当に多くのことを学びました。研究に打ち込むのも立派なことですが、たまには研究室の外の世界にも関心を向けたほうが良いと思いました。視野の狭い人間にならないためにも…。

グループⅡA 氏名 河村 瞳

今回、薬学という同じ学問を学ぶ同学年の学生と関わり、心に深く残る、大きな刺激を受けました。私の考えにはなかった薬学部卒業後の進路や考えを持ち、積極的に発言する姿勢に感化されました。ひとりひとりがプロとしてのあるべき姿を真剣に考えて意見を交換したことは、新たな視野が広がり、自分自身の将来像がより明確となりました。そして、今まで薬剤師の職能や役割について考えることは少なく、患者さんや他の医療従事者に向けての姿勢しか考えていませんでした。今後の医療の発展や患者さんのための医療を提供するためには研究をする心、すなわち探究心を持ち続けることや次世代の薬剤師教育(共育)することも薬剤師としての大事な役割の一つであると実感しました。

ワークショップでは、改めて薬剤師の職能を考え、自分自身を見直す機会となり、今後も自己研鑽を続けなければならないという思いと有意義な時間を過ごし、大変貴重な機会となり、参加させていただいたことに感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

グループⅡA 氏名 菅原 弘貴

今回全国学生WSに参加してみて、多くの衝撃を受けました。私の価値観とは全く違う考え方や生き方。また、一人一人が現在のビジョンを明確にしており、何十年後先を見据えて行動

していること。普段の大学生活では味わえないような感覚を得ました。改めて自分の未熟さを痛感し、逆に最高の刺激をもらえた気がします。

この経験から思ったことは、薬学生はこのような交流の場に積極的に参加するべきであるということです。どうやったら薬剤師は社会のニーズに応えていくことが出来るのか、どうやったら周りから薬剤師の職能を理解してもらえるのか。普段ではあまり考えない事です。他大学の学生と意見を交換する事で様々な観点からその答えを導き出し、結論を出す。そして自分自身が薬剤師という職種をさらに理解し、好きになる。このような機会はめったにないと思います。だから学生WSは今後とも続けていってください。そして他己紹介やWould Café、寸劇のような面白い企画をぜひ入れていってください。

全国の薬学生が集うWSに参加させていただき、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

グループⅡA 氏名 瀧波 磨理江

ワークショップ自体初めての体験、さらに他大学との交流もほぼ初めてというとても不安な中、1日目を迎えました。午前中の他己紹介、ワールドカフェを経てだんだん緊張も解け、普段生活していた出会うことのできないたくさんの大学の仲間と話すことができました。今回、わたしが所属したⅡA グループはなかなか、個性豊かで、自分にはない感覚を持っていてディスカッションが本当に楽しく感じました。

今回のワークショップを経験し、仲間から刺激をうけ1セッション1セッションがとても素晴らしい時間でした。それと同時に、自分の意見を他人に伝える能力の高さを、肌で感じるようになりました。もっともっと、小さい空間に閉じこもるのではなく、どんどんこういう場に積極的に参加し、鍛えていきたいと思いました。

総括すると、本当に楽しく刺激をたくさん受けた2日間でした。企画してくださった方、卒業生の方など本当にありがとうございました！！

グループⅡA 氏名 丸山 修

今回、学生ワークショップに参加し、他大学の薬学部の学生と話し合い、多くの刺激を受けました。また、皆が高い志を持っていたことに驚きました。初めて会う同志たちに対し最初は少し緊張していましたが、最終的には積極的な意見交換ができたと思います。将来進む方面が決まっていた私は、意見も偏りがちでしたが、異なる視線で考える重要性を改めて実感することができました。就職後も他方面の意見を多く聞き、より良いプロダクトを作成していきたいです。また、二日間討論をしていく中で、数人が協力してプロダクトを作成するためのスキルも学ぶことができました。皆の志が高い分、大学でのSGDよりも高いスキルを得たと感じています。これに満足せず、さらなる高みをめざし、日々精進していきたいと思います。

最後になりましたが、今回学生ワークショップを開催するにあたりご尽力賜りましたタスクウォークの先生方をはじめ、関係者の皆様に感謝いたします。

グループⅡA 氏名 三好 祥太

今回の学生ワークショップに参加して、全国の薬学生とディスカッションなどを通して様々な意見・情報を交換することができ、大変貴重な経験となりました。各大学のカリキュラムや実習での経験、進路の違いなどをもとにした多様な価値観に触れることで、自分の見方・考え方が広がるのと共に、自分の価値観を以前より明確に自覚できるようになりました。

ワークショップではプロフェッショナルリズムや自分の夢について議論したが、薬剤師の活躍の場は研究・教育や病院、薬局、行政、製薬企業など多岐にわたり、理想の薬剤師について一概に言うことは難しい。しかし、各個人が理想を持ち、目標に向かって努力していくことが、薬剤師が未来の医療と社会に貢献することにつながっていくと思いました。

今回のワークショップは2日間という短い期間ではありましたが、多くのことを学ぶことができました。今回学んだことを残りの学生生活や薬剤師として社会に出た後に活かすと共に、大学の仲間や後輩とにも伝えて、次につなげていきたいと思います。

グループⅡB 氏名 青木 雅史

日本薬学会第5回全国学生ワークショップに参加させて頂き、充実した2日間でした。初日では、自分のグループを見渡すと偶然にも知っているメンバーがいましたが、まだ知らない人がたくさんおり、全国の広さを感じました。各ディスカッションでは、各々が実務実習の経験や日常で感じていること、理想など様々な考えがあることを知りました。それだけに限られた時間で、全員の考えをまとめる難しさを感じるWSでもありました。WSで私が強く感じたことは、「他を知り、自分の現在地を知ったこと」だと思います。大学6年を過ごしていても全国の状況など一切知りませんでした。実際に他の学生の声を聞くことで共通する点や異なる点があり、今ある自分の周りの環境がどのような状況であるのかを再認識できました。

今回のように全国の薬学生が集まり意見交換をし、さらには滅多に会えない職種の先輩や先生方と交流できたことは、これまで知らなかったことを知る上でとても良い機会でした。今回のWSをきっかけに同期である横糸を繋ぐ機会を頂いたので、これを活かしてまずは横糸をより強いものにし、縦糸を結びきっかけを掴むべく今後も自ら行動したいと思います。

グループⅡB 氏名 今井 伸治

今回のワークショップに参加して、就実大学の中だけでは得ることのできない学外の薬学生との繋がりが持てたこと、そして、全国のさまざまな学生と討論を重ね、それぞれが抱える熱い思いを聞けたことは、私にとって本当に貴重な財産・経験となりました。また、周りを変えていくのは自己の行動であることも、改めて認識することができました。

薬剤師は、目の前の事だけではなく、医療・社会全体にまで目を向けることが必要不可欠だと考えます。総合討論の中で、薬剤師全体の将来像や自分自身の将来像を思い描き、今後の具体的な行動宣言を決定したことは、自分の夢の実現に向けた大きな原動力になると強く感じました。本当に楽しく、今後に繋がる2日間でした。

今回、ワークショップ参加という貴重な機会を与えていただき、本当にありがとうございました。また、開催に向けてご尽力いただきました関係者の皆様、ならびに、同じ時間を共有した各大学の学生の皆様に、心より感謝申し上げます。

グループⅡB 氏名 久米谷 萌水

今回、第5回全国学生ワークショップに参加させて頂くことで、非常に有意義な2日間を過ごすことができました。今までの研究内容や目指す職種の異なる全国の薬学生と出会い、様々な意見を聞くことで、こんな考え方もあるのかと驚くことが多く、とても良い刺激になりました。今まであまり考えたことのなかった「プロフェッショナルリズム」について2日間考え、ディスカッションする中で、目指している職種によって観点は変わってきても、「患者さんや社会のために貢献していきたい」という気持ちは皆持っているのだと感じることができました。

また、ディスカッションを進めていく中で、他者の意見を聞き入れて理解し、さらに自分の意見を伝えることの難しさを痛感しました。今後薬剤師として働く上で、他者の意見を聞き入れて理解し、さらに自分の意見を伝える力は必要になっていくと思うので、精進していきたいと思いました。

今回話し合った「プロフェッショナルリズム」について自分なりに改めて考え、成長するための糧にしていきたいと思います。

グループⅡB 氏名 佐々木 彩乃

全国学生ワークショップ（以下、WS）は、私にとって非常に刺激的な出会いの場でした。各大学から一人ずつが参加するという一方で、集まったメンバーはそれぞれに育った環境や学んだ環境が異なり、目指す進路も様々です。一人一人が独自の考えを持っているため、互いの意見を共有することで一つの議題に対して複数の側面からアプローチをすることができ、そこから新たな見方が派生していく面白さを実感しました。そして、この先歩む道は違えども、プロフェッショナルとしての薬剤師を目指すことには変わらないため、討議を重ねるにつれて同じ大きな目標を持つ仲間同士の連帯感が生まれたようにも思います。

さらに、私にとってWSはグループ討議や発表の技能を磨く経験の場でもありました。特に司会は討議の方向性を決定、時には軌道修正するという非常に重要な役割を担っています。それ故に、議論を円滑に進め、より実り多きものにするためには、常にグループ全体への細やかな気配りが必要であることを痛感しました。

今回のWSは多くの人との出会いを通じて、自分達の将来を見つめ直す貴重な機会となりました。最後になりますが、WSでお世話になりました皆様方に厚く御礼申し上げます。

グループⅡB 氏名 名執 翔

私が今回のワークショップに参加して印象に残った事は沢山ありました。他大学の優秀な同期生との出会い、先生方との出会いそして薬剤師としてのプロフェッショナルとは。答えのない議論であり、それぞれが自らの答えを心に持ちながらのディスカッションに学生ながら熱く討論致しました。私が最も印象に残ったことは、8人のスモールグループに分かれて薬剤師としてのプロフェッショナルについてSGDを行い、寸劇という形で発表会をした事です。この背景を紐解いてみると、それぞれの意見をSGDでまとめ、グループとしての重要な考えを劇としてアウトプットします。それぞれが役者になりきり、自由な言葉でその場にいる人たちに訴えかけることはとても難しいことです。短い時間の中で真剣に議題であるプロフェッショナルについて、グループ全員が偏りなく理解し共有できて初めて成り立つものです。私の班を含め、

発表を拝見出来た他の二グループの発表はそれぞれ違う観点から薬剤師のプロフェッショナルについて考えられたものでした。それぞれ正解であり、私たちが社会に出て実践していかなければならない事が凝縮されていました。

グループⅡB 氏名 福井彩香

全国の薬学生が集うワークショップ。どんな人々が集まりどのようなWSが出来上がるのか、非常に楽しみにしながら参加させていただきました。WSは非常に充実したものであり、みんな真剣かつ積極的に参加しつつも、堅苦しすぎない自由な雰囲気が非常に印象的でした。周囲の環境や進路が異なるにも関わらず、皆が今日の薬学教育や薬剤師の職能に対する問題意識を持っていること。しかしながら、薬剤師の直面する課題に対する意見は多様であるという面白さを実感しました。WSでの学びや繋がりを単回で終わらせるのではなく、仲間との絆を活かし今後の薬学界の発展に貢献できる人材になりたいと強く思います。今後ともこのWSが結意義なものとして引き継がれ、WS参加者が中心となり各大学や各業界における薬学生・薬剤師の活動の活性化に繋がることを願い、実現するよう貢献していきたいと考えております。最後になりましたが、このような場を提供してくださったWS運営関係者の皆様、夜中まで熱く語り合った参加者の6回生に深く御礼申し上げます。

グループⅡB 氏名 松浦 渉

今回、日本薬学会第5回全国学生ワークショップに参加して、同期の学生と意見交換することができ、大変貴重な時間を過ごす事が出来ました。

私は、少し人見知りする性格で、色々な人と討論をすることがあまり得意ではないので、最初はすごく不安な気持ちでこのワークショップに参加しました。二日間における討論で私は少しでも自分の考えていることを発言しようと試みましたが、同期の行動力・発言力に圧倒され、積極的に討論に参加できませんでした。さらに、自分では考え付かなかったような意見を多く聞くこともでき、大変刺激的な二日間となったと同時に自分の考えの甘さを痛感した二日間でもありました。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださった大学の先生、日本薬学会の関係者およびタスクフォースの先生方、先輩方に心より御礼申し上げます。

グループⅡB 氏名 渡辺 鮎美

今回の全国学生ワークショップ（以下、WS）では、全国で薬学部のある大学ほぼ全ての学校から1人ずつ集まりました。それに加えて、全国の薬学部の先生方、文部科学省の方、また過去のWSに参加されたOB・OGの方も30名ほど参加されるという想像していたものより遥かに大規模なWSでした。テーマは、「私たちのプロフェッショナルリズム、私たちが築く新しい医療と社会」というもので、まだ社会に出たことのない私たちが学生の立場で考えるには非常に難しいものでした。学んだ環境は全く違っても、学生間で出た意見は似通っているものが多かったのです。参加されている社会人の方の意見も組み込んだ議論ができた方より良いものになると思います。難しいテーマを議論する中でも、実習や現場を見て疑問に感じたことをぶつけあいながら互いにその意味や自分たちなりの解答を模索しながら考えることが出来たのは非常に良い

経験となりました。今までの学生生活で、全国の薬学生と関わり合う機会はたくさんありましたが、今回もまた新しい出会いがたくさんあり、楽しいと思える議論をし続ける2日間を送ることが出来ました。これからもこの繋がりを大切にしていきたいと思います。

グループⅡC 氏名 池谷 怜

何より楽しく、充実した2日間であり、各大学の同期から良い刺激を受けるばかりでした。薬学人として各人が考えたプロフェッショナリズムは、突き詰めれば同じことであり、今回参加することによって、今後、自分がどうであれば良いかの指針を得たように思いますが、同時に、考えるべき課題として残されたこともいくつかあったように思います。

印象的だったのが、「大学ではなかなかこういうことを真面目に話せない」という声でした。各大学から代表として来るだけに、思うところのある方ばかりで議論も白熱しましたが、それが一部の薬学人でしか行えないことだと思うと、僅かばかり寂しく感じます。一部の集団が声を大にするばかりではなく、薬学部 に在学する学生であれば誰でも、今一度、薬学について、そのプロフェッショナリズムについて考えてみてはどうかと思いました。変革期である今だからこそ。そして、今回のワークショップに参加した私の役目としては、印象に残った数々のお話を、大学に持ち帰って多くの方と共有することであると感じています。

グループⅡC 氏名 梅川 奈津実

今回のWSに参加して、改めて議論の大切さと難しさを感じながら、今回の全体のテーマであるプロフェッショナルということについて考え抜くことができたように思います。議論を行う中で、1つのセクションをとっても同じテーマでありながら結果は班によって異なり、根幹となるものも違いました。これはそのメンバーだからこそ辿り着いた結果であることを物語っており、1人では得られなかったものばかりだったと思います。私たちⅡC班は、度々意見がぶつかり、話し合いが難航する場面もありましたが、これも良い議論ができた証拠だと感じています。

そして、プロフェッショナルというテーマについては、社会に出る前のこのタイミングで考えられたことが良かったと思います。というのも、自分たちで考えたことを、近い未来現実に活かすことができるからです。社会に出てみて答えが見つかるものの中にはあったので、この経験を胸に、社会でも頑張ろうとより一層思うことができました。このような実りある機会を与えて下さった全ての皆様に感謝致します。体力も使いましたがその分得るものがあり、あと1,2日欲しいと思えた程充実したWSでした。ありがとうございました。

グループⅡC 氏名 橋本 由李

「薬学部」という共通項を持っていながら、国公立大学と私立大学、総合大学と単科大学で環境がまるで違いましたが、これからの薬学業界を自分の手でより良くしていきたいという思いを皆が持っていることを感じ、とても心強く思いました。また、参加者の進路も、臨床、教育、研究分野と様々でしたが、薬学業界の問題点に、この三つの分野からアプローチすることで、より良い業界の発展につながるのではないかと感じるほど、特にディスカッションのメンバーは頼りがいがありました。

今回は、6年間という長い大学生活を経ての、このような場でしたので、一種の集大成のようなものだと感じていました。実際にディスカッションでは、6年生ならではの意見が多く出たと感じています。その全てを結論につなげることはできなかったのが、ディスカッションの過程で出た貴重な意見や浮き彫りになった問題点などを、今後も考え続けたいと思います。

最後になりますが、このような場を用意してくださいました、学生ワークショップ担当の先生方、同ワークショップの卒業生の先輩方、また二日間共にディスカッションをしたⅡC班のメンバーに深く感謝いたします。

グループⅡC 氏名 東本 諭哉

この度は日本薬学会学生ワークショップに参加させていただき、貴重な経験を得たと思います。今まで、他大学との方々との交流は普段することは出来ないことであり、薬剤師として目指す場所も様々で、あらゆる方面に向かう人との会話はとても有意義な体験でした。今回のワークショップでは「私たちのプロフェッショナリズム、私たちが築く新しい医療と社会」というテーマのもと討議を行い、会話を繰り返す内に多くの発見・刺激があり、それぞれの価値観、考え方を広げることができたと思います。2日間と短い期間でしたが、自分自身がこれから進む目標に対して、どのようにしていくべきなのかを考えさせてくれる場となりました。最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださいました日本薬学会の関係者の皆様、タスクフォースの先生・先輩方に心より御礼申し上げます。

最後になりましたが、このような貴重な機会を設けてくださった日本薬剤師会の皆さまをはじめ、今回のワークショップ開催にご尽力いただきました皆様に心より御礼申し上げます。

グループⅡC 氏名 山田 晃己

今回のワークショップ（WS）では「プロフェッショナリズム」について話し合った。明確に答えがないテーマについて話しているなかで、自分は「自分で考える」ことがあまりできなかったように思えた。他の学校の学生が流れるように意見を発言しているのに対して自分はあまり意見を持つことが出来なかったからだ。グループⅡの発表のなかにもあったが、薬剤師はプロとして患者・他職種・社会に情報を発信していく立場にある。将来薬剤師としてプロフェッショナルを発揮するためには自分の意見を明確に持ち、それを周囲に発信していかななくてはならない。今回のWSでは自分に今なにが不足していてなにが必要なのがわかるきっかけとなった。

また、他の学生を見ていると自分の意見を明確に持っている人は活動的な印象がある。経験に基づいているので意見が明確になっているように思える。趣味やサークル活動、運動、アルバイトなどそういった様々な活動は、人とのコミュニケーション能力や社会意識が蓄積する。自分はこういった経験が他の学生と比べて圧倒的に少ないように感じる。今後は様々なことに興味をもち積極的に取り組むことで経験を積んでいきたい。

グループⅡC 氏名 吉田 優哉

全国の同期が一堂に集う、他ではまずありえない機会でしたので、活発な議論や交流ができることを大変楽しみに参加させていただきました。その期待は裏切られることなく、むしろ想像していた数倍も有意義なWSでした（そして想像していた数倍疲れました）。お話ししたすべての方々から溢れんばかりの薬学部、薬剤師に対する「愛」を感じることができ、（特にグループでは）激しい議論になったりもしましたが、この「愛」のお蔭で不快さや不満はなく、むしろ心地よさしか残りませんでした。普段私の周りにはここまで薬学部を愛している人はおらず、大変寂しく感じていたので、それだけでとても励みになりました。

ここからは要望なのですが、せっかく参加されていたOBの方々に、もっと自身の「夢」について語っていただければよかったな、と感じました。「夢」を託すのも「教育」であり、つまり「プロフェッショナリズム」です。このWS自体も企画された先生方の「夢」を私たち学生に託す、という側面を強く感じました。ならば、OBの方々にも学生に対して「プロフェッショナリズム」を発揮する機会があってもいいのではないのでしょうか。私は来年もOBとしてこのWSに参加する気満々ですので、次は私も「プロ」として夢を語れたらいいな、と思います。

グループⅡC 氏名 吉光 咲弥

全国の薬学部の学生が一同に介して意見交換をする場というのは、これ以外にはないのではないかと思います。そのような貴重な場に参加できたことのありがたさをいま改めて感じています。グループディスカッションではどのセッションでも多くの意見が出て、活発で有意義な話し合いが出来たと思います。私たちのグループでは、話し合いが盛り上がり時間ぎりぎりまで意見がまとまらない場面も何度もありました。しかし、ここまでの議論が出来る場は大学生活の中でもほとんどなく、とても充実した二日間でした。また、プロフェッショナリズムについて二日間じっくりと向き合ったことで、自分が将来どのようなになりたいか新たな道筋を発見できたように思います。さらに、全国から集まっていた皆さんがとても素晴らしい方々で、今後につながるととても大きな刺激をもらえました。この度、日本薬学会第5回全国学生ワークショップに参加出来たことはとても貴重な経験になりました。

最後に、今回このワークショップに参加する機会をくださった学校関係者の皆さん、このワークショップを主催してくださった皆さんをはじめとするワークショップに関わってくださった皆さんに御礼申し上げます。

グループⅢA 氏名 近藤 健太

今回日本薬学会第5回全国学生ワークショップに参加させて頂き、普段の大学生活では得られない貴重な体験や学びが得られた2日間でした。World Caféでは、短時間で多くの方の考えや、これまでの体験談を聞くことができ、とても勉強になりました。

SGD・総合討論ではプロフェッショナリズムに関連する議題をチームで積極的なディスカッションが行え、自分では思いもつかない意見も聞くことができ、学びのとても多いSGDでした。

私は現在病院薬剤師を目指していますが、今回のワークショップを通じて、同じ薬学を学んでいる学生が、薬局、製薬企業、大学教員など様々な職種を目指し、それぞれの目標に向かっ

て自己研鑽しているだけでなく、薬学に関する様々な職種に関する学習を、自ら進んで行っていることを知り、とても刺激を受けました。また、今後はもっと幅広い視野で学習を行い、様々な視点から物事を考えられるようになりたいという意欲を高めることにもつながりました。このワークショップで得た貴重な経験を今後の学びに活かしてこれからも学習に励んでいきます。

最後になりましたが、このような貴重な経験をさせて頂いたことに心から感謝いたします。ありがとうございました。

グループⅢA 氏名 伊達 裕美子

私は、このWSに参加してよかったと声を大にして言いたいです。日本中の薬学部の学生が集まり、泊まり込みでこれからの薬学や医療について議論をする。スケールの大きさに胸を高鳴らせながら、WSに参加させて頂きました。初めは少し緊張していたものの、他己紹介やワールドカフェでお互いのことを知る内に緊張はほぐれ、すぐに打ち解けることができました。プログラムが豊富で時間も十分にあったため、班で議論を重ねる中で飾らずに思ったまま意見を言いあえたことが印象的でした。今まで大学の仲間とさえ薬学や医療について議論する機会は少なく、全国の薬学生としての意識が高い仲間と熱く語り合えたことは本当に貴重な経験となりました。様々な考えに触れることができたことは、このWSでの一番の収穫です。また、多くの人と議論することの楽しさや大切さを実感できたことも、私にとって非常に意味のあるものとなりました。残り半年ほどの学生生活ですが、まずは周囲の人たちと、今まで以上に色々なことを話しあえる場を作っていこうと思います。

このような貴重な経験をさせて頂き、本当にありがとうございました。WS運営関係者の皆様と参加者の皆様に深くお礼申し上げます。

グループⅢA 氏名 田辺 聡

同じ大学内という一つのコミュニティから外へ出て全国の大学の薬学生と出会い、様々な話を通して意見を共有できた事はとても刺激的で身のある二日間であった。普段の生活ではなかなか考えることのできない薬剤師としてのプロフェッショナルリズムや自身の将来像、現在から将来に向けた薬剤師の職能などについてディスカッションを通して他の人の意見も聞きながら深く考えることができた。同時に、自身の夢ややりたいこと、キャリアプランなどを明確にイメージし、自分の考えをしっかりと持った人達ばかりでとても刺激を受けた。このような熱い気持ちを持った人達と同期である事を誇りに思うとともに、これからの医療を共に担っていけることに心強ささえ感じた。今回の様に、ネットワークを広げ大学という垣根を超えて交流を深め、全国の薬学生と切磋琢磨していくことが日本のより良い医療につながっていくと感じた。このような機会を与えてくださった関係者の皆様に感謝の意を表するとともに、以後、様々な形で後輩に受け継がれていくことを切に願う。

グループⅢA 氏名 出町 歩

平成27年8月8日～9日にかけてクロス・ウェーブ府中にて行われた日本薬学会第5回全国学生ワークショップに参加させていただきました。

そもそも、本 WS に参加した経緯は自発的なものではなく、他に参加者が見つからないという理由で大学側から参加を指示されたことがきっかけでした。また、私自身の進路は大学院博士課程進学へと決定しています。つまり、薬剤師として働くわけではない（少なくとも WS が始まるまではそう思っていたわけですが）にもかかわらず、自分が「プロフェッショナリズム」や「医療と社会」などを全国の学生と話し合うことなどできるのかと考えていました。

本 WS は三つの連続したテーマに分かれており、それぞれ SGD と発表を繰り返して行いました。私が所属したグループは幸運（？）なことに、博士課程進学者が 3 / 8 という高い割合で参加しており（他に薬局・病院薬剤師 4 人、治験コーディネータ 1 人）、研究と実地そしてそれらをつなぐ治験という広い視野で議論を進めることができました。議論を進めて意見を交わすうちに、患者さんの苦しみを取り除くこと（また、それらを積み重ねることによる「薬剤師の社会貢献」）を目的としているという意味では、研究も実地も治験も同じ「薬剤師」の責務であると気づきました。そのように考えると、6 年制からの博士は実地も経験している博士であり、より「薬剤師」らしい研究者たりえる存在なのだと思います。

最後に、同じグループの素晴らしい仲間たちと本機会を与えてくださった方々に感謝を表したいと思います。ありがとうございました。

グループⅢ A 氏名 長谷部 早紀

今回ワークショップに参加して他大学の方と会い、多様な考えを知ることができた。他大学の薬学部の方と話す機会というものなかなかなく、ここで多くの人と知り合えたことは、貴重な機会だったと思う。集まったのは同じ 6 年制薬学生だが、薬学出身者として進みたい道は研究・臨床・開発というようにそれぞれ違う。その道で何をしたいのか、どうしてそう思うのかを話し合い、自分とは違う進路に進む方達のその業種に対する思いを感じたことで、薬学関連の他職種に対する理解が進んだように思う。また、他の方の考えを知れたことのみならず、多くの意見を聞き議論を重ねていくうちに、自分のしたいことは何なのか、薬剤師としてどうなるべきかということを経験し、将来に対する自身の考えが深まっていったのも成果のひとつである。実際に就職し現実に直面したらまた考えは変わっていくのだろうが、今回このワークショップで考えたことは、薬剤師になる前の初心として忘れずにいたいと思う。

グループⅢ A 氏名 福島 美岬

ワークショップは当初考えていたよりはるかに和やかな雰囲気で行われました。ほぼ知り合いのいない状態からのスタートでしたが、前後の自分のイメージをあまり考えなくて良い分、むしろ率直な意見を発しやすかったです。参加者は推薦、自薦など選抜方法はそれぞれですが、全員が今回のような会に参加する学生ということで、意見が出ずに討議が滞ることはありませんでした。本当に有意義な時間を過ごせたと思います。また、全国規模で他大学の学生と交流する機会はほとんどないため、情報を交換するにはとても良い場所でした。さらに様々な進路を考えている同期生たちや既に就職している先輩方が参加しているため、もう一度自分の進路について深く考える良い機会にもなりました。2 日間のプログラム終了時はもちろん疲労もありましたが達成感が大きかったように思います。参加前は薬局や病院の薬剤師を目指す学生がほとんどだと考えていたため、私と同じように博士課程進学を目指す学生が多く参加して

いたことは安心できました。しかしその反面、進学を目指す学生の中でも自分が他の学生とかなり異なる意見を持っていることに驚きました。

グループⅢA 氏名 吉澤 美咲

日本薬学会第5回全国学生ワークショップに参加し、全国の薬学部の学生たちと討論をした2日間は大変貴重な経験となりました

私の班のメンバーの進路は臨床開発モニター1名、薬剤師4名、博士課程進学3名でした。臨床現場で働く薬剤師視点と基礎研究をする研究員視点で「薬剤師のプロフェッショナル」としての考え方は共通するものが多くありました。特に一番共通した意識としては「どんな職業であっても、実務実習を通じて身に付けた患者さん目線を大切にする」ということでした。しかしながら、「患者さん目線はどのようなものか」を考える機会のある授業がないという意見がありました。

私は今後薬学部に入ってくる学生には、薬学部卒業者の多岐に渡る進路を知ってもらい、それぞれの職種から感じる「患者さん目線とは何か」を考える機会を作っていきたいと思いました。

今回このような貴重な経験をさせていただいたことを感謝するとともに、日本薬学会学生ワークショップ運営関係者のみなさまには深くお礼申し上げます。また、熱く討論し刺激的な2日間を与えてくれた参加者の6年生、先輩方にも重ねてお礼申し上げます。

グループⅢA 氏名 吉田 寛伸

全国の薬学部6年生が集まると伺っていたので、薬剤師志望の方がほとんどなのだと思っていましたが、実際には研究方面の志望の方も多く、私の属した班も4人が薬剤師、3人が研究、1人がモニター志望とバラエティに富んでいました。班でのディスカッションは意見が活発に飛び交うだけではなく、互いがそれぞれの意見をしっかりと聞き、理解したうえでさらに議論を発展していく、まさに理想的なディスカッションとなっていたと思います。薬に関わるものとしてのプロフェッショナルリズムを臨床、研究の2つの視点から考え、意識を共有できたことは、将来薬剤師として働いていく上でとても重要なことであり、そのようなことを話し合う場を今の時期に得ることができたのはとても幸運なことです。タスクフォースおよび卒業生の方々、そして参加学生たちには心より感謝申し上げます。

此度のワークショップによって、自分の将来像により具体性を持たせることができました。皆から受けた刺激をもとに、その将来像に近づけるように一層の研鑽を積んでいきたいと思えます。

グループⅢB 氏名 今井 貴彦

第5回全国学生WSに参加し、思いの外、博士課程に進学し研究をもう数年続ける学生が多いことに驚きました。私自身も博士課程進学志望であるため、同じ進路の学生と意見交換をでき、見識が広がりました。

プロフェッショナルという漠然としたものから、最終的には薬学部卒として考えていかねばならないことを2日にわたり討議しましたが、一貫して大事だと思ったのは、社会にどう貢献

していくか、ということだと思いました。私の中での薬剤師は、広い医療知識や実務能力を持つジェネラリストであることは必須であり、そこへ何か+αをすることでスペシャリストにもなる、ということが今の社会に求められていると思います。薬学部が6年生になった今だからこそ、薬だけでなく、もっと様々なことに手を出し職能を広げていかなければならないのでは、と常々思っています。他職の領域に手を出すのはよくないことかもしれませんが、もっと食欲に学ぶ姿勢をもつことが最終的に社会貢献につながるのではないのでしょうか。以上のことを文部科学省や現在薬剤師として働いている方々と討議でき、とても為になりました。

このWSでは、同じ薬学部でも様々な地域・学校から来た学生と意見交換ができましたが、皆思い思い発現した為、新しい視点を持つことができました。その分、まとめるのが大変でしたが、この短期間で1つ成長できたと思えます。

貴重な経験をさせてくださった、他大学の学生や関係者の方々に感謝しております。ありがとうございました。

グループⅢB 氏名 今井 貴彦

第5回全国学生WSに参加し、思いの外、博士課程に進学し研究をもう数年続ける学生が多いことに驚きました。私自身も博士課程進学志望であるため、同じ進路の学生と意見交換ができ、見識が広がりました。

プロフェッショナルという漠然としたものから、最終的には薬学部卒として考えていかねばならないことを2日にわたり討議しましたが、一貫して大事だと思ったのは、社会にどう貢献していくか、ということだと思いました。私の中での薬剤師は、広い医療知識や実務能力を持つジェネラリストであることは必須であり、そこへ何か+αをすることでスペシャリストにもなる、ということが今の社会に求められていると思います。薬学部が6年生になった今だからこそ、薬だけでなく、もっと様々なことに手を出し職能を広げていかなければならないのでは、と常々思っています。他職の領域に手を出すのはよくないことかもしれませんが、もっと食欲に学ぶ姿勢をもつことが最終的に社会貢献につながるのではないのでしょうか。以上のことを文部科学省や現在薬剤師として働いている方々と討議でき、とても為になりました。

このWSでは、同じ薬学部でも様々な地域・学校から来た学生と意見交換ができましたが、皆思い思い発現した為、新しい視点を持つことができました。その分、まとめるのが大変でしたが、この短期間で1つ成長できたと思えます。

貴重な経験をさせてくださった、他大学の学生や関係者の方々に感謝しております。ありがとうございました。

グループⅢB 氏名 菅 倫子

全国の各大学の薬学生たちがこのように一堂に会して集まるこの貴重なプログラムに参加させて頂き、他大学の方達と話し合う機会を持てたことは本当に貴重で有意義な経験となりました。議論をしていく中で、多くの人が現在の薬剤師の在り方に危機感を持っていることを実感し、今後の薬剤師の在り方、そのためにどうするべきか、様々な意見に触れ活発な議論に身を投じることができたのは非常に良い刺激になり、視野を広げることに繋がりました。

また、それぞれが個々の進路を選択しながらも、強い意志を持ち社会に貢献していきたいと

いう共通の思いを抱いていることを実感し、そのような仲間と出会えたことは嬉しく今後もその繋がりを大切に、互いに切磋琢磨していきたいと思いました。今回得られた経験を今後活かしていくと共に、周囲に発信し共有していきたいと思います。

最後に、このような素晴らしい機会を与えて下さった関係者の方々、2日間共に過ごした同期の皆さんに深く感謝致します。

グループⅢB 氏名 栗原 潤

今回の日本薬学会第5回全国学生ワークショップに参加させて頂き、他大学との学生と1つ1つのテーマに向かって討論をしたり、情報を交換することができ、とても有意義な2日間を過ごす事ができました。

今回は「私達のプロフェッショナリズム、私達が築く新しい医療と社会」というテーマで、実務実習等の今までの経験を通して、薬剤師として必要なプロフェッショナリズムの要件についてそれぞれ意見を出し合い、さらにプロフェッショナルとしてやるべきことを考えることができました。討論していく中で仲間の様々な考え方に触れる事ができ、色々な意見をまとめ、最終的に1つのプロダクトを完成させる事が出来ました。このような経験を、今後薬剤師として患者様や他職種との関わりの際に活かしていきたいと思いました。進む進路はそれぞれ違いますが、同じ薬剤師として社会に貢献していくたくさんの仲間に出会うことができ、この繋がりをこれからも大切にしていきたいです。

最後になりますが、今回このような貴重な場を与えて下さった関係者の皆様、2日間共に討論を交わしたⅢB班の仲間に感謝します。

グループⅢB 氏名 坂田 紫帆

今回日本薬学会第5回全国学生ワークショップに参加し、他大学の学生と交流できたことは大変貴重な経験となりました。今までの学生生活の中で他の薬学部との学生と触れ合う機会はほとんどなかったため、全国各地の薬学部の話しを聞くことができ、勉強になりました。ワークショップを通して様々な考えに触れ、今までの自分の視野の狭さを思い知りました。志が高い皆さんと意見を交換することで自分が今まで思っていたよりも、もっとたくさんの可能性が薬剤師にはあると思うことができ、とても有意義な時間となりました。また私自身が今まで抱いていた薬剤師の職能について同じような考えを持っている人がいることを知り、たくさんの人と意見を交換する重要性を改めて認識しました。そのためにも自分の意見を積極的に発信していけるようになりたいと思います。将来、広い視野を持って微力でも社会に貢献できる人間になりたいと思います。

最後になりましたが、今回このような機会を設けて下さった関係者の皆様、そして参加者の皆様に心から感謝申し上げます。ぜひ今後ともこのような素晴らしい機会が続いていくことを願っております。

グループⅢB 氏名 清水 南

この学生ワークショップに参加し、多くの薬学生・先輩方・先生方と議論する事で、充実した2日間を過ごすことが出来ました。また、真剣に自分達の将来、さらには薬剤師の未来を考

えている全国の学生と知り会えたことが一番の収穫だったと思います。

このWSでまず驚いたことは、薬剤師の多様性です。同じ薬学を6年間学んできたにも関わらず、病院・薬局等の臨床で働く薬剤師、行政や研究機関、また企業や治験のモニターなど様々な進路について語る同期を見る事で、薬剤師の持つ多様性を実感出来ました。そのようなメンバーが集まるグループでの議論はとても楽しく、皆の視野の広さに感動するばかりでした。特に、自分の意見が他のメンバーの意見とぶつかり合うことで、磨かれたり、自分自身考えてもみなかった問題点に対する解決法を提案してもらったり、時には新たな視点から見直すことが出来たりなど、8人の力で一つのプロダクトを作り上げる過程に心躍りました。一つ残念だった点は、各グループが作ったプロダクトをチームで発表した後の意見交換の時間が短かった点です。

今回のWSを通して学んだこと・考えたことを今後どのように薬剤師として生かしていくか、自問自答し、周囲の仲間たちと共有していきたいです。

グループⅢB 氏名 瀬田 有似子

今回のWSで、初めて真剣に薬剤師という仕事に向き合い考える時間を過ごす事が出来たと感じます。

グループ討論だけでなく、寸劇や夜の情報交換会は、よりプロフェッショナルとは何か、討論だけでは得られなかったものを得たように感じます。中でも卒業生から今後の薬学業界を動かすのは私達であるという話を伺った時は、今までは業界を動かしていく人はほんの一部で私には縁のない話だと感じていたからこそ、その使命の重さを実感し身の引き締まる思いでした。

特に心に刻んで行動していこうと感じた事は2つです。

1つめは、薬剤師は様々なフィールドで活躍しており、それでも最終的には社会貢献という形で同じ方向を向いている、という事です。普段は実感しにくいですが、相互に情報発信をしていくことでよりよい社会貢献に繋がっていきたいと感じました。

2つめは患者さんの物語を把握し、理解した上で医療を提案する事です。自己満足の医療で終わらせないよう、積極的に患者さんやチームとコミュニケーションを取っていきます。

そして最もこのWSで得たものは、ここで出会った人との繋がりです。この繋がりを一生の財産にして今後繋がる行動をしていこうと思います。

是非また参加させて頂きたいです。ありがとうございました。

グループⅢB 氏名 藤田 裕太郎

今まで全国の学生が集まって話し合いをするといった場に参加したことがなかったため、今回ワークショップへ参加して、とても刺激的でした。各大学で同じことをやっているのだと思うこともあれば、大学固有の取り組みをされているところもあり、驚きが多かったです。

感想として、WSの内容に関しては、WorldCafe、KJ法、寸劇での表現など毎回テーマに対して異なるアプローチができ、毎回考えさせられたので方法が変わるのはよかったです。また、アドバンスド情報交換会があったのもよいと思いました。各セッションの合間にテーマ以外の意見を交換する時間があまりないので、情報交換の場を提供していただけたのはありがたかつ

たです。

意見としては、1日目と2日目のメンバーをシャッフルした方がより多くの意見が聞けるかと思うので、情報交換会の後に他個紹介を入れてもいいかと思いました。

最後に、はじめは知らない人ばかりで緊張しましたが、初めて知り合った人だからこそ自分の考えを率直に伝えることができ、相手の言葉に素直に耳を傾けることができました。とても刺激的な2日間をありがとうございました。

グループⅢB 氏名 山田 侑世

今回、全国から集まった今後の薬学を担う同志と深甚なディスカッションを行うことができました。本ワークショップのテーマは、我々のプロフェッショナリズムとは何かを考え、それを持った上で今後の医療や社会をどう築くかという難題でした。しかしながら、お互いの夢を語り、プロフェッショナリズムとは何かを考え、それをどう社会に生かすのか、周囲の意見を聞き、まとめながら段階的に意識を構築することができたのでそれぞれの思想が明確になっていったと思います。意見を交わす中で、自身の思う夢や将来像は各々違えど、医療の質、更には社会の幸福度を向上させようとする目的には親和性があるのだと感じました。また、時間に制限のある中で意見をいくつかにまとめ、更にそれらを総意として集約させる難しさも体験できました。お互いに譲歩する部分、同意する部分を探り合い建設的な意見を出し合う重要性も実体験として学ぶことができました。

今回このような秀優な会を設けて頂いたことを、運営に携わって頂いた先生方、後輩を熱心に盛り立てて頂いた卒業生の方々に深く感謝申し上げます。

グループⅢC 氏名 河合 史保里

第5回全国学生ワークショップに参加できたことは、とても良い経験になりました。このWSの中で、全国の薬学生と知り合えたことも自分の財産になると思いますし、これまで自分が見ていなかったような面から討議・考察できたことは、今後必ず生きてくる力になったと思います。

今回のWSの中でも特に印象的だったのは、木下先生のエデュケーションでの物語とサイエンスのグラフでした。実務実習や今回のWSで出会った方を見て感じたことですが、薬剤師はどうしても論理的な思考になってしまうと考えています。治療を拒む患者さんの物語も大切にしたい、でも治療を頑張れば治る可能性が高い。そんな場面もたくさんあると思いますが、その時に出来る限り会話し、心に寄り添いながら、患者さんにとって最良の道と一緒に考えられるような薬剤師にならなければならないと感じました。そしてそのためには知識が必要であり、両方を兼ね備えた薬剤師がプロフェッショナルの一つなのかなと今は思っており、実際に働きながら、さらに模索していきたいです。

最後になりますが、この素晴らしく有意義なWSを開催して下さった関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

グループⅢC 氏名 國遠 孝斗

私は今まで他大学の学生と議論を交わしたりする機会がなかったため、今回の全国の各大学から1名ずつ集まった学生ワークショップはとても新鮮で刺激的なものとなりました。本当に色々な道を志す薬学生が居て、やりたいことや目の前の目的というのはそれぞれ違うけれど、最終的なベクトルの目指す向きとしては、『患者さんのため』という社会貢献を根底にみることでできました。同期での熱い議論はもちろんのことでありますが、ワークショップ経験者の先輩方の話を聞くことができた点も非常に新鮮で貴重な時間でした。こういった機会が今後もっと増えていけばよりよい薬剤師としての医療の提供に繋がるのではないかと感じました。本当に自分の人生のターニングポイントになったのではないかなと思う議論ができ、このような貴重な機会を与えていただいたことに嬉しく思います。最後になりますが、今回のワークショップ開催にご尽力頂いた関係者をはじめ、大学の先生、OB・OGの皆様には深く御礼申し上げます。ありがとうございました！

グループⅢC 氏名 熊谷 文哉

第5回全国学生ワークショップ（WS）に参加し、全国の薬学生と2日間に渡り討論することができたことを大変嬉しく思います。どの参加者も将来の薬剤師像が明確であり、薬局、病院、企業、研究を目指す方の独自の考えに触れたことで新たな発見が生まれ、自分自身の成長につながったと思います。

「私達のプロフェッショナリズム、私達が築く新しい医療と社会」というテーマで討論した結果、参加者それぞれの目指す将来は違うけれども、薬剤師としてのプロフェッショナリズムの根幹には患者や社会が共通して存在していること、また、それらのニーズに応えるための知識、能力、態度がプロフェッショナリズムの要件だと導き出しました。これからの未来は、変化する患者・社会のニーズに対応するために先見力を養うこと、さらに、それぞれの職業の分野を超えた交流が重要だと感じています。

今回のWSで得た知識、考え、発見に参加できなかった学校内の生徒に伝えること、そして、議論を発展させることが私の役目だと考えています。

最後に、このような貴重な場を設けてくださった関係者の皆様には深くお礼申し上げます。

グループⅢC 氏名 廣田 未彩

今回、ワークショップに参加して、様々なことを考えさせられた。全国から薬学生が集まり、その人たちと討論を行うことで自分の視野が広げられた。

病院薬剤師になりたい人、薬局薬剤師になりたい人、研究・開発の道に進みたい人から様々な角度から話を聞いたことが今回の一番の収穫であると感じている。普段の生活からでは決して得られない意見を聞け、それにより自分の考えが変化していった。特に、研究・開発に携わりたい人の話はなかなか聞けないものであったので、どのような考えを持っているかを聞けてとても貴重なものになった。しっかりとした信念を持っている人からは私自身をもっと高めなくてはいけないという刺激を与えられた。

同級生からだけでなく先輩方からも意見を聞け、これからの進路について相談出来たことも貴重なことであった。国家試験を合格することも大切であるが、その先、自分がどれだけ能力

を活かせるかということも大切だということを学べた。

最後になりますが、今回このような貴重な機会を与えてくれました日本薬学会の関係者の皆様、タスクフォースの先生方、様々な意見を与えてくださった卒業生の先輩方、同級生の方々に心から御礼申し上げます。

グループⅢC 氏名 宮崎 耕平

全国学生ワークショップに参加して最も強く感じたことは、やはり全国から学生が集まるとグループ討議のレベルが高かったということである。

大学でも SGD 方式で議論した経験はあったが、ここまで本格的に実施したのは初めてだったので、大変中身の濃い二日間だったと思う。自分の将来の夢や、薬剤師として今後どのように社会へ貢献していく必要があるかについては、就職活動を通してある程度自分の言葉で説明できるようになったと思っていたが、全国から集まった学生と話し合っていくにつれ、まだまだ自分の説明では説得力が弱いことに気づき、もう少し薬剤師としての将来像を具体的に考えていかなければいけないと痛感した。

どのように地域医療に貢献する必要があるかについては、私のように地方の薬学生が特に考えなければならない問題だと思うが、なかなか大学生活の中で考える機会がなかったので、今回のようなワークショップを通して様々な観点から自分の意見を持つことの大切さを学ぶことができたと思っている。

グループⅢC 氏名 森 亜沙美

薬学 6 年制がスタートしてから今年で 10 年目を迎え、6 年間の学びをフィードバックする今回の勉強会は学生にとっても非常に有難い機会であったと思っております。

手法 World Café を用いて話し合った進路や夢は、様々な夢を目指すきっかけを聞く中で、自分が理想とする薬剤師像を再確認できました。プロフェッショナリズムの要件を表現する寸劇では、他者からプロである評価を得たことを表現する難しさから、他者にプロであることを認められることの難しさを感じました。しかし、木下先生による特別講演でスペシャリストとプロフェッショナルの違いとして、プロには使命感があるとの話を伺い、プロである要件の一つとして他者からの評価が大切だと考えていましたが、大切なことは社会のニーズに応える使命感であると感じました。今後は、移り変わる社会のニーズに応え続ける薬剤師として貢献していき、臨床現場で得たものを今回のワークショップのような教育の場にきちんとフィードバックできる薬剤師になることを考えております。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださいました日本薬学会をはじめとする関係者の皆様、2 日間共に意見交換をした仲間に関心より御礼申し上げます。

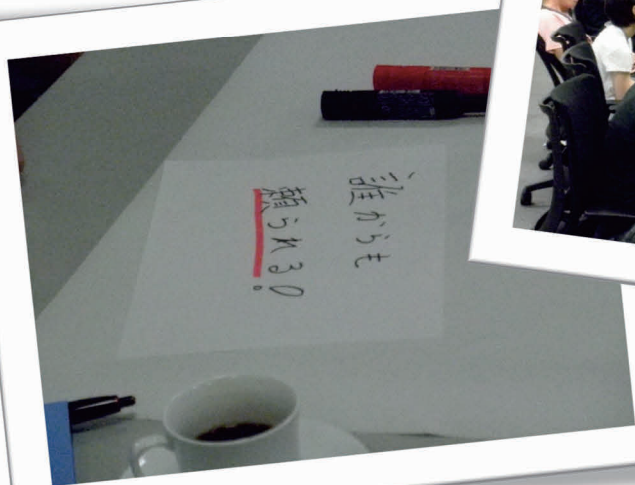
グループⅢC 氏名 山名 咲穂

今夏、全国の薬学生や卒業生の方々と議論を経て様々な意見を共有した事は、これからの薬剤師としての役割を考える上でとても貴重な経験となりました。また、私達が中心となる事により社会で輝き活躍する未来の薬剤師像が現実になると確信しました。

全国学生ワークショップが実施された二日間の中で、プロフェッショナリズムという概念を絵や寸劇で表現する事は困難を極めました。どのような方法や結論でまとめるとより相手に伝わり易いか、個々が実務実習や学生生活から得た経験を基に意見を出し最善の策を考えました。この導く過程こそがプロフェッショナリズムに近付くきっかけになったのではないかと感じ、今後も継続していくべきだと思います。

また、「心を無理に開くのではなく、相手から心を開きたいと思わせる」というテーマで描いた鍵穴のあるハートと患者さんから鍵を差し出す手の絵を評価して頂いたことも素敵な思い出となりました。副賞に頂いた時計は、私達と共に残りの学生生活を有意義に過ごしなが、新しい未来へと時を刻んでおります。

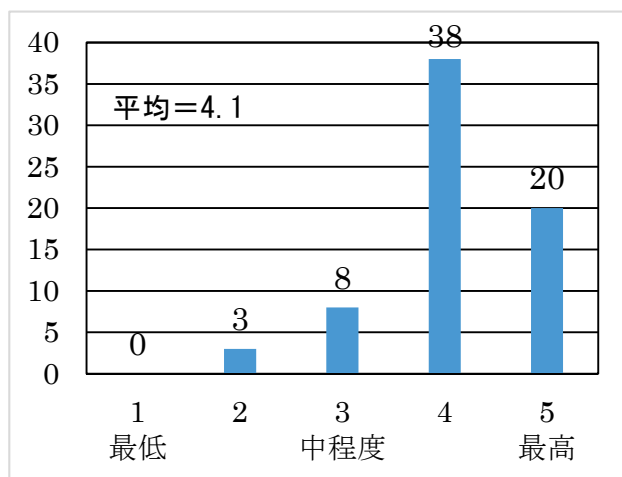
最後になりましたが、今回のワークショップに参加させて頂いた事に深く感謝申し上げます。



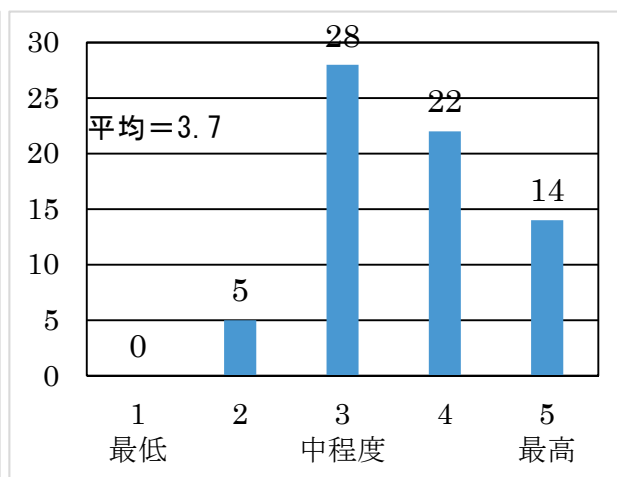
参加者 アンケート結果

第1日目の評価

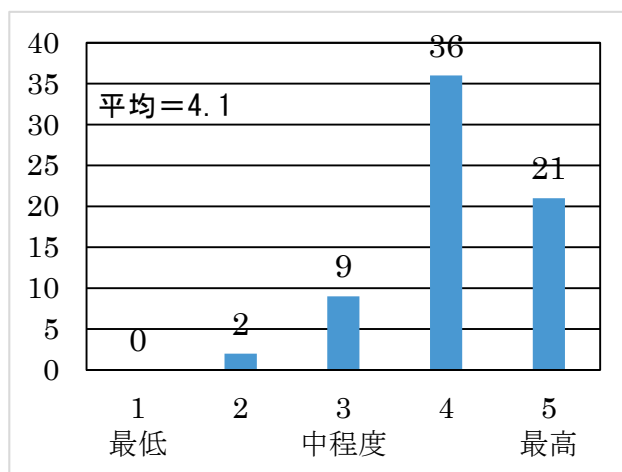
1. 今日のワークショップの流れに
スムーズに入り込めましたか。



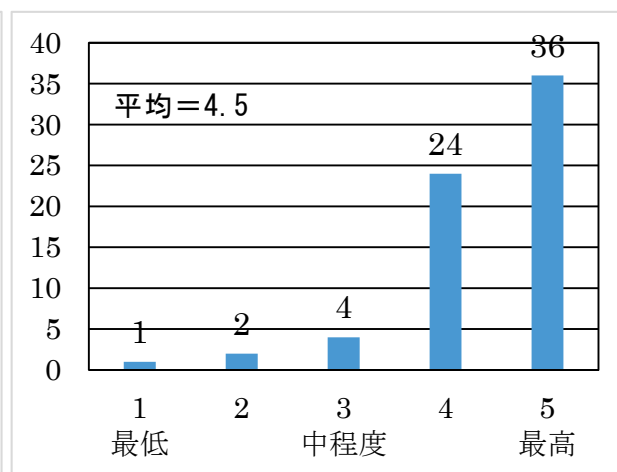
2. 今日、あなたは討議にどの程度
参加されましたか。



3. 今日の内容は、あなたのニーズに
マッチしましたか。



4. 今日のタスクフォースの仕事は
よかったですか。



5. 今日、よく理解できたことは何でしたか。

- world cafe等で、様々な意見を聞き、皆さんがそれぞれ目指すところが異なり、それぞれの理想とする薬剤師像があり、その話を聞くことで非常に刺激を受けました。また最後の意見交換では、医療の中には、ひとすじ縄では解決できない問題点があるということを感じました。
- 薬剤師の“プロ”は、知識はもちろんのこと、コミュニケーション能力が必要で、さらに、これらをフル活用できる手段を持ち合わせるべきであると発表を聞いて思いました。また、皆が最終的に“患者さんの為”に自分は何ができるのか、実習等で学び、将来の夢につなげていると思いました。
- 薬剤師のプロフェッショナリズムについてKJ法を用いて話し合いをした時、様々なことの関係性をみてみると、複雑に関連しているように思えました。考えていた時は全く別のものだ

思い書きだしてはいましたが、ここまで深く関わっていて驚くと共に、様々なことを考え、配慮できるようにならなければならないと強く思いました。

- 大学はちがっても、同じカリキュラムを通し、学んでいたことが、討論内で情報交換でき、「プロフェッショナル」ということばが、より重要な場合があるんだろうな、と感じました。
- 薬剤師のプロフェッショナル像について、様々な考えがあることがわかった。
- プロフェッショナルという概念に対して様々な意見があること。
- 薬のプロとしての薬剤師に必要なもの
 - ・向上心・熱意
 - ・豊富な知識
 - ・コミュニケーション能力など
- 患者さんのQOLを上げるためにどうしたらいいのかをみんなが具体案を持っており、それを伝えたいという気持ちが強いこと。
- それぞれのメンバーが多様な考えを持っているということ。
「プロフェッショナル」という言葉を聞くと、「分析する力」「薬剤師ならではの視点から物事を考える力」など、どちらかと言うと技能に関する事を連想していました。しかし、今回のセッションを通して、コミュニケーションスキルや姿勢など、内面的なこともまた重要であると改めて感じることができました。
- コミュニケーション力、知識、など必要なものは多々あるが、最終的にブレてはいけないことは、患者さんのQOLの向上を目指しているという部分。
- プロフェッショナルとしての薬剤師に必要なものは、医師に自信を持って処方提案できるための基礎知識を豊富につけるだけではなく、患者さんを安心するためのコミュニケーション能力が大切であるということがよくわかった。
- 色々な教育を受けてきた人達と意見交換をして、思ったことで、薬剤師として、知識を伸ばしたり、向上心をもったり、医師とディスカッションしたりするという基礎の部分は同じだと思った。個人的に、専門性を重視するという意見での一致が多かったと思える。プロフェッショナルになるために必要なことも似た意見が多かったが、別の視点にも触れることができたので良かった。
- 薬剤師としての「バランス」の大切さ。
いろいろな考え方の人をまとめる大変さ。
薬剤師として求められていることの概要。
- 将来の薬剤師像を描くことが学生でも薬剤師になっても必要なことである。
- 人によってプロフェッショナルの考えが異なるが、最終的な目標には患者がいることが重要である。
- さまざまな将来像や、考え方があるということ。
プロフェッショナルとして活動していくために必要な要素を一部理解した。
- コミュニケーションスキルの重要性。
- 人それぞれプロフェッショナルに対する定義があり、自分では気付かなかった考えもありましたが、“プロフェッショナル”とは何かをまず考えるということは共通して大切なことだと思いました。

- 薬剤師がどんな事をやろうとするにせよその先には患者さんがいるということ。専門性や能力をいくら高めてもそれが誰のためなのか考えられなければプロフェッショナルとはいえないということが分かった。
- 薬剤師として働く上で“患者さんのために何をするか”が重要！！
- 一人ひとりが様々な実習・経験をしているので、人と話すことによって得られることが非常に多いと感じた。
根本的に感じていることは皆共通しているけれど、そこから伸びている意見が様々。
- スムーズに、薬剤師に必要なことや、進むべき方向性について、討論する事ができた。
- 自分の軸を持っても知識だけではどうにもならないことがある。
- プロフェッショナルリズムに対する考え方は人それぞれ、異なる部分が多いように感じた。知識を深めたり専門性を活かした指導をすることは大事だが、その先には必ず人がいることをあらためて感じさせられた。
- プロになるには「結果」は必須ですが、「結果」に人間力が必要であるという所に、医療職の特性があることに気づいた。
- 薬剤師としての存在意義、プロであるための必要性（要件）について、考えることができ、将来あるべき姿を想像するきっかけとなりました。
- 学校の友人とは話し合えない話。例えば薬剤師の存在意義など、他の大学の人の意見を聞けて良かった。自分の中であいまいに認識していたプロフェッショナルというイメージを考え話し合うことで理解できた。
- 薬剤師としての意味（存在理由）
プロとはどういうことか。
他大学との交流で色々な意見や考え。
皆で出した意見をO u t p u tすることの難しさ。
- みんな志が高いということ。
プロフェッショナルリズムについて討論したが、どのグループも切り口は違えど同じような意見をもっていた。
- 現在（今の薬学6年）の薬剤師に求められる能力。
- プロとして何をすべきか、が明確になった。また、これらの重要性も再確認することができた。
- 同じ境遇の仲間と一つのテーマに沿って熱いディスカッションを行い、考え方の違い、新しい気づき、これからの薬学について真剣に向き合えました。プロフェッショナルを常に意識することは大事だとわかりました。
- 人としてプロフェッショナルという部分は、様々な要素があって日々意識していないと難しいということを知りました。
- プロフェッショナルとは何なのか、様々な観点から考えることができるのだと感じることができました。中でも、指導という面はあまり考えたことがなかったので、このような考え方もあるのだと驚きました。
- 薬剤師の必要性を感じつつ、それを自分が納得できる形で理解できていなかったことが分かりました。
- 多様性の大切さを改めて実感しました。また学内（日常）では気になっていてもディスカッシ

ョンしないような内容についても議論できて良かったと思います。答えはないけど、考えはあるべき議題ばかりでしたので、明日、今後に活かしたいと思います。

- プロフェッショナリズム
薬剤師になる人やならない人でも何を基本として仕事に接していくか
- 薬剤師は、どう専門性を活かして医療に関わっていけばいいのか、皆と議論していくなかで、見えてきた部分がある。
- 単にプロフェッショナルのことを考えるだけではなく、学生～新人薬剤師～プロフェッショナルに至る過程も含めて、プロフェッショナルな薬剤師に必要なこと（考える・理解する）ことが出来た。
- プロフェッショナリズムについて自分の考えだけでなく、他の意見も聞くことでより多視角的に考えることができた。また、議論の中で始点と終点を定めることで、意識を統合させなければ、方向性がバラバラになってしまうと学んだ。
- 薬剤師のプロフェッショナリズムについて考えていることが大学によって（国立、私立、市立）意見（見方）が違い様々な事を理解できた。
- 同じ薬学の世界で同じ事項を話しても、本当に様々なことが意見として出てくること。かつ、そのそれぞれに間違いがないことも印象的だった。
- 集まる人（要素）が変わると、同じテーマでも違う結論になること。69人皆考えることは違うんだと。プロフェッショナルについては今まで考えたことがないテーマであったので、それについて理解は深まった。
- 今日まで受けてきた教育が大学によってこんなにも違うのか、ということ。うらやましいな、すごいな、と思う点、九大の方がすごいな、良かったな、と思う点どちらもあったので、とても参考になった。
- 議論して1つのものを作り上げることの大変さ。
- 「プロを感じる場面」は人それぞれですが、そこからプロフェッショナルの要件をおとしこんでいくと、皆大筋は似たような感じになっていき、そこに医療者としてのプロフェッショナルを見つけられた様な気がします。
- 薬学に携わる人間としてどの職種であっても最終目標は同じであるということが確認できた。
- 人による考え方の違い（何を重視するか、そのためにどんな手段をとるのか）
- 薬学部生の多様な視点を知る事ができた。より広い視野で物事を考えることができそう。
- 日本中の同学年の仲間たちが、自分の進路、薬学の向かう道について様々なことを考えていると分かり、よい刺激を受けました。
- プロフェッショナルとなるために必要なこと。自分の進路を今後進む上で、大切になっていくこと。
- 薬剤師には様々な進路があり、その立場は違えど最終的に見せるものは同じ方向を向いているという事を強く感じ、学ぶ事ができた。
- どの職種に進む人も高い意識、明確な目標を持つことでプロフェッショナルになれるということ。全てにおいて共通意識が大切だということ。
- 皆が薬剤師（研究等含む）になるという自覚をもっていること。
- 人によって、どういう道に進んで、どういうことをやり貢献していきたいのか、そのきっかけ

など様々で、こういった他大学が集まった中で色んな考え、意見があることを実感できてよかった。また、今日、議論の中心だったプロフェッショナルについて、他の人から、はっとするような意見もでて面白かった。どの職種でもプロフェッショナルは存在するので、このテーマについて考えることができた今日の機会は私にとっても、きっと参加された皆さんにとってもプラスになったと思う。

- プロフェッショナルの土台とはなにか。他の職種を希望する人々がどのような考えをもっているのか。プロフェッショナリズムとは職種によって変わらないこと。
- プロフェッショナルである為の要件は多岐にわたっている事。また、自分以外の他者や社会の為に貢献することも重要だと学びました。
- どの班にも土台があって、自分を土台とするところ、患者を土台とするところ、プロフェッショナルになるためには、どんなことを意識または、高めていかなければならないかという点で色々な発想があることを知った。
- プロフェッショナルは様々な形があり、他の職種となっても、感じ取り方は同じものかもしれないと思った。
- プロフェッショナリズムに関して様々な考え方。
- 将来の夢が違ふと、考え方や視点も多く、視野が広がった。ジェネラリストとは、チームの中で足りないことを補う、という考えに感動した。プロフェッショナル、という理解がこれらを通して深まった。
- 自身の基礎知識をベースとして、ある分野に特化した専門性を身につけることは重要だが、それが社会のニーズにマッチしているかを理解していく必要がある。
- 薬剤師という職種だけでなく、全般の職種にプロフェッショナルの要件は共通して存在すること、また、実行できる相手がいて、行動後のフィードバックが成長には必要と感じた。
- まず自分の夢を他人に説明し、段階を経てプロフェッショナルになるために必要なことは何かを考えるようになっていたのでイメージしやすかった。
- みんなの意識が高く、私も楽しみながら、ディスカッション出来ました。色々な意見の中で感じたのは、プロフェッショナルを目指すということは、自己満足な努力ではなく、他者から必要とされたり、認められることを言うのだろうと思いました。
- プロフェッショナリズムの要件を様々な視点から奥深く考えることで、スペシャリストやジェネラリストという言葉について理解が深まりました。学生だけでなく、先生方のアドバイスがあったおかげで、私たちの考える力も身についたと思います。
- 将来的に多職種となり人同士でディスカッションできたことが社会貢献につながると思う。(多職種への理解が深まった。)
- 様々な人が様々な意見を持ち、それを伝え、お互いに理解しあおうとしている点が感じられた。
- ジェネラリスト・スペシャリスト・プロフェッショナルについて。
そうなるための要素や、何がそれを構成しているのか。

6. 今日、あまり理解できなかったことは何でしたか。

- 自分があまり積極的に討論に参加できなかったことが理由であると思いますが、それぞれのプロフェッショナルとしての必要と感じることの意見をあまり聞けていないと思います。

- チーム医療の中で、実際の薬剤師はどこまで踏み込めることができるのかなあとその点がよく理解が進まなかったように思います。
- 他の班で自分の身に覚えのない言葉が出てきたため、戸惑いました。自分の未熟さを改めて実感しました。
- 学生が主となって行われるSGDでしたが、先生方の視線から見て、「こういう場面もあったよ」などを聞けたら、話し合いのヒントにもなるのかな？と思いました。
- 実際のプロフェッショナルと、今日出た意見が、どのくらい近いのかということ。
- プロフェッショナルについて考えたけど、実際、臨床の現場ではどういうプロフェッショナルな人がいるのか知りたかった。
- 皆が納得するまで話し合った上で話を進めていきましたので特にありません。
- 今の段階では理想論になってしまい、実際の臨床現場では自分の意見を医師に言えない（協調性を大事にする）こともあるということが、やはりまだ現場に出ていないものとしては、まだわからないこともあるが、言い方等を工夫することは良いと思った。
- 議論の中で解消できました。
- 学生にどういったことを求めているのか。
何が生産性のある議論として求められているのか。
- 発表の中で一番伝えたい部分が分からなくなってしまったこと。
- 医師へ意見を言う際の引きぎわが議論されていたが、押し通すべき意見と引かせるべき意見の線引きが分からない。これからの経験で学んでいくしかないと感じた。
- 結局のところプロフェッショナリズムとは何なのかよく分からなかった。（ふつうの薬剤師との違いを生じさせる要因）
- 劇をやることはすごく楽しかったが、5分間の中ではプロフェッショナリズムの要件すべて盛り込むことができない。
- 最後の討議で出た問題について、通すところは通す、引くところは引くということについて、これから経験してく上で分かっていくことなのかなと思いました。
- 本当に実践の場で求められているプロフェッショナルは薬剤師なのかはまだ分からない。
- 薬剤師としてのバランス感覚の身に付け方。
人を動かすための必要なスキル。
- 最後の討論にあった、「ひく」か「ひかない」かの選択。場合によってなので一つの答えはないように思うけれど、とても興味のある難しい課題だった。
- プロフェッショナルな薬剤師と、ジェネラリスト薬剤師は、相反すると思ったのですが、薬剤師を育成する立場の先生方は、どちらの薬剤師を目指す・育成する考えはありますか。
- コミュニケーションPha. と知識Pha. がフュージョンするための具体的な方法が知りたい。情報共有とか？（明日質問します）
- 薬剤師の役割は？ということに対してまだ理解していない。
- 専門性を高めるには、どうしたらいいのか、もっと考える必要があると感じました。
- 他のグループの人の名前。
- 薬剤師は必要なくて、機械でもいいんじゃないか。という意見には理解できなかった。私達が（絶対に）口にしてはいけないことだと思う。

- 実際の 現場 or 社会 で求められている薬剤師の能力、役割
- 次世代の教育のあり方について。やはり、まだ自分がその状況に置かれていないため、イメージがつかみにくかった。実習でのことをふまえて、しっかり考えていきたい。
- 私たち薬学生が、薬剤師の先生方や社会に、どのように求められているのか、もっと先生方の意見も（夜などでも・・・）聞けたらと思います。
- プロフェッショナルといういわば、上位層についてのことは分かったのですが、では、薬剤師・薬学生のボトムアップという点ではどうなのでしょう。
- 薬剤師が人でなければいけない理由は精神的な面が大きいのではないかと考えていますが、はっきりとわからない状態です。
- 自分の将来像、周りの皆の将来像をもっと聞きたかったです。同じテーマでw o r l d c a f eができる時間があると良かったです。
- 薬剤師不要論についてはもう時間なのですが少しディスカッションしてもおもしろかったと思います。
- 薬剤師の必要性。薬剤師という存在を世間にどのように広めるか。
- 専門性を語る上で、自分達は未だ実習を終えたばかりの学生であり、現場の詳細は把握できない。また、愛、心といった人間性をどう専門性に活かすのか、という点。
- “薬剤師は本当に必要か？機械ではダメなのか？”という問いに対して、自分なりの明確な意見を出すことが出来なかった。十分に理解しきれていないと感じた。
- 薬剤師として具体的にどうプロフェッショナルリズムを発揮していくかが、今はまだ明確にわからなかった。教育の必要性は理解できるが、教育のしかたまで考えるに至らなかった。
- w o r l d c a f eをすることによって人とのコミュニケーションをとる事が出来るがその意味とは。
- 劇の内容を含めて、現時点で出来るかどうか、といったところを説明していて、あまり理想が表に出ることはなく、諦めているのか疑問に残った。
(e x : リフィル処方せんなど・・・)
- そのセクション・セクションでの真意が、時間に追われていたこともあり突きつめて考えられていないように思うので、自分で考えてみたい。そして現実はどう反映するか、するべきか、できるかを考えたい。
- 「今」薬剤師に求められていることが、「将来」求められるか、と考えたら、僕はそうではないと思う。そういう点が、今日私が同じ班の他の人とのディスカッションで ふ に落ちなかったのかなと思う。
- プロフェッショナルとは何なのか、はじめ、定義が分からなかったので考えにくかったです。
- 一番最後に出た「薬剤師が本当に必要なのか」というテーマはとても難しく、私の中でまだ コレだ！！と言える答えがみつかっていないので明日、少しでもその答えになるきっかけを見つかられたらと思います。
- 実地での薬剤のニーズとアカデミア・企業の関係性が議論を深めるにつれて知らないことだった。
- 自分は何をすべきか（できるようになるべきか）
- プロフェッショナルリズムとは何か、改めて考えると、また様々な意見を聞いていると少し混乱

した。

- プロフェッショナリズムとスペシャリストまたはジェネラリストの違い。
- プロフェッショナリズム、ジェネラリスト、スペシャリストそれぞれが指すもの、そしてその関係性は難しく、常に考えていく必要がある。
- プロフェッショナル、スペシャリスト、ジェネラリストとの枠をもっと深くディスカッションしたいと思った。
- “患者さんのために”との発言も多くみられたが、なぜそう思うのか。
- スペシャリストとジェネラリスト、そしてプロの明確な違い。やはりまだ曖昧なままである。
- 薬剤師は、薬のスペシャリストでなければならないと思うが、その一方で社会からはジェネラリストであることを求められている。ジェネラリストとはどのようなことを指すのか漠然としていると感じた。
- 実際にプロの方が、プロフェッショナルとして、どのようなことを意識されているのか。
- プロフェッショナル、スペシャリストの区切りについてもう少し考えたいと思った。
- 理解できなかったことはなかったのですが、まだ自分なりのプロフェッショナリズムについてしっかりと考えられていないので深めていきたいです。
- 自分の専門性についてどの方向、分野の専門性を身につけるべきか明確になってないので、ニーズから探る必要があると思った。
- プロフェッショナル、スペシャリスト、ジェネラリストの違いはと問われた時に即答できるような明確な答えが浮かばない。
- ジェネラリスト、スペシャリスト、プロフェッショナリズムの違いについて。まだ就職活動を続けているにもかかわらず、あまり深く考えたことがなかったので、明日は理解できるようにしたい。
- プロフェッショナル、スペシャリスト、ジェネラリストの線引きはまだ自分の中には不明瞭だと考えています。
- 理解できなかったことということとは違うかもしれないのですが、どこからがプロでどこのレベルからはプロではないのかという境目に関しては曖昧であったかと思います。
- 自分の仕事や興味のある分野にそれぞれ詳しい知識や理念をもっているが、患者さんのためになるという最終目標をもっと意識した方が良いと思う。
- 現実のことばかりでなく仮説（又は仮定）を用いて議論することが難しかった。

7. その他のご意見（自由にお書き下さい）

- 多くの意見を聞けて、自分の思いはこうだったんだと整理する事ができました。共通の思いを持っていることに嬉しく思いました。今日1日ありがとうございました。
- 楽しく、自分たちの将来を考えることができました。ありがとうございました。
- 卒業生の方々のおはなしを聞く機会がたくさんあったらいいな。と思いました！ごはんの時におはなし出来るかな、とも思ったのですが・・・。
- 理想と現実には差があるものだと思いますが、あまり像を固めすぎると、像からはずれてしまったとき、どう立ち直っていくかが疑問に思いました。
- 今回は、業務上での協調性についてあげられていたが、では、「その協調性を保つには業務以外

でどのようなことをしたらいいか？」まで、話し合うといいと思いました。

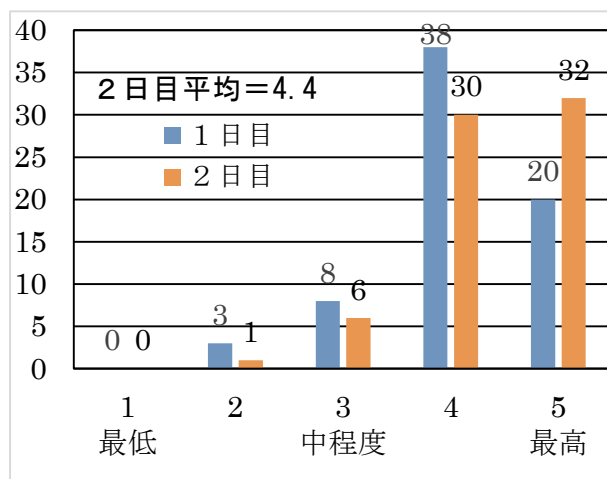
- 薬剤師そのものに対して自分自身がどのような考えを持っているかを討論することで知ることができ、他の人の考えも聞くことができ、さらに考えが深まったと思う。
- 他の人の様々な意見を聞くことができ、自分の発想になかった事を知ることができ、とても刺激になった。
- 初めて出会った仲間達との議論は、すごくしげき的で、視野が広がった。
- 活発な意見交換ができて楽しかったです。
- 今回の中で理想は見つけられたが現実にはどうなのかをもう少し知りたいと思った。
- 他大学の人が実習などで経験したことを聞けるとたのしかった。
他のグループの人とも仲良くなりたい。
- とても充実した1日になりました。
- 自分から意見を発信することがなかなかできなかった。ただ、周りの意識の高さを感じられる1日だった。
- タスクフォースの皆さん！！ありがとうございました。明日も、引き続き、よい一日にしたいです！！
- 色々な人の意見を聞けるのが、本当に嬉しい。このような機会がもっと前にあったら良かったのにと感じた。同時に、これからのモチベーションになると思う。
- 本当に楽しい一日でした。明日も頑張ります！！
- 周りの学生の質疑応答を聞いてみて、考え方が自分と違うことが多くて楽しく聞くことができた。
- 普段大学で薬剤師について思っていることを討論、深め合う相手がいないので、参加できて良かったと思います。明日も楽しみにしています。
- 私にない意見を多く聞くことができ、なるほど！と思うことが何度もありました。
- 関係ないかもしれませんが、先生方の資料の配布の仕方がすごく良かったです。
→顔をあげて話を聞くようにするにはこの方法だ！！と思いました。今度、やってみたいです。
- 色々と難しく深い内容で勉強になりました。
大学に戻ってから友達とも話し合ってみたいと思います。
- 私達学生が考え、発表する時間がたくさん確保されていたのはありがたかったが、タスクフォースの先生方はどう考えるのか、もっとフィードバックがほしかったです。
- 沢山の刺激を受けることができた。
- 多くの方々のお力添えにより、1日目無事に終えたと思います。貴重な機会を設けて頂き、ありがとうございました。
- 時間を区切って進行して頂きありがとうございました。
- 他のグループとの交流がしたいです。意見が活発に出て良かったと思います。
- 教育体制についても、意見をもっている人がひじょうに多いことが分かり、この声を反映させたいと強く思っています。
- もう少し討義に参加して自分の意見を伝えたかった。
- 寸劇を通して理解が深まると共に、班員の団結力も高まったので良かった。
- 新人薬剤師の教育に対する話をきいて、学生間でも同様だと感じた。上学年が下の学年に教育

する経験をつませることで、現場でも自然に教育にたずさわるのではないかと思った。

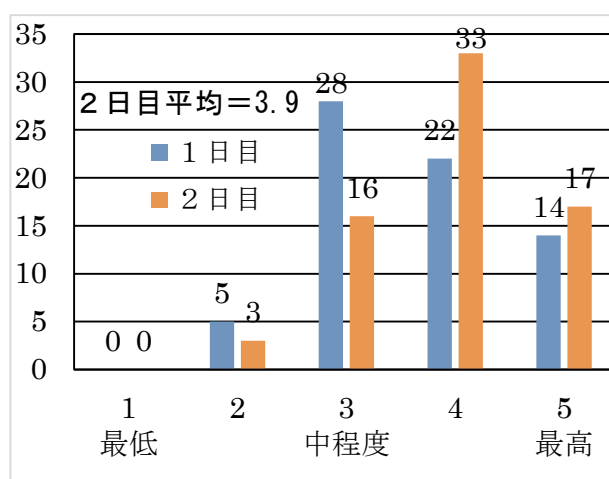
- 時間配分や作業の流れが整然としていて、スムーズだし、あっという間に終わるのがとても楽しい。
- 1つ1つ、もう少し議題について考える時間が欲しいとは感じたが、決められた時間の中で1つの形を作ることもまた大事なかもと思った1日でした。
- 達成感がすごい。いろんな点で「個人差」を感じるいい機会でした。
- タスクフォースは、議論を誘導する人ですか？SGDちょっとやりにくかったです。
- 劇は本当に、本当に難しかったです、その過程に色々なタスクがもりこまれていて、達成感がありました。学校などで出来ないことなので今回挑戦することができてとても良かったですし、楽しかったです。
- 博士課程に進む関係上、今回のワークショップは興味が少なかったが、議論するにつれて、面白いと感じました。
- 寸劇を終え、多くの意見を整理したらプロフェッショナルリズムについての混乱も落ちついてきた。とても参考になる、楽しいセッションだった。
- 「プロフェッショナルリズムとスペシャリスト、ジェネラリストの違い」について、今まで考えたことがあまりなかったのですが、今回タスクフォースの方から質問を受け、考えるよい機会になりました。薬剤師には、スペシャリスト、ジェネラリスト両方の素質が必要であると思いました。
- ディスカッション、セッションに先輩たちも一緒に参加して下さってもおもしろいんじゃないかと思った。
- 思ったより皆積極的に討論がスムーズに進みよかった。
- 作業において意外と時間がなかった。
- たくさんの人の意見を聞き、少し自分の視野が広がった気がします。
- 寸劇を通してプロフェッショナルの場面をみることができよかった。
- 演劇形式でプレゼンをするのは、難しかったが、実際の現場を考慮することができる良い題だと思った。
- 元々大学であまりSGDをしたことがなく、質疑応答も特にないまま終わっていたので、思った以上に質問攻めに合ったように感じた。まだまだ自分には表現力もプレゼンテーション能力も足りていないことに気付く良い機会だったと思う。明日はもっと積極的に議論に参加できるように心がけていく。
- 他大学の人と情報交換出来る機会はあまりないので、とても有意義です。
- 他グループの考えを聞くことで、より理解が深まりました。本日は誠にありがとうございました。
- KJ法の例として木とかを出すと、考え方が偏った印象を受けるので、劇のように枠にとらわれない方がより創造力がふくらむと思う。
- 発表で寸劇を用いた方法は今までしたことがないので、今後もしてほしい。
- 楽しかったです。様々な意見が聞けて、勉強になりました。

第2日目の評価

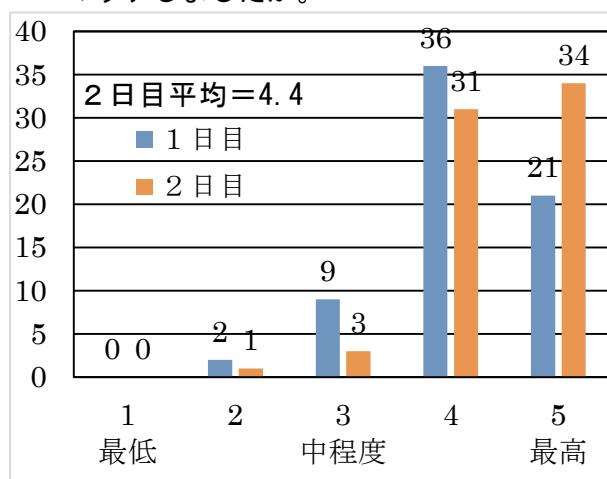
1. 今日のワークショップの流れにスムーズに入り込めましたか。



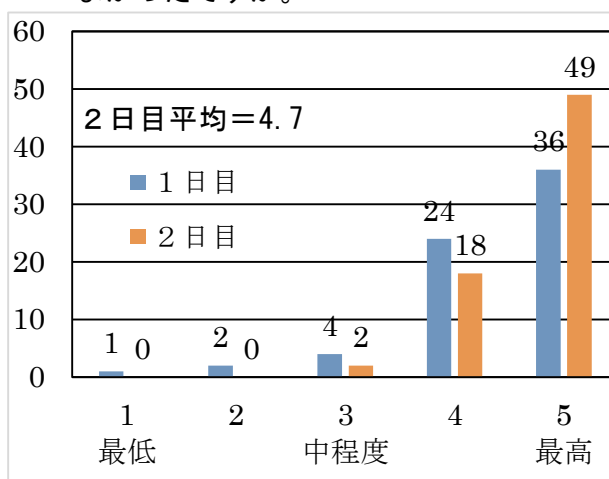
2. 今日、あなたは討議にどの程度参加されましたか。



3. 今日の内容は、あなたのニーズにマッチしましたか。



4. 今日のタスクフォースの仕事はよかったですか。



5. 今日、よく理解できたことは何でしたか。

- 「プロフェッショナリズム」とは、個々で持つ部分とみんな（仲間）で共通して持つ部分、意識、考えがあると改めて感じました。
- プロフェッショナルになるために何をすべきかというテーマでは、どの班も近い意見がありました。多くの班で出ている意見は本当に努力すべき点だとわかりました。
- これからの薬剤師がどのように行動していくべきかが具体的に考えることができた。
- これからの薬剤師、私達が何をしていくか、その考えを整理することができました。抽象的な言葉ではなく、具体的に何をすれば、目標に達成できるのか話し合い、待っているのではなく、自分から情報を発信していくことが重要なのだと思うことができました。
- 参加者の皆さんがそれぞれ目指す薬剤師像があり、それに向けた具体的な目標を持っていると

強く感じた。

今後、薬剤師として働く上で、先見力を持ち、社会からのニーズを知り、それに答えていく必要があるということ。

- プロフェッショナルの意味やそれを実現するための行動を考えることで自分の目標が具体的に became。
- 今現在、薬剤師が進むべきと考えられる方向について多くの意見を聞くことができた。
- プロフェッショナルとスペシャリストの違い。

薬剤師に対する社会的ニーズ。

- 自分があまり意識していなかった研究の重要性について認識できた。また、患者さんの物語を知るという話を聞いて、実習中にふに落ちなかった事が解決した。
- 他の人から見て、薬剤師に求めたいことは何かという視点。応えていけるようになりたいと思った。

専門家としてやるべき事とそうでない事を仕分ける必要があること。

チーム医療の中での薬剤師の在り方。

- 私達が今後（今から）しなければいけないことはなにかが、このワークショップに来る前よりも明確なものになった。患者の物語をきくことが信頼をむすぶことにつながるという新たな思考も学ぶことができた。
- 時代と共に社会が求めるニーズも変わっていくので、ニーズに対応できる先見性をもつ技能が必要だと思った。
- 仲間の大切さ（モチベーションの維持・向上心）。
視野を広く保つこと。
- プロフェッショナルと自分の進路。
- 自分が目指すプロフェッショナルが明確になった。
- 講演なども聞くこともでき、昨日よりプロフェッショナルリズムに関する自分なりの理解が深まったと感じました。
- 薬剤師のプロフェッショナルとして、「患者さん視線」「専門職としての質の向上」「社会的責任」がコアにあること。
- 将来目指すべき薬剤師像や就職後の薬剤師としての課題を共有することができました。
- 交流の大切さ、ディスカッションの大切さがわかった。
- 行動宣言と行動計画について討議したが、目指すものと実現するためのビジョンをはっきりもっていないといけないと思った。そして、それを他人に向けて言葉や行動として発信していくことの難しさを感じた。
- 最終的に薬剤師がプロフェッショナルになるためにどのようなことを行えばよいのか。
- 同じ表現であっても違う意味を示していたり、同じ意見であつたりと自分では思いつかなかった様々な意見を聞くことができた。またこのワークショップの継続が非常に重要だと思いました。
- チーム医療は患者の為に働くということ。だから、コミュニケーションを怠ってはいけないし、専門知識を最大限にアウトプットしなくてはならない。
- 自分の大学の良い部分を沢山発見できた。

当たり前だと思っていた部分にフォーカスをあてることで新たな発見があった。

プロフェッショナルということについて少し理解（納得）できたと思う。

- 私達はプロフェッショナルとして具体的に何をすべきなのか、また、どのように実行していくのか確認することができた。
- どのグループも皆同じような志をもっていたこと、嬉しく思いました。
- 社会から求められる薬剤師の能力や役割は、社会のニーズによって常に変化し、薬剤師はそれに対応する必要があること。
- 我々は患者、次世代、他職種を育てる立場でもあるが、それは一方的ではなく共に成長していくことが本物の教育（共育）であるということを実感させられました。
- 薬剤師がこれから行っていくべき問題解決方法には様々な手段がある。
やるべきことはまだまだある。一方向な視点だけでは発展できないこともある。
- 「プロ」になる為には、どういう *a c t i o n p l a n* で働き、どういう目標をもって行動するか。行動宣言という明確な文字で表す事で、近付いていけると思いました。
- 今後患者や健常な人や医療従事者に対して自分達が考えていることを押し付けるのではなく、求めているニーズに対応していくことが必要であること。
- プロフェッショナルとは何であるのか、薬剤師としてどのように今後行動していけばよいのかの方向性が定まってきたように思いました。
もっと患者の物語に目を向けていくことが必要だと実感しました。
- 患者、薬学生、他職種のたくさんの人達との関わりの中で自己も成長できるということ。意見交換を行うことで、自分の意見を明瞭化し、他者の考えも吸収できること。
- 潜在ニーズというものの存在に気付かされて、その重要性を理解出来た。
- 昨日と同じだが、多様性とチームカラーを感じた。内容については、要説論が必要と個人的に考えるものもあったが、多くの意見をベースにした「考え、案」は伝わるものがあった。
- プロフェッショナルとは何か？木下先生の講演を聴いて1つの考え方を知ることができました。また、そのプロを目指すにあたって何が目的でどう取り組むべきかも少し具体的にイメージできました。
- これから自分が行うべきこと、この会の大切さ。
ただ出向くだけでなく、ニーズのある所を見極めて行動すること。
- 薬剤師としての職能について考えがとらわれてしまいがちでしたが、患者のニーズを引き出す役目を持っていて、それを実際にできる薬剤師の存在が必要だと感じました。
- 自分たちが、プロとして将来すべきことを明確に理解した。1日目の流れがあり、2日間のワークがつながっていたので、すんなりと入り考えることができ、テーマについて理解できた。
- 朝一番に医療人のプロフェッショナルとは、というお話を聞いて「社会への使命」という切り口を得ることができました。それは、今の自分が思いもつかなかったところだったので、今日一日、それを念頭にディスカッションができたことで理解が深まりました。
- 意見はいろいろあったが、皆、「薬剤師」が大好きなことが伝わってきた。皆薬剤師が好きで発言していたので、聞いていてもとても心地よかった。大学内では100%できないような討論ができて幸せでした。
- 薬剤師像として、臨床能力に加えて、教育・研究もって社会貢献を果たすことが必要であると

いう認識をいずれの人も持っていたこと。

- プロフェッショナリズムについて。

薬剤師としての将来像。

- 医療機関（病院・薬局）は、同時に研究・教育機関でもあるということ。
- 職種や進路が違っていてもプロフェッショナルの根本は共通している部分があるというところ。
- 近い未来の自分（予定）について、考え、理解が深まった。プロフェッショナリズムについてもかなり整理がついた。
- プロフェッショナルとして薬剤師が行動すべきことが自分の中で以前よりも明確になった気がします。
- 全ての職が社会貢献に繋がること。
- 薬剤師同士のチームワークも大切ということ（病院、薬局、研究、教育など）
- 自分達がどうなっていくのか、見つめ直せた。
- 他人の意見を聞きながら、自分の未来の薬剤師像及びその時の必要な働きについて具体的にイメージする事ができた。他の職種と連携をはかる事が社会貢献へとつながること。
- 目的は似ていても研究と現場では、相互の関わりが少ないことを再確認できた。
- 自分達薬学を学んだ者が、これから社会にどのように貢献していくことができるか。ゴールはどの職種にしても患者さんであることに、改めて気づかされた。
- 今後、薬剤師がどの立場においても社会貢献を主軸に業務を行うことを深く理解した。
- 今後の薬学出身者としての心持ちと社会貢献するために必要な現在と未来の行動。
- 薬剤師として今後貢献すべきこと等を学ぶことができた。
- ワークショップを介してみんなに新しい目標が立っていること。自分も周りに影響されて、もう少し新しい目標が発見できそう。
- 患者さんの物語を知って対応していくことは、実習でも言われていたので改めて行っていくべきことだと感じた。

プロフェッショナルとは何か、全体像はまだもやもやしているが、プロになるために自分がやりたいことがみえた。

- 薬剤師として、どのような領域に携わることになっても、そのどれもが最終的には社会（患者）貢献につながっているという点。

自己満足に終わらないためにも、自分がしようとしていることが本当にニーズとマッチしているのか、真のニーズを理解しなければならないと感じた。

薬剤師の職能に危機感を感じている人が多かったこと。例えば病院であれば、現状、本当に薬のプロとして活躍しているといえるのか等。

- プロフェッショナルになるためには、社会貢献していることがキーワードになると考えた。
- 薬剤師に求められていることは、どんな職であれ社会貢献していくことであるというのを他班の様々な観点からの発表により知ることができました。
- プロフェッショナルとスペシャリストについて。昨日までは十分イメージできていなかったが、今日の本下先生のご講演である程度は理解することができたと思う。
- 世のニーズに応えることも1つのプロフェッショナリズムであること。
患者のバックグラウンドに寄り添うことの大切さ。

これから、自分が目指していこうと思う薬剤師像。

- 今日は、23名での討論でも積極的に話し合うことが出来たと思いますが、その中で言葉や伝わり方が違っていても、誰もが感じていること、思いはそんなに変わらず、高い志を持っていると感じました。
- 1日目を通してプロフェッショナリズムに関して個々の意見の下、要件とは？を話し合いまとめたが、本日2日目の木下先生の講義でその理解が深まると同時に、ではプロフェッショナルになるにはどうすればいいのか、なってからどうしていきべきなのかという未来像までもを考える必要性を学びました。
- 将来の薬剤師像は一人一人違い、どれも正解であると感じた。また、違う意見が、新しい発想につながり、討論することの重要性を感じた。
- 多人数で話し合いをするのは、まとめることが大変だとは思いますがより多い意見を共有できて嬉しかった。
- 薬学部が将来、研究職、臨床薬剤師、その他の職種につこうと考えていても、社会のニーズに応じて、貢献していきたいという考えは一緒であった。

6. 今日、あまり理解できなかったことは何でしたか。

- どのような切り口で討論に入ればいいのか、なかなか理解できず、難しい内容だなあ、と感じました。
- なかなかピンとくる答えが出ず苦労しました。また、考えれば考える程プロフェッショナルとは・・・となっていました。
- 薬剤師といっても、病院、薬局以外で、企業や行政など様々な職業の中に薬剤師はいるので、様々な薬剤師の実状、現状や新たに取り組んでいることを知りたかった。
- 最初の討論で、“薬剤師のすべき事”について議論する上で、何を話せばいいのか戸惑いました。
- 皆が目指す先は異なっているが、薬剤師という集団として全体がある程度まとまった考えていく必要があるか？本当に社会がもめていることは何であり、何を行うことが必要とされるのか？それを知る手段を得たい。
- 社会的なニーズの移り変わりを正確に感じるにはどうしたらよいのかということ。
- プロフェッショナルについては自分なりに今後も考えていきたいと思う。
- 自分の目指しているものはプロフェッショナルになるのか？
- 色々な意見があり、自分の中でまだ消化しきれてない部分もあるので、そこは改めて考えたいと思う。
- 木下先生のご講演で、「ニーズ」という言葉があったが他の人が薬剤師に求めるのは具体的に何かということ。
- やはり、専門にとらわれすぎないことの重要性は分かったが、その職域をこえて、行うこと、とくに、ナース以上の患者との信頼関係を築くためには、なにをすべきか今後もっと考えていきたい。
- 物語は確かに知ることによって患者さんの歴史を理解するのに役立つし、より良いサポートにつながるのかもしれないけど、医療現場の疲弊、効率性を求めた医療ではあまり優先順位は高い項目ではないのかと思った。

- 薬剤師として働く不安感、危機感は2日を通して大きくなった。
- 社会が求める薬剤師像がどんなものなのか、もっと自分で考えていきたいと思った。
- プロフェッショナルになるために自分に足りない能力。
- 学生間の将来の夢や希望（薬剤師の行動）が、実際に現場で、可能なのかは、薬剤部長や薬局長の手助けや、気持ちの統一が必要だと感じました。実際可能でしょうか？
- 研究も大切だとはわかっているが、臨床の方がやはり大切なのでは！？
- 目指すものに向けてどう動いていくべきか、まだはっきり考えきれなかった。
- 他の班の情報がもう少しあってもよかったなと思いました。
- 朝一のセッションのテーマの違いを理解するのに苦しみました。ですが、チームとタスクフォースの方の意見を多く聞くことで討論に参加できました。
- 他のグループの人の名前
- 答えの無い問いにどのように向き合えば良いのか・・・。そこは常に課題となるが、もう少し解決策が出ると良かった。
- 最後のIグループの発表で、「薬剤師もフィジカルアセスメントをすべき」とあったが、私はあまり理解できない。たしかに新しい領域のことではあるが、それは医師、看護師でもできること（むしろ彼らの方が本職）。我々薬剤師にしかできない領域を開拓した方がより意味があると思う。
- 他のチームがその結論に至った議論の過程。
- 学生との交流はありましたが卒業生との交流が少ないように感じた。
（どのような方が参加されていたのかあまり把握していない）
- プロであるためのスタンスを保ち、向上していくなかで、相手に伝える発信力の面でどうしていくべきか、もっと考えたい。
- 27人でSGDするのはとてもむずかしいです。職種によってかもしれませんが、少し「薬剤師」が目立ちたいというかちょっと全体を聞いていて、偏りすぎていると思いました。そこで、他職種とのWSにも興味をもつことができました。
- 潜在的なニーズをどのように引き出すか
薬剤師というものをどのようにして理解していただくか
今後の医療人としてどのように行動すべきか（どの程度まで行動範囲を広げれば良いか）
- 発言力のある人たちは人の話を聞きながらどうやって何を発言するか考えているのだろうと不思議に思いました。
- 当初、よく分からなかった部分も、話を聞くうちに理解することができた。
- 潜在ニーズの具体的な見つけ方はまだ模索中なので理解に至っていないと感じた。
- 他グループの行動宣言についてのしょうさいとか考え方。（少し自分でギモンもあったので）
- 先輩方との交流があまり出来ず、また先輩方が何をWSしていたのか、わからないので、どういった経緯で発表されたのかなと思いました。
- 薬剤師の職はロボットに取って代わられる可能性が低いデータがありましたが、何を元に算出してどのような意味があるのか、もう少し説明してほしかったです。
- 今日時間足りず、自分のSだけの理解で手一杯で、もっと他のSや3Pでの意見も、真意を聴き、理解を深めたかった。

- 3班合同での発表は、事前に内容をみていたけれども、次の発表にうつると内容がうすまってしまったので、パワポだけではなく、模造紙やパワポを印刷したものを前に貼ってあると、もっと理解が深まったと思います。
- 他己的、という単語がよく出たが、果たして、何の対価もないこと（例:点数のない在宅）は、仕事と呼んでいいのだろうか。
- 高齢者の方に、薬剤師の職能を理解・認識してもらうには、どうすれば良いのか？
（健康セミナーを開催するだけでなく）
- 教育について不満はあるが、どの形が理想か具体的なことはイメージできなかった。
- 23人でのディスカッションの上手い進め方が分からなかった。
- 「プロフェッショナリズムとは何か」について明確な答えはできませんが、今後の学びの中で考えていきたいです。
- 各小グループの考え
- 本質的にプロフェッショナルであるとはどういうことなのか、考慮される要素が多い上に複雑で難しかった。
- 立場が様々なため、行動宣言などがアバウトになった。
- 薬学出身者として社会に出た際に感じる、共通の問題点や考えていること。
- 現状では改善すべき点はまだ多くあるので、その点についてまだ考えるべきだと感じた。
- 患者さんの為、社会のためと言葉にするのは簡単だが、何をもって患者さんの為と言えるのかを考えると、評価することは難しいと感じた。
- 3グループの意見をまとめるというのは、とても大変でした。
- 色々な班から多くの意見が出されたこともあり、まだ少し情報の整理ができていないように思う。配布資料や報告書を書きながら自分の意見をしっかり持てるようになりたいと思う。
- 世の中は、薬剤師がやっている仕事を詳しく知らない⇒ニーズが生まれない。
でも、全体としては新しい領域に手を出そうという方向……。あれもこれもやる前に、まだまだ現状でやれることがあるのじゃないか……。⇒それが認められて初めて新しいことができる？
- 各グループ同士での意見は恐らく伝わり合っていると思いますが、私だと1班、2班のような今日の最終セッションだけの意見だけ聞くと、ニュアンスなどに違いがあったりするのかなと思い、もっとたくさん話が聞きたかったです。
- ニーズに応え続けることがプロフェッショナルとして必須であるなかで、薬剤師の具体的な未来像の詳細を言葉にすることは非常に難しく、グループ討論では相反する意見もでてしまうため、多少の混乱がありました。
- 別の班の意見（主張したい内容）を上手く統合する方法
- 他の班で「後輩へ教育」といった次世代を育てることは大切だと思うが……。4年制の先輩と意見を共有すべきだと感じた。
- 統合討論で他のグループがどのように話し合っただけでその結論にいたったのかももう少しその経過を知りたかった。

7. その他のご意見（自由にお書き下さい）

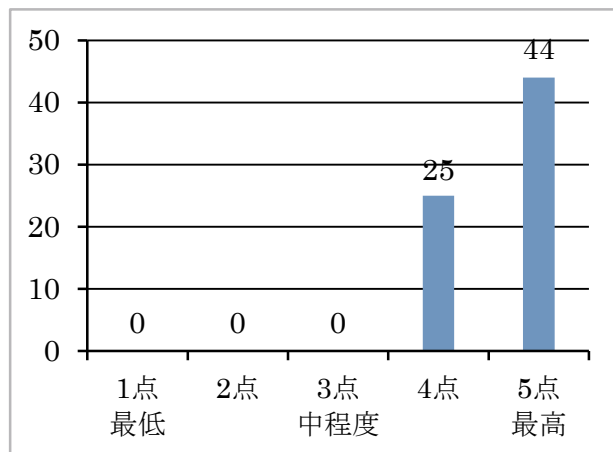
- 同じⅠグループでも、まとめ方が異なり、おもしろいと思いました。Ⅰ－Aでは、大きな目標から小さくしていく手法を取り、今までとちがうまとめ方が出来たと思います。
- あっという間の2日間でした。ありがとうございました。
- 行動宣言をしたことで、自分が何をしたいのか明確になった気がします。また、他のⅡ、Ⅲグループがどう考えているのか共有できて良かったです。
- 全体（3P）で、プロフェッショナルになるための行動宣言についての討論をすることで、自分だけでなく、みんなが目指していることを知ることができたのでよかった。
- 自分が目指すものが何なのか、考え直す良い機会になりました。
- 昨日のWSをもとに、具体的に自分らがどう行動するか考える事ができ、より内容の理解につながった。
- タスクとして何を問われているのか、なかなか理解できなかった。
資料として他班のプロダクトとかがほしい。
- もう少し時間に余裕が欲しかった。
- 楽しかったです。 I w i l l c o m e b a c k s o m e d a y ! !
- 多くのヒトと意見を交える難しさ。
- 2日間でいろいろな方と接することができ、刺激をもらいました。ありがとうございました。
- 初めて会う方々と議論をする中で、他の人から自分にフィードバックが欲しかった。
- 2日目は1日目よりも更に自分の内の考え、思いを形を外に向けて表現する必要があり、難しさとともにやりがいを感じた。
- 人との繋がり大切さ、チームの強さを感じました。自分なりのプロフェッショナルになれるよう努力します。
- 充実した時間を過ごせて楽しかったです。
昨日よりも積極的に参加できたと思います。
- 最後の卒業生の方の発表がすばらしかったです。e n e r g yをためて、またこのWSに戻ってきたいと思いました。
- 2日間ありがとうございました。
- もっともっと、学生のうちにこういう他大学の集りに参加したかったです！！本当に楽しかったです！！
- 今回のWSを通して発言するのが苦手だと改めて実感することができたので発言力身につけたと思いました。
- このような貴重な機会を与えて下さった御関係者様、本当にありがとうございました。
- チーム27人での討論は人数も多く初めての経験だったが、それぞれのメンバーの意見が生かされて実りあるものになった。
- 最後に先輩とのギロンが少しあったが、もう少し先輩方とのつながりをつくる時間がほしかった。また、チーム以外で関わることがほぼなかったので、来年は2グループだけでなくBで集まるなど、もう少し他のメンバーとの交流がほしかったとおもう。
- お忙しい中、2日にわたりご指導頂き、誠にありがとうございました。
- とても楽しく2日間通して学ばせて頂きました。貴重な機会をありがとうございました。

- グループの色があつてとても面白かったです。3のSmall groupの意見をまとめる時間が足りませんでした。
- 卒業生のWSの発表を聞いたことがとても良かったです。ぜひ、学生と卒業生のディスカッションの時間も設けて欲しいと思いました。
- 前述しましたが、大学内にはほぼいない自己主張の激しい、でも想いは同じ人達に囲まれて、とても幸せな2日間でした。また来ます。
- 3グループ合同のディスカッションは、あまり成立しえないのかなと感じた。
- 他のグループの進行や考え方もまた、様々で刺激になった。
- 木下先生のご講演で昨日もやもやしていたものがはっきりしてきたように思える。
- 進路を同じ者同士でかためるか、ばらけさせるか、班によって偏りが無いほうがいい。
- より多数の学生を参加させるべきだと考えます。
- 3班の意見をまとめる時間が少し短かった。
- 色々と意見がぶつかることがあった。プライオリティーの確認が重要。
- 1日目より楽しくディスカッションを行うことができた。
- 2日目はチームメンバーのシャフルがあつた方が色々な人の意見が聞けて良いと思う。
- 全体（3班としての全体でA～Cをまとめる時）の時間がもう少しほしかった。
- 白熱していきそうな所で、質疑応答など、議論の場が時間の関係でおわってしまうのがもったいないなと感じました。
- 2日目は今後の自分達について考えるという部分におもきがあり、1日目以上に活発な議論ができました。
- （昨日から感じていたことではあるが）薬剤師の将来像について、なかなか自分の意見を言うことができなかった。今までしっかり考えたことがないテーマだったからかもしれないが、薬剤師の将来像をあまり考えないまま就職活動をしてしまったように思った。まだ就職活動は続けているので、2日目のワークショップで感じたことを生かしていきたいと思う。
- ぜひ国試に合格し、就職したら再び、このWSに参加したいなと思いました。その時には、OB、OGの方々のように自分の考えを伝えていけたらと思います。
- 今回1班7～8人で3グループという体制でありましたが、時には意見のまとまりを考えて、1班4人程度で1人1人の意見をもう少し大切にできる体制があっても良いように感じました。
- 初めてⅢ班以外の意見も聞けて、新しい発見につながったので、他班との交流の場（討論）を増やすと良いと思った。
- 最後に個々の計画を発言した方が良いと思う。（A4にかいたものをその場のいすでもいいので）
- Pグループでの討論の時間が短かった。もう少し3つのグループの良いところを引き出すためにも、もう少し時間がほしかった。

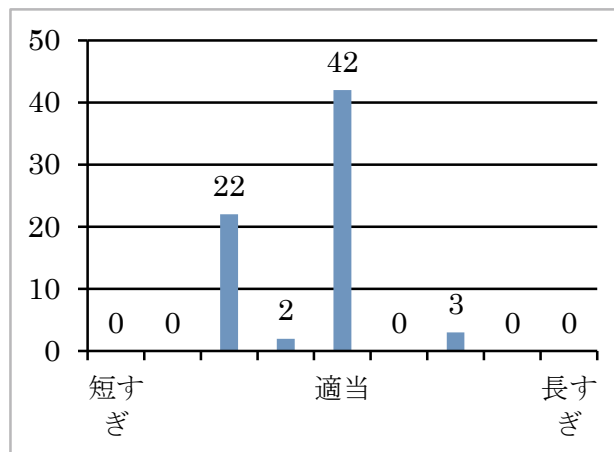
ワークショップ総合評価

1. 今回のワークショップを全体的に評価してください。

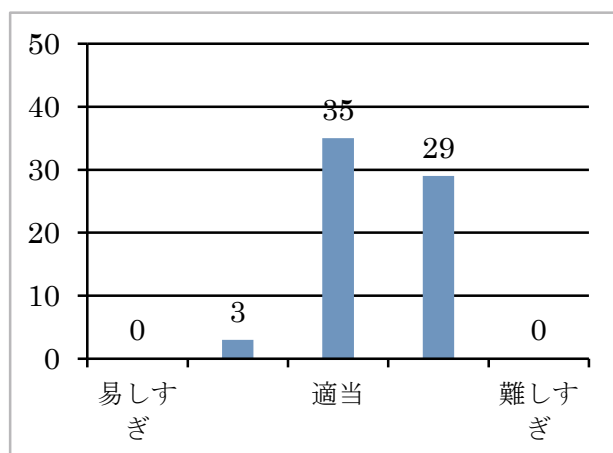
1) 内容の価値について



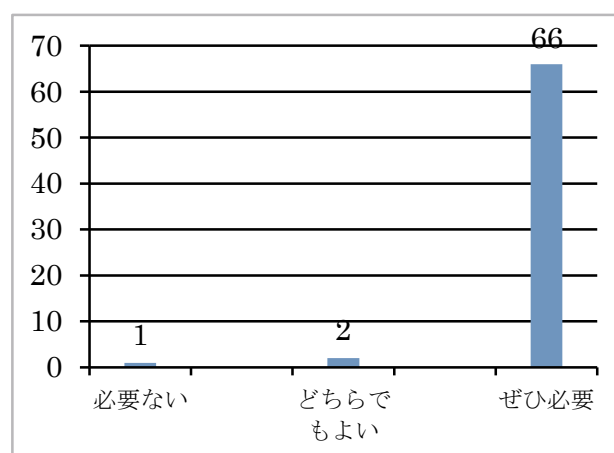
2) 内容に対する時間について



3) 内容の難易度について



4) このようなワークショップを
継続することについて



2. 今回のワークショップでよかったと思われることをお書きください。

- 他大学がどういう学習をしているのか等知ることができて良かった。実習先で、何を学んだのか共有することができた。将来何をしたいのか、同じ6年でも考えることが違ってておもしろかった。
- 大学では、world cafeや薬剤師のあり方について討論する機会がなかったため、意見を聞くことができて良かった。
- 初めての人と意見交換をするというのは、今後、薬剤師としてはたらくにあたってすごく良

い経験になりました！新しい友達、仲間、先輩が出来るのはすごくうれしかったです。

- 初対面の人とのSGDということで緊張していましたが、導入部(W o r l d C a f e)から楽しく参加できました。大学でSGDをやると黙ってうつむいてしまう人がとても多く、疲れてしまう印象がありましたが、今回のWSでは班のメンバー皆が発言したり共感をしてくれたので充実した時間となりました。他の地域や大学のカリキュラム、実習の様子、学内の雰囲気を知ることもできてよかったです。
- 普段あまり意識していない薬剤師としてのあり方について数多くの意見を聞くことができ、自分の中の理想の薬剤師像のかたちがつくられてきたように思える。
- 全国の他大学の薬学生や卒業生と情報共有、情報交換ができたこと。
多くの意見を聞く中で、自分の考えを見直したり、モチベーションにつなげたりする良い機会になったこと。
- 私達が築く新しい医療と社会というテーマが個人的に非常に良かったと思いました。
- 他大学の人と交流でき、薬学界の未来について熱く語りあえたこと。
- 同じ立場の人と情報・意見交換できたこと。
やる気を維持できそうなこと。
交流ができたこと。
チームワークの大切さ。
- まず最初に他人と緊張がとけた事で全体の流れで必要なグループトークが想像以上に広がったこと。
- 他の人がどんなプロフェッショナルを目指しているのか聞くことができ、刺激になった。
- 全国からの志の高い学生が集まり、活発な議論が行われたことで、自分にはない新たな視点に気付くことができたこと。
- 今まで学校で議論する機会もなかったし、それをできる相手も少ないので、自分の中でモヤモヤしていた部分をぶつけても良い反応が返ってくる仲間に出会えて良かった。
- さまざまな地域からきた方との議論や交流を通じ、今まで考えつかなかった考え方や将来についてすごく多くの情報を得ることが出来、私の今後の人生に、大きな影響をあたえてくれるものになった。すごく視野が広がり、薬剤師としてこのワークショップにいる仲間とともに、社会に貢献していきたいと思った。
- だんどり（あるテーマについて説明→SGD→まとめ→発表）が何回もあったのがよかった。
- 全体的なプロフェッショナリズムから始まり、最後には自分らの行動目標を考えるという流れはとても良かった。また、議論の中で様々な意見を聞けて、とても刺激をうけた。
- WSが始まる際にも楽しく導入ができ、グループで打ちとけ合えたことでその後の討論も活発に行うことができた。そして今後薬剤師になった時にプロフェッショナルになれるような高い意欲と具体的な内容を認識することができた。
- 他大学の方や卒業生の方のとても意識の高い意見を聞いたりお話ができ本当に刺激に

なっただと同時に、自分の考えが全然甘かったということを痛感しました。大変充実した素晴らしい2日間でした。

- 多くの人に会えたこと。6年間も知らなかったことがあったことが、わかったこと。同じようなプロフェッショナルな薬剤師を目指す同志がこんなにたくさんいること。本音で語り合えること。薬剤師について朝まで語ったのは初めてでした。
- 様々な考えの人と触れ合え、意見を交換できたこと。自分の中の考えを見つめ直す良い機会になった。
- 他の大学の薬剤部生と交流をもち色々な情報交換をすることができた。
- 自分たちのIC班のメンバーは最高でした。また、最終日にIグループとも作業ができ、深い考えをもつ学生が多くいることにおどろきました。とても楽しい時間でした。
- 普通にしていたら、出会うことの出来なかった、薬学部6年生に出会えたこと、社会人の方、タスクフォースの人々に出会って、意見を言いあえたことが一番良かったです。
- 実際に一会社の先輩、後輩関係なく同じ業界で働く方々に出会う事ができ、説明会や就活では学べない実際の現場の話(ぶっちゃけトーク)をする事ができてとても楽しかったです。様々な業種を目指す子、卒業した先輩方。こんなにいろいろな多方面からの意見が聞ける場は他にないと思います。何より、先生方との夜の語らいが本当に楽しかったです(笑)ありがとうございました。
- 何より、多くの刺激を受けることができた。知識や情報も共有することができ、点だったものを線に、また、立体にすることができた。
- 色々な人の意見が聞けた。(大学では似たような意見の友人が多い。)もっと積極的に学ぼうと思えた。
- 自分の世界をもっと広げる必要があると危機感をもったことです。WSで議論するにしても、前提となる知識(世の中の流れ、ニュースなど)がないと話せません。せまい研究室に国立の薬学生は閉じこもりがちですので、もっと世の中に目を向けないといけないと痛感しました。
- 多くの薬学生の意見や、経験が聞けた。
- 最初にみんなと仲良くなれるキッカケ(他己紹介・World Cafe)をつくっていたことが良かった。様々な考え方をもつ人達と討論できて自分の未熟さを感じたが、それよりなにより勉強になることが多かった。
- プロフェッショナルであるとともに、その根っこにあるものが何なのか、薬剤師として何が求められているのか、考えるきっかけとなった。自分に足りないものが以前よりもはっきりしたものになった。
- 他大学やファシリテーター、関係者の方々との交流を持つことができ、また、意見をかわすことができたこと。
- 普段考えることのあまりないテーマについて深く考えることができました。自分自身が漠然と不安に感じていることを、さらけ出すことができて良かったです。

- 他大学とのつながり。
社会に出て必要とされる立場になるという事を意識する。
- 他大学の学生と共に熱い議論ができたこと。
全国に多様なバックグラウンドを有した同期ができたこと。
薬学会、行政の方と話をさせていただくことができたこと。
- 学会等でも集まることのできない全大学が集まり、各々の意見を出し合う機会を頂き、とても楽しかったです。また、卒業生の方々もWSに参加されていたのもとても勉強になり、楽しかったです。
- 様々な地域の様々な方向を目指している学生や、先生方と出会い、話すことができたのは非常に良い経験になりました。
- 同じ薬学部6年ではあるが、進路や考え方の異なるメンバーが集まることで、お互いに良い刺激になった。
- 他大学との交流、WS卒業生との交流、情報交換。
- 結論が一つではないのであらゆる方向からものごとを考えることができた。
- 他大学の学生と議論できたこと。
- 各大学の学生が一堂に会し、常々疑問に思う“薬学のあり方”に関してディスカッションを行えたのは有意義だったと思うし、なかなか大学には出来ないことだと感じた。
- 他大学の方と意見を交換できたこと。自分の大学では就職先がみんな近いのであまり知らなかった情報などを知ることができたこと。
- 2日にもわたるワークショップというのが初めてだったので、関連のある議題について順番にギロンできる、というのはとても良かったです。倫理的なギロンができました。
- 1日目の最後に劇を作ったこと。
劇を作る過程の仲間との話し合いにも色々な要素が含まれているし、劇そのものを、色々な要素が含まれている表現方法だと思うのでとても良かったと思う。
- S、P、3Pと臨機応変にテーマによって分かれ討論するスタイルは楽しかった。2日間のつながりあるワークショップにより、1つのことについて深く考えることができ、理解をしつかりでき、貴重な経験として刻み込まれた。2泊3日で行いたいくらいだった。
- 薬剤師、モニター、研究員とばらばらの進路の学生が集まった班だったが、どの職業でも患者さん目線に立つことが大切だという共通認識が深まった。
- 様々な大学の方と触れ合う事で普段きけない話をきくことができた。自分の考えなかった意見をきくことができた。
- 楽しい作業を通じて、個人、グループの考えを荒い出していった点。
- 雰囲気がかたすぎず素直な意見を述べられたこと。
- どの進路に進む学生でも、将来の財産となるような仲間ができるWSであった。
- 情報交換会で、卒業生の方とお話することができ、臨床現場や研究をされている方の生の声をきくことができたのが、非常に良かった。卒業生の方々が学生と積極的にキョリをちぢ

めて下さったのが、本当に嬉しかったです。

- 同じ病院薬剤師を目指している方の目標や考えが自分にとってはとても新しく感じ、刺激になった。

医薬品に関わるどのような職種であっても患者のQOLの向上に貢献したいという気持ちは共通しているということを認識できたこと。

- 全国の薬学部6年生と交流する機会は貴重で、自分の考え、視点を広めるよいきっかけとなった。似た立場で（レベル）でなければおもしろいディスカッションはやはりできない。
- 多くの大学の人の意見を聞くことができた。大学、地域によって進路に対する考え方も異なることを知った。

（私の大学では、臨床薬剤師が大多数なので、薬剤師の仕事の幅広さを知れた。）

- プロフェッショナルリズムとは何かという観点から、様々な意見を聞くことで薬剤師の可能性や現在の問題点などを考える機会となり、また知ることができてとても良かったです。
- 限られた時間の中で与えられたタスクをこなすこと。又、与えられたタスクをより大きな単位でまとめ上げることの有意義さと難しさを学べた。更に同じ環境にいる仲間がどのような考え方を持っているか分かち合えた。
- 様々な大学の学生、卒業生との意見交換、情報の共有ができ、とても有意義であった。
- プロを考えさせられた。様々な職を希望する人と話せた。劇の試みはよかった。
- 他大学や他の職種の人と関わることで、より自分が明確になった。

薬剤師業界としての将来を担っているという自覚ができた。

交流の幅が広がって、今後も大切にしたいと思った。

- このようなキカイがなければ会うことのなかった人たちとの情報交換、共有、自分と同じ意見をもつ人との出会い、議論。
- 全国の学生でも同じ考えの部分があれば、違う意見も多くて、しかも目指している職が違うので色々なことが学べた。
- 自分の将来だけを今まで中心に考えていたが、（日本の）薬剤師として今後求められることを考える機会になったと思うので、視野を広くすることができたと思う。
- さまざまな志を持った人と、もまれることができた。その中で、さまざまな意見を聞くことができ、自分の中になかった考え方が生まれたことが、とてもプラスになった。自分が得るだけでなく、発信することもまた重要であると改めて感じた。
- 単純に友人が増えたことが嬉しい。十人十色の意見を聞くことが出来、考えの幅が広がった。
- 様々な考えをもった人と交流できたこと。その中で少しでも自分の意見を言えたこと。将来に対するビジョンが不透明であったが、目印のようなものを得られた。
- 薬剤師の中でも多職種が連携し思いを共有できたと思う。
- タスクフォースの方が、班での意見がまとまらない際にアドバイスを下さったことです。自分たちの言いたいことが非常に整理されました。

- 全国の薬学生と知り会えたこと、さらに、それぞれの特徴的な考えに触れることができ、自分の考えを成長させることができたと思ったので良かった。

3. 今回のワークショップの問題点と思われることをお書きください。

- 病院、薬局、その他への就職先のバランスが偏っていると思った。
(病院の人が多くのように思え、討論でも病院主体になってしまった。)
卒業生とは、アドバンスト情報交換会でしか話せず、もっと話せる機会をつくって欲しい。
- 先輩方から薬剤師の現状について教えていただきたいと思いました。
- 先輩方の意見や、タスクの先生方の意見も聞けると、もっと幅が広がったのかな。と思いました。
先輩方との交流が少ないのは残念に思いました。
(今回はほとんどなかったので・・・)最後のA～Cの3グループでの討論の時間がもう少しあると良かったな。と思います。
- 2日間では物足りないといえますか時間がたりないように思えました。他のグループの方とあまりお話する機会がなく残念でした。
- 別のチームの人とももっと関われば良かったと思う。
- チーム間での交流が少なかった。
- 個人の行動宣言、行動計画を聞いてからディスカッションをしたかった。
- 「プロフェッショナル」という抽象的な表現なので、先生方が考えてほしいことや討論してほしいことを理解するのが大変だった。
- 人数が多い方がまとめるのに時間がかかるはずなのに、まとめる時間が少なかった。
1回ぐらいは他のチームの人とも交流(ワークショップとして)してみたかった。
- タイムスケジュールに全体での移動の場があらかじめ書いていなかったこと。
- 全員と関わる機会が少なく、他チームの意見をあまり聞くことができなかった。全体での発表の機会をもう少し増やしてほしい。
- 話し合いの時間が短いと感じることがありました。
- 時間が足りない所もあったので、もう少し時間が確保できるときにしてほしい。
- もっと他のグループやOB、OGの人と関わる機会がほしい。
- 他班でどんな討論をして結論に至ったのか過程を見たかった。
- グループが大きくなった時にまとめる時間が少なかったように感じた。
- 第Ⅲ部セッションⅠの「Pha. がすべきこと」と「私達の行動宣言」について内容の区別が難しかった。
- I班以外の班の方とお話する機会がなかなかなかったのが少し残念です。夜などもう少しそのような時間があつたらよかったのかなとも少し思いました。
- どうしても限られた時間の中で作業を行うため、納得いくまで議論しきれない。
- 難しいとは思いますが各大学1名ではなく、数名参加させて経験させた方が良いと思う。
- PCの設備をよくしてほしいです。

- 学生だけでなく、社会人、タスクフォースの方を、もっと交えて、意見を交換したいと思いました。
- あと1泊したいです（笑）
他のチームとも、もう少しかわれたらと思いました。何より先輩にもっとからめばよかったと後悔しています。
- 問題と言うほどでもないが、もう一泊してもよかった。
- （自室）部屋が暑くて眠れない⇒寒くて眠れない ということがあった。
- 「薬剤師のプロ」なのか「薬剤師国家資格を保有する人材のプロ」なのか考えはじめるとどこを深堀りするのがよいか少々困りました。私自身は薬局薬剤師就職なので非常に実りある2日でしたが、メーカー、行政、教育等に行く予定の人たちはこのWSをどう感じたのか気になります。ただ、メンバーは様々なバックグラウンドをもっている人が多いほど、新たな気付きを得られると思いますので、今回のような雑多な集まりの方がおもしろいと思いました。
- 卒業生の方ともっと交流、お話を聞きたかったです。夜の情報交換会で数名と話ただけで、もったいなく感じました。
- 自分のグループやチームはかかわる時間が長いが、他のチームとはほとんど接することがなかった。
- 時間が短い。
- 考える時間、他者の意見を聞く時間がもっとほしかった。
- グループⅠ、Ⅱ、Ⅲごとのディスカッションはあったが、グループ間同士のディスカッションの時間が少なかったこと。全員とは言わないまでも、少なからず交流できない人が出てきてしまう。
- せっかく30名ものOB、OGの方がいるのに、ほとんど交流できなかったこと。グループ間の交流時間が短かったこと。
- 2グループ間でのつながりはあったが、他のグループ間でのつながりが少ないと感じました。
- チームのつながりがⅡ班だけであったので、スモールグループは同じでいいので1日目と2日目で集会全体の班をかえるなど全体での交流がほしかった。
- 私達の理解力も問題かもしれないが、タスクとして求められることがはじめは上手く理解出来なくて、議論が迷走しそうになった時があった。
- Ⅱグループだけでなく、Ⅰ、Ⅲのグループの人とも少しで良いから交流する機会。
- 他のグループの考えを聞く機会が少なかったこと。一つのグループの人数がやや多いように感じられた。
- クロスウェーブが来にくい。
- およそ順当だと感じたが、3グループ合同のディスカッションは難しい。
- チームごとの議論が多く、他のチームの方との交流が少なかったこと。せっかく集まったの

に交流や議論が出来なかったのは少し寂しいです。

- もっと寝たい。くらいしか思いつきません。
あ、もっとOBに語ってほしかったです。
- ファイルだと文字が書き辛かったので、バインダー等もあると良かったと思います。
- せっかく69人集まったのに、最高1チーム分の人との(23人程度)交流しかできなかった。(できてもあいさつ程度となってしまった。)ぜひ、2日目の最後のような全体での討論、タイミングや時間を増やして行って頂きたい。先輩方との交流が0だったのが残念だった。タスクフォースの先生と先輩方というメンバーで私たちの討論を助けて頂いたり見守って頂いたりしてほしかった。
- 最後のPでまとめるときに、多数派の意見が勝つ傾向にあったため、できればバランスよく進路をばらけさせて学生をすいせんすると思う。
- 他のグループと触れ合う時間が少なかった。
- 他チームとの交流の機会が少なく、総合討論もⅠ・Ⅱ・Ⅲのチームでまとめたものしか見られなかったため、他のチームの小グループの考えが見えない。
 - ・休日開催
- Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ同士の交流が夜の情報交換会しかほぼない。
- 各大学1人しか経験できないのはもったいない。
- 1日目の開始時間(9:30受付)が早いように感じた。前入りしている人も多くいた。
- 1つの議論に対する時間が短い。グループ間(S)の時間は適切だと思うが、Pに戻って発表→他Sの意見を聞く・議論の伝えた後、フィードバックを受ける部分を充実させて良いと感じた。
- 3グループでまとめを行う時間をもう少し長くして頂けたらよかったですと思いました。
- せっかく薬学出身の様々な職種について卒業生がいるので、その方々ともディスカッションできればよかった。
- 卒業生とのSGDがあるとより深い議論ができたと思った。
- 皆、比較的批判をしなかった。少し行動宣言などが曖昧というか大きい具体案がなにかしらほしい。
- 他のグループ(Ⅰ～Ⅲ)どおしで関わる機会が少なかった。
卒業生とももっと関わりたい。
- メンバーが1日目と2日目で固定なこと(シャッフルの方が多くの意見が聞ける)
まだプロではない我々がプロを演じるのは難しい(演題が変わればまた違うのかもしれないが・・・)
- ものすごく細かいことではあるが、2日目のお昼休みが少し短かった。(午前中の話し合いが少し長くなったのが原因だが)
他グループの模造紙でのまとめを全て見るができなくて焦った。
- もっと自由にWSをやらせても良かったのかと感じた。軌道を修正された場面があり、それ

が無かったら、また異なった結論になったと思います。

- 少しテーマがつかみにくかった。しかし、プロフェッショナルやスペシャリストの考え方がわずかだが分かったように思う。
- Ⅲグループ内での交流はたくさんできたが、他のグループとの交流が少なかった。討論もグループにしばられずに行えたら良かった。
- ⅢCのメンバーや活発なⅢ班のメンバーとしか関わることができなかったのがもったいないと感じた。
- まだ学生だからかと思いますが、プライドの高さから、意見を曲げない人も多く感じ“意見交換”という場であることをもう少し初めに伝えるべきだと思います。私は、他人の話をうけいれることも大切だと思います。
- 時間配分が適当ではないシーンがあったと思う。他班との交流（討論）が最後と食事会の時だけのこと。

4. その他の意見（ご自由に）

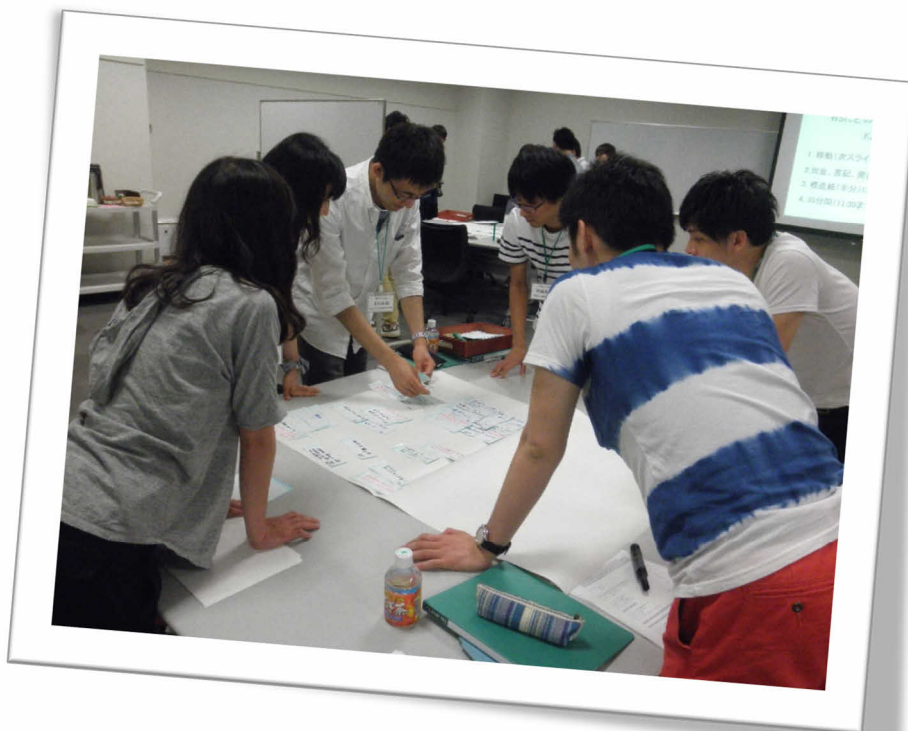
- 最初は緊張していましたが、だんだんと溶け込むことができ、大学とは違うつながりを持ちました。卒業生と話し、働いているその現場の雰囲気等を理解できて良かったです。一生同期なんだなぁと改めて思いました。このような機会を頂き、本当に勉強になりました。ありがとうございます。
- WSとは関係ないですが、実習期間は病院1カ月、薬局1カ月ぐらいが良いと思いました。病院・薬局の雰囲気、実状は知ることができると思いますが、実際働かないと分からないと思うので、実習+WSのようにしてほしいとおもいました。
- 最終日討論で、I-Aでは、薬学生のもっと早い段階で今回のようなワークショップがあると良いという話をしました。又、薬のみならず、医・看など、様々な人と早くから関わりを持つことで、刺激になり、更に良い形になっていくのではと思いました。まずは、近隣大学同士で行ってみるのも良いのではないのでしょうか・・・！
- 2日間ありがとうございました。
- 2日間、大変有意義な時間を過ごさせていただきました。ありがとうございました。
- とても刺激的でたのしかった反面、自分の力不足を感じ、もっと努力しないといけないと思った。
- 今回の経験を自分の大学や社会に出て働く地域で1つでも企画が出来たら良いと思っています。
- 非常に自分の中での考えがまとまったので、これからも参加したいと思った。
- またこの仲間と集まり、今後の医療について又、考え方などももっと話していきたい。本当に楽しいワークショップだった。
- 先生方とも意見交換やお話をする機会がほしかった。
- 疲労感、満足感ともにすごいものだった。

- 参加することが出来て本当によかったです。ありがとうございました。
- 年に何回も開くことは難しいと思います。(クオリティが高い) ですが、地域で集まって同じようなWorld cafeを開くことは是非やりたいと思います。運営して下さった諸先生方に深く感謝申し上げます。
- 2日間はあっという間だったがとても濃密な時間を過ごすことができました。
- 貴重な時間や、経験をありがとうございました。
- 自分へのフィードバックが欲しかったです。
- ありがとうございました。有意義な時間でした。大学に持ち帰り、少しでも多く学んだ事を同期、後輩にフィードバックしていきたいです。
- ぜひまた参加したい。
- 良い経験になりました！明日からも頑張ります！楽しかったです。
- 周りがすごすぎて討議に入れないこともあった。でもすごく刺激になって勉強になって今後の人生に活かしていきたいと思います。
- 参加して良かったです！
- 今回、このような貴重な機会を与えて下さった先生方、御関係者様、本当にありがとうございました。
- 社会人としてのテーマに対する考えも聞きたかったです。社会人グループも作ってよいのでは。
- 年1回ではなく、もっとこのような機会を設けて頂き、多くの学生がふれあえる機会があったらなと、思いました。
- 卒業生、薬剤師、教員とも共にワークショップを行いそれぞれの思いのGAPや相手に対するイメージを少しでも良いみで与えられたらいいと思った。(まずは地区レベルでいいので行ってみるとか) 2日間本当にありがとうございました。ゆういぎで、たのしかったです。
- 次は、是非卒業生で！そして、同窓会やりましょう！自分まとめます！！
- 普段大学内だけでは経験できない貴重な討論の時間を与えて下さり、ありがとうございました。
- 今まで他の学校の学生と交流が少なく、今回のWSは大変貴重な経験となりました。できれば、もっと下の学年で、こういった経験があれば実習への臨み方などが変化したかもしれないと思いました。
- 今後、研究の分野での問題も色濃くなっていくと思うだけに、そういった話題があっても良いのでは、と思う。
- WSは凄くハイレベルな議論が出来たので、自分の将来に良い刺激を与えてくれました。
- 卒業生と学生のディスカッション、是非実現してほしいです！！
- 2日間、有意義なものとなりました。このWSを開催するにあたり尽力して下さいった方々に感謝いたします。ぜひ、6年生以外の討論の場なども設けてあげて下さい。

- 薬物治療、病態の授業が薬理の延長のように思えるという意見がありました。例えば「この薬の副作用は脱毛で2週間後くらいに20%の人に現れる」というところまで授業で教えていただき「患者さん目線」を考える授業にすれば、患者さんのことを考えられる臨床に強い6年制薬学生が輩出できると思いました。
- 思った以上に進学希望がいたので安心した反面その中でも他の方と意見が異なるので戸惑いました。
- 社会に貢献できるようにこれからも頑張っていきたいと思います。
- このWSに参加して、人と人とのつながり、医療について考えることができ、とても有意義でした。参加してよかった。今後も、このような素晴らしいWSが続いていくことを祈っています。
- とても楽しい時間が過ごせた。今回知りあった人たちと再び会えたらいいなと思う。ありがとうございました。
- とても楽しい2日間を過ごせました。ありがとうございます。
- 私は今まで薬剤師の道は病院か薬局しかないと思っていましたし、そうとしか考えていない環境に慣れてしまっていたので、今回のこのような機会の中で私の中での薬剤師の考え方を変えることができました。このことをこれからも活かして社会貢献していける人間になりたいと思います。
- 交流を深めることができ、よかったと思った。
- 発表の際だけではなく、グループディスカッションに卒業生などがまざるセッションがあってもいい。
- 最初に不安の方が多く、あまり気乗りしていませんでした。参加してすぐに、多くの意見を知り、自分の視野の狭さに気づきました。今後もっともっと関わって、それを周りに広げて薬学業界の輪を広げていきます。2日間ありがとうございました。
- 全国の大学を代表して学生が集まったこともあり、とにかくレベルが高いと感じた。でも刺激を沢山受けたと思うので、中身の濃い2日間だった。
- このような素晴らしい機会を作って下さったタスクフォースの方々に心から感謝しています。
- 卒業生から臨床であったり研究をしていて患者さんのためになったなというエピソードをききたかった。どんなに私達が社会を考えてもうまくいかないこともあるということをもっと知りたい。
- 貴重な機会を与えて下さり、誠にありがとうございました。
- ワークショップに参加し、学ぶことが多かったので、自分の大学に戻ったら、ぜひ内容を共有したいと思った。

卒業生ワークショップ

セッション報告



セッション I

「私達はワークショップにどのように関われるのか」

第一部

全国学生WSに対する
私たち卒業生の関わり方

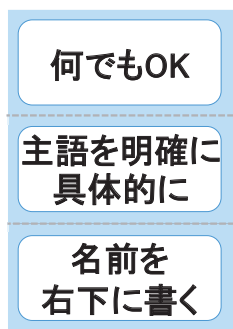
セッション I

私たちは
WSにどのように関われるのか？

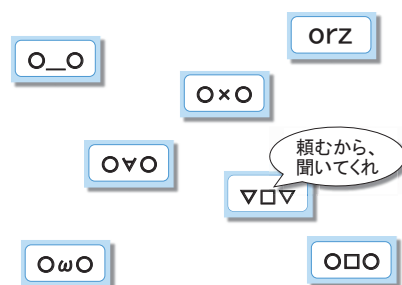
KJ法

1. アイデアを出す(文殊カードに書きだす)
2. 語るところを聞く
3. 情報整理する(島を作り、図式化する)

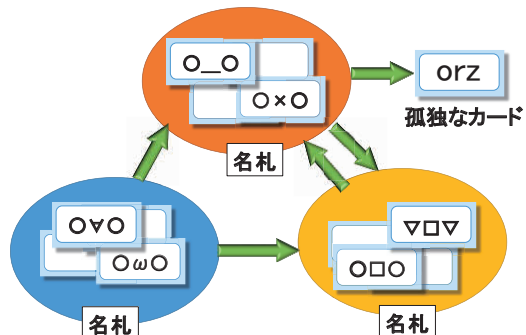
1. アイデアを出す(文殊カードに書きだす)



2. 語るところを聞く



3. 情報整理する(島を作り、図式化する)



私たちは
WSにどのように関われるのか？

KJ法で整理

1. 司会、書記、発表、報告書担当を決める
2. 自己紹介
3. 模造紙に作成
4. 35分間(11:30まで)

実行するとどうなりますか？

WSに関われるだけですか？

相乗効果？ 副作用？

成果 課題

それぞれの関わり方に
どのような側面があるのか？

SGD

1. 一番重要度の高いものはどれですか？

2. 成果は何ですか？

対象を
明確に

3. 課題は何ですか？

4. 模造紙に作成

5. 45分間(12:18まで)

12:30~13:30
昼食

6. 発表: 各班3分+総合討論3分(12:30まで)



グループ 1

<セッションⅠ：私たちはWSにどのように関わられるのか？>

今回で5回目となった日本薬学会全国学生WS。このWSのOB・OGも増えるにつれ、できることも増えてきた。今回は、今後の活動の方向性を決めるべく、まずは、セッションⅠとしてOB・OGとしてどんなことができるのか・やりたいのか、について、班に分かれて話し合った。

各々のアイデアを出し合ったところ、主な意見は以下のとおり。

- ・元^{もと}学生と社会人双方の視点を踏まえたフィードバック
- ・大学での矛盾・疑問を抽出、現場で還元、学生にフィードバック
- ・さまざまな職種の立場で感じていることを共有
- ・自主的に参加している他のWSの報告
- ・こんなこと聞いてみたい掲示板、悩み相談
 - ⇒相互に教え、教えられることで、学生OBOGが自身の考えをブラッシュアップ
- ・WSで得たことを大学・職場で共有する
- ・卒業生WSの開催
 - ⇒6年制Ph.としての考えを周囲へアウトプットしていく必要
- ・地域毎でWSメンバー以外も含めた場作り
- ・支部長制度の発足
- ・人脈づくり
- ・交流を続けられる環境づくり
 - ⇒活動が続けるためには『繋がり』が必要、そのための環境づくりは必須
- ・タスクフォースのお手伝い
 - ⇒運営の負荷軽減、ノウハウの吸収

各々のアイデアを踏まえ議論した結果、私たちの関わり方として、『持続可能な活動ができる環境整備』をした上で、『情報発信をし続けること』、『現役学生をサポートすること』が重要、との結論に至った。

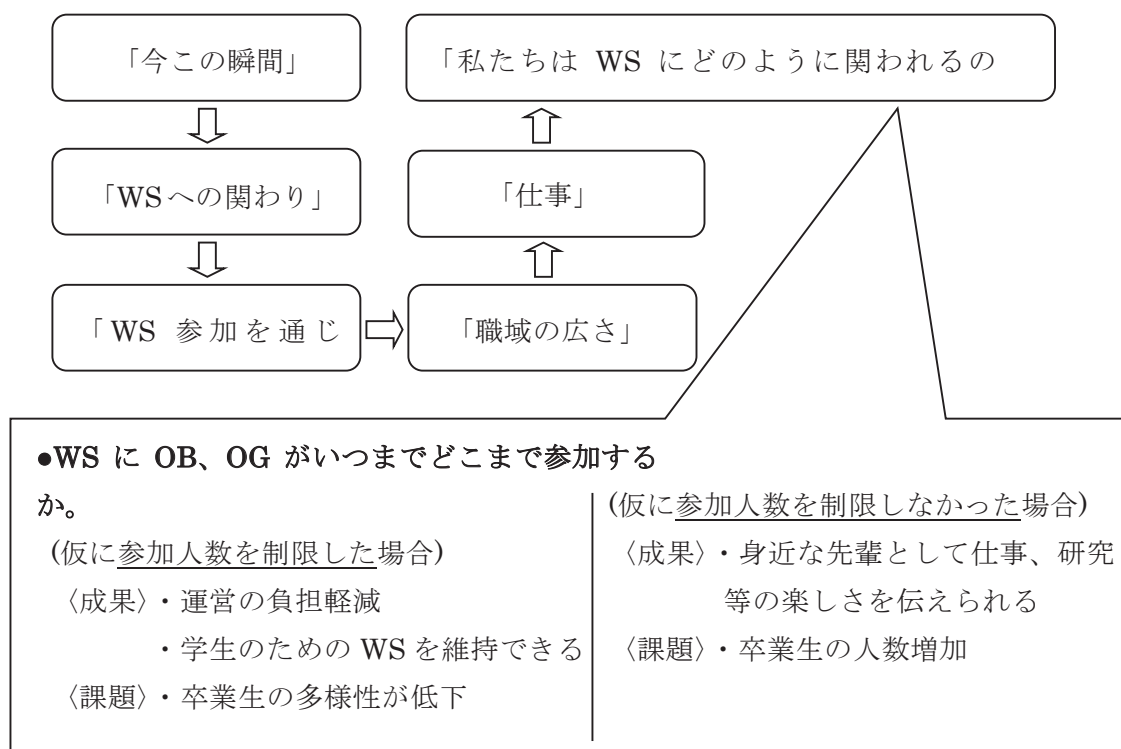
その際、課題となることについて話し合ったところ、出たコメントは以下のとおり。

- ・持続可能な活動をするためには、まずはマンパワーが必要
- ・各々の目的があってもいいが、全体としての目的をどう設定するか
- ・個人情報はどう保護するか

これら課題の解決策について、引き続きセッションⅡで議論した。

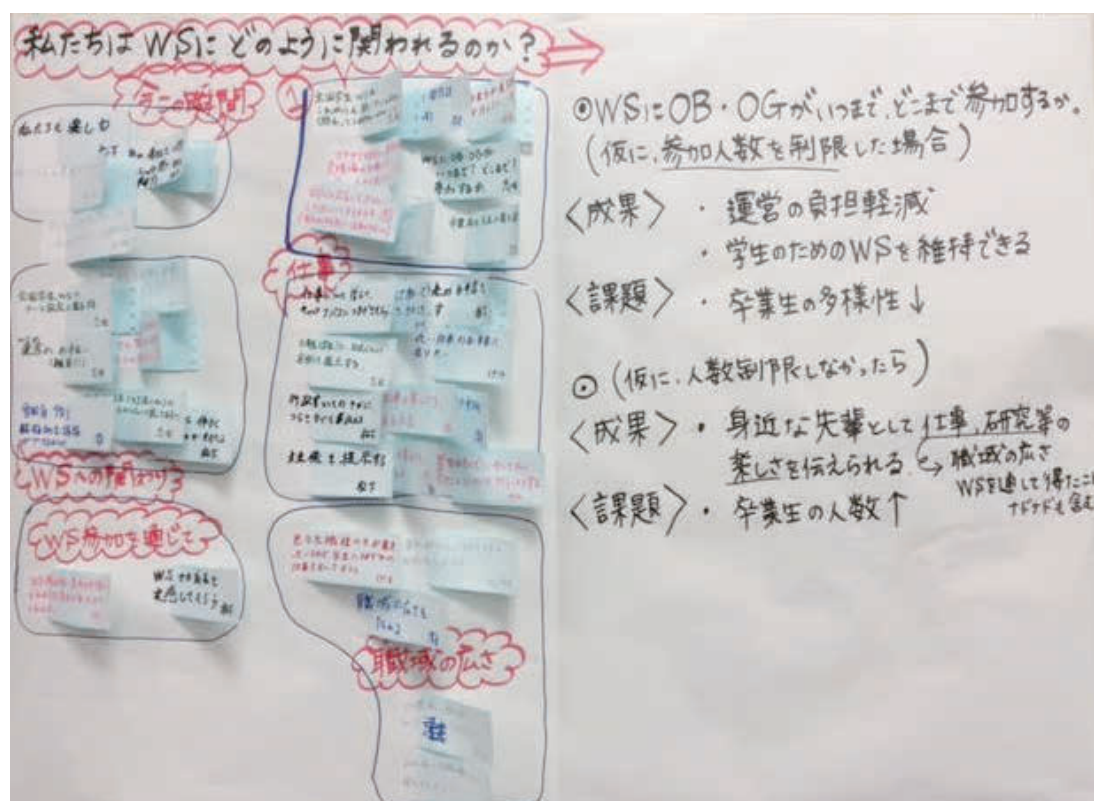
グループ 2

第1部のセッションⅠでは、私たち卒業生が全国学生 WS に今後どのように関わることができるか KJ 法を用いて整理し、その中で重要度が高いと考えられる事に対する成果と課題を出した。下記に KJ 法により作成した島(グループ)とそこから抽出した最も重要度が高いと考えたアイデアを記す。(以下「」=島の名札、< >=文殊カード、とする。)

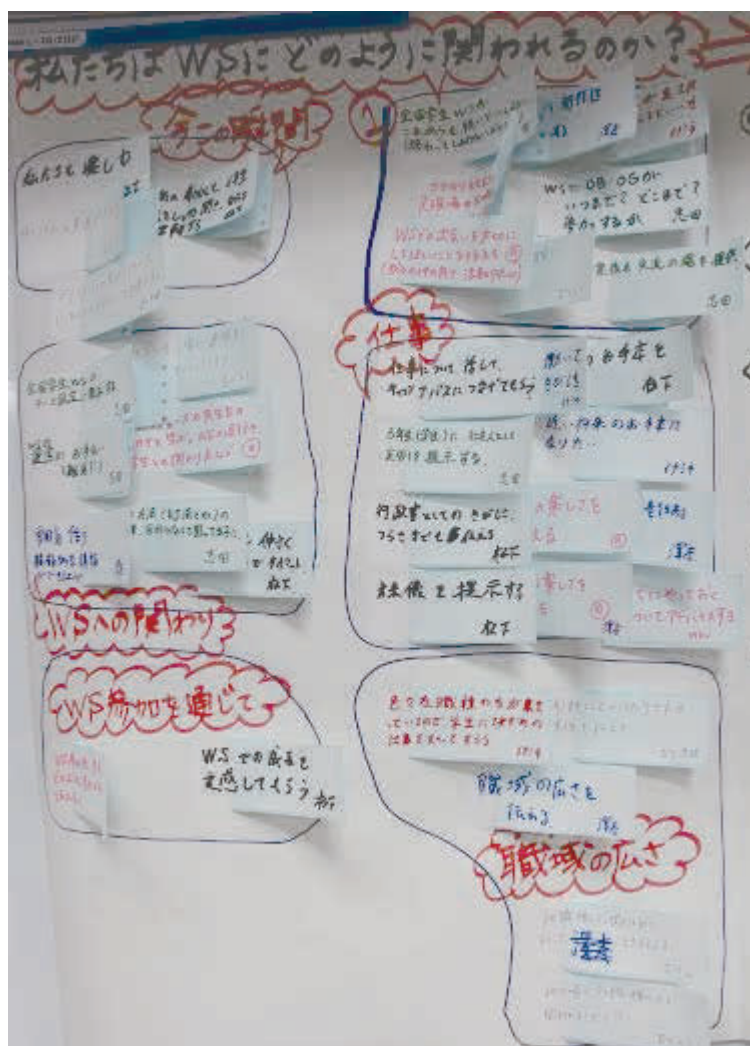


私たちグループ2では大きく6つの島ができ、上記の様にそれぞれの島を結んだ。流れとしては、WSに参加するからには<私たちも楽しむ>、<意見を聞いて、自分の中で理解する>といった、WSを行っている現在、「今この瞬間」をまとめた島をスタートとした。そして、WSを行う上で私たちだけでなく学生にも楽しんで頂きたいということから<WSの雰囲気作り>、<運営の手伝い>といった「WSへの関わり」を島としてまとめた。また、WSを通じて学生に、<WSでの成長を実感してもらう>、<WS参加後、思考や行動にどのような変化があったのかを伝える>といった「WS参加を通じて」の成長や変化を1つの島とした。また、様々な分野で働いている我々の<薬剤師としての働き方の多様性を伝える>、といった「職域の広さ」、そして、それぞれの仕事での<楽しさや厳しさを伝える>、<学生に、社会人としての実例を提示する>といった「仕事」に関連することを島としてまとめた。最後にWSの大切さ必要性を感じている我々は、その大切さや必要性、<全国学生WSがこれからも続いていくように>はどうすべきかを考え一つの島とし、「私たちはWSにどのように関われるのか?」と名前を付けた。そしてその島の中に<WSにOB、OGがいつまで?どこまで?参加するか>という文殊カードがあり、それをもっとも重要度が高いものと考え、卒業生のWSへの参加人数を制限した場合と制限しなかった場合の成果と

課題について議論した。その結果卒業生のWSへの参加人数を制限した場合、今後増加していくと考えられる卒業生の参加者が一定にたもたれるため、WS運営者の負担軽減や学生のためのWSを維持できることが成果としてあげられた。その一方で、様々な分野で働く卒業生の参加が制限されるため多様性が低下してしまうことが課題であげられた。逆に、卒業生のWSへの参加人数を制限しなかった場合、卒業生の職域の広さが活かされ、身近な先輩として様々な仕事、研究等の楽しさを伝えることができるなどが成果として挙げられた。その一方で、第4期までにWS卒業生は268人になっており、卒業生のWS参加者が、今後学生より上回るという課題が挙げられた。



全国学生WSと名前がついている様に、このWSは卒業生の我々が参加することまで想定されてはいなかったと考えられ、そのため卒業生は毎年違う形でWSに参加してきた。卒業生の明確な関わり方がないものの、学生WSへ毎年招待していただいているということは日本薬学会薬学教育担当の先生方をはじめ関係者の方々は卒業生の参加によってWSに何らかの良い影響があると考えているのではないだろうか。セッションIでの課題に対して明確な答えまで出すことはできなかったが、今後もWSが継続し、より良いものにしていくために今後のWSへの関わりかたを議論し、意見を共有できたことは大きな前進と考えている。



グループ 3

【 背景・目的 】

全国学生ワークショップ（以下本WS）は本年で第5回を迎え卒業生も年々増加している。6年生同士のつながりに、卒業生はどのように関わることができるのか、卒業生が本WSに参加する意義は何かを明確化する必要が生じた。本セッションでは「私たちは本WSにどのように関わられるのか」という議題のもと、KJ法を用いて意見を共有することとした。

【 議論の経緯 】

KJ法による島の判別をした結果、大きく3つのくりに分けることができた。一つ目は期を超えた縦横連携、二つ目は薬学教育への関与、三つ目は参加した学生への関与である

薬剤師は国家資格の中でも多様な職種を選択できる希少な資格である。卒業後、各々が別々

の職に就いた際、それぞれの職種が互いを理解し協力し合うことが不可欠である。我々卒業生が WS に再び参加することで期を超えた多職種連携を実現できる。このような縦横連携は本 WS が持つ特徴の一つであるとし、我々卒業生が大きく貢献できる点ではないかと考えられる。

六年制薬学過程の卒業生における縦横連携は、WS に対して薬学教育への影響と学生に対しての影響と双方に関与できるのではないかと考えられる。六年制課程を経験した後社会に出た者は、四年制課程を卒業した者よりも臨床的な視点から社会が求める薬剤師像を見出している。その薬剤師像を WS に参加することで学生や教員に伝えることができると考えた。また、WS 経験者を活かして自らが WS を企画・立案し六年生だけでなく低学年への WS を開催するなど教育に尽力できるのではないかという意見も出た。

教育だけでなく学生に対しても大きく関与できると考えられる。本 WS では学生が目指す夢や将来の目標に対し助言することも重要である。我々社会人が学生にできることとして、「鼓舞する」「失敗談を伝える」「夢や可能性を認める」「現状を伝える」「背中を押す」の五項目が挙げられた。我々の班では、その中でも鼓舞することが六年制課程の新たな可能性を引き出すことにつながるという結論に至った。その他に社会人の経験談や仕事の厳しさを伝え、緊張感を高めるといった意見も挙げられた。

我々の班では、WS によって生まれる縦横連携が薬学教育や学生へ影響を与えるという結論に至った。実際のプロダクトは次のようになった。

【 KJ 法の詳細 】

各カードに記載された意見は以下の通りとなった。

①＜期を超えたつながりを作る＞

- ・縦にも横にも仲間を作らせる
- ・職種間の溝を埋める仲間になる

②＜薬学教育へのフィードバック＞

- ・WS の動画を作って WS の前に参加者に見せる
- ・教育講演の時とか別の時間に前の WS の内容を伝える
- ・WS 未経験者を誘う
- ・アイスブレイクを卒業生が考える
- ・WS を計画
- ・WS の企画や立案

③＜将来像の一つ＞

- ・数年後の未来を見せる
- ・目標としている将来像を引き出す
- ・将来の夢の実現をサポートする
- ・将来の道(夢や仕事)についてアドバイスする

＜しくじり先生＞

- ・しくじり先生
- ・必要な能力を教える
- ・学生の意見をほめる、認める

<現状を伝える>

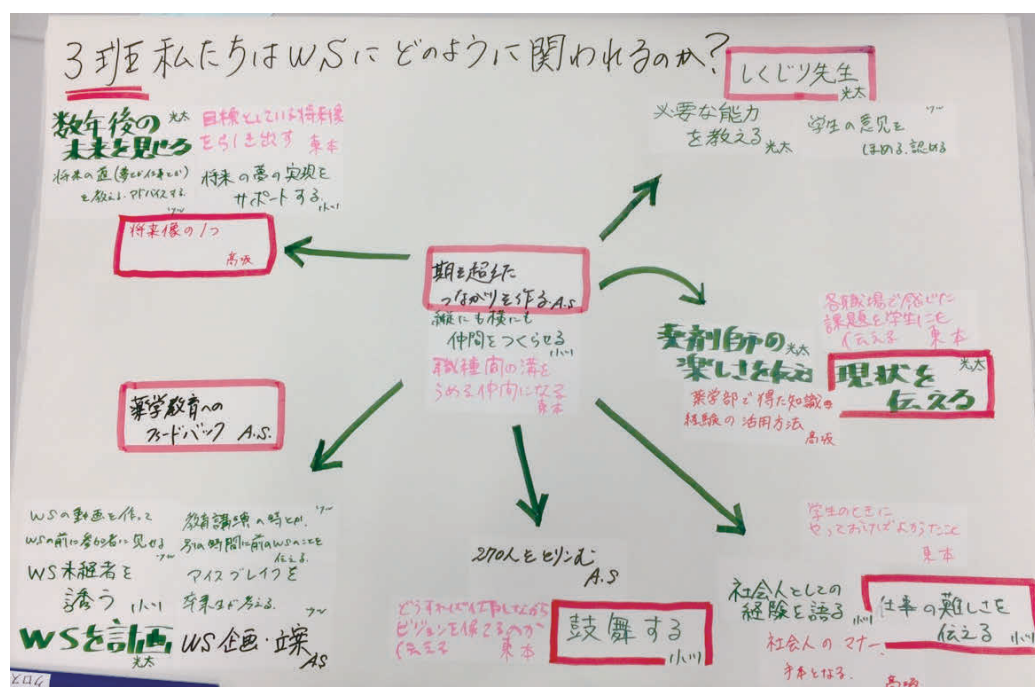
- ・薬剤師の楽しさを伝える
- ・現状を伝える
- ・各職場で感じた課題を学生にも伝える
- ・薬学部で得た知識や経験の活用法

<仕事の難しさを伝える>

- ・仕事の難しさを伝える
- ・学生の時にやっておけばよかったこと
- ・社会人としての経験を語る
- ・社会人のマナー、手本となる

<鼓舞する>

- ・鼓舞する
- ・270人を取り込む
- ・どうすれば仕事しながらビジョンを保てるか伝える



【図1：セッションIにおけるプロダクト】

【関与の仕方における成果と課題】

前述のとおり、我々の関与の仕方における重要度は①縦横連携②薬学教育へのフィードバック③学生へのフィードバックのような関連があると考えた。

期を超えたつながりを作ること、は、様々な職種の集合体ができることとなる。多様な意見や価値観を持つ人々の集まりは何かを成し遂げようとした際に莫大なエネルギーとなりうるため、団結すれば活動範囲は広く大きくなると考えられる。一方で、広がることにより連絡がつかない

いままになる場合や、派閥が生じてしまい分裂する恐れがあることが課題として挙げられる。

また薬学教育へのフィードバックはWSを企画・開催することでWSの参加者が増えより広い結束が生まれると考えられる。またWSを開くことにより主催者側も学生も主体的に活動できるようになると考えられる。一方で課題として、実態が不明確であることや成果が得られないリスクがあるなどが挙げられた。また、主催者側の自己満足になりかねないなどの意見も挙げられた。

最後に学生へのフィードバックにおいては、学生のやる気を奮い立たすことができる上、年の近い社会人のアドバイスを受け取ることにより、学生が将来についてよく悩み将来を意識するようになるといったメリットがあるのに対し、意見の押し付けになるリスクや学生を大きく悩ませすぎることにつながると考えられる。

【関与の仕方における成果と課題（実際の意見）】

①＜期を超えたつながりを作る＞

成果

- 何かを成し遂げる時にエネルギーになる(様々な職種の集合体)

課題

- 広がり過ぎると連絡がつかない
- 派閥ができる

②＜薬学教育へのフィードバック＞

成果

- WSの参加者が増える
- 主体的に考える学生が増える
- 企画側にも主体性がつく

課題

- 実体は？(お金や管理者など)
- 成果が上がらないリスクがある
- 全員バラバラなので場所が決められない
- 自己満足になってしまう

③＜将来像の一つを提示する＞

成果

- 学生の気持ちを鼓舞できる
- 学生がよく悩み将来を見定める
- 学生の若々しさを受け取れ、ポジティブフィードバックループを作れる

課題

- 押し付けになる可能性がある
- 学生が悩みすぎるリスクがある
- 自己満足になってしまう
- テーラーメイドの指導法が難しい

セッションⅡ

「現状の課題を打開しよう」

第一部 全国学生WSに対する私たち 卒業生の関わり方

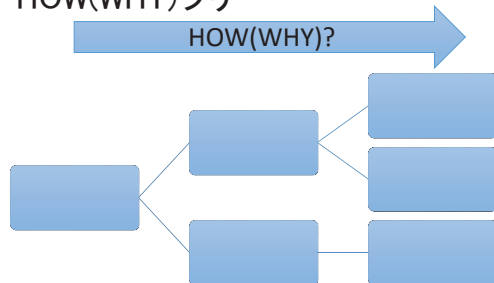
セッションⅡ

現状の課題を打開しよう

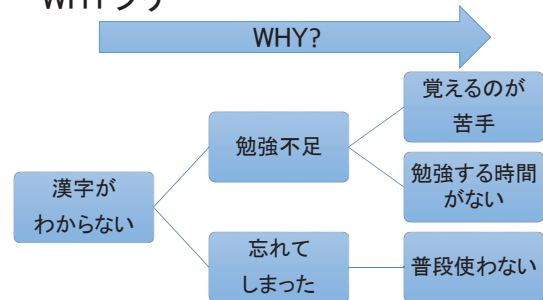
- セッション1で挙げた課題を整理しよう。



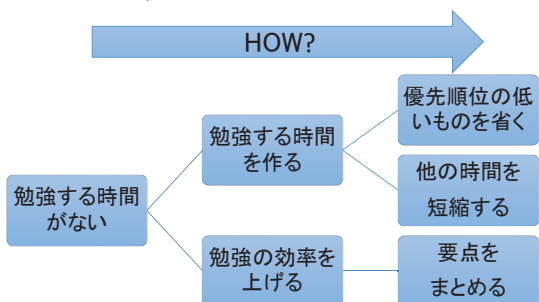
HOW(WHY)ツリー



WHYツリー



HOWツリー



- グループ内で実現可能な解決策をまとめてみよう。

セッションⅡの流れ

1. 個人で課題の解決策を出来る限り挙げる。
2. グループで共有、実行可能な解決策を立案。
3. 発表準備(プロダクトは模造紙にまとめる)。

みんなで壁を打開しよう!!



グループ 1

セッションⅡ 「全国学生 WS に対する私たち卒業生の関わり方」

セッションⅠ で上げた課題を整理し、グループ内で実現可能な解決策をまとめる。

○方法

WHY ツリー、HOW ツリーを用いて、課題と解決策の抽出を行った。個人で課題の解決策を考えた後、グループ内で共有を行い、実現可能な解決策を立案した。グループ内でまとめた課題と解決策を元に、セッションⅢに移った。

○課題の整理

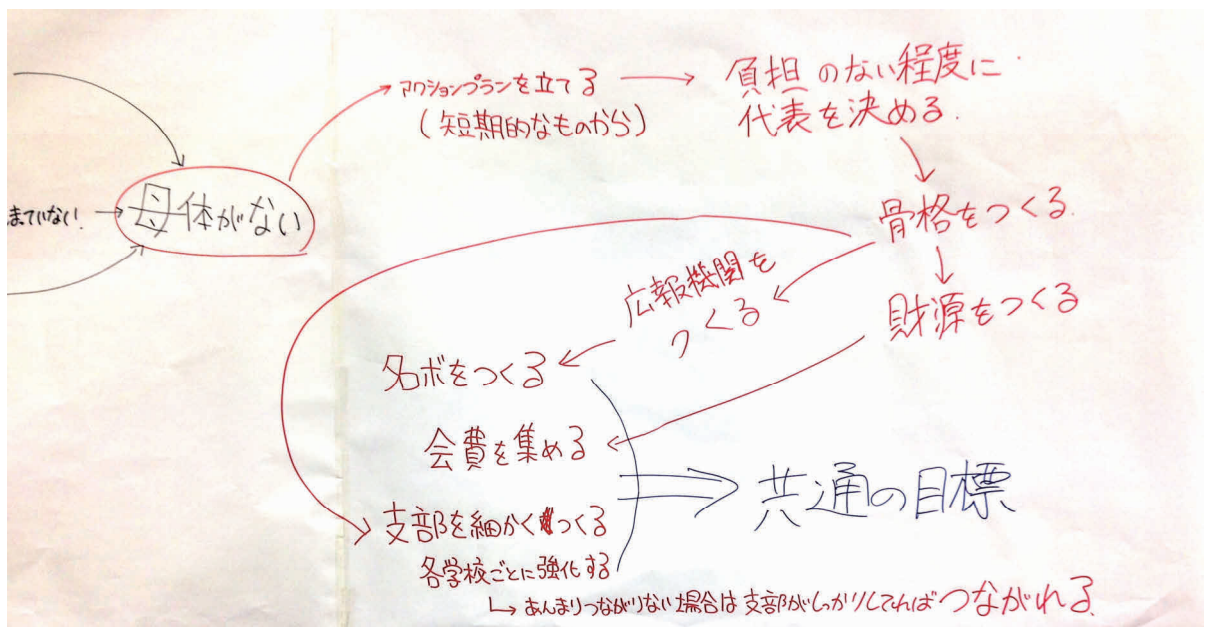
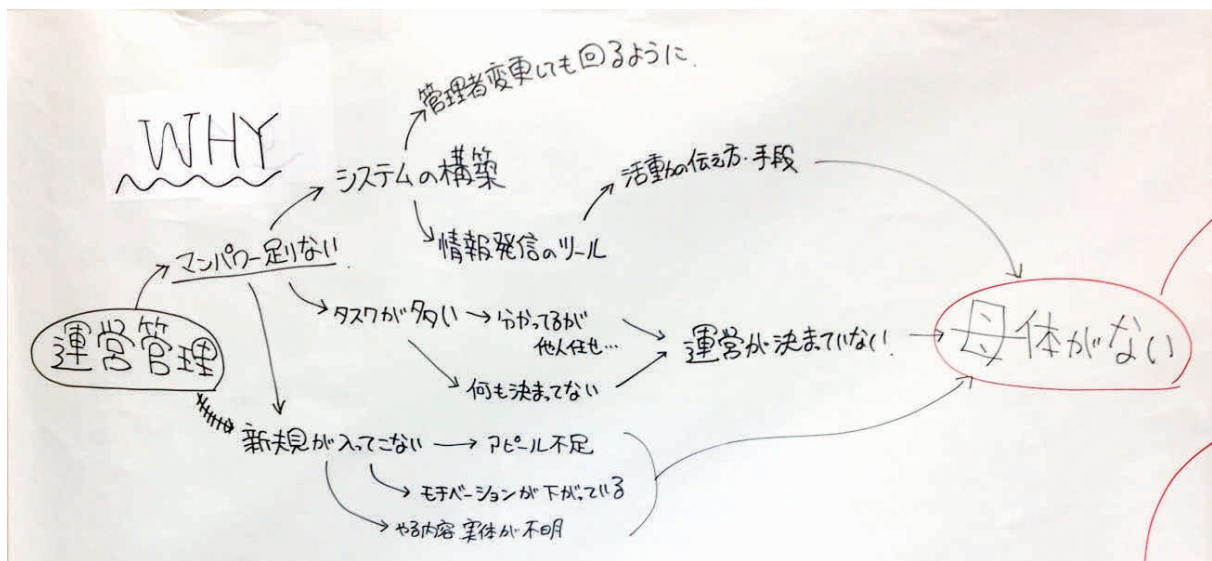
セッションⅠにて WS 卒業生グループとしての「運営管理」が課題としてあげられた。これはグループ1内の共通認識であったため、運営管理について課題が整理された。

- ・運営に必要なマンパワーが不足していることが挙げられた。
- ・マンパワー不足の背景には、新規卒業生の参加が少ないこと、運営のタスクが多いことなどが挙げられた。
- ・マンパワー不足の問題として、組織としてのシステム構築が難しいことが考えられた。WS 卒業生としての活動内容を伝える手段、情報発信のツールの活用、また、その情報発信のツールの整備が不十分と考えられた。
- ・しかし結局は WS 卒業生として行っていく活動が決まっていないこと、活動内容や WS 卒業生という実体が不明瞭であることが、運営管理の課題の根本的な部分にあり、活動を行うにあたって「母体がない」ことが問題であると整理することができた。

○課題の解決策

母体をつくるため、何がどのように必要とされるかについて話し合った。母体づくりとして一番重要なのは、参加者共通の目標を立てておかなければならないとの認識の上で話し合われた。

- ・まず母体づくりのための短期的なアクションプランを立てることが必要である。
- ・代表を決め、母体を取りまとめてもらうことが必要である。
- ・母体の骨格を作り上げることが必要である。
- ・母体の骨格として、財源をつくること、広報機関を作る事、活動の支部（関東支部等）を細かく作ることが必要であると、3項目に整理された。
- ・母体の骨格を作るための3項目を達成するため、当面の目標として、会費を集める事。会員名簿を作る事。支部を作り、各学校の参加者の活動、連携を強化することが挙げられた。グループ1の実現可能な解決策として、当面の共通の目標（アクションプラン）が示された。



アクションプラン

薬のプロフェッショナルとして、3年後までに自分の「先見力」を納得できるものにする。

グループ 2

【目的】

セッションⅡ「現状の課題を打開しよう」では、セッションⅠ「私たちはWSにどのようにかかわれるのか？」において提起された課題を整理し、実現可能な解決策をまとめることを目的とした。

【方法】

セッションⅡではHOW(WHY)ツリー法(Fig 1, 2)を用いて課題解決策を検討した。以下、3つの手順によりプロダクト(Fig 3)を作製した。

- 1、個人で課題解決策をできる限り挙げる
- 2、グループ内で個々人が考えた解決策を共有、グループ内で実現可能な解決策を立案
- 3、発表準備（模造紙を用いてプロダクトを作製）

【議論の経緯・内容】

Ⅱ班においてセッションⅠの議論の中心となったのは、薬学生WSにOB・OGがいつまで、どこまで参加するか、というものだった。すなわち、卒業生増加に伴う対策が存在しないために卒業生WS自体の存在意義が明確でない。そこで、セッションⅡでは「卒業生のWSへの関わり方が明確でない」を課題として議論した。

WSへの関わり方が明確でない要因として、卒業生が参加する意義・目的が不明確であるにもかかわらず卒業生の参加者が増加している、WSの対象がわからない(学生 or 卒業生)、OB・OGの役割が定まっていない、などが挙げられた。まず、参加目的を明確にするための解決策としてWSに参加する卒業生に仕事を割り当てるという案が挙げられた。仕事とは、学生からの進路や仕事についての相談役やWSの運営における雑用係、または学生と一緒にSGDに参加すること、などである。これらの仕事を卒業生に割り当てることで参加する目的が明確になると考えた。次に、仕事の割り当てや卒業生WSの運営を企画するためには正式な組織を設立する必要があると考えた。現在の卒業生WSはタスクフォースをはじめ全国学生WSの運営者によってサポートされている。この状況を打開するためには卒業生で独立した正式な組織を設立し、企画の段階から卒業生が関与することが重要である。これにより独自の目的や参加意義を掲げる事が可能となり、卒業生のWSへの関わり方が明確になるという結論に至った。

セッションⅡ終了後に卒業生全体でWSへの関わり方についての討議(アドバンス)を行った。ここで得られた意見を来年度以降の卒業生の関わり方としてまとめた(Fig 4)。

【HOW(WHY)ツリー、プロダクト、WSへの関わり方(方向性)】

HOW(WHY)ツリーとプロダクトを示す。プロダクト作製に当たり、HOW(WHY)ツリーでキーとなった意見を赤枠で囲んだ。

● WHY

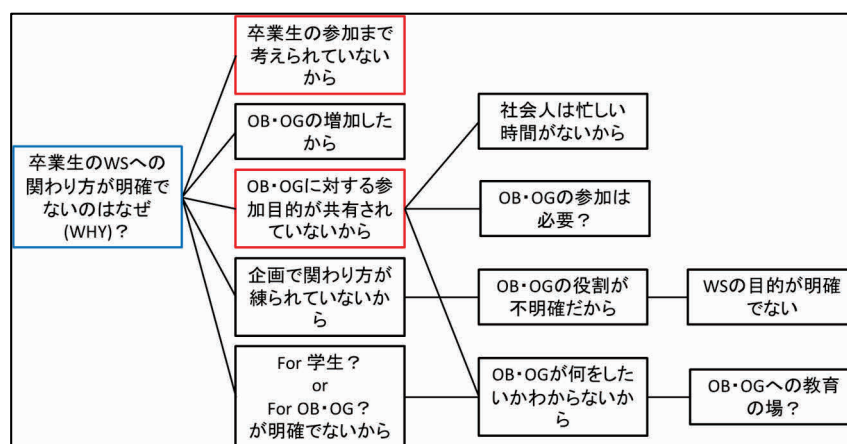


Fig1, WHY ツリー

● HOW

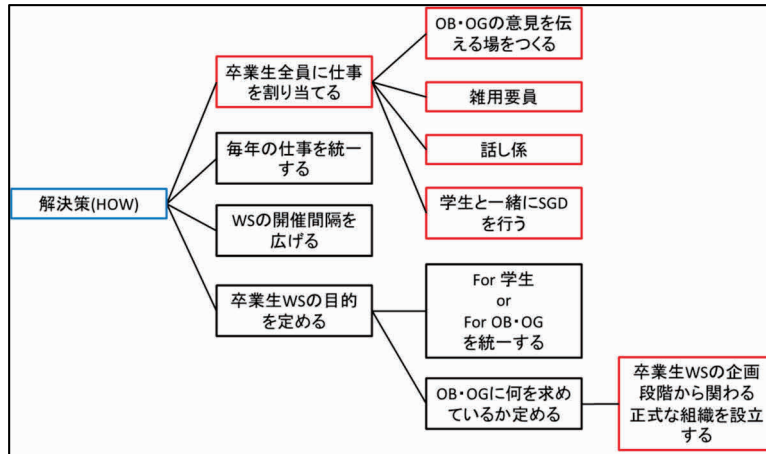


Fig2, HOW ツリー

● プロダクト

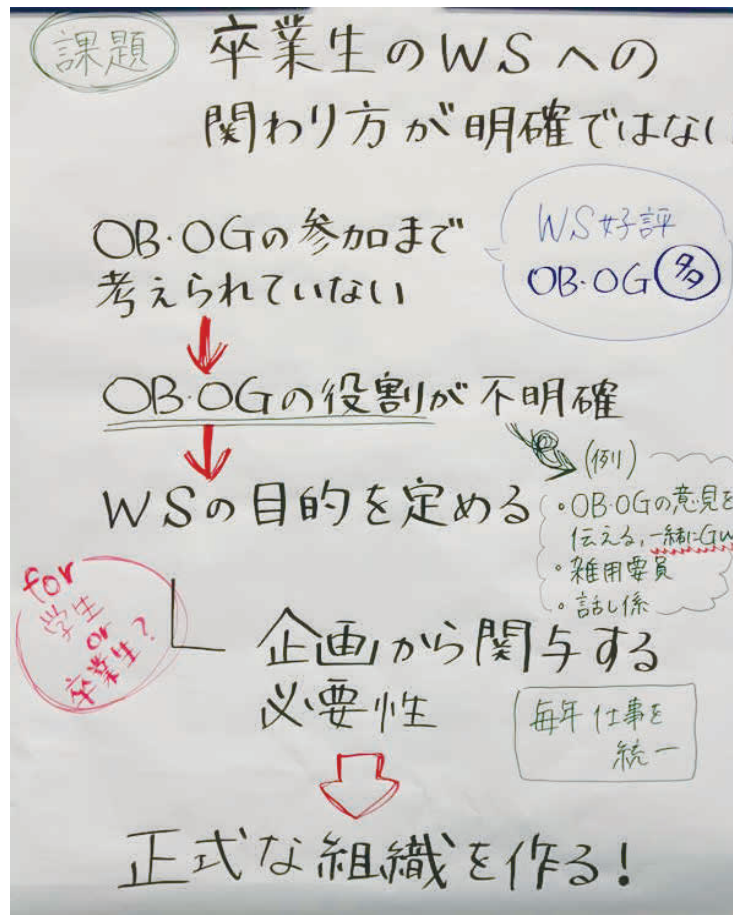


Fig3, プロダクト：課題解決策

● 卒業生の WS 関わり方(方向性)

<来年度以降に向けて卒業生の日本薬学生ワークショップへの関わり方>

- ・ タスクフォース見習い、学生に対するセッション、グループワーク
⇒卒業生と学生との意見・考え方の共有ができる
⇒今後WSを主催するということを見据えて勉強ができる
- ・ モデルコアカリキュラムに対するフィードバック
⇒就職後、仕事をしている上で感じる大学での経験との差をフィードバックできる
- ・ 学生に対し薬剤師の役割を伝える、色々な職種のやりがいを学生と共有する
⇒教育を通して見える仕事と実際のギャップを言葉で認識できる
- ・ アドバンスト情報交換会への参加
⇒学生との意見交換ができる
⇒質問、相談相手になることによって学生の教育(進路)に関わっていける

Fig 4, 卒業生の WS への関わり方

【まとめ】

1 日目のセッションでは「全国学生 WS に対する私たち卒業生の関わり方」という題に対して討議し、卒業生の参加意義・目的を考える良い機会となった。

全体の議論として、卒業生 30 名からは学生と関わりたいという総意は得られたが、その方法が不明瞭であった。セッション後の討議でおおよその方向性は決まったが、確定案ではないため、今後しっかりと方向性を固めていく必要がある。

グループ 3

本セッションではセッション I で挙げられた問題点(デメリット)について、HOW (WHY)ツリー法を用いて実現可能な問題の解決策の立案を行った。ツリー法は個人で解決策を立案した後、グループ内での共有及び、討論によりさらなる解決策の立案を図った。

セッション I 及び、II で作成したプロダクトは図 1)、セッション I で挙げたデメリットのツリー法による個人の意見は図 2)のとおりである。図 2)をもとに、それぞれの解決策について検討を行った。

WS 卒業生という団体の存在意義があやふやであるため、卒業生同士のつながりが希薄であるという問題点が挙げられた。解決策として、繋がりをより強固なものにしていく為に、WS 卒業生の同窓会を創設するという意見があった。具体的には同窓会創設に際し、1) 組織としての管理体制を作る、2) 各期や各地域のリーダーを決定する、3) 日本薬学会の下部組織として位置付け、4) 現役生 WS メンバーの参加を促進することで、組織運営が可能になる、という見解であった。また、組織の創設により、卒業生主体で独自の WS を実施することも実現可能という意見が挙げられた。

情報の共有をより体系的に行うには、同窓会名簿を作成し、卒業生同士の連絡手段の一助とすることが必要であるという意見が挙げられた。作成にあたっては、個人情報の管理体制など、実現に向けた課題も挙げられた。

学生への情報提供に際しては、卒業生（または教員）による意見の押し付けとならないようにする為に、あくまでWSの主体は学生であることを再確認したうえで、学生のニーズを収集し、それに応えるべきという意見が挙げられた。更に、4年次など早期にWSを実施することは、自己分析→理想像の定義付け→理想の実現に向けた情報獲得など、段階を踏んだセッションを実施できることなど、早期から学生が自身のニーズを自覚するのに有益であると考えられた。さらには全国学生WSにて、早期WSへの参加の有無によって、①意識変化はあるか、②行動変容はあるかを調査し、③実務実習に及ぼす影響などのエビデンスの構築が可能であると考えられた。こうして得られたエビデンスをファルマシアなどの学術雑誌へ投稿し、周知してもらうことで社会還元、活動への理解拡大につながる事が期待された。また、WSを実施しエビデンスを重ねることは薬学生および薬剤師の意識改革、ひいては医療現場の満足度向上につながると考えられた。しかし、早期WSの実施による参加学生の増加、それに伴う実施施設の確保、また学生の選出をどのように行うのかなどの問題も挙げられた。

最後に、同窓会を正式に組織化した場合における、組織の運営経費の調達など資金繰りの問題が浮上した。解決策については十分な議論を行ったとは言えないが、案として1) スポンサーの獲得、2) WS参加費からの徴収、3) WSに関連することなどの書籍化により資金を獲得できるのではないかと意見があった。

卒業生がWSにどの様に関わるかについての課題は他にも挙げられたが、セッションを進める中で臨床、行政、研究、教育などの様々な分野で活躍する参加者の知恵、知識、経験などを持ち寄ることで解決への道を作ることができると感じられた。特に、セッションIで挙げた②薬学教育へのフィードバック、③学生に対する様々な情報提供は、①期を超えた繋がりを作り、維持することに繋がり、学生だけでなく参加者にとっても貴重な財産となると考えられた。こうしたWS卒業生と薬学生との相互作用がポジティブフィードバックループを形成し、薬学領域のさらなる発展に寄与することを期待する。

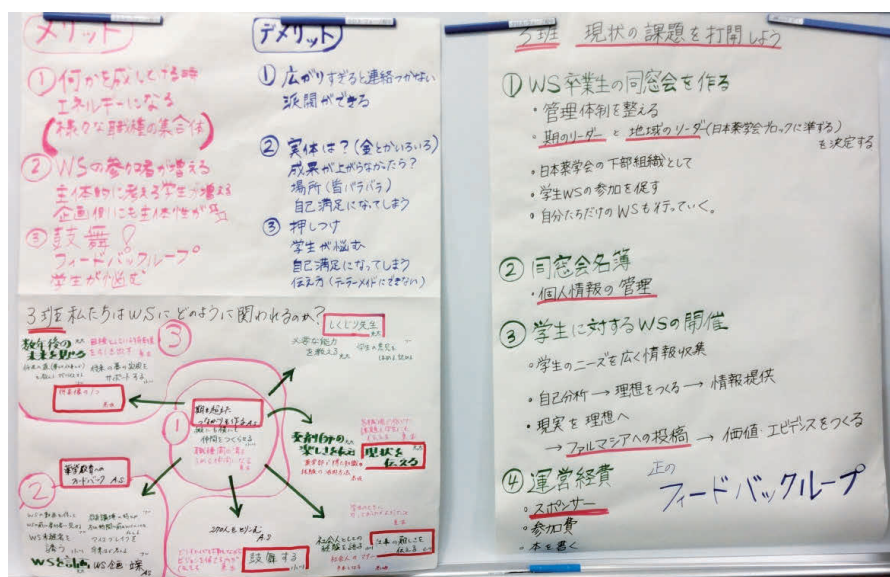


図1) セッションI、IIで作成したプロダクト

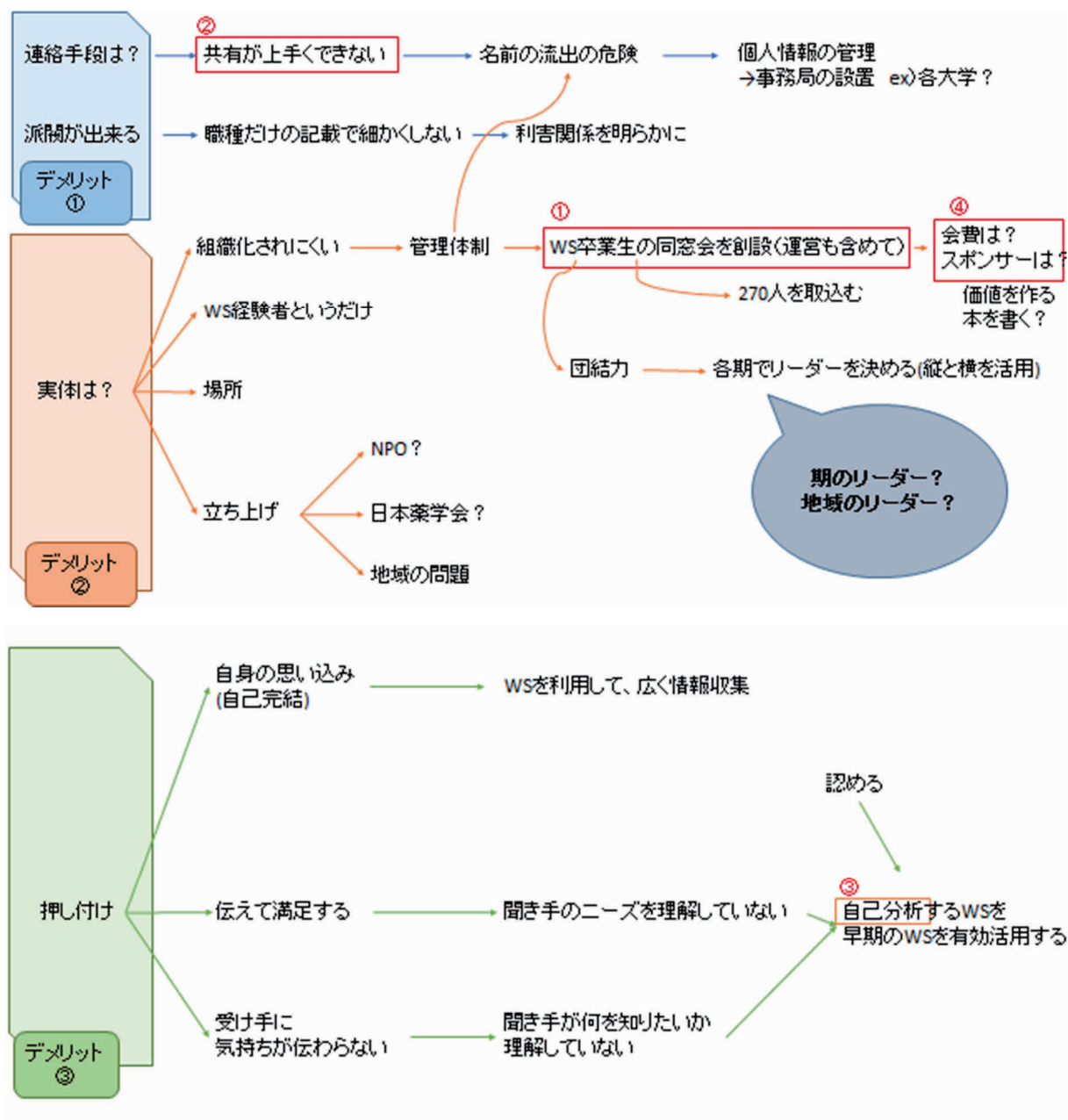


図 2) セッションⅡで作成した WHY (HOW) ツリー

セッションⅢ

「自分達の想いを共有し、表現してみよう」

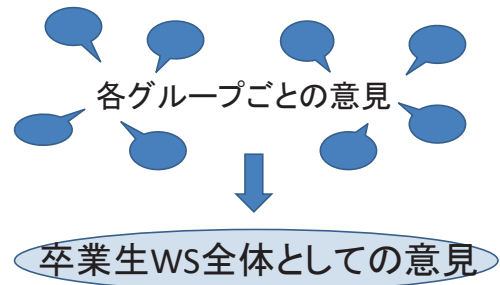
第一部

全国学生WSに対する私たち卒業生の関わり方

セッションⅢ

自分達の想いを共有し、表現してみよう

成果と課題の共有

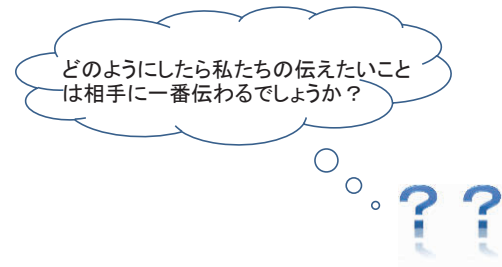


そのためには...

- 他の人がどのような意見を持っているのかよく聴く(セッションⅠ、Ⅱ)
- 自分の中で共感できる意見を見つける
- どうしてその意見に共感するのか理由を考える
- 共感を他の人へ広げていく

どのように共感を広げていくか？

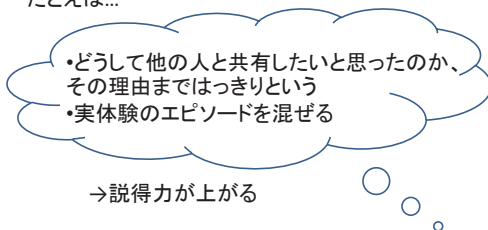
より多くの人と共有したいメリット・デメリット



どのように共感を広げていくか？

より多くの人と共有したいメリット・デメリット

たとえば...



注意点！

忘れないでほしいこと

- 伝える相手は5期生、学生WS運営の先生方
- 記録に残すものである
- 実現可能である(特にデメリットの解決策)

＜自分たちの思いを共有し、実現してみよう＞

セッションⅠ「どのように関われるのか」、セッションⅡ「現状の課題」を踏まえ、セッションⅢで「今後、自分達は何をすべきか」について議論した。

「何をすべきか」を考えた際、『その活動の幅を広げ、また、確実に遂行するためにも、正式な団体を設立すべきではないか。』という提案があり、まずはその点について議論したところ、概要は以下のとおり。

- ★立ち上げるに当たって目標がない。設立は、大まかな目標、軸を決めてからの話ではないか。
- ★団体活動の射程範囲を明確にすべき。WSに係る活動だけをやるのか、それ以外にも広げるのか。
- ★立ち上げるチャンスは今しかない。来年どうなっているか分からない状況。今やるべき。
- ★個々人の意見でなく、団体の総意として扱ってもらえ、活動／意見としての重みが増す。
- ★正式な連絡窓口等を設定でき、今と違ってカチツとした活動ができる。

今こそ立ち上がるべきだ、という熱い意見もあったが、調整には時間を要するとして結論は出ず、『来年セッションに参加するか決める頃までに、母体を持つべきかどうかを決める。』ということになった。この点について、OB／OGは1年間しっかりと考えることにしたい。

次に、団体の話は除き、自分達は何をすべきか、何ができるか、ということを議論した。概要は以下のとおり。

- ★6年生対象ではないWSを開催する。

（例えば、同日に6年生だけでなく、3・4年生を呼び、そこにOB／OGが関わっていく、等。）

- ★何をするにしても、自分達の視点を押し付けすぎないように注意が必要。
- ★OB／OGの声を聴いてみたい、という声も一部である。そのようなニーズに対して還元していくことも大事。
- ★タスクフォースの先生方、薬学会及び現役生が何を求めているのかを斟酌して、時宜を得た活動をすべき。
- ★WSのサポートにまずは注力し、運営のノウハウを学ぶべき。
- ★実現可能性を考えて動くべき。次に繋がるワンステップおいた活動を。
- ★学生の気持ちを考えることが大事。学生と卒業生が対等なWSを開くことが大事。
- ★いずれの活動にせよ、なぜそれをやりたいか、という動機の部分をしっかりと掘り下げて、行動に移すべき。
- ★最終的には、薬学会での報告、WS活動の書籍化など何らかの価値（エビデンス）を生み出せるようにする。

これらの議論を経て『全国学生WSの場においては、(卒業生同士で集まってWSなどをするよりも、)学生の議論に何らかの形で関わっていくべきではないか』という結論になった。「何らか」の部分については共通見解を得られず具体のアクションを深堀することはできなかったが、『今後もWSに貢献していきたい』という点では皆の考えが一致した。

セッションⅣ

**「私たちのプロフェッショナリズム、
共鳴する未来を考えよう」**

SESSION IV

私たちのプロフェッショナリズム、
共鳴する未来を考えよう。

8月9日(日) 9:20-12:00

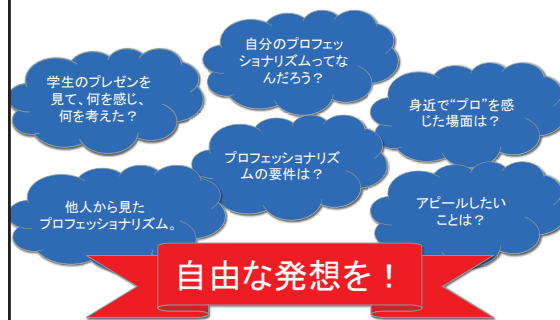
私たちのプロフェッショナリズム、
共鳴する未来を考えよう。

SET GOALS

1. 自分のプロフェッショナリズムは何か、
伝えられるようになる。
2. プロフェッショナリズムの掛け合わせでできる活動を構想し、
可能性の広がりに気づく。
3. 私たちができる活動を計画・立案し、宣言できる。

私たちのプロフェッショナリズム

私たちのプロフェッショナリズム



私たちのプロフェッショナリズム

プロフェッショナリズム ≡ あり方 (Being)

- ① あなたのプロな一面は？
- ② プロフェッショナリズムに名前をつけよう！
- ③ 付箋に大きく書いて、名札に貼り付ける。

明日までの
お願い。

私たちのプロフェッショナリズム

【作業説明】

- ① 自分のグループの人以外と2人ペアを作ってください。
※フリーの人はペアが見つかるまで手を上げてください。
- ② 自分のプロフェッショナリズムを紹介し、何をやりたいか伝える。
- ③ 相手の語るところを聞く。
- ④ 「2人だったらできることは何か」を話し合う。インスピレーション。
※プロフェッショナリズムは途中で修正可能です。

- ・時間は3分＋移動1分。4分×5セット行う。
- ・終了後、全体でフィードバック。



私たちのプロフェッショナリズム

困ったときは...

アイデアを生むための四則計算

◆足し算(合理化)

例) CDラジカセ、消しゴム付き鉛筆

◆引き算(洗練化)

例) らくらくフォン

◆掛け算(相乗効果)

例) 塩キャラメル: 違う要素を同時に作用させる



私たちのプロフェッショナリズム



- ① 自分のグループの人以外と2人ペアを作ってください。
※フリーの人はペアが見つかるまで手を上げてください。
- ② 自分のプロフェッショナリズムを紹介し、何をやりたいか伝える。
- ③ 相手の語るところを聞く。
- ④ 「2人だったらできることは何か」を話し合う。インスピレーション。
※プロフェッショナリズムは途中で修正可能です。

・時間は3分+移動1分。4分×5セット行う。

・終了後、全体でフィードバック。

私たちのプロフェッショナリズム

一人一人のプロフェッショナリズムの
明確化。

「伝える」というプロセスを繰り返し、
考えを深める。

「聴く」というプロセスで、多様性を感じ
る。

「2人だったらできること」の問いで、
未来への可能性に気付く。

僕らにできることを考えてみましょう！

共鳴する未来を考えよう。

共鳴する未来を考えよう。

・私たちの出会い、この場での化学反応をきっかけに「共鳴する未来」を考えてみましょう。

【共鳴】

1. 振動体が、その固有振動に等しい外部振動の刺激を受けると、振幅が増大する現象。
2. 他人の考えや行動などに心から同感すること。



共鳴する未来を考えよう。

グループでフィードバック

自分のプロフェッ
ショナリズムは更
に高められました
か？

プロフェッショナリズムに
広がりを感じましたか？

「2人でできること」
にはどんな意見が
出ましたか？

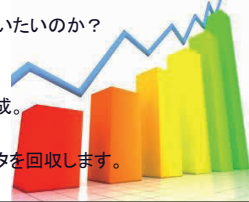


共鳴する未来を考えよう。

【作業説明】

- ・グループ内でフィードバック。
- ・互いのプロフェッショナリズムを掛け合わせることでできる活動を3つ発表。
- ・それぞれの活動について、
 - ① 背景・目的:なぜその活動を行いたいのか？
 - ② 今取り組むこと。
 - ③ 3年後の到達目標や行動。を、考えて発表スライドを作成。

完成したグループからUSBでデータを回収します。
～10:40まで。



共鳴する未来を考えよう。

- ・発表(パワーポイント) **5分**
- ・質疑応答 **5分**
- ・この後、全体の投票で総合討論で発表するものを3つ選出。

共鳴する未来を考えよう。

総選挙！

各班のプロダクトに付箋を貼って、投票しましょう。
付箋にコメントを書き込んでくれるとなお良いです。



イノベーション部門
(革新、未来)

エッセンシャル部門
(本質的な、王道)

インパクト部門
(ユニーク、チャレンジ)

グループ 1

日本薬学会第5回全国学生WS 〈セッションⅣ報告書 1班〉

〈セッションⅣ：私たちのプロフェッショナリズム、共鳴する未来を考えよう〉

このセッションでは、まず、各自の考える“プロフェッショナリズム”に名前を付け、他グループのメンバーと紹介し合い、互いのプロフェッショナリズムを合わせることでできることについて話し合った。

各自5人と紹介・話し合いをした後、グループ内でフィードバックをし、各自のプロフェッショナリズムを掛け合わせることでできる活動について、以下の2つを挙げた。

①「不」を発見！！

背景・目的：患者・医療従事者が抱えている「不」（不安、不信、…）などを発見する。

今取り組む事・行動：ノックをして寄り添う。（相手に踏み込めるような努力をする）

3年後の到達目標：信頼を得る。

3年後の行動：ニーズに合わせて、見直し、継続する。（対応していく）

- ・患者だけでなく、医療者も色々な「不」を抱えている。
- ・薬に携わるすべての人に、安心・安全を届けることで、「不」を取り除くことが社会的役割。
- ・何が必要とされるか、そのためにどんな準備が必要かを考える必要があり、継続が重要である。
- ・“先見力”が必要。

②先見力

背景・目的：社会のニーズを想像する必要がある。

今取り組む事・行動：職能・今後の可能性を知る。

3年後の到達目標：今想像したことが実現している。

3年後の行動：PDCA サイクルを回す。

- ・現在の医療における問題点として、医療費の削減が挙げられる。
→薬剤師だからこそできることがある
- ・薬剤師にできることを考える上で、薬剤師の職能や可能性を知り、認識する必要がある。
- ・社会のニーズは日々変化している。予め、そのニーズを予測し、“先見力”を高めることで、職域・活動の幅を広げ、社会貢献することが出来る。

また、セッションをうけて、各自が今後取り組むべきアクションプランを立てた。

宮坂 知幸 『気が配れる人になる』

小野寺祐里香 『今、目の前にあることを一生懸命にやる』

小嶋崇弘 『一人一人の患者さんと向き合い、GE 率 70%を達成することで医療経済に貢献する』

柏原道志 『薬に携わるすべての人に、安心・安全を届ける薬剤師であり続ける』

岡慧 『薬のプロフェッショナルとして、3年後に自分の先見力を納得いくものにする。』

山田梨愛 『目標とする薬剤師像を常に意識し、研究に取り組む』

吉川恵理 『先を見据えて、関わった人に良かったな、と思われるような行動をする』

グループ 2

セッションⅣ「私たちのプロフェッショナルリズム、共鳴する未来を考えよう。」では、まず、各個人それぞれ自分の薬剤師として進みたい方向性やプロフェッショナルリズムとは何か考え、自分のプロフェッショナルリズムに名前を付けた。それをグループ以外の人へ紹介し、同様に相手の語るところを聞き、お互いのプロフェッショナルリズムを掛け合わせることでできる活動を構想した。その構想をグループへ持ち帰り、フィードバックさせ、お互いのプロフェッショナルリズムを掛け合わせることでできる具体的な活動をあげた。そしてその活動に対して①背景や目的、②今取り組む事や行動、③3年後(数年後)の到達目標や行動を考えた。そして、SGDを踏まえ、個々の行動宣言(アクティブプラン)挙げた。

グループ2で挙げられた活動とその取り組み、到達目標と行動を下記に記す。

WS の場を設ける	勉強会の開催
●背景・目的： 医療関係者との情報の共有化 ●今取り組む事・行動： WS の場を設ける ●3年後の到達目標：WS を継続している 行動：学生を巻き込んだ WS	●背景・目的： 審査と現場と企業の連携 ●今取り組む事・行動： 勉強会の開催 ●3年後の到達目標：若手同士が連携 行動：現場、企業が勉強会

グループ2では、薬剤師は他職種の薬剤師や他の医療従事者との情報の共有化や連携がまだまだ不足していると考え、具体的な活動として「WS の場を設ける」、「勉強会の開催」の2つを挙げた。WS の場を設ける背景・目的には医療関係者との情報の共有化を挙げ、その理由としては、共通の認識や新たな考えが生まれるほか、良い相互作用を生み出すことができるという意見が挙げられた。現に今年も多く WS 卒業生が WS に参加していることは、それぞれ参加する理由は異なるにしても、皆 WS に参加する価値があると考えているからだとした。そのため、今後取り組む事、3年後の到達目標としては学生 WS 以外にも WS の場を設け、WS を継続していく事とした。そして、現在は学生と卒業生が別々で行っている WS を、一緒

にすることでまた新たな相互作用が生まれると考え、3年後の行動に学生を巻き込んだWSを挙げた。

勉強会の開催の背景・目的としては、今後、臨床で働く薬剤師も研究を行える事が望ましいと考えるが、実際の現場では環境が整ってない。また、そもそも研究という発想がない。など、様々な問題点が挙げられたことから審査と現場と企業の連携とした。その連携を取るために、今後の取り組む事・行動としては勉強会の開催を挙げた。そして、それを繰り返す中で数年後には私たち若手同士が今よりも密に連携が取れるようになり、現場、企業が勉強会を開催できるまでにしていきたいとした。

SGDを踏まえた個々の行動宣言(アクティブプラン)を下記に記す。

- ・研究と臨床をつなぐトランスレーショナルリサーチを推進する。(山口)
- ・情報の共有の場としてのWSの企画・運営を行う。(黒岩)
- ・WSで学生と関わって得た気づきと、身近な学生(実習生とか)との関わりによる学びの相乗効果を出す(志田)
- ・病院薬剤師をやりながら学位を取得します。WSや勉強会などの開催を定期的に行います。(吉川)
- ・毎年ワークショップに参加する。(井元)
- ・研究と臨床の融合。そして情報の共有。(澤本)
- ・初心忘れるべからず。(松下)
- ・まずは沖縄で同期薬剤師が集まる場を企画する。(稲嶺)

グループ 3

【背景・目的】

我々卒業生は様々な職に就き現在現場で活動している。セッションⅣでは、我々が活動する際に持っているプロフェッショナルリズムを学生に伝えるために、1つの言葉に表現してプロフェッショナルリズムを活かした行動について議論した。

【私たちのプロフェッショナルリズム】

私たちのグループで挙げられた「薬剤師を表現するプロフェッショナルリズム」は以下の通りである。

- | | |
|------------|------------------|
| ・患者を診る | ・患者優先 |
| ・人と人をつなぐプロ | ・縁の下での力持ち |
| ・適切な橋渡し | ・信頼を得る |
| ・そうぞう | ・Google Pharmacy |

各々のプロフェッショナルリズムに共通する点は二点あった。

一つ目は人とのつながりを重要視している点である。薬剤師免許の特徴は、臨床・基礎・企業・行政の多様な職種が選択できる国家資格である。薬剤師としてある団体に所属した時、上司と部下との縦のつながり、別職種との横のつながりが生じる。私たちは患者との信頼関係だけでなく、薬剤師全体の縦と横の連携にも重点を置きながら活動することがプロフェッショナルだと考えた。

二つ目はニーズを引きだし応える点である。薬剤師に関わる職種は前述のとおり幅広く存在する。それぞれ要求される内容は異なるものの、ニーズを把握する力と提供する力がなければ適切な対応はできない。患者からあるいは社会から現状最も求められている内容を敏感に察知して対処することはすべての職に通ずるプロフェッショナルリズムだと考えた。

Ⅲ班では、薬剤師のプロフェッショナルリズムに周囲との信頼関係や周囲からの要求が重要であるという結論に至った。薬剤師の使命を発見するためには、自らを客観的な視点から視ることが重要である。また、社会が求めるニーズだけでなく同じ薬剤師が求めるニーズにも対応する必要がある、お互いがニーズを共有することで信頼関係も築くことができる。私たち薬剤師は、ニーズを共有して常に連携を意識しなければならないと考えた。

【共鳴する未来】

私たち卒業生が考える薬剤師のプロフェッショナルリズムは前述のとおりである。それを踏まえて卒業生としてあるいは薬剤師として今後できるアプローチは何かを議論した。私たちの班では①薬剤師としてこれからの活動でできること、②全国学生ワークショップの卒業生として学生ワークショップにできることの二点について話し合った。

①薬剤師としてこれからの活動でできること

私たちの班は病院薬剤師・薬局薬剤師・行政・博士課程と多方面に分散していた。その

ため、議論に上がったのはお互いが何を望んでいるかであった。患者が薬剤師に何を望んでいるかだけでなく、薬剤師が研究者にあるいは研究者が薬剤師に何を望んでいるかを話し合った。多様な職種をつなぐためにも双方のニーズを共有する必要がある。そこで私たちは情報共有の会を設け、最新の情報と現状求めていることを共有し続けるべきだと考えた。

- i .背景・目的 : ニーズを共有する
- ii .今取り組むべきこと : 半年に一回の会を開く
- iii .3年後の到達目標 : 第 n 回の会を開く
情報共有の窓口を用意する

②全国学生ワークショップの卒業生として学生ワークショップにできること

縦と横とのつながりの話を議論していた時、全国学生ワークショップの影響力は非常に強いという意見がでた。実際、六年生のみでの参加だとすると縦のつながりはほとんどないが、卒業生が参加することで多様な職種の複数の学年が揃い、薬学の縦と横の結束が固まると思われる。卒業生が全国学生ワークショップに毎年参加することで、今後の薬剤師の結束をより強靱なものにできると考えた。

その際、学生が我々卒業生に求めているものに応える必要がある。学生のニーズに応えるためにも、私たちは現場で多くの知識や情報を仕入れ学生が知りたい事や夢に向かって必要なことを提供すべきである。

- i .背景・目的 : 学生のニーズに応える
- ii .今取り組むべきこと : 今年は達成済み
- iii .3年後の到達目標 : 力を蓄えておく(情報を仕入れる)
ワークショップに戻ってくる

【アクションプラン】

共鳴する未来とは別に個々にアクションプランを作成した。下記にその行動宣言を記す。

(1 期生)

1. 病院薬剤師という立ち位置から、常に「患者のニーズ」を捉え続けます。また、得られた「患者のニーズ」を6年制薬剤師の仲間と共有し、社会全体で「患者のニーズ」に応える体制を作ります。
2. 大学病院に実習を受けに来た5年生に「6年制薬剤師の存在意義」について必ず考えさせます。
3. 全国学生ワークショップに毎年参加します。

(2 期生)

1. 継続して全国学生ワークショップに参加する。
2. 年内に情報共有の場としてワークショップを開催する。

(4期生)

1. 「基礎から臨床へ、臨床から基礎へ」を意識した研究をし続けます。個人として動くだけでなく大学全体としてフィードバックを意識した研究が続けられるよう教育にも専念します。
2. 全国学生ワークショップに毎年参加します。定員があっても懇親会だけでも参加して学生のために情報提供し続けます。



卒業生印象記

第1回参加経験者 氏名 小川 隆弘

本年も全国学生 WS にお招き頂きまして、ありがとうございました。WS の卒業生に対して毎年必ずお声かけして下さる実行委員の先生方に厚く御礼申し上げます。今回 WS に参加したことにより、「学生が臨床・教育の現場に求めていること」に対する理解が深まり、普段私が職場で病院実習の指導を行う上でとても参考になりました。また、「6 年制薬剤師として、どのように患者・社会に貢献していくべきか」について、自分なりの《想い》を持っている学生が次々と輩出されていることがわかり、嬉しく思います。卒業生同士のディスカッションでも話題に挙がりましたが、こうした《想い》の連鎖反応を継続させるためにも、我々 6 年制薬剤師が後輩達に《想い》を伝承していく使命を果たさなければならないと、改めて強く感じました。

WS の主役である 5 期生の皆様、お疲れ様でした。皆さんはこれから社会に出てみると、思うようにいかないことに出くわすかもしれません。しかし、そんな時も今回 WS で感じた《想い》を絶対に忘れないで下さい。皆さんと同じ《想い》を持っている 6 年制薬剤師はたくさんいます。同じ 6 年制薬剤師の仲間としてお互いに協力し合って、一緒にカベを打ち破っていきましょう。

また、今回「卒業生として何をしていくべきか」について卒業生同士で話し合えたことは、今後の 6 年制薬剤師のあり方を考えるよい機会となりました。卒業生の皆さん、ありがとうございました。全員で共通の見解を出すことは難しいかもしれませんが、今後も協議していけたら幸いです。

来年度以降も「一生 1 期生」として本 WS に積極的に参加したいと考えております。よろしくお願い致します。

第1回参加経験者 氏名 宮坂 知幸

1 日目、現役生のある班で「今後、ICT やロボット技術の発展によって、処方監査やピッキングなどは薬剤師の手による必要はなくなるのではないかな。そうなったとき、現在も燦っている『薬剤師不要論』がまた再燃するのではないかな。」という議論があった。確かに、単純に、費用や生産性・精度の面から考えれば、むしろ、それに取って代わられた方が、社会全体として最適な業務分野もあるのかもしれないし、その流れにそのまま迎合し続けるだけであれば、薬剤師の業務のパイは減り、プレゼンスも減少し、『薬剤師って何してるのかよく分からないよね、いなくてもいいんじゃない?』という話になってしまう。そうならないよう、私たちは、既成の枠内だけでモノゴトを考えるのではなく、今起こっている、今後起こり得る社会の変化に対して敏感にアンテナを張り、薬剤師でなければできないことは何なのか、更に何ができるのか、ヒトがやることによるプラス α は何なのか、ということを一人数ひとりが突き詰めて考え、行動し、それを広げ、声を上げることが求められていくのではないだろうか。

6 年制薬剤師は薬剤師全体のまだ 10 分の 1 程度。6 年制になった意味・成果は、今後の私たちの一つ一つの行動次第。遠い未来から振り返った時、薬剤師が変わった起点はここだったよね、と言われるよう、今の自分にできることは何なのか、考え続けたい。

第1回参加経験者 氏名 山口 奈美子

1期生として本WSに参加してから、4度目の夏を迎えた。新たに加わった卒業生から話を聞き、今年も彼らが活躍する社会のフィールドが広いことに大きな驚きと尊敬の念を覚えた。それと同時に、自分自身の4年間を自然と振り返った2日間だった。

博士課程へ進んでより一層基礎研究に打ち込む決心をしたものの、大きな期待と不安を抱え、前向き思考を心掛けながらも時に底知れぬ心細さに襲われ、身も心も不安定だった4年前。以来、当時の想像をはるかに超える苦しい経験を山のようにした。一方で、それを乗り越えたときの喜びや達成感も数え切れないほど味わった。そして今、何度もきらいになり何度も諦めようとした研究の価値と醍醐味を知り、創薬研究という形でそれを一生の仕事にする決心をした。

そんな4年の間に、薬学という同じ道の上を進んできた仲間、それをサポートしてくださる先生方、熱意あふれる議論を交わす学生さん、WSでの出会いからどれほど多くの励ましを頂いたことだろう。今年、卒業生セッション内で議題となった「今後どのようにWSと関わるか？」の問いに1つの答えは出なかったが、WSという同じ場所に集い議論する仲間がいることそれ自体が、すでに答えなのだと思う。

第2回参加経験者 氏名 磯崎 未帆

“プロフェッショナルとは”という難しいテーマでしたが、卒業してから病院・薬局・企業・大学等の様々な分野で活躍している仲間が意見を出し合うことで、個人では出てこない薬剤師の視点や可能性の広がりが生まれました。一方で、最終的にはどのような分野であっても“ニーズに応えられる”ことが必要であり“人と人とが繋がる”ことで達成できることが増えると感じました。共鳴した未来を実現できるように行動していこうとモチベーションが上がりました。

今回、卒業生参加者が30名近くいることに驚きましたが、それだけ皆にとって全国学生ワークショップは大切な場所であり、時間であることを再認識しました。1日目に参加することは出来ませんでしたが、第1~4回の卒業生が集まり、卒業生の関わり方について話し合うことが出来たのは貴重な時間だったと思います。卒業生がワークショップに戻ってくことで良い循環・絆を作ることが出来るように、今後もより良い関わり方をしていきたいと強く思います！

第2回参加経験者 氏名 小野寺 祐里香

今年も卒業生として参加出来たことに大変嬉しく思います。ご協力頂いた全てのスタッフの皆様さに感謝申し上げます。

学生WSへ参加するのは4回目となるが、今回のような関わり方は初めての形であったため、とても新鮮であり、不思議な感覚を覚えた。正直、もっと学生と関わりたかったと感じている。しかしそんな中でも何度か学生の意見を聞かせて頂き、普段想像もしない意見に触れることができた。改めて薬剤師は何をすべき存在なのか考えさせられた。

今回、卒業生は今後のWSへの関わり方について話し合いを行った。

どうしたらWSへ貢献出来るのか、どのようなことが学生のためになるのか…

参加した卒業生が共通して思っている事は、楽しい時間を共有したい、同じ経験をしてほしい、学生のために何かしたい、学生の為に出来る事ってどんなことだろう…と温かいものばかりだった。

1人1人の思い、WSへの参加意義や目的はそれぞれ異なる部分もあり1つの目標に限定することは困難かもしれない。しかしそれを長所としてとらえ、WSへ貢献したいという共通認識であれば時間はかかったとしても、1つの点ではなく線でつながるものになると確信している。

第2回参加経験者 氏名 菊池 光太

全国学生ワークショップ（以下、WS）に新たな試みとして、卒業生WSの企画・運営として関わらせていただくことにより、私は大きな気づきを得た。それは、卒業生のWSに対する活動を具体化させることの難しさと、やりがいである。これまで参加してきたWSは「ディスカッションを通して考えを深める場」として有意義だったが、今回は「意志決定の場」の側面も求められた。しかし、限られた時間の中で参加者の考えを統一し具体化することは難しく、卒業生WS運営としての力不足を感じた。一方で、今回のように卒業生が一堂に会して議論する場はこれまでになく、この日のために全国各地から集まってWSに関わろうとするWS卒業生の強い意志を感じた。議論の際に生じた摩擦は参加者の熱意の表れであり、これからも継続的にWSへの関わり方や卒業生としてのあり方を模索し続けていきたい。

最後に、日本薬学会主催のWSは本来ならば学生のために行われている中で、広い心で私たち卒業生を受け入れてくださっていることに、心から感謝します。そして、今後も私たちが薬学生のために能力を発揮できる機会を得られるならば、全力を尽くしていきたい。

第2回参加経験者 氏名 黒岩 亮平

今回は、WS卒業生を対象に、卒業生の学生WSへの関わり方と今後の活動についてというテーマでWS運営をさせていただきました。今までは、学生WSに学生と同じテーマでの参加や、タスクフォース見習いとして関わらせていただきました。しかし、今後同じような関わり方は、卒業生が年々増えていくため困難になることが予想されます。その中で今回、学生WSへの関わり方を他期生と話し合うことができたことは、とても有意義であったと感じています。

卒業生WSで出た意見として、学生との討論や情報交換がしたいというものや、WSを主催するための知識や技術を習得したいというものがありました。もともとは卒業生の学生WSに対する関わり方の統一見解を明確にすることが目的でした。しかし、関わりたい理由がそれぞれで異なり、卒業生としての統一見解を示すことはこの場ではできませんでした。今後さらなる検討を重ねることにより、学生WSとよりよい関係を築いていきたいと考えています。

最後に、学生WSは薬学教育へのフィードバックが目的です。薬学教育へ貢献したいのであれば、学生WSに限局せず、多方面での関わり方を模索しても良いのではないのでしょうか。

第2回参加経験者 氏名 小嶋 崇弘

今回は「つながり」を感じられるWSであった。金沢大学に至っては1期から5期まで偶然にも揃ったという事実はこのWSのつながりの強さを感じられる一つであった。卒業後は様々な道に進んでいる。しかしお互いのやりたいことなどを話していると根本にある意見は共通する部分が多いということを改めて実感することができた。私は薬局に勤めている。今後、後期高齢社会が益々進み、GE率80%目標、在宅医療の推進、予防医療など課題は山積みである。すごく難しい課題ばかりだが患者さんに寄り添い、患者さんの「不」というのを感じ接していけば、信頼を勝ち取れ、プロフェッショナリズムが自然と身に付くのではないかと感じた。今回で5回目のWS開催だが卒業生としてタスクフォース見習いをしたり、自己WSを運営したりと色々な形で関わってきた。その中で今後の関わり方が定まっていなかった所を話し合うことができた事は転換期に当たるよい機会であった。腹を割った意見の交換は今まで以上のつながりの強化になったと思う。機会を提供して下さった日本薬学会の方々、そして運営をして下さった先生方、卒業生のメンバーに感謝したい。

第2回参加経験者 氏名 相良 篤信

今回は卒業生WSとして1~4期の全国学生WS卒業生に「卒業生の全国学生WSへの今後の関わり方」をテーマとして議論の場をいただきました。様々な意見が出た中で、「次世代の学生のために貢献したい」という想いを参加した卒業生で共有することができました。さらに期を越えて、それぞれの立場で話し合う機会を持てたことは大きな収穫でした。様々な進路に進んでいる卒業生からそれぞれ異なった視点から多様な議論が展開され、改めて薬学における『つながり』の重要性を再認識させていただきました。この度は卒業生WSとして貴重な機会を与えてくださった実行委員会の先生方ならびに忙しく時間のない中で、卒業生WSを運営してくれた卒業生5名に深く御礼申し上げます。今後も継続してさらに薬学を盛り上げていけるよう努力していきたいと思います。

第2回参加経験者 氏名 志田 拓頭

全国学生WSでは、学生時に参加した卒業生がOB・OGとして参加することが半ば恒例となっています。そのような中で、第5回目を数える今回は、「卒業生向け企画を卒業生が運営する」という、これまでで初めての試みがなされました。まずは、このような機会を実現して下さった、タスクフォースの先生方ならびに企画・運営メンバーに心より感謝申し上げます。

私たちが今回取り組んだ問いは、「卒業生は今後、全国学生WSにどのように関わっていくべきか」というものでした。このWSを単なる一度きりの会以上の、継続的に関わっていく場として捉える卒業生が増えた結果、生まれた問いです。議論の内容については報告書をご覧くださいと思いますが、報告書にはおそらく収まりきれないほどの活発な議論がありました。参加者の考えは百人百様でしたが、それを表明しあい纏め上げていく場として、このような公的な場を頂けたことに重要な意味があったと思っています。

参加した学生さんたちの報告書や印象記をご覧くださいれば、このWSが彼らにとっていか

に有益であり魅力的な場であったかが伝わるのではないかと思います。今後の学生さんたちに資するために卒業生ができることは何か、実はまだ結論は出ておりませんが、今回の議論をもとに、方向性を見出せればと思っております。

第2回参加経験者 氏名 吉川 望美

タスクフォース見習いの昨年とは変わって、今年は卒業生のみでWSを行う機会をいただいた。テーマは「今後、卒業生が学生WSにどのように関わっていけるのか?」。第5回を迎え、卒業生の数が300人弱となった段階においては必要なテーマであった。我々は話し合いの中で、全国から薬学生を集めた(多様な進路に進んだ卒業生が集まる)貴重な機会だからこそ、卒業生として学生のために貢献したい、そして今後も卒業生の繋がりをより強化していきたいという、卒業生としての思いを共有することができた。大学を卒業し、忙しい社会人となってもなお、この学生WSに戻ってきたいという思いが強いのは、現役学生のために自身の社会人経験を還元したいことはもちろんのこと、卒業生自身もWSからパワーを得ることができる(原点に立ち返ることも含め)からであろう。ただし、卒業生が具体的にどのように関わるべきか、例えば学生と共通のセッションを持つ、タスクフォースとしてWS運営の方にも関わる、などの意見は1つに絞ることはできなかった。これは、卒業生の多様性という我々の強みでありメリットでもある。また、既に強い絆があるからこそ、熱い火花を散らす、心と心をぶつけ合うような議論ができた。一方で、運営の先生方は卒業生に対して何を期待してくださっているかを伺う機会がなかったのが心残りである。今後も学生WSが継続されるのであれば、卒業生の関わり方も含めて、先生方のご意見を伺う機会があれば幸いである。

第3回参加経験者 氏名 伊藤 智代

今回、卒業後初めて全国学生ワークショップ(WS)に参加させて頂きました。2年前には、先輩方の「情報を発信できる薬剤師」になろうという発表を聞いて、感銘を受けたのを覚えています。そして働き始めて1年半、病棟薬剤師として働く中で、日々、他職種や社会に向けて情報を発信することの重要性を大変感じております。今回WSを通して、6年生の皆さんへ、少しでも発信することができていたら幸いです。

さて、今回のWSで、1つ、大変印象に残ったことがありました。それは、6年生の皆さんの発表を見学させて頂いた時に出た、「調剤機械が進化する中、薬剤師の存在価値はどこにあるのか」という議論です。数人の方から意見が出ていましたが、そこにいた全員が、心の中で自らの答えを浮かべられたのでしょうか。臨床の薬剤師とまらない方にも、薬剤師の職能、意義を感じられてほしいと、一卒業生として思いました。私たち臨床にいる薬剤師が発信していかなければならないと改めて感じましたし、指導する立場の薬剤師として決意を新たにしました。

最後になりましたが、このような実りあるWSに呼んで頂きました先生方、卒業生WS運営メンバー、関係各所の皆様に心より御礼申し上げます。

第3回参加経験者 氏名 井元 優美

前回の第4回の本ワークショップでは卒業生タスクフォースとして参加させて頂き、今回は卒業生として新たな立ち位置で参加させていただきました。

私は1日目の夕方18:00頃から参加しましたが、色々と考えさせる2日間となりました。

2年前に学生として参加した日本薬学会第3回全国学生ワークショップでの「薬学界を変えるのは、将来薬剤師となる私達自身でありこの意識を持つ仲間を増やすことが今後の課題である。」という学びに対して少しずつ方法が見えてきたように感じました。

また前回卒業生タスクフォースとして参加した際の「薬学界の教育者の一員として必要な技術を今後磨かなければならない。」という課題に対して、今回の2日間を経て卒業生の私たちは「本ワークショップに卒業生の立ち位置を新たに作り出していくこと」がまずできることであると考えました。卒業生が学生のワークショップに介入することにより、2年前に学んだ上記の考えに繋がると考えるからです。

今後とも微力ではありますが薬学界に貢献できればと思います。最後になりましたが本ワークショップに参加させて頂き、誠にありがとうございました。心より御礼申し上げます。

第3回参加経験者 氏名 柏原 道志

この度は、日本薬学会第5回全国学生ワークショップの場に卒業生という立場で参加させて頂き、実行委員の先生方、日本薬学会の方々、そして学生の皆様に心から感謝申し上げます。

今回のワークショップでは、私たち卒業生がこの全国学生ワークショップにどのように関わっていけるかについて議論しました。その過程で、それぞれ卒業生が参加した当時の様子や、この全国学生ワークショップに対する想いや希望などを共有し、卒業生である私たちであるからこそできる関わりについて話し合いました。第1回から第4回参加者、そして病院や薬局はもちろん、企業や行政、大学院生など様々な視点での意見が挙がり、薬剤師の持つ可能性、職能の多様性について改めて感動した2日間でした。やはりその原点は、この場に集まる仲間、先輩薬剤師の方々の熱い思いなのだと思います。

今後もこのような素敵な場が続き、今後の薬学教育について学生、社会人がお互いの意見を交わし合える場が続けばと思います。最後になりますが、改めて今回このような貴重な機会を頂きまして、関係者の皆様方に御礼申し上げるとともに、益々の御発展を心よりお祈り申し上げます。

第3回参加経験者 氏名 澤本 篤志

今回は卒業生としてWSに参加させていただきました。卒業生WSとしては課題の残るものとなりましたが、今後、卒業生がどのようにWSに関わっていくかを再考する良い機会だったと思います。

一方、「私たちのプロフェッショナリズム、共鳴する未来を見つけよう」のセッションでは様々なフィールドで活躍する薬剤師又は大学院生、学生、それぞれが現時点で感じているプロフェッショナリズムを共有し、それらを自分の考えるプロフェッショナリズムと重ね合わせる

ことで新たなプロフェッショナルリズム像を生み出すことができました。多種多様な人の集まりだからこそ生まれるインスピレーションはとても新鮮であり、刺激的なものとなりました。

今回のWSで一番強く感じたのは、1~5期生で薬剤師に対する感じ方（プロフェッショナルリズム）が異なっていたことです。これは同じ6年制課程を修業しても時代の流れと共に薬剤師に求められるニーズが変化していることの裏返しだと考えています。私達は時代の流れや未来を読む先見力を磨くことに注力し、薬剤師またはその他医療従事者としてそのように社会に関わっていくかを常に模索し続ける必要があると強く感じました。

最後に第5回全国学生・卒業生WSを企画してくださったタスクフォースの先生方、また卒業生WSの運営を担当してくださった卒業生の皆様に心より御礼申し上げます。

第3回参加経験者 氏名 志田 美春

この度のWSでは卒業生WSの実行委員として参加させていただきました。卒業生WSの運営においては、昨年の第4回全国学生WSでタスクフォース見習いをさせていただいた経験が十分に活かされたものと実感しております。しかしながら、不慣れなばかりに、実行委員や参加者の皆様、そして運営にあたりご助言いただいております中村先生および長谷川先生には、多々ご不便やご迷惑をおかけすることもあったのではないかと思います。これから、WS運営の経験を積みつつ、至らぬ点の改善に努めます。

また、様々な職種の1期生から4期生までの皆様と真剣に議論を交わすことで、職種は違えど私達は共に6年制薬剤師の礎を築いていく仲間なのだと改めて感じました。これからも、この薬業連携を継続できるよう邁進いたします。

末筆ではございますが、この場をお借りしまして、参加者の皆様並びに、開催にあたり尽力していただきました皆様に厚くお礼申しあげますとともに、今後のWSの更なる充実をお祈り申し上げます。

第3回参加経験者 氏名 高坂 祥菜

今回は卒業生として学生WSに参加する機会を与えて頂き、有難うございました。

セッション内容の1つが「卒業生が学生WSにどの様に関わっていくか」という、今自分自身が、卒業生がこのWSに参加している意義について振り返ってみる良い機会になりました。再度WSに参加する際、あるいは勤務先に実習にくる学生、入社する後輩に私自身が何を伝えたいのかを常に心において日々の業務に取り組んでまいります。

ただ今回のWSに参加し、唯一の心残りは学生と思っていたほど交流を図ることが出来なかったことです。学生との関わりを持つ機会は全体としてみれば少なかったとはいえ、確かにあったと感じています。情報交換会に限らず、自身からより積極的にアプローチをかけるべきであったと反省しています。また参加させていただく機会があると信じて、より円滑に交流を行えるよう今まで以上にコミュニケーション能力に磨きをかけようと思います。

最後になりましたが、貴重な機会を設けてくださった日本薬学会を始め多くの先生方、卒業生の運営メンバー、そして参加した皆様に心から感謝申し上げます。

第3回参加経験者 氏名 中川 有衣

今回、全国ワークショップの卒業生として参加させて頂き、貴重な時間を過ごすことができました。学生時代に参加した時は実務実習を経験したといっても薬剤師の職業に半ば実感が湧かず、薬剤師の現実が今一つという感じでした。しかし、薬剤師2年目となりワークショップに参加した時より社会人として薬剤師として現実を考えながら参加できたと思います。また、今回のワークショップに参加した薬学生の各セッションの発表を今の自分に問いかけながら聞き、日々の業務を行っている中で忘れてしまっているなと気づかされることがいくつかありました。薬剤師として働き始めて、プロフェッショナリズムのあるジェネラリストとしての必要性を身にしみ、他の人のことを考えられる人でありたいと強く感じました。そして調剤薬局や行政、研究者などとして活躍するワークショップの卒業生の方々と業務の話や展望などを話すことができ良い刺激となりました。ワークショップで得られたことをこれからの職務に活かしていきたいと思います。

第3回参加経験者 氏名 東本 祐佳

卒業生として学生WSに参加させていただくのは今年で2回目となりました。今回は卒業生は別室にて、卒業生運営メンバーの考えてくださったプログラムで独自にWSを行いました。KJ法、SGDなどプログラムに沿って意見を出し合いましたが、班のメンバーの職種が多様なのにも関わらず、共通する意見も多かったのが印象的でした。

卒業生WSで今後の学生WSへの関わり方を議論したこともあり、学生WS見学の機会には、タスクフォースの先生方の進行にもいろいろと気づかされる点がありました。場に与える安心感であったり、班ごとの発表の共通点・相違点に着目した意見の引き出し方であったり、今後自分たちがWSを運営したい、と思うのであれば、身につけなければならないことがたくさんあると感じました。

今回のテーマが「私達のプロフェッショナリズム、私達が築く新しい医療と社会」ということで、壁に掲示されたプロダクトで5期生の方々一人一人の、様々なプロフェッショナリズムについての考え方に触れることができました。また、卒業生WSでもプロフェッショナリズムについての持論を出し合い、卒業生それぞれが誇りをもって仕事に取り組んでいることを知り、自分がプロフェッショナルとしてどうありたいのか、あらためて考える機会となりました。

今回のWSで、卒業生同士の議論の中でも、5期生の方からの意見にも「情報共有の場をもちたい」というのがあったと思います。様々な土地の様々な現場に、同じ思いを持った仲間がいて、それが今後どんどん増えていくことで、情報共有にとどまらず、今後の薬学に対する課題を解決に導けるようになる、そんな期待を持てたWSでした。

第3回参加経験者 氏名 日原 章詔

大学6年生時に、初めて全国学生ワークショップに参加させていただいてから、今年で3年目の参加となりました。

ワークショップでは、学生たちの夢や、先生方の考え、そして、同じ6年制薬学部を卒業し

た人たちの思いなど、毎回、様々な考え方などに会えることができます。学生との薬剤師の在り方についての討論や、他の職種の話や、同じ病院薬剤師としての悩みや、目標などの話を通して、薬剤師としても、人間としても成長できる素晴らしいワークショップだと改めて思いました。

今はまだ、学生の6年間の中で1度だけ、しかも、一部の学生しか参加できないですが、このようなワークショップがもっと広がればと思います。自分自身も、大学や地域で話をさせていただく機会などがあれば積極的に参加して、自分の考えや思いなどを、多くの人たちに伝えていければと思います。そのためにも、様々な知識を身に着けるため、日々努力していきたいと思っています。

第4回参加経験者 氏名 稲嶺 盛佳

日本薬学会総務課薬学教育担当の先生方をはじめ関係者の皆様、卒業生ではありますが今年も全国学生ワークショップへお招きして頂いたことに感謝しています。また、短い期間で卒業生ワークショップの企画を行い、当日の運営を行って下さいました卒業生WS運営委員会の方々、本当にありがとうございました。

私は昨年同様、台風による影響で一時は参加が危ぶまれましたが今年も無事参加することができました。当初は、今年も昨年の様に卒業生はタスクフォース見習いをメインで行うと思っていた私は、初日から卒業生だけでワークショップを行うことに戸惑いがありました。しかし、アイスブレイクから始まり、ワークショップを進めていくうちに緊張もほぐれ、去年と同様に良い時間を過ごすことができました。ワークショップに参加されている方々は皆それぞれ熱い気持ちを持っており、その気持ちに触れることで自分の中でさらにふつふつと熱いものがこみ上げてくる。自分もまた明日から頑張ろうという気持ちにさせられる2日間でした。また来年、今年以上に良い相互作用が生み出せるよう、今年一年頑張っていこうと思います。

第4回参加経験者 氏名 大石 信雄

傍観する側の立場というのもまた新鮮で、若い現役学生諸君のまっすぐな思いに耳を傾けると（勿論各大学の代表として抽出されたn=1の標本ではあるが）薬剤師の将来が頼もしく思えてきた。当初昨年より大人しい印象の学生諸君が控えめにディスカッションしているように見受けられたが、時間を経るにつれて徐々に打ち解けていったのか、皆積極的に手を上げるようになり、ロールプレイという無茶振りに対しても恥ずかしがることなく堂々と役割を演じていた。特に良かったと感じたのは、プロフェッショナル条件の中にきちんと研究活動の推進が盛り込まれていたこと。サイエンスは決して小手先のテクニックなどではなく、突き詰めていくと人類（患者）への愛に他ならない、ということも理解している学生が多いのは安心の一言に尽きる。サイエンスベースで薬剤の有効性・安全性を考えられる人材が現場に出ることで、育薬の一端を担われることを期待する。残念なのは、ディスカッションの中で私の所属するPMDAを意識した発言がなかったこと。ただ、薬剤師以外の職種に興味を持っている学生も少なくなかったのも、わが国唯一の規制当局に何かの形で興味を示してくれることを期待する。

第4回参加経験者 氏名 岡 慧

今回は第4回卒業生として参加させて頂いた。まず一番に当WSを支えて下さる団体、関係者各位に御礼申し上げたい。今回のWSで思う事は山程あるが、あえて今回のテーマに則した内容のみ記し、私の印象記とする。

私は同じ病院で働く薬剤師に「給料もらえば皆プロ。新人も何も関係ない」と言われた事がある。プロフェッショナルとは何かという本質的な問いの前に、プロという立場に在る、それを自覚した一言だった。

私はWS以前まで、国民の安全安心を守る事が薬剤師の社会的役割の確かな一つであり(具体的には疑義照会、服薬指導、薬害回避という業務を通して)その為なら妥協せず追求し続ける事がプロフェッショナルのようなものと考えていた。しかしWS後、それでは足りないと考えている。

議論中、日本の医療の先を見通し予め十分な準備をする「先見力」という言葉を見つけた。素直にいうと、頭が鈍間な今の私にはない。なので素敵な言葉だと感じた。先見力を発揮し社会のニーズを捉え、応えていく事がプロフェッショナルの要素だと感じている。

対等な議論の場を頂き、毎回感激している。ただ薬剤師の立場で学生の話をもっと聞いてみたかったのもまた、私の中に確かに存在する希望である。

第4回参加経験者 氏名 津倉 秀幸

今回私は卒業生WSの運営として参加しました。WSの運営に携わったことで去年とはまた違った視野が広がったと感じます。WSを運営する上での時間という大きな壁、WS卒業生の気持ちや重さの違い、自分自身の弱さ・甘さ等、多くの課題とぶつかることとなりました。今回のWSは今後WS卒業生がどうあるべきかを考える上でとても重要な機会だったと思います。この経験を活かして次のステップに進めるよう頑張ります。

5期生の発表を見せていただいて自分の中のプロフェッショナルが変化するのを感じました。彼らに負けないよう輝き続ける薬剤師でありたいと思います。これから羽ばたこうとする熱い気持ちを持った後輩が出来た事を嬉しく思うと同時に、同じWS経験者として、医療者として、切磋琢磨していきたいと思います。

最後に、私たち卒業生に大変貴重な機会を与えてくださった日本薬学会の皆様と先生方、自分の気持ちをととてもとても高ぶらせてくれた第五回WS参加者、WS卒業生の皆様にこの場を借りて感謝を送らせていただきます。本当にありがとうございました。また会いましょう。

第4回全参加経験者 氏名 松下 俊介

今回、はじめてOBとしてワークショップに参加して現役生の議論を拝聴した。その中の「プロフェッショナルリズム」についての議論で、薬剤師のプロフェッショナルリズムは調剤などの速さや正確性といった「作業」についてではなく、信頼や協調性など「人間性」について話合われていた。調剤といった作業は薬剤師の専門技能が生かせる重要な場面である。一方で、調剤室のなかでの業務は患者からはなかなか見えにくい。薬剤師に求められている社会的ニーズ、

そして高い知識を有する医療の担い手としての社会的責務に応えるためには、もっと患者から見える場所で活躍し、薬剤師の仕事について理解を得ることが必要である。ワークショップのプロフェッショナルリズムの議論の中で「人間性」について活発に話し合われていたのはとても良かったと感じた。積極的に患者に接し、同時に医師や看護師などその他の医療従事者からも信頼を得て、チーム医療の一翼を担い医療に大きく貢献して行ってほしい。そのように感じた。

第4回参加経験者 氏名 真鍋ひとみ

昨年の第4回ワークショップに参加させて頂いてから1年が経ち、初めての卒業生としての参加させて頂きました。昨年に引き続くキーワード「プロフェッショナルリズム」の元で、学生の皆様の意見を聞くことや卒業生の先輩方との議論で多くの学びと気づきがありました。

学生の皆様が自分の夢や社会に対する熱い想いを語る姿を見て、そのエネルギーの大きさに圧倒されるばかりでした。また一方で、まだ社会人となったばかりの私には、そのエネルギーに応えることができるプロフェッショナルリズムは出来上がっていないということにも痛感しました。しかし、卒業生の先輩方との議論の中で、それぞれのプロフェッショナルリズムを共有して頂き、自分のプロフェッショナルリズムをどのように育てていくかを明確にすることができました。また容易なことではありませんが、それらを踏まえて、実現可能なアクション（またその目的は何か）を積み重ねていきたいです。一人ではなかなか動き出せないこともあります、このような卒業生同士の繋がりが強くなり、大きな行動力に繋がることで解決できる問題もあるのではないかと感じたワークショップとなりました。

末尾になりますが、このような貴重な機会を設けて頂き、日本薬学会の皆様、諸先生方に心より御礼申し上げます。

第4回参加経験者 氏名 吉川 恵理

今回、私は卒業生WSの運営として参加致しました。WSを運営するにあたり、多くの方にご迷惑をかけ、助けていただき、なんとか卒業生WSを終えることができました。この場を借りて感謝申し上げます。ありがとうございました。また、素敵な仲間に出会えて非常に幸せな2日間でした。

事前の告知、運営同士の方向性の統一、当日の進行のシミュレーションの不足など、反省点を挙げればきりがありませんが、今回のWSに参加し、社会人としての発言の重さ、責任を学びました。また、運営という点においては意見をまとめるという難しさ、WSを運営することの難しさを学びました。今回、一緒に運営を行った方と一度も当日まで顔を合わせませんでしたが、皆様の助けを借りつつもなんとかWSを開催できました。このことは直接顔を合わせなくてもWSを運営することができるという可能性を示したという点で今後につながる収穫だったと思っています。

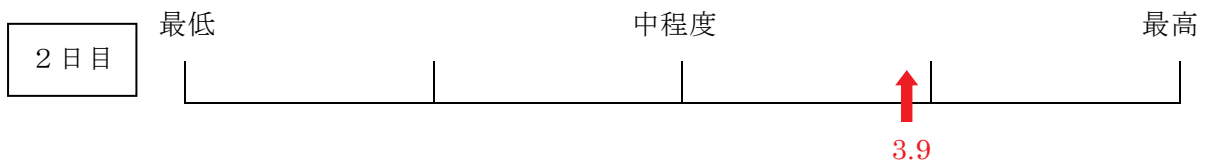
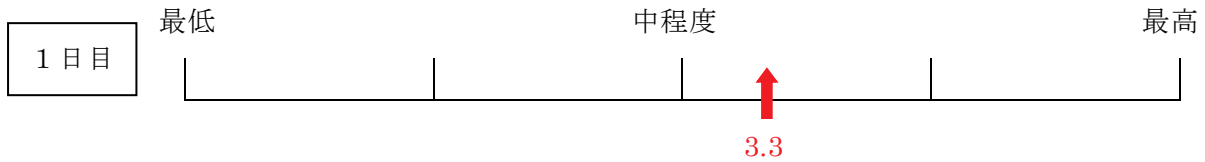
最後に、今回私たち卒業生にこのような機会を設けていただきました、日本薬学会の方々とタスクフォースの諸先生方に感謝申し上げます。

卒業生 アンケート結果

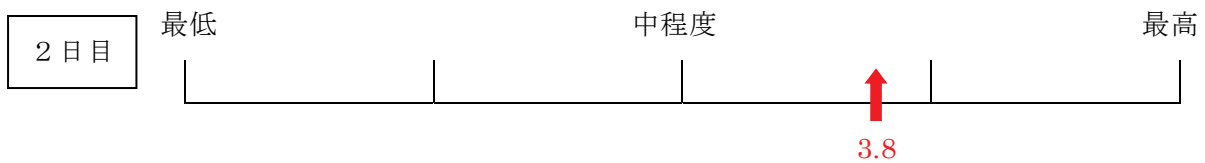
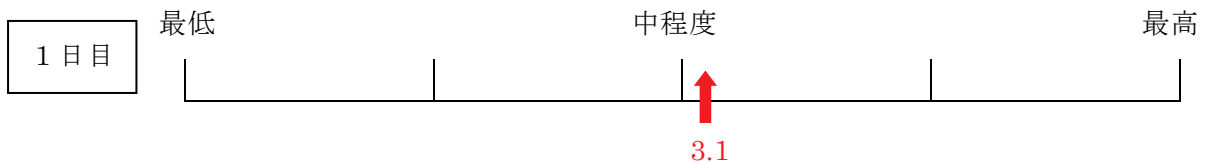
ワークショップ総合評価

1. 1日目、2日目それぞれで評価してください。

1) 時間は適切でしたか？

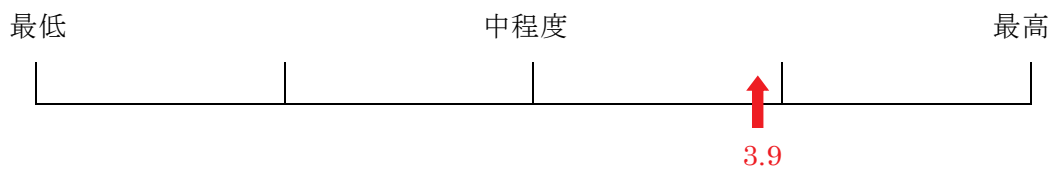


2) 内容はあなたのニーズにマッチしましたか？

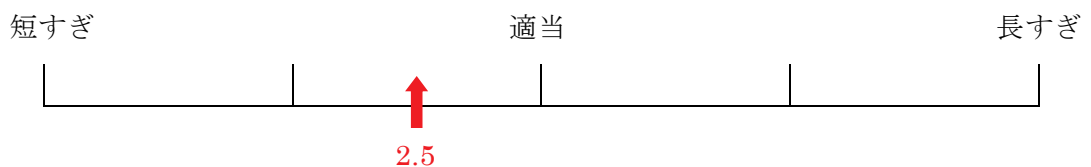


2. 今回のワークショップを全般的に評価してください。

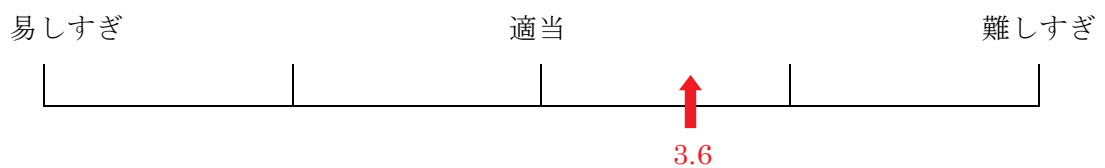
1) 内容の価値について



2) 内容に対する時間について



3) 内容の難易度について



4) このようなワークショップを継続することについて

必要ない ☐ どちらでもよい ☐ ぜひ必要 ☐
0% 4% 96%

5) このようなワークショップを運営することについて

運営したくない ☐ どちらでもよい ☐ 運営してみたい ☐
4% 27% 69%

以下は自由記述です。報告書に掲載することがありますが、その際には所属と氏名は書きません。

3. 今回のワークショップでよかったと思われることをお書きください。

【WS 全体を通した雰囲気】

- ・実質的な討論ができたのかもしれない
- ・WS が継続しそうな雰囲気で終わったこと

【WS 全体を通して得られたもの】

- ・様々な職種、学生と意見を交換、共有することができた
- ・期を超え、職種を超えた出逢いとそれによる相互刺激の機会が多く得られたこと
- ・大切な仲間と出逢えたこと、後輩と出逢えたこと
- ・多くの他期生と交流できたこと
- ・1～4 期生で今回の内容で議論できたことは非常に重要で有意義でした。
- ・卒業生が多く集まって話し合えた場があったことが良かった。
- ・学生や卒業生の方と会話ができたこと(特に現役薬剤師の声は行政の人間にとって貴重なご意見なので)
- ・新しいつながりができた
- ・新たなつながりと新たな知見が得られたこと
- ・卒業生として WS に関わる上で何ができるのか、やりたいこと等の展望を知ることができた。

【学生の意見を聞いて】

- ・学生の意見も聞けて良かった。
- ・学生の純粋な想いを感じとることができて良かった。学生が求めているニーズは今後の教育の改善に有用なので。(後輩を育てる我々にとっても好都合)
- ・学生の考えるプロフェッショナリズムについて知ることができた。現場の概念にとらわれないことなく、自由な発想が有り、興味深かった。

【意見を聞いて感じたこと】

- ・毎年様々な意見を聞くことができ、とてもいい刺激になった。
- ・また、一日目に上がった全員の意見など考えることが多く、嬉しく感じた。
- ・卒業生として WS に参加することで現役生の頃とは異なる悶々とした葛藤にぶつかり、自分自身の薬剤師としての責任を改めて感じる機会となりました。

【プロフェッショナルリズムに絡めて】

- ・プロフェッショナルリズムというテーマは国家資格を持つ専門職としてとても大切なテーマだと思います。学生と卒業生、また教育のプロである先生方とも意見交換できたらいいなと思いました。(先生方は TF なので難しいかもしれませんが)
- ・プロフェッショナルについて、学生の意見を聞いたり、自分たちのグループワークで取り扱ったことで、仕事に対する姿勢を見つめなおす機会になった
- ・「プロフェッショナルリズムとは？」という難しいテーマではあったが、卒業生内のグループでも話し合いの中に新しい発見があった。
- ・卒業後のプロフェッショナルリズムを伝えられたのは良かったと思う

【その他】

- ・今まで少し中途半端な感じがした OBOG の振舞い方を話せたことは良かった。
- ・時間が従来より長く取られたこと。また、最後の発表が班ごとではなくチームであったこと。
- ・卒業生のためにも時間と場所を設けて下さり、ありがとうございました。
- ・1 日目で課題・論点を整理し、2 日目でその解決策・対応策を考えさせる流れは良いと思いました。
- ・WS の運営に参加できたこと。

4. 今回のワークショップの問題点と思われることをお書きください。

【学生との交流】

- ・卒業生と 6 回生の交流が少ない
- ・学生と関われる機会が少ない
- ・卒業生同士で WS をやるだけではなく、学生の討論の場にも立ち会いたかった。学生が討論している生の声が聞けなかったのが残念です。(学生に直接聞いたところ、先輩方ともっとたくさんお話ししたかったという意見も多々ありました。)

【事前連絡】

- ・タスクフォース見習いをするのかと思った→一日目から WS を行うのに驚いた→結果的にはすごく楽しかった
- ・WS をするならそのスケジュールを前もって教えてほしい。(途中参加になる場合、どこから参加するか計画が立てやすい)
- ・卒業生向け WS が主目的ではなかったので事前に告知いただけたらと思いました
- ・どのようなコンセプトで行われるかが事前に明確ではない

- ・WS 前に WS の内容が(明確に)知らされていなかったこと
- ・1 日目の内容は4 期生にとって不適切。少なくとも事前に情報提供が必要。
- ・一部のの人に WS をすることが伝わってなくて残念に思ってしまった人がいるようでした。連絡、伝達方法をみんなで考えていけたらいいと思います。
- ・学生と関わること、つながりが喜びであることを共通認識としてはっきりしてからもう一度これから活動していくことを討論したいと思っている。(この会自体の価値は間違いなくありました)

【WS という環境】

- ・WS の環境づくりが難しい。
- ・目標が定まらなかった
- ・議論が脱線した際の軌道修正をどう行うのか、誰が行うのか。
- ・議論がまとまらない場合、延長するのか落とし所を見つけるかを想定してあった方がよい。
- ・今回の WS テーマ(卒業生用)を通して卒業生がこの学生 WS に対して貢献したいこと、あるいは卒業生の集団独自でやってみたいこと、各々が多様な意見となり、時間内にはまとめきれませんでした。でも、これは時間をかけたからと言ってまとめられるものではないし卒業生の多様性こそが強みだと思います。そういった点から今後は学生と卒業生がディスカッションする場があれば嬉しいです。
- ・今回、私達に与えられたテーマは二日間で答えを出すには時間が足りなかったと感じました。「今後の WS への関わり方」についてある程度自分なりの考えを持って参加していましたが、(各自そうであると思います)たどりつくべき答えがあるならばその答えにたどりつくまでの過程を議論すべきではなかったのかという反省もあり、悶々とした気持ちでいます。
- ・母体についてなど少し時間も情報も決めるには少なかったと思う。
- ・正直、運営サイドが「こう言いたい」ということに流されている気がした。私はこれまでの経緯を知らなかったのでせめて Background が知りたかった。個人的にはワークショップも大事だが、学生との交流を重視していたので。
- ・発言する人が限られてしまい、議論にカラーが出てしまっていたこと。(しょうがないのかもしれません。)

【熱意】

- ・グループワークでの進め方や積極性が学生 WS に負けているように感じた

【プロフェッショナリズムに関して】

- ・プロフェッショナリズムは「ism」＝理念を表すものであると思う。理念を具体的な行動に落とし込み、行動宣言に至らせるためにはより一層の工夫が必要ではないか。
- ・テーマに対して簡単に答えが出せるものではないということを学生がどこまで理解できたかが分かりにくかった。今後も考え続けてほしいというメッセージをもっと伝えてもよかったのではないかと感じた。

【その他】

- ・(WS の)準備期間の短さ

5. その他の意見（ご自由に）。

【これから】

- ・これからの WS 卒業生の関わり方は真剣に考える必要がある
- ・息の長い活動ができることかが理想だと思う。
- ・また、WS 以外でも定期的に集まりが持てたら嬉しいです。
- ・意見がぶつかるというのはみんなが本気である証。今回の WS の内容を次につなげる活動が続けていきたい。
- ・今後も是非、参加したいと考えています。よろしくお願いします。
- ・3 回から参加させていただき毎回とても面白いと思います。このような会が開かれることは働く者にとっても学生にとってもいい刺激になると思うのでさらに発展させていけたらいいと思いました。
- ・非常に興味深い意見が多く、学生の自由な発想を近い未来に実現できるように行動を起こしたいと思いました。
- ・今後の薬剤師の可能性(発揮できていない能力)をどのような形で社会に還元していくか、学生、卒業生、タスクフォースの先生方のご意見を共有する機会を是非増やしていただきたいと感じております。
- ・B6、OBOG、先生が入った討論をやりたいです。年代、立場、職種によってどんな意見対立するか知りたいです。

【学生からもらったもの】

- ・学生がまっすぐな気持ちで話すのを聞けてこちらも **energy** をもらいました。

【自分にできること】

- ・行政職を目指す学生がいたら私にもよい情報提供ができるかと思います。

【希望・提案】

- ・薬剤師免許を使わない職種にもフォーカスしていただけると良いかと思います。
- ・WS は楽しく、また、色々と考えさせられました。ただ、WS もよいと思ったのですが、タスクフォース見習いとして主体的に参加することもできるのではないかと思います。
- ・「学生ワークショップのために何をしたいのか」なのか、「ワークショップのために何をしたいのか」なのか初めは前者の方だと思っていましたが、2 期生の話を聞くと後者な気がしてギャップがあるなと思いました。そこも含めて情報の共有や連絡ができてないんじゃないかなと感じました。
- ・より深掘りするために参考資料 **etc** を提示し、データに基づいた議論をしてもよかったのかもしれない。

<提案事項>

- ・ **world café** の聞き手役に、OBOG を利用してみてもいかがでしょうか。
- ・卒業生のあり方に関してはタスクフォースとまでいかなくとも、会議の場に居合わせるだけでも学生にとっては有益である可能性があります。

【その他】

- ・ヒートアップしすぎてついていけないと感じた声も聞いていたので、少し残念に思ったと

ころもありましたが、無駄な時間ではなかったと思います。

- ・準備から当日の運営までいろいろ大変な中ありがとうございました。働く上で立ち戻る原点を再確認できたと思います。貴重な場をありがとうございます。
- ・大変有意義な時間を過ごすことができました。ありがとうございます。
- ・他期生を交流することはほとんどなかったので私にとって貴重な時間となりました。TFのみなさん、本当におつかれさまでした。
- ・運営の5名、本当にありがとうございました。
- ・運営の先生方、ありがとうございました！
- ・また、やりましょう

第 5 回 全国学生ワークショップ実行委員

入江	徹美	(熊本大院薬)
大津	史子	(名城大薬)
大野	尚仁	(東京薬大薬)
賀川	義之	(静岡県大薬)
亀井	美和子	(日本大薬)
川崎	郁勇	(武庫川女大薬)
木内	祐二	(昭和大薬)
河野	武幸	(摂南大薬)
小佐野	博史	(帝京大薬)
塩田	澄子	(就実大薬)
高橋	寛	(岩手医科大学薬)
田村	豊	(福山大薬)
徳山	尚吾	(神戸学院大薬)
中村	明弘	(昭和大薬)
橋詰	勉	(京都薬大)
◎ 長谷川	洋一	(名城大薬)
平田	收正	(阪大院薬)
安原	智久	(摂南大薬)

◎実行委員長

発行 2016 年 1 月

公益社団法人 日本薬学会

薬学教育委員会

日本薬学会第 5 回全国学生ワークショップ実行委員会